

**Pro-face®**

## 保守/トラブル解決ガイド

## はじめに

このたびは、(株)デジタル製プログラマブル表示器 < Pro-face® > および GP 画面作成ソフト「GP-Pro EX Ver.1.10」をご採用いただき、まことにありがとうございます。

本製品を正しくご使用いただくために、マニュアル類をよくお読みください。

また、マニュアル類は必ずご利用になる場所のお手元に保管し、いつでもご覧いただけるようにしておいてください。

### おことわり

- (1) 本製品のプログラムおよびマニュアル類は、すべて(株)デジタルの著作物であり、(株)デジタルがユーザーに対し「ソフトウェア使用許諾条件」に記載の使用権を許諾したものです。当該「ソフトウェア使用許諾条件」に反する行為は、日本国内外の法令により禁止されています。
- (2) 本書の内容については万全を期して作成しておりますが、万一お気づきの点がありましたら、(株)デジタル「サポートダイヤル」までご連絡ください。
- (3) 前項にかかわらず、本製品を使用したことによるお客様の損害その他の不利益、または第三者からのいかなる請求につきましても、当社はその責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。
- (4) 製品の改良のため、本書の記述と本製品のソフトウェアとの間に異なった部分が生じることがあります。最新の説明は、別冊ないし電子的な情報として提供していますので、あわせてご参照ください。
- (5) 本製品が記録・表示する情報の中に、(株)デジタルまたは第三者が権利を有する無体財産権、知的所有権に関わる内容を含むことがあります。これは(株)デジタルがこれらの権利の利用について、ユーザーまたはその他の第三者に、何らの保証や許諾を与えるものではありません。また本製品に記録・表示された情報を使用したことにより第三者の知的所有権などの権利に関わる問題が生じた場合、(株)デジタルはその責を負いませんのであらかじめご了承ください。

© Copyright 2005 Digital Electronics Corporation. All rights reserved.

(株)デジタル 2005 October

商標・商号の権利については「商標権などについて」をご覧ください。

## 商標権などについて

本書に記載の会社名、商品名は、各社の商号、商標（登録商標を含む）またはサービスマークです。本製品の表示・記述の中では、これら権利に関する個別の表示は省略しております。

商標等	権利者
Microsoft, Windows, Windows 98, Windows Me, Windows 2000, Windows XP, Windows エクスプローラ, Microsoft Excel	米国 Microsoft 社
Intel, Pentium	米国 Intel 社
Pro-face	株式会社デジタル
Ethernet	米国 Western Digital 社

なお、上記商号・商標類で、本書での表記が正式な表記と異なるものは以下の通りです。







本書での表記	正式な表記
Windows 98	Microsoft® Windows® 98 オペレーティングシステム
Windows Me	Microsoft® Windows® Me オペレーティングシステム
Windows 2000	Microsoft® Windows® 2000 オペレーティングシステム
Windows XP	Microsoft® Windows® XP オペレーティングシステム

## マニュアル表記について

### 安全に関する注意表記



本書では、GP および GP-Pro EX を正しく使用していただくために、注意事項に次のような絵表示を使用しています。ここで示した注意事項は、安全に関する重大な内容を記載しています。

その表示と意味は次のようになっています。

表 示	意味内容
 <b>危険</b>	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う内容を示します。
 <b>警告</b>	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示します。
 <b>注意</b>	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負ったり、物的損害の発生が想定される内容を示します
	正しく使用するために、してはいけない（禁止）事項です。
	正しく使用するために、しなくてはならない（強制）事項です。
	この表示の説明に従わない場合、機器の異常動作やデータの消失などの不都合が起こる可能性があります。

### 説明のための表記

本書では説明の便宜のため、次のような絵表示や用字・用語で表記します。

表 記	意味内容
	使用するに際して、ポイントとなる項目です。
	脚注で説明している語句についています。
	関連事項の参照ページを示します。
1, 2 (1),(2)	操作手順です。番号に従って操作を行ってください。

## 安全に関する使用上の注意

本書には、GP および GP-Pro EX を正しく安全にお使いいただくために安全表記が記述されています。本書ならびに関連マニュアルをよくお読みいただき、GP および GP-Pro EX の正しい取り扱い方法と機能を十分にご理解いただきますようお願いいたします。

### 危険

- ⊘ タッチパネル上のスイッチを使用して、人的や物的損害につながるスイッチを作らないでください。本体、ユニット、ケーブル等の故障により出力が ON し続けたり、OFF し続けたりし重大な事故につながります。重大な事故につながる出力信号についてはリミッタなどの監視回路を設けてください。また、重大な動作を行うスイッチは GP 本体以外の装置より行うようにシステム設計をしてください。誤出力、誤動作による事故の恐れがあります。

### 警告

#### 設計上の警告事項

- ❗ タッチパネル上のスイッチは非常用停止スイッチとして使えません。産業用ロボットほか、産業用機械の非常停止スイッチは、必ず人間が直接操作するスイッチを設置することが義務づけられています。また、これ以外の装置でも安全確保のために、必ず同様のスイッチを設置してください。
- ❗ 外部電源の故障や GP 本体の故障および GP の誤作動の場合、システム全体が安全側に働くように GP の外部で安全回路を設けてください。誤出力、誤動作により、事故の恐れがあります。
  - (1) 非常停止回路、保護回路、正転 / 逆転などの相反する動作のインターロック回路、位置決めの上限 / 下限 / 走行限など機械の破損防止のインターロック回路などは、GP の外部で回路構成してください。
  - (2) GP でウォッチドッグタイマエラーなどの異常を検出したときは、実行を停止します。また、GP で検出できない入出力制御部分などの異常時は、入出力部の動作について予想のできない動きとなる可能性があります。このとき、機械の動作が安全側に働くよう、GP の外部でフェールセーフ回路を構成したり、機構を設けてください。  
フェールセーフ回路については、「GP ハードウェアマニュアル 7.2.5 設置上の注意事項 (7-15 ページ)」を参照してください。
  - (3) 出力ユニットのリレーやトランジスタなどの故障によっては、出力が ON のままになったり、OFF のままになったりすることがあります。重大な事故につながるような出力信号については、外部で監視する回路を設けてください。

- ❗ GP の本体の電源を立ち上げる前に、GP 本体に接続されている I/O ユニットおよび負荷制御電源を投入するように回路を構成してください。GP のプログラムが RUN した後に負荷制御用電源が立ち上がると、誤出力や誤動作により事故の恐れがあります。
- ❗ GP の表示機能とコントロール機能または、GP と外部に接続されている機器に通信異常および電源断が発生したとき、システムが安全側に働くようにロジックプログラムにてインターロック回路を構成してください。誤出力や誤動作により事故の恐れがあります。
- ⊘ 装置の安全性に関わるタッチスイッチを GP 上に設けないでください。非常停止スイッチなどの安全性に関わるスイッチは、別システムのハードウェアスイッチを設けてください。
- ❗ GP とホストコントローラとの通信異常で機械が誤動作しないようにシステム設計を行ってください。人体に傷害を負ったり、物的損害の恐れがあります。
- ⊘ 傷害・重大な物的損害や生産停止の原因となり得る重要な警告装置として GP を使用しないでください。重要な警告表示および警報に関わる制御装置は、独立し冗長性のあるハードウェアか、機械的インターロックによって構成してください。
- ⊘ GP は航空機器、航空宇宙機器、幹線通信機器、原子力制御機器、生命の維持に関わる医療機器などの極めて高度な信頼性・安全性が求められる用途への使用を想定しておりません。これらの用途には使用できません。
- ❗ GP を運送機器（列車、自動車、船舶等）、防災防犯装置、各種安全装置、生命の維持に関わらない医療機器などの、機能・精度において高い信頼性・安全性が求められる用途で使用する場合は、組み込まれるシステム機器全般として、冗長設計、誤動作防止設計等の安全設計を施す必要があります。
- ⊘ バックライトが切れると、画面が真っ暗になって表示が見えなくなりますが、バックライト消灯機能作動時と異なり、タッチスイッチの入力は有効なままです。操作者がバックライト消灯状態と間違えてタッチパネルを押した場合、不当なタッチパネル操作となる恐れがあります。不当な操作による人的・物的損害が生じる恐れのあるタッチスイッチを GP 上に設けないでください。  
バックライトが切れた場合は以下のような現象が発生します。
  - (1) スタンバイモードを設定していないのに画面の表示が消える。
  - (2) スタンバイモードを設定していて画面の表示が消えた際に、一度タッチなどの入力を行っても表示が復帰しない。

## 取り扱い上の警告事項

- ⊘ GP-Pro EX のインストールディスクは CD-ROM です。一般のオーディオ CD プレーヤでは絶対に再生しないでください。予期せぬ大音量により聴覚に障害を負ったり、スピーカが破損する恐れがあります。
- ⊘ GP は分解・改造しないでください。火災、感電の恐れがあります。
- ⊘ 可燃性ガスのあるところでは使用しないでください。爆発の恐れがあります。

## 配線上の警告事項

- ❗ 取り付け、配線などは、必ず電源が供給されていないことを確認してから行ってください。感電や機器の破損の恐れがあります。
- ❗ 配線後は必ず付属の端子台カバーを取り付けてください。端子台カバーを取り付けないと感電の恐れがあります。
- ❗ 電源ケーブルの取り付けは必ず電源が供給されていないことを確認してから行ってください。感電の恐れがあります。
- ⊘ 表示された電源電圧以外の電圧で使用しないでください。火災、感電の恐れがあります。
- ❗ GP に接続されるケーブルは、必ずケーブルクランプで固定し、ケーブルの重み、引っ張り張力がコネクタや端子に加わらないように施工してください。
- ❗ GP への配線は、定格電圧および端子配列を確認した上で正しく行ってください。定格と異なった電源の接続や誤った配線を行うと火災や故障の恐れがあります。

## 立ち上げ・保守時の警告事項

- ⊘ 通電中に端子に触れないでください。感電の恐れや誤動作の原因になります。
- ⊘ 清掃や端子ネジの増し締めは、通電されていないことを確認してから行ってください。通電中に行うと感電の恐れがあります。
- ⊘ バックライトの交換作業は、必ず電源が供給されていないことを確認してから行ってください。感電ややけどの危険性がありますので必ず GP の電源を切り、手袋着用の上作業を行ってください。
- ⊘ 電源投入中にホストとの通信ケーブルを挿抜しないでください。
- ⊘ GP は時計のバックアップのためにリチウム電池を内蔵しています。電池を誤って交換すると、電池が発する恐れがありますので交換は行わないでください。交換が必要な場合には、お買い求めの代理店または (株) デジタル サービス・リペアセンター (「アフターサービスについて (巻末)」を参照) までご連絡ください。



## 設計上の注意事項

- ⊘ プログラム使用中に、パソコン本体の電源を OFF にしないでください。プロジェクトファイルが破損する恐れがあります。
- ⊘ テキストエディタなどを使用して、プロジェクトファイルの中身を変更しないでください。プロジェクトファイルが破損する恐れがあります。
- ❗ 入出力信号線の配線は動力回路のケーブルとは、別ダクトにしてください。ノイズにより、誤作動の原因になります。

## 取り付け上の注意事項

- ❗ ケーブルは、コネクタに確実に装着してください。接触不良により、誤入力や誤出力の恐れがあります。

## 配線上の注意事項

- ❗ FG 端子は、GP 専用の D 種接地工事を行ってください。感電や誤動作の恐れがあります。
- ❗ 端子ネジは規定のトルクで締め付けてください。端子ネジの締め付けがゆるいと短絡、火災や誤動作の恐れがあります。
- ❗ GP 内に、切粉や配線くずなどの異物が入らないように注意してください。火災、故障や誤動作の恐れがあります。

## 立ち上げ・保守時の注意事項

- ❗ 運転中のプログラム変更、強制変更、RUN、STOP、PAUSE 等の操作はマニュアルを熟読し、十分に安全を確認してから行ってください。操作ミスにより機械の破損や事故の原因になります。
- ❗ I/O ユニットの脱着は、通電されていないことを確認してから行ってください。通電中に行くと I/O ユニットの故障や誤動作の原因になります。
- ⊘ CF カード抜き差しの際は、必ず CF カードアクセスランプが消灯していることを確認してください。CF カード内のデータが破壊される恐れがあります。
- ⊘ CF カードにアクセス中は、絶対に GP 本体の電源 OFF、GP のリセット、CF カードの抜き差しは行わないでください。CF カードへのアクセスが行えないようなアプリケーション画面を作成するなどし、その画面にて電源 OFF、リセット、CF カードの抜き差しを行うようにしてください。

## 廃棄時の注意事項

- ❗ 製品を廃棄するときは、産業廃棄物として扱ってください。

## 故障しないために

- ⊘ GP の表示部を強い力や硬い物質で押さえないでください。表示部が割れ危険です。シャープペンシルやドライバのように先が鋭利なもので、タッチパネルを押さえないでください。破損のおそれがあります。
- ⊘ GP を設置する周囲温度は、仕様の範囲外で使用すると、故障の原因となります。
- ⊘ GP の温度上昇を防ぐため、GP の通風孔をふさいだり熱がこもるような場所での使用は避けてください。
- ⊘ 温度変化が急激で結露するような場所での使用は避けてください。故障の原因となります。
- ⊘ GP の内部に水や液状のものや金属を入れないでください。故障や感電の原因となります。(汚染度は 2 です)
- ⊘ GP を直射日光の当たる場所や、高温、粉塵、湿気もしくは振動の多いところで使用および保管しないでください。



- ⊘ 薬品が気化し、発散している空気や薬品が付着する場所での使用および保管は避けてください。  
----- 酸・アルカリ・その他塩類 ..... 腐食による故障  
----- 有機溶剤類 ..... 火災
- ⊘ GP の表面が汚れた場合は乾いたやわらかい布に薄めた中性洗剤をしみ込ませ、硬くしぼってふき取ってください。シンナーや有機溶剤などでふかないでください。
- ⊘ 表示部の液晶は紫外線によって劣化します。強い紫外線のもとでの使用および保管は避けてください。
- ❗ 保存周囲温度以下で保存すると、表示部の液晶が凝固しパネルが破損する恐れがあります。また、保存周囲温度を超えると液晶が等方性の液体となり、元の状態に戻らなくなります。できるだけ室温付近で保存してください。
- ❗ GP の電源 OFF 後、電源を再投入する場合は、一定時間おいてから ON にしてください。正常に動作しない場合があります。
- ❗ 不慮の事故により、GP の画面データ・ロジックプログラムが失われた場合を想定して画面データ・ロジックプログラムは必ずバックアップしておいてください。

## 液晶パネルに関する注意とお願い

- 液晶ディスプレイの内部には、刺激性物質が含まれています。万一の破損により液状の物質が流出して皮膚に付着した場合は、すぐに流水で 15 分以上洗浄してください。また、目に入った場合は、すぐに流水で 15 分以上洗浄した後、医師にご相談ください。
- 液晶ディスプレイは表示内容やコントラスト調整などにより、明るさのムラが生じることがありますが、故障ではありませんのでご了承ください。
- 液晶ディスプレイの素子には、微細な斑点（黒点、輝点）が生じることがあります。これは故障ではありませんのでご了承ください。
- 液晶ディスプレイの画面を視野角外から見ると表示色が変化して見えます。これは液晶ディスプレイの基本的特性ですのでご了承ください。
- 同一画面を長時間表示していると表示されていたものが残像として残ることがあります。このような場合は、いったん電源を切り、しばらくしてから再度電源を入れると戻ります。これは液晶ディスプレイの基本的特性ですのでご了承ください。
- 残像を防ぐには以下のようにしてください。
  - \* 同一画面で待機する場合は、表示 OFF 機能を使用する。
  - \* 表示画面を周期的に切り替えて、同一画面を長時間表示しない。

# 目次

はじめに.....	1
商標権などについて.....	2
マニュアル表記について.....	3
安全に関する使用上の注意.....	4

## 第 1 章トラブル解決編

1.1 どんな内容でお困りですか？.....	1-2
1.2 パソコン操作で困った！.....	1-3
1.2.1 GP-Pro EX がインストールできない.....	1-3
1.2.2 GP-Pro EX が起動しない（強制終了する）.....	1-9
1.2.3 プロジェクトファイルを転送できない.....	1-12
1.2.4 オンラインアップデートできない.....	1-31
1.3 表示器本体で困った！.....	1-34
1.3.1 タッチ（スイッチ）が反応しない.....	1-34
1.3.2 タッチ（スイッチ）が押した所と違う所が反応する（勝手に反応する）.....	1-36
1.3.3 電源が入らない（初期画面が表示されない、画面が真っ暗）.....	1-38
1.3.4 ブザー音が鳴り続ける.....	1-41
1.3.5 画面に線（筋）が入る、画面が真っ白になる.....	1-43
1.4 接続機器の通信で困った！.....	1-45
1.4.1 すべての画面で通信しない.....	1-45
1.4.2 ある特定の画面でのみ通信しない.....	1-50
1.4.3 通信が遅い.....	1-52
1.4.4 通信が時々止まる.....	1-55
1.5 ユニットとの通信で困った！.....	1-58
1.5.1 DIO インターフェイスに接続している機器が ON、OFF しない.....	1-58
1.5.2 FLEX NETWORK ユニットまたは PROFIBUS(Slave) ユニットが通信しない、VM ユニット が動作しない.....	1-61
1.6 エラーが表示されたら...（エラーコード一覧）.....	1-62
1.6.1 ソフト（GP-Pro EX）で表示されるエラー.....	1-63
1.6.2 表示器で表示されるエラー.....	1-89
1.7 それでも解決しない場合は... ..	1-105
1.7.1 サイトをみよう！.....	1-105
1.7.2 電話しよう！.....	1-105
1.7.3 修理しよう！.....	1-106

## 第 2 章メンテナンス編

2.1 オフラインモードでできること.....	2-2
2.2 オフラインモードについて.....	2-12
2.2.1 オフラインモードへの入り方.....	2-12
2.2.2 オフラインモード共通スイッチ.....	2-13
2.2.3 オフラインモードでの操作.....	2-15
2.3 表示器の画面設定.....	2-17
2.3.1 明るさ（輝度、コントラスト）を調整したい.....	2-19

2.3.2	表示器の時刻を調整したい	2-20
2.3.3	一定の時間がたつと画面を消したい	2-21
2.3.4	電源を入れてから本体が起動するまでの時間を設定したい	2-22
2.3.5	電源投入時に最初に表示する画面番号を設定したい	2-23
2.3.6	タッチした時の音を消したい	2-24
2.3.7	システムメニューやオフラインモードメニューの表示を英語にしたい	2-25
2.3.8	タッチを認識するタイミングを変更したい	2-26
2.3.9	バックライトが切れたときの誤動作を防止したい	2-27
2.4	周辺機器設定	2-28
2.4.1	接続機器の通信設定を確認したい	2-29
2.4.2	プリンタの設定を確認したい	2-31
2.4.3	バーコードの設定を確認したい	2-32
2.5	イーサネット設定	2-33
2.5.1	表示器に IP アドレスを設定したい	2-34
2.6	パスワード設定	2-35
2.6.1	他の人がオフライン設定を変更できないようにしたい	2-36
2.6.2	権限別に操作できる画面を設定したい	2-37
2.7	メモリや CF カードの初期化	2-38
2.7.1	ユーザメモリ (FEPRM) の初期化をしたい	2-39
2.7.2	CF カードを初期化したい	2-40
2.7.3	バックアップ SRAM の初期化をしたい	2-41
2.8	表示器本体の動作チェック	2-42
2.8.1	表示器本体が正常に動作しているかチェックしたい	2-43
2.9	ロジック機能の動作 (通信) チェック	2-45
2.9.1	ロジックプログラムが正常に動作するかチェックしたい	2-46
2.9.2	本体 DIO インターフェイスの ON/OFF が正常かチェックしたい	2-48
2.9.3	FLEX NETWORK への通信ができるかチェックしたい	2-50
2.10	コントローラ設定	2-52
2.10.1	スキャンタイムをロジック機能実行時間の割合で調整したい (パーセントスキャン)	2-53
2.10.2	スキャンタイムをロジック機能実行時間と表示機能実行時間の設定で調整したい (コンスタントスキャン)	2-54
2.11	ビデオ表示の調整と確認	2-55
2.11.1	ビデオ表示の画質を調整したい	2-56
2.11.2	ビデオ表示できないときに表示器まで映像が届いているか確認したい	2-58
2.12	GP-Pro EX からの画面転送	2-59
2.12.1	プロジェクトファイルが転送できないときに手動で転送画面に切り替えたい	2-60
2.12.2	新しいプロジェクトファイルを転送する前に、SRAM のデータを CF カードにバックアップしたい	2-61
2.12.3	プロジェクトファイルを強制転送したい	2-62
2.13	オフライン設定ガイド	2-63
2.13.1	表示器共通	2-63
2.13.2	GP3000 シリーズ DIO ボードタイプをご利用の場合	2-87
2.13.3	FLEX NETWORK ユニットをご利用の場合	2-93
2.13.4	GP-3*50 シリーズで動画機能をご利用の場合	2-105
2.13.5	VM ユニットをご利用の場合	2-111
2.13.6	システムメニュー	2-115

# 1

# トラブル解決編

この章では、GP3000 シリーズをご使用いただく際に、困ったことが起こったときの解決策をご紹介します。お困りの内容にそった説明ページへ読み進んでください。

1.1	どんな内容でお困りですか？ .....	1-2
1.2	パソコン操作で困った！ .....	1-3
1.3	表示器本体で困った！ .....	1-34
1.4	接続機器の通信で困った！ .....	1-45
1.5	ユニットとの通信で困った！ .....	1-58
1.6	エラーが表示されたら... (エラーコード一覧).....	1-62
1.7	それでも解決しない場合は... .....	1-105

# 1.1 どんな内容でお困りですか？

どんな内容でお困りですか？該当するトラブルの内容を以下の表から見つけて各解決手順を参照してください。エラーが表示されており、エラーの内容から対処方法を確認される場合は下記を参照してください。

☞「1.6 エラーが表示されたら... (エラーコード一覧)」(1-62 ページ)

いつ？	困ったこと	トラブルを解決するにはこちらへ
パソコンでソフト (GP-Pro EX) を操作中に	ソフト (GP-Pro EX) がインストールできない	☞「1.2.1 GP-Pro EX がインストールできない」(1-3 ページ)
	ソフト (GP-Pro EX) が起動しない (強制終了する)	☞「1.2.2 GP-Pro EX が起動しない (強制終了する)」(1-9 ページ)
	USB、イーサネットケーブル、CF カード、モデムを使ってプロジェクトファイルが転送できない	☞「1.2.3 プロジェクトファイルを転送できない」(1-12 ページ)
	オンラインアップデートできない	☞「1.2.4 オンラインアップデートできない」(1-31 ページ)
表示器で操作中に	表示器のタッチ (スイッチ) が反応しない	☞「1.3.1 タッチ (スイッチ) が反応しない」(1-34 ページ)
	表示器のタッチ (スイッチ) が押した所と違う所が反応したり、勝手に反応したりする	☞「1.3.2 タッチ (スイッチ) が押した所と違う所が反応する (勝手に反応する)」(1-36 ページ)
	表示器の電源が入らない、または初期画面が表示されない、画面が真っ暗になる	☞「1.3.3 電源が入らない (初期画面が表示されない、画面が真っ暗)」(1-38 ページ)
	ブザー音がずっと鳴っている	☞「1.3.4 ブザー音が鳴り続ける」(1-41 ページ)
	表示器の画面に線、または筋が入る。画面が真っ白になっている。	☞「1.3.5 画面に線 (筋) が入る、画面が真っ白になる」(1-43 ページ)
接続機器と通信中に	すべての画面で通信ができない	☞「1.4.1 すべての画面で通信しない」(1-45 ページ)
	ある特定の画面でのみ通信ができない	☞「1.4.2 ある特定の画面でのみ通信しない」(1-50 ページ)
	通信が遅い	☞「1.4.3 通信が遅い」(1-52 ページ)
	通信が時々とまる	☞「1.4.4 通信が時々止まる」(1-55 ページ)
拡張オプションを使用時に	DIO インターフェイスに接続している機器が ON, OFF しない	☞「1.5.1 DIO インターフェイスに接続している機器が ON, OFF しない」(1-58 ページ)
	FLEX NETWORK ユニット、PROFIBUS (Slave) ユニット、VM ユニットが正常に動作しない場合はまず各ユニットのマニュアルをご覧ください。本章では参照頂くマニュアル名をご案内します。	☞「1.5.2 FLEX NETWORK ユニットまたは PROFIBUS(Slave) ユニットが通信しない、VM ユニットが動作しない」(1-61 ページ)

## 1.2 パソコン操作で困った！

### 1.2.1 GP-Pro EX がインストールできない

お使いのパソコンは、GP-Pro EX 動作環境に該当していますか？

GP-Pro EX は以下の動作環境に該当するパソコンにインストールしてください。

パソコン	Windows <sup>®</sup> が正常に動作する PC/AT 互換機
対応 OS	Windows <sup>®</sup> 2000 ( Service Pack 3 以上 ) Windows <sup>®</sup> XP Home Edition および Professional
CPU	Pentium <sup>®</sup> 800MHz 以上 ( Pentium <sup>®</sup> 4 1.3GHz 以上推奨 )
メモリ	512M バイト以上 ( 1G バイト以上推奨 )
ハードディスクスペース	420M バイト以上 ( インストールするために 必要なスペース )

GP-Pro EX は .NET Framework を使用して動作するため、上記 OS のみが対応 OS となります。

Windows<sup>®</sup> に Administrator 権限の持つアカウントでログオンし、インストールしましたか？

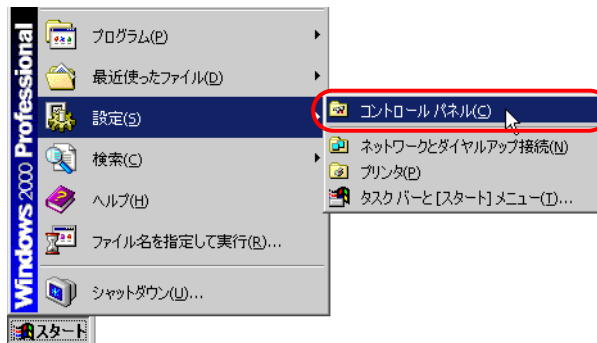
#### 原因

Administrator 権限でログインしていないために、インストールする際に必要なフォルダ等にアクセスできない可能性があります。

#### 対処方法

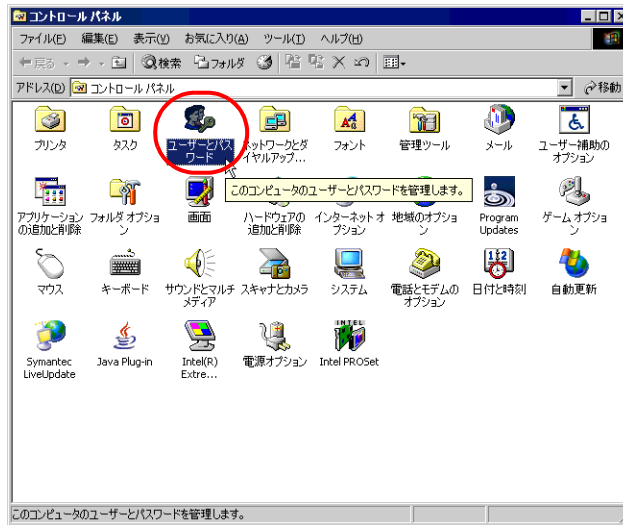
Administrator 権限を持つアカウントでログインし、インストールしてください。

- アカウントの確認方法 ( Windows<sup>®</sup> 2000 をご利用の場合 )
  - (1) [ スタート ] ボタンから [ 設定 (S) ] を選択し、[ コントロールパネル (C) ] をクリックします。

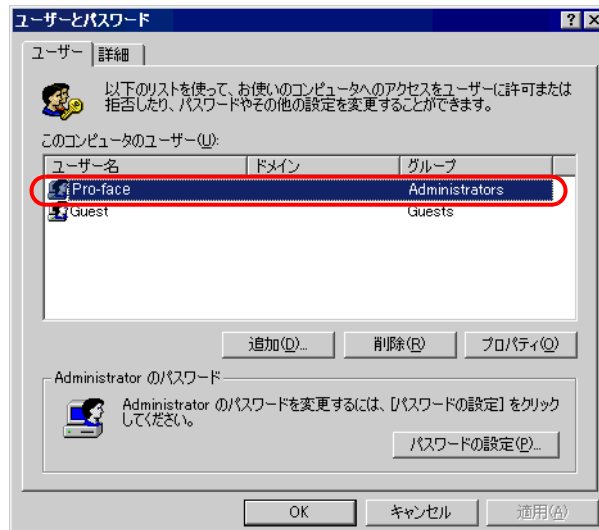


次のページに続きます。

- (2) [コントロールパネル] が開くので [ユーザーとパスワード] を選択します。

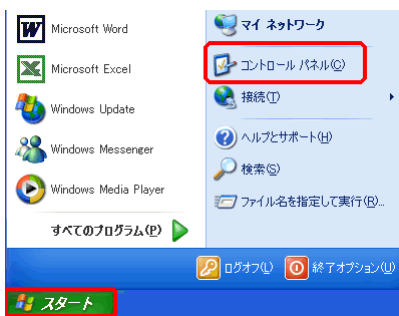


- (3) 次のようなダイアログボックスが表示されます。現在ログオンしているアカウントに Administrator 権限がある場合は、[ユーザー名] の [グループ] に [Administrator] と表示されます。[Guests] が表示されている場合は、他のアカウントでログオンしなおしてください。

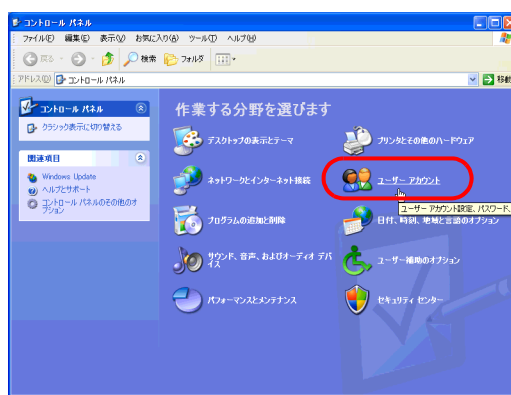


- アカウントの確認方法 (Windows® XP をご利用の場合)

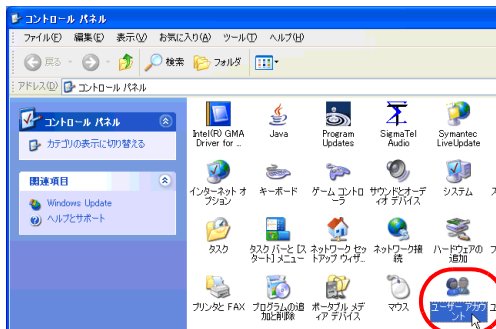
(1) [スタート] ボタンから [コントロールパネル (C)] をクリックします。



(2) [コントロールパネル] が開くので [ユーザアカウント] を選択します。



**MEMO** • [コントロールパネル] の表示が [クラシック表示] の場合は下記のような表示になります。

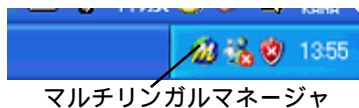


(3) 現在ログオンしているアカウントに Administrator 権限がある場合、アカウント名の下に [コンピュータの管理者] と表示されます。[制限付きアカウント] のアカウントのみ表示される場合は、他のアカウントでログオンしなおしてください。





パソコンに楽々中国語（V2、V2 + 翻訳、V3）、楽々韓国語（V1.5、V2）をインストールされている場合、「マルチリンガルマネージャ」が起動していませんか？



## 原因

マルチリンガル・マネージャは、オムロンソフトウェア株式会社から発売されている翻訳ソフト「楽々中国語」、「楽々韓国語」の付属アプリケーションです。「楽々中国語」、「楽々韓国語」をインストールすると、同時にインストールされ、初期設定ではスタートアップに登録されます。タスクトレイに上図のアイコンが表示されていればマルチリンガル・マネージャは起動しています。このマルチリンガルマネージャが起動していると、GP-Pro EX のインストーラが応答待ちとなり、インストール処理が続行されず、止まったように見えます。

## 対処方法

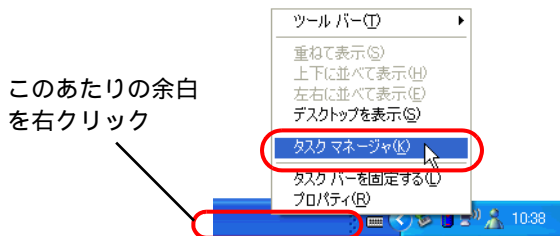
オムロンソフトウェア株式会社のホームページ（下記 URL）から「マルチリンガル・マネージャ」の改修モジュールをダウンロードし、実行してください。その後 GP-Pro EX のインストーラを再度行ってください。

<http://www.omronsoft.co.jp/SP/support/win/raku2ck/cyui.html>

マルチリンガル・マネージャを起動したままで、GP-Pro EX のインストールを行った場合には次の手順で対処を行った後、上記の改修モジュールをダウンロードしてください。

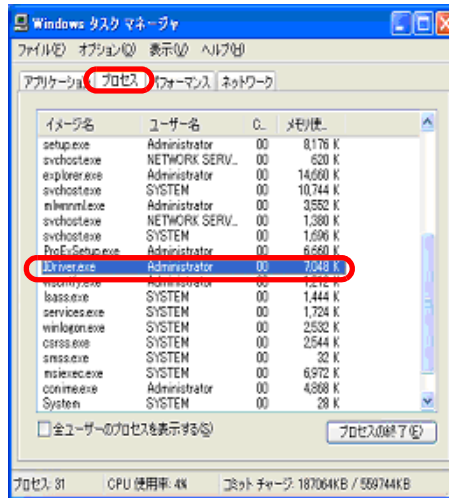
- ・ 継続ダイアログ、または完了ダイアログでインストーラが止まった場合

- (1) タスクバーの下記の余白を右クリックするとメニューが表示されるので [タスクマネージャ] をクリックします。

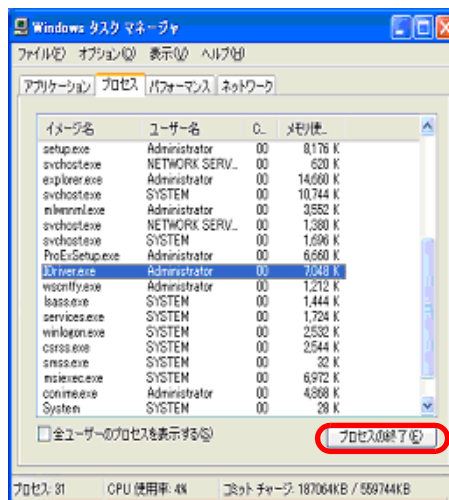


**MEMO** ・ 上記の絵は Windows<sup>®</sup> XP をご利用の場合の表示ですが、操作は Windows<sup>®</sup> 2000 も共通です。

- (2) [タスクマネージャ]が開くので、プロセスタブを開き、IDriver.exe を選択します。



- (3) 「プロセスの終了」ボタンをクリックし、IDriver.exe を強制終了してください。

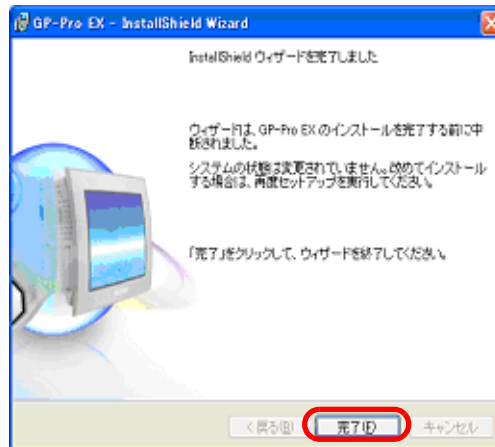


- (4) IDriver.exe を終了すると、残りのインストール処理が行われ、正常に終了します。

次のページに続きます。

- インストーラを起動してもすぐに完了ダイアログが表示される場合

インストール時に強制的にインストーラを終了させると、IDriver.exe、または Windows® Installer が起動したままになり、次にインストーラを起動しようとする、内部でエラーとなり下記ダイアログが表示され完了してしまいます。



- (1) インストーラを終了させ、パソコンの再起動を行った後、再度インストールを実行してください。

---

**MEMO** • [マルチリンガル・マネージャ]に関わらず、インストール作業（インストール、修復インストール、アンインストール）を行う際は、すべてのアプリケーションを終了して行うようにしてください。

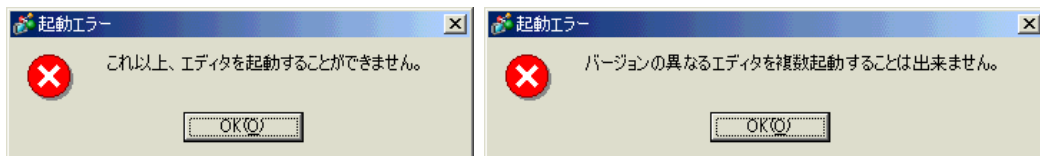
---

## 1.2.2 GP-Pro EX が起動しない（強制終了する）

### エラーメッセージは表示されていませんか？

#### 原因

以下のようなエラーが表示されたら、エディタの複数起動や、バージョンの異なるエディタを複数起動することはできません。



#### 対処方法

同時に起動できるエディタは2つまでです。またバージョンの異なるエディタを複数起動はできないので稼動中のエディタと同じバージョンのものを起動してください。

#### MEMO

- ・ エラー表示の詳細については下記を参照してください。

☞ 「1.6.1 ソフト (GP-Pro EX) で表示されるエラー 起動」(1-63 ページ)

### 特定のプロジェクトファイルのみ起動できませんか？

#### 原因

他のプロジェクトファイルは起動し、ある特定のプロジェクトファイルが起動できない場合はそのプロジェクトファイルが壊れている可能性があります。

#### 対処方法

プロジェクトファイルのデータに異常があった可能性があるため、そのデータをコピーして再度転送してください。コピー方法は下記の手順を参照してください。

☞ GP-Pro EX リファレンスマニュアル「5.8 他のプロジェクトから画面をコピーしたい」(5-40 ページ)

#### MEMO

- ・ [他プロジェクトからのコピー] でコピーできる内容はベース画面の内容とウィンドウ画面の内容のみです。それ以外の内容についてはコピーされないため再度設定する必要があります。

### 特定の画面を開けると GP-Pro EX が強制終了しますか？

#### 原因

他の画面では問題なく作業が行え、ある特定の画面を開くと GP-Pro EX が強制終了する場合はその特定画面のデータが壊れている可能性があります。

#### 対処方法

画面のデータに異常があった可能性があるため、そのデータを作成しなおしてください。

## GP-Pro EX の推奨動作環境になっていますか？

### 原因

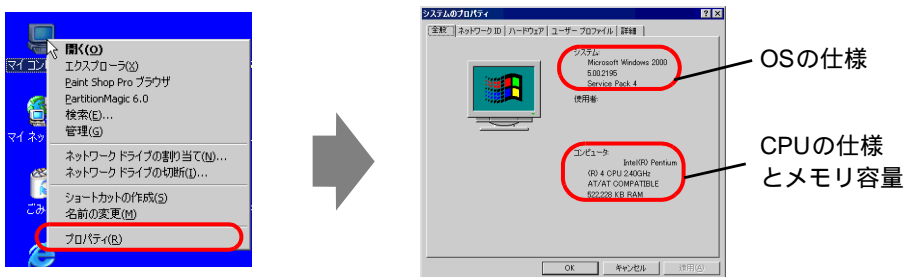
GP-Pro EX の推奨動作環境になっていないと、GP-Pro EX が起動できない場合があります。

### 対処方法

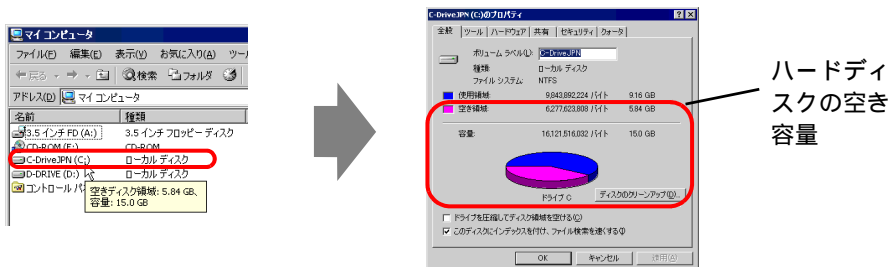
ご使用のパソコンの OS、CPU スペック、メモリ容量、ハードディスク容量などをご確認ください。

#### MEMO

- デスクトップ上の [マイコンピュータ] を右クリックするとメニューが表示されるので [プロパティ (R)] を選択します。[システムのプロパティ] が表示されるのでパソコンの情報が動作推奨環境になっているか確認してください。ハードディスクの空き容量は、GP-Pro EX をインストールしているドライブを右クリックし、メニューが表示されたら [プロパティ (R)] を選択して確認できます。



(例)GP-Pro EXをCドライブにインストールしている場合



- GP-Pro EX 推奨動作環境は以下のとおりです。

パソコン	Windows <sup>®</sup> が正常に動作する PC/AT 互換機
対応 OS	Windows <sup>®</sup> 2000 ( Service Pack 3 以上 ) Windows <sup>®</sup> XP Home Edition および Professional
CPU	Pentium <sup>®</sup> 800MHz 以上 ( Pentium <sup>®</sup> 4 1.3GHz 以上推奨 )
メモリ	512M バイト以上 ( 1G バイト以上推奨 )
ハードディスクスペース	420M バイト以上 ( インストールするために 必要なスペース )

## 常駐ソフトがインストールされていませんか？

### 原因

常駐ソフトがインストールされていると GP-Pro EX が起動できない場合があります。

- MEMO** ・ [常駐ソフト] とは下記のようにタスクバーに表示され、常に起動している様に設定されているアプリケーションのことです。



### 対処方法

以下の手順で GP-Pro EX が正常に起動するか確認してください。

- (1) 常駐ソフトがあれば各アイコンを右クリックしてメニューが表示されたらアプリケーションを終了し、GP-Pro EX を再起動してください。
- (2) (1) で改善しない場合は、起動中のアプリケーションをすべて終了して、GP-Pro EX を再起動してください。
- (3) (1) と (2) の手順を行っても GP-Pro EX が起動しない (強制終了する) 場合は GP-Pro EX をアンインストールして、再インストールしてください。

- MEMO** ・ インストール作業 (インストール / 修復インストール / アンインストール) を行う際は、すべてのアプリケーションを終了してから行ってください。

## 1.2.3 プロジェクトファイルを転送できない

### USB 転送ケーブルで転送できない

USB ケーブルは弊社オプション品の転送ケーブル（型式：CA3-USBCB-01）ですか？

#### 原因

プロジェクトファイルを転送時の USB ケーブルの型式が違う可能性があります。

#### 対処方法

プロジェクトファイルを USB ケーブルで転送する場合は弊社オプション品の USB 転送ケーブル（CA3-USBCB-01）をご使用ください。

USB ケーブルのドライバはインストールされていますか？

#### 原因

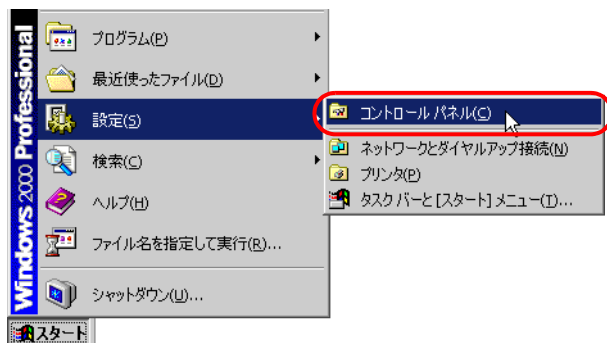
USB ケーブルのドライバが正しくインストールされていない可能性があります。

#### 対処方法

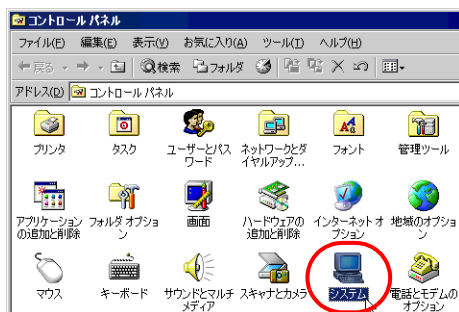
ドライバがインストールされているか、以下の手順でご確認ください。

- ・ドライバのインストール状況確認方法

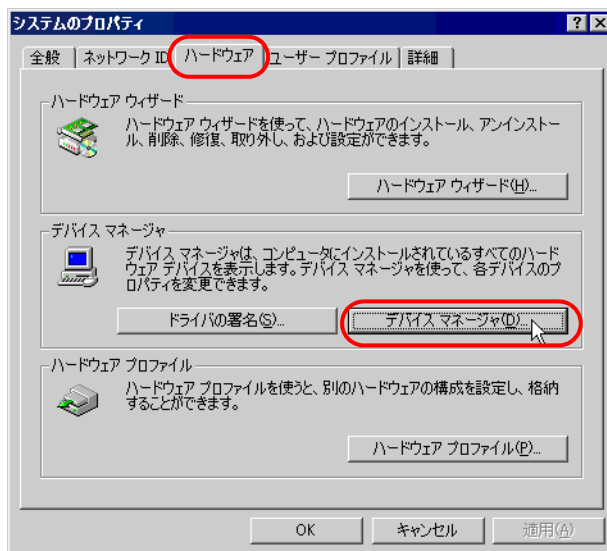
(1) [スタート] ボタンから [コントロールパネル (C)] をクリックします。



(2) [コントロールパネル] が開くので [システム] をダブルクリックします。



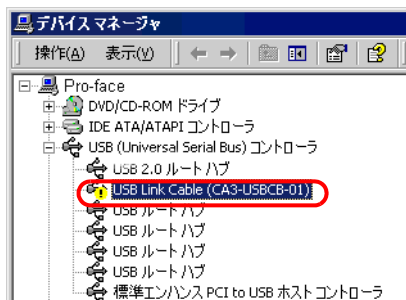
- (3) [システムのプロパティ]が開くので[ハードウェア]タブをクリックし、[デバイスマネージャ (D)] を選択します。



- (4) [デバイスマネージャ]が開くので[USB(Universal Serial Bus) コントローラ]の左横にある[+]マークをクリックします。表示されるリストの中に[USB Link Cable(CA3-USBCB-01)]の項目が表示されていれば、ドライバは正常にインストールされています。

**MEMO**

- 下記のように[USB Link Cable(CA3-USBCB-01)]の左横に黄色い警告マークが表示されている場合は、USB ケーブルをパソコンから抜き、再度差し直し、インストールを行ってください。インストール手順については次のページを参照してください。



次のページに続きます。



- ドライバのインストール方法

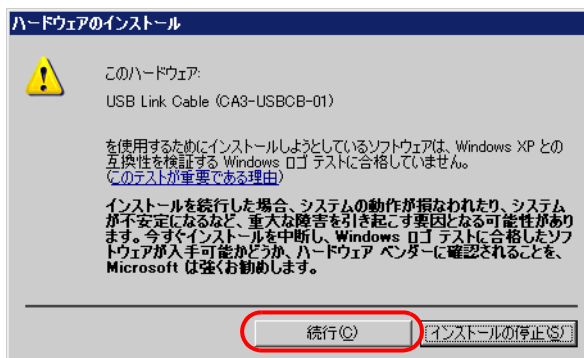
ドライバがインストールされていない場合は、以下の手順で再度インストールしてください。

弊社オプション品の USB 転送ケーブルでパソコンと表示器を接続します。

USB ケーブルのドライバがインストールされていない場合は、ダイアログボックスが表示されますので指示にしたがってインストールしてください。

**MEMO**

- Windows® XP のセキュリティレベルによっては USB ドライバインストール中に下記のような [ハードウェアのインストール] ダイアログボックスが表示されます。[ 続行 (C) ] をクリックすると CA3-USBCB-01 のドライバのインストールが開始します。インストールが終了したら [ 完了 ] をクリックします。



## 転送中にパスワードをきいてきます。(パスワードを設定されていませんか?)

### 原因

転送時のパスワードが設定されています。

### 対処方法

- 送信時のパスワードを忘れた場合  
転送時のパスワードを忘れると、解除することはできません。パスワード情報を削除する必要があります。

表示器本体のオフラインにてメモリを初期化してください。

☞「2.13.1 表示器共通 ユーザメモリの初期化」(2-78 ページ)

### 重要

- 受信時のパスワードを忘れた場合  
受信時のパスワードを忘れると受信することができません。表示器以外の場所に保存されているバックアップファイルが残っているかご確認ください。

## 新規プロジェクトファイルは送信できますか？

### 原因

新規プロジェクトファイルが表示器に送信できる場合は最初に転送しようとしたプロジェクトファイルのデータに異常があった可能性があります。

### 対処方法

新規プロジェクトファイルが転送できるか以下を参照し、確認してください。

- (1) 新規プロジェクトファイルを作成します。

☞ GP-Pro EX リファレンスマニュアル「5.2.2 設定手順 作成・保存する」(5-11 ページ)

- (2) 新規プロジェクトファイルが転送できる場合は、最初に転送しようとしたプロジェクトファイルのデータに異常があった可能性があるため、そのデータをコピーして再度転送してください。コピー方法は下記の手順を参照してください。

☞ GP-Pro EX リファレンスマニュアル「5.8 他のプロジェクトから画面をコピーしたい」(5-40 ページ)

### MEMO

- 「他プロジェクトからのコピー」でコピーできる内容はベース画面の内容とウィンドウ画面の内容のみです。それ以外の内容についてはコピーされないため再度設定する必要があります。

## プロジェクトファイルを強制転送できますか？

---

### 原因

表示器のシステムに異常が発生し、表示器がフリーズ状態になっていた可能性があります。再送できるので表示器に異常はありません。

### 強制転送方法

プロジェクトファイルを強制転送する方法は2つあります。プロジェクトファイルを強制転送する手順は以下を参照してください。

☞ 「2.12.3 プロジェクトファイルを強制転送したい」(2-62 ページ)

## パソコンを替えて転送できますか？

---

### 原因

パソコンを替えて転送できる場合はパソコン側に原因があると考えられます。

### 対処方法

#### ・パソコンを替えて転送できる場合

- (1) 最初に転送しようとしていたパソコン側に問題がある可能性があります。USB ケーブルのドライバをアンインストールしてから再インストールしてください。また GP-Pro EX もアンインストールし、再インストールを行ってください。

#### ・パソコンを替えても転送できない場合

- (1) USB ケーブルに問題がある可能性があります。LAN や CF カードなど他の転送方法でプロジェクトファイルを転送してください。

☞ GP-Pro EX リファレンスマニュアル「32.3 イーサネット (LAN) で転送したい」(32-12 ページ)

☞ GP-Pro EX リファレンスマニュアル「32.7 CF カードで転送したい」(32-36 ページ)

## イーサネットケーブルで転送できない

### 表示器本体のオフライン画面にて表示器の IP アドレスは設定されていますか？

#### 原因

イーサネットケーブルで転送する場合は表示器に IP アドレスを設定する必要があります。

#### 対処方法

表示器に IP アドレスを設定してください。

☞ 「2.5.1 表示器に IP アドレスを設定したい」(2-34 ページ)

### パソコンの IP アドレスは設定されていますか？

#### 原因

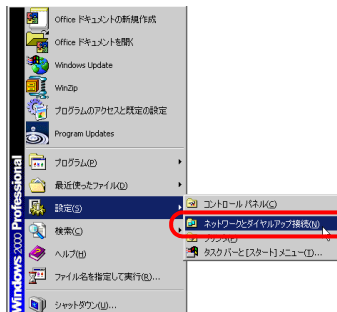
イーサネットケーブルで転送する場合はパソコンに IP アドレスを設定する必要があります。

#### 対処方法

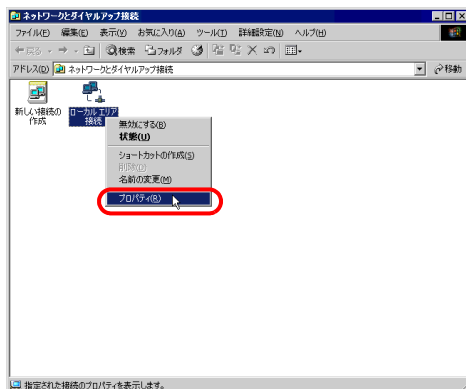
パソコンに IP アドレスを設定してください。

- ・ パソコンに IP アドレスを設定する

- (1) [スタート]メニューより[設定(S)]を開き[ネットワークとダイヤルアップ接続(N)]を選択します。

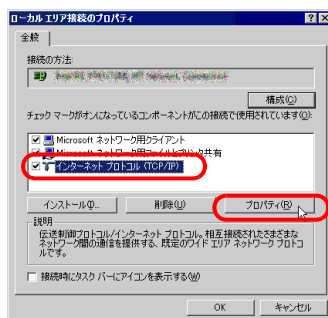


- (2) [ネットワークとダイヤルアップ接続]が表示されます。[ローカルエリア接続]のアイコンを右クリックし、メニューが表示されたら[プロパティ(R)]を選択します。



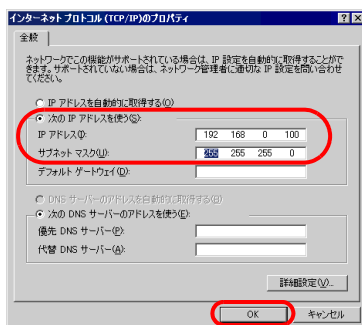
次のページに続きます。

- (3) [ ローカルエリア接続のプロパティ ] が表示されるので [ インターネットプロトコル (TCP/IP) ] を選択し、[ プロパティ (R) ] ボタンをクリックします。



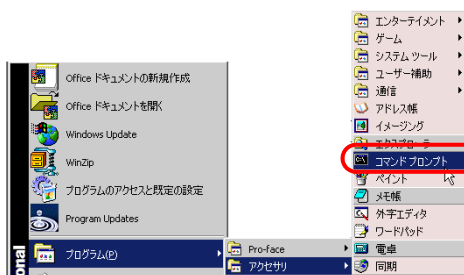
- (4) [ 次の IP アドレスを使う (S) ] を選択し、IP アドレス、サブネットマスクを設定します。  
(例 : 192.168.0.100、255.255.255.0) [OK] ボタンをクリックし、設定完了です。

**MEMO** ・ IP アドレスの設定等についてはネットワーク管理者の方にご連絡ください。

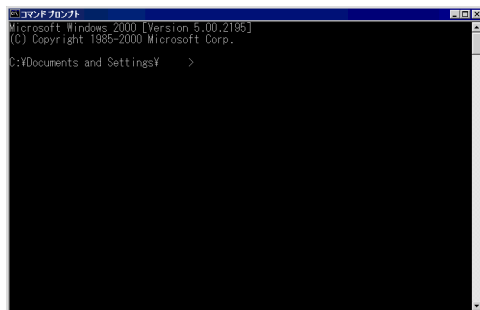


- ・ パソコンに IP アドレスが正確に設定されているか確認する  
コマンドプロンプトにて IPCONFIG コマンドを実行する

- (1) [ スタート ] メニューより [ プログラム (P) ] を開き [ アクセサリ ] を選択します。



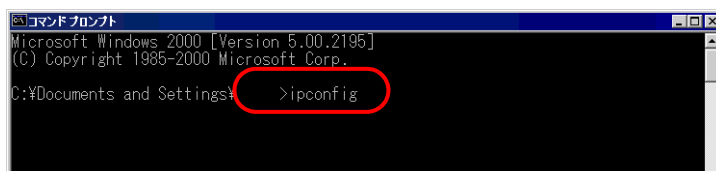
- (2) [アクセサリ] から、[コマンドプロンプト] を選択すると次のような画面が表示されます。



```
コマンド プロンプト
Microsoft Windows 2000 [Version 5.00.2195]
(C) Copyright 1985-2000 Microsoft Corp.

C:\Documents and Settings\Y >
```

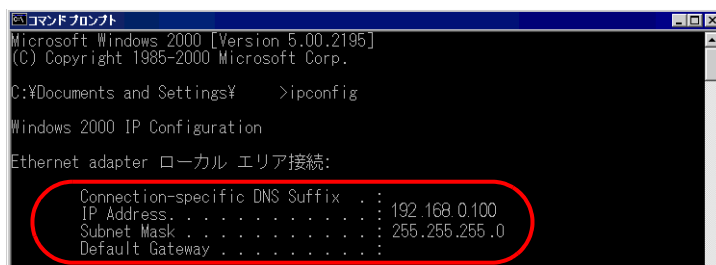
- (3) 画面に表示された、C:¥Documents and Settings¥( コンピュータ名 ) の後に「ipconfig」と入力しEnter キーを押します。



```
コマンド プロンプト
Microsoft Windows 2000 [Version 5.00.2195]
(C) Copyright 1985-2000 Microsoft Corp.

C:\Documents and Settings\Y >ipconfig
```

- (4) コマンドの実行の結果が表示されるので設定した IP アドレスと一致しているかどうか確認します。一致しない場合はコンピュータを再起動してください。



```
コマンド プロンプト
Microsoft Windows 2000 [Version 5.00.2195]
(C) Copyright 1985-2000 Microsoft Corp.

C:\Documents and Settings\Y >ipconfig

Windows 2000 IP Configuration

Ethernet adapter ローカル エリア接続:

Connection-specific DNS Suffix . : 192.168.0.100
IP Address . . . . . : 192.168.0.100
Subnet Mask . . . . . : 255.255.255.0
Default Gateway . . . . . :
```

## イーサネットケーブルはストレートケーブルですか？クロスケーブルですか？

### 原因

接続するケーブルのタイプによっては接続方法が異なります。

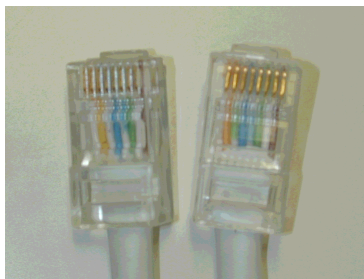
### 対処方法

ストレートケーブルをご利用の場合は、表示器とパソコンの間に HUB を接続してください。クロスケーブルをご利用の場合は、表示器とパソコンの間はクロスケーブル 1 本で直接接続してください。

- ストレートケーブルとクロスケーブルの見分け方

ケーブルの両端先端を並べたときに、ストレートケーブルはどちらのコネクタも左側から同じ色の信号線が結線されています。クロスケーブルは、信号線の色並びが左右のコネクタで異なります。また信号線の色はご使用のケーブルにより異なるため下記は一例です。

ストレートケーブル



左から「白黄白青白緑白」「白黄白青白緑白」と同じ並びになっています。

クロスケーブル



左から「黒オレンジ青白緑黒」「黒緑白青オレンジ黒」と同じ並びではありません。

## コマンドプロンプトで PING コマンドを実行すると表示器の IP アドレスは見つかりますか？

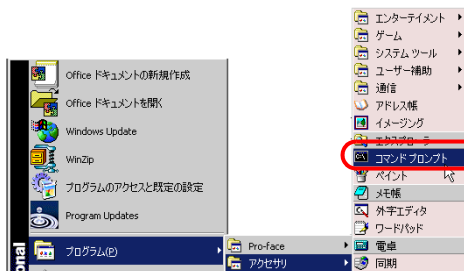
### 原因

イーサネットケーブルがささっていない、表示器側でイーサネットケーブル差し込み口を認識していないなどの原因で表示器がネットワークに参加していない可能性があります。

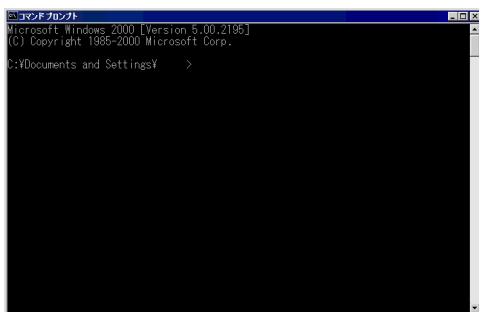
### 対処方法

- コマンドプロンプトで PING コマンドを実行する

(1) [スタート]メニューより[プログラム(P)]を開き[アクセサリ]を選択します。

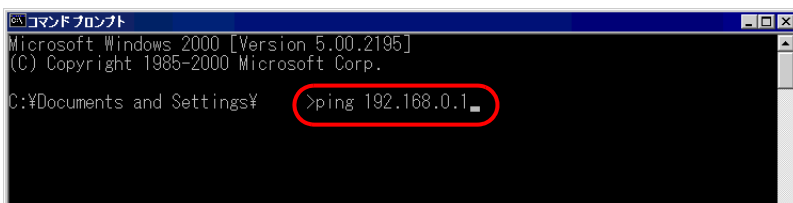


(2) [アクセサリ]から、[コマンドプロンプト]を選択すると次のような画面が表示されます。



(3) 画面に表示された、C:\Documents and Settings¥( コンピュータ名 )の後に「ping 192.168.0.1( 表示器の IP アドレス)」と入力し Enter キーを押します。

**MEMO** • IP アドレスの設定等についてはネットワーク管理者の方にご連絡ください。

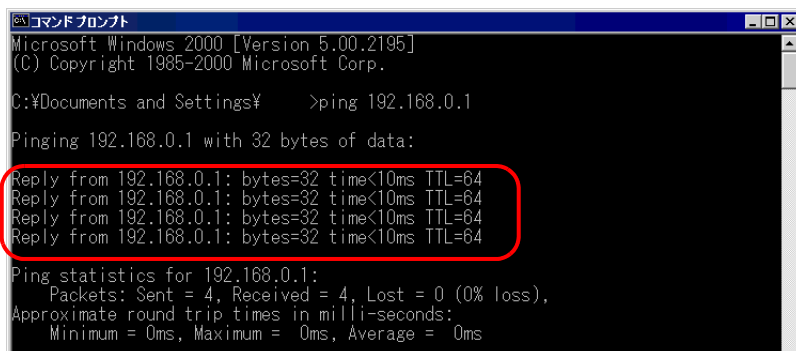


(4) コマンドの実行の結果が表示されるので設定した表示器の IP アドレスから返答があった場合はポート番号を表示器のポート番号が 8000 に設定されているか確認してください。IP アドレスが見つからない場合はケーブルや HUB を交換してください。

次のページに続きます。



(表示器のIPアドレスから返答があった場合の表示)



```
コマンドプロンプト
Microsoft Windows 2000 [Version 5.00.2195]
(C) Copyright 1985-2000 Microsoft Corp.

C:\Documents and Settings\¥ >ping 192.168.0.1

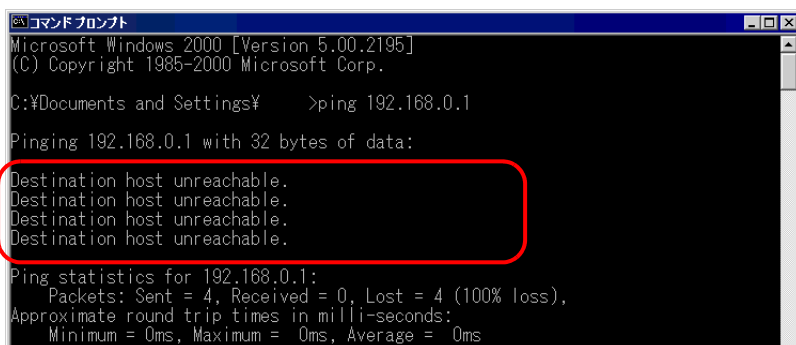
Pinging 192.168.0.1 with 32 bytes of data:

Reply from 192.168.0.1: bytes=32 time<10ms TTL=64
Reply from 192.168.0.1: bytes=32 time<10ms TTL=64
Reply from 192.168.0.1: bytes=32 time<10ms TTL=64
Reply from 192.168.0.1: bytes=32 time<10ms TTL=64

Ping statistics for 192.168.0.1:
    Packets: Sent = 4, Received = 4, Lost = 0 (0% loss),
    Approximate round trip times in milli-seconds:
        Minimum = 0ms, Maximum = 0ms, Average = 0ms
```

(表示器のIPアドレスから返答がなかった場合の表示)

上記以外の以下のようなメッセージが表示されます。(メッセージは接続状況により表示されるメッセージは異なります。) ネットワーク管理者に設定を確認してください。



```
コマンドプロンプト
Microsoft Windows 2000 [Version 5.00.2195]
(C) Copyright 1985-2000 Microsoft Corp.

C:\Documents and Settings\¥ >ping 192.168.0.1

Pinging 192.168.0.1 with 32 bytes of data:

Destination host unreachable.
Destination host unreachable.
Destination host unreachable.
Destination host unreachable.

Ping statistics for 192.168.0.1:
    Packets: Sent = 4, Received = 0, Lost = 4 (100% loss),
    Approximate round trip times in milli-seconds:
        Minimum = 0ms, Maximum = 0ms, Average = 0ms
```

---

## ファイアウォールが設定されていませんか？

---

### 原因

Microsoft Windows XP Service Pack 2 を使用されている場合は、転送ツールを起動すると Windows ファイアウォールでブロックされているというメッセージが表示されます。

### 対処方法

ブロックを解除すればそのまま転送の作業ができます。ただし、複数台の GP に転送を行う場合は、[転送設定] ダイアログボックスの [通信ポートの設定] で [PASV] を設定するか、ファイアウォールを無効にしてください。

---

## LAN カードを 2 枚以上使用されていませんか？

---

### 原因

LAN カードを 2 枚以上使用しているパソコンでは、IP アドレスの自動検索をしても目的の GP を検出できない場合があります。これは OS が先に見つけた LAN カードに接続されている GP を検索するためです。

### 対処方法

プロジェクト送信をクリックした後、表示される [本体の選択] ダイアログボックスで [追加] をクリックし、転送したい GP の IP アドレスを手動で設定してください。

---

## 常駐ソフトがインストールされていませんか？

---

### 原因

常駐ソフトがインストールされていると転送できない場合があります。

- MEMO** ・ [常駐ソフト]とは下記のようにタスクバーに表示され、常に起動している様に設定されているアプリケーションのことです。



---

### 対処方法

常駐ソフトがあれば各アイコンを右クリックしてメニューが表示されたらアプリケーションを終了して再度転送してください。

次のページに続きます。

## 表示器の自己診断においてイーサネットインターフェイスの診断結果はOKですか？

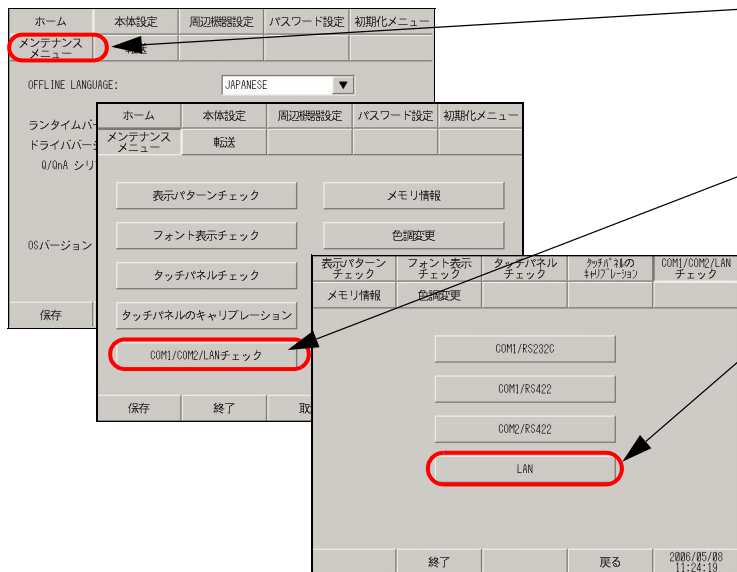
### 原因

イーサネットの接続口に異常がある場合接続できません。

### 対処方法

- 表示器の自己診断においてイーサネットインターフェイスをチェックします。オフラインモードへの入り方は下記を参照してください。

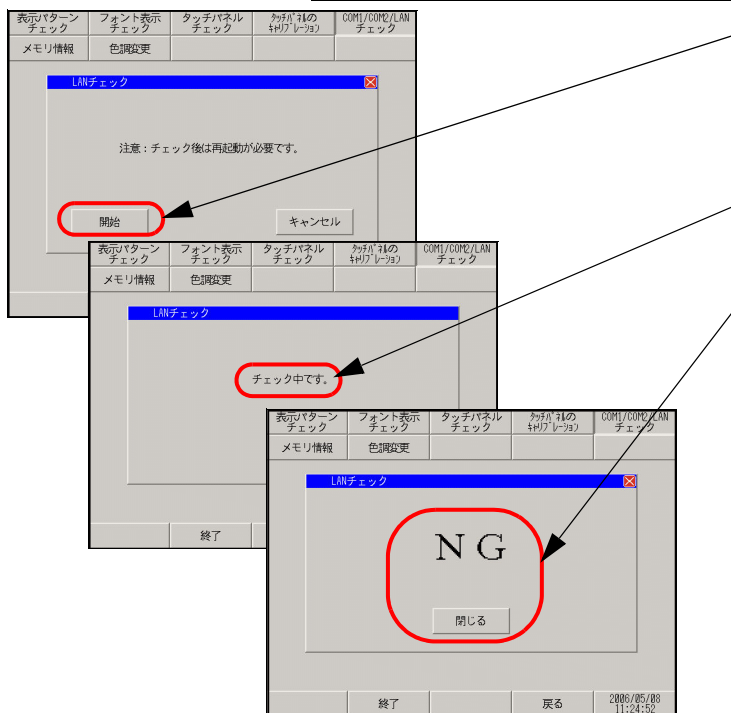
☞ 「2.2.1 オフラインモードへの入り方」(2-12 ページ)



オフラインモードに入り、項目切り替えスイッチから[メンテナンスメニュー]をタッチします。

[メンテナンスメニュー]が開くので[COM1/COM2/LANチェック]をタッチします。

[COM1/COM2/LANチェック]が開くので[LAN]をタッチします。



次のような確認メッセージが表示されるので[開始]をタッチします。

チェック中は次のようなメッセージが表示されます。

チェックの結果、[OK]と表示された場合は、パソコン側のセキュリティソフトや常駐ソフトをすべて終了し、再度プロジェクトファイルを転送してください。[NG]と表示された場合は本体故障が考えられます。修理センターに配送してください。

☞ 「1.7.3 修理しよう！」(1-106 ページ)

## 転送中にパスワードをきいてきます。(パスワードが設定されていませんか?)

---

### 原因

転送時のパスワードが設定されています。

### 対処方法

- 送信時のパスワードを忘れた場合  
転送時のパスワードを忘れると、解除することはできません。パスワード情報を削除する必要があります。

表示器本体のオフラインにてメモリを初期化してください。

☞「2.13.1 表示器共通 ユーザメモリの初期化」(2-78 ページ)

---

### 重要

- 受信時のパスワードを忘れた場合  
受信時のパスワードを忘れると受信することができません。表示器以外の場所に保存されているバックアップファイルが残っているかご確認ください。
-

## CF カードで転送できない (CF メモリローダツールを使用する)

### エラーコードは表示されていますか？

#### 原因

CF カードが GP に挿入されていない場合や、CF カードのカバーが開いている場合はエラーメッセージ「RAAA010 CF カードが挿入されていません。または CF カードのハッチが開いていません」が表示され、プロジェクトファイルをダウンロードできません。

#### 対処方法

CF カードが正しく挿入されているかまたは CF カードのカバーが閉じているか確認してください。

- ・ 上記の内容を確認してもダウンロードできない場合  
(株) デジタル製 CF カード (別売品) を使用されているかご確認ください。

### CF カードが NTFS 形式でフォーマットされていませんか？

#### 原因

パソコンで CF カードが NTFS 形式でフォーマットされている場合、表示器では認識されません。

#### 対処方法

パソコンにて FAT32 または FAT 形式にて再度フォーマットしてください。

### CF カードの中のデータと一緒にメモリローダツールも作成されていますか？

#### 原因

GP からパソコンにプロジェクトファイルがアップロードできない場合、CF カードの中に正しくメモリローダツールが作成されていない可能性があります。

#### 対処方法

転送ツールの [メモリローダ] で [起動 CF カードの作成] を行い、CF カードにメモリローダツールが保存されているか確認してください。

- ☞ GP-Pro EX リファレンスマニュアル「32.7.2 転送手順 GP からパソコン (または他の GP) にプロジェクトファイルを転送する」(32-41 ページ)

### バックアップデータは作成されていますか？

#### 原因

パソコンから GP にプロジェクトファイルがダウンロードできない場合、CF カードの中に正しくバックアップデータが作成されていない可能性があります。

#### 対処方法

転送ツールの [メモリローダ] で [バックアップデータの作成] を行い、CF カードに作成されたバックアップデータのすべてのファイルやフォルダが CF カードに保存されているか確認してください。バックアップデータの作成方法は下記を参照してください。

- ☞ GP-Pro EX リファレンスマニュアル「32.7.2 転送手順 パソコンから GP にプロジェクトファイルを転送する」(32-37 ページ)

転送中にパスワードをきいてきます。(パスワードが設定されていませんか?)

---

原因

ダウンロード時のパスワードが設定されています。

対処方法

- ダウンロード時のパスワードを忘れた場合  
ダウンロード時のパスワードを忘れると、解除することはできません。パスワード情報を削除する必要があります。

表示器本体のオフラインにてメモリを初期化してください。

☞「2.13.1 表示器共通 ユーザメモリの初期化」(2-78 ページ)

---

**重要**

- アップロード時のパスワードを忘れた場合  
アップロード時のパスワードを忘れると受信することができません。表示器以外の場所に保存されているバックアップファイルが残っているかご確認ください。
-

## モデムで転送できない

### エラーメッセージは表示されていませんか？

#### 原因

モデム転送では画面のみ転送できます。システムの転送はできません。  
また以下の内容でプロジェクトファイルが更新された場合も転送できません。

- ・システム設定が変更された場合
- ・プロトコルの構成、設定が変更された場合
- ・転送元と、転送先のランタイムシステム、プロトコルバージョンが一致しない場合
- ・プロジェクトまたは編集エディタのバージョンが異なる場合
- ・転送元と、転送先のフォントの種類が一致しない場合
- ・転送元と、転送先の I/O ドライバの種類またはバージョンが一致しない場合

#### 対処方法

表示されたエラーメッセージダイアログボックスを閉じて、変更した設定内容を変更前に戻して再度プロジェクトファイルを転送するか、USB 転送ケーブル、LAN ケーブルなどを使用して直接データを転送してください。

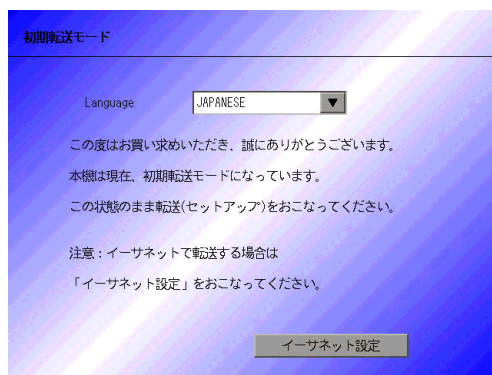
#### MEMO

- ・エラー表示の詳細については下記を参照してください。

☞ 「1.6.1 ソフト (GP-Pro EX) で表示されるエラー モデム転送時のエラー」(1-88 ページ)

### 表示器が以下の状態になっていませんか？

表示器がお買い上げの画面になっている場合



#### 原因

ランタイムプログラムが入っていないのでモデムを認識することができません。

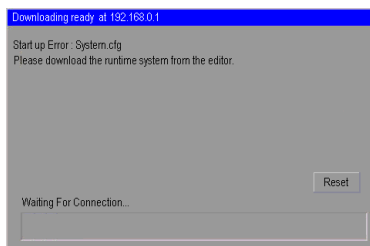
#### 対処方法

USB、LAN などで先にプロジェクトファイルを転送してください。

- ☞ GP-Pro EX リファレンスマニュアル「32.2 USB 転送ケーブルで転送したい」(32-5 ページ)
- ☞ GP-Pro EX リファレンスマニュアル「32.3 イーサネット (LAN) で転送したい」(32-12 ページ)

次のページに続きます。

## 起動したらいきなり強制転送画面になっている場合



### 原因

ランタイムプログラムが動作するために必要なデータが失われている可能性があります。

### 対処方法

USB、LANなどで先にプロジェクトファイルを転送してください。

- ☞ GP-Pro EX リファレンスマニュアル「32.2 USB 転送ケーブルで転送したい」(32-5 ページ)
- ☞ GP-Pro EX リファレンスマニュアル「32.3 イーサネット (LAN) で転送したい」(32-12 ページ)

---

## 以下のようなモデムを使用されていませんか？

---

### 使用不可モデム

以下のようなモデムは使用できません。

- 表示器の受け側がアナログモデムとなるため、パソコン側で ISDN 回線用のターミナルアダプタなどは使用できません。
- 株式会社ウィルコム (旧 DDI ポケット株式会社) の Air'H などセンターに接続してから使用できるモデムは使用できません。

### 使用可能なモデム

使用できるは以下のようなモデムです。

- GP 側に接続できるモデムは RS-232C のモデムのみです。
- Windows<sup>®</sup> 対応モデムで、モデムとモデムの間を電話回線で接続できる
- AT コマンドがサポートされている
- GP 側で自動着信ができる
- ハードウェアフロー制御ができる
- コマンドからの応答 [ リザルト ] で文字列を返すことができる

---

## モデムと表示器は正しく接続されていますか？

---

### 原因

USB - シリアル変換ケーブルが必要です。ケーブルがモデム側、表示器側から抜けている可能性があります。またモデムの電源が入っていない可能性があります。

### 対処方法

モデムが正しく接続されているか確認してください。(表示器 → シリアル変換ケーブル → モデム) またモデムに電源が入っているか確認してください。GP とモデムとの接続には、(株) デジタル製 USB- シリアル (232C) 変換ケーブル「CA6-USB232-01」(別売品) または以下の変換ケーブルをご使用ください。

メーカー：株式会社アイ・オー・データ機器 型式：USB-RSAQ3



## パソコンで正しくモデムは設定されていますか？

---

### GP-Pro EX 側

[ 転送設定 ] ダイアログボックスで正しくモデムが設定されているか、設定電話番号は間違っていないか確認してください。

### Windows® 側

[ コントロールパネル ] の [ 電話とモデムのオプション ] で使用モデムに合わせた設定になっているか確認してください。詳細はモデムのマニュアルを参照してください。

## 1.2.4 オンラインアップデートできない

アップデート項目選択後、インストール、ダウンロードが選択できますか？またはスクリプトエラーが表示されていますか？

### オンラインアップデートとは

GP-Pro EX がインターネットに自動的に接続し、GP-Pro EX の最新バージョンへ更新する機能です。オンラインアップデートの手順は下記を参照してください。

☞ GP-Pro EX リファレンスマニュアル「2.2.1 オンラインアップデート操作手順」(2-19 ページ)

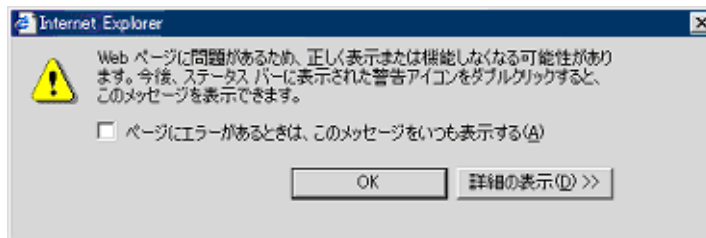
### 原因

Internet Explorer のセキュリティ設定で、アップデートサービスのサーバーへのアクセスがブロックされています。アップデートサービスの画面が表示された後、次のような現象が発生し、アップデートが行えない場合があります。

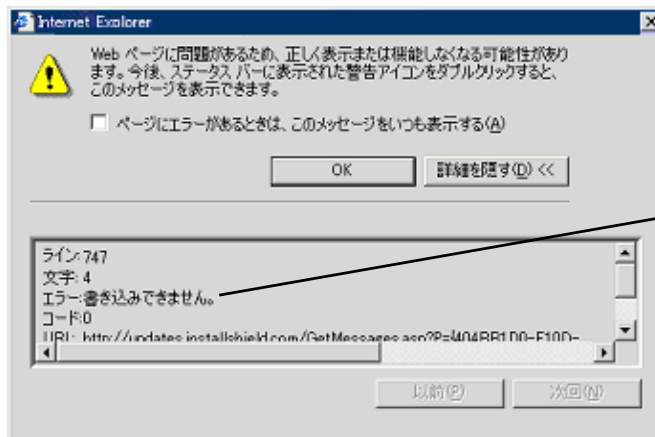
- ・アップデート項目は表示されるが、項目を選択しても [インストール] または [ダウンロード] ボタンが選択できない。
- ・アップデート項目を表示中に、スクリプトエラーが表示される。(下図の例 1 ~ 例 3 を参照)
- ・アップデート項目選択時に、スクリプトエラーが表示される。(下図の例 1 ~ 例 3 を参照)

下図例 1 ~ 例 3 のエラーは一例です。Internet Explorer の設定や接続されているネットワークの環境により異なるエラーが表示されます。

例 1)



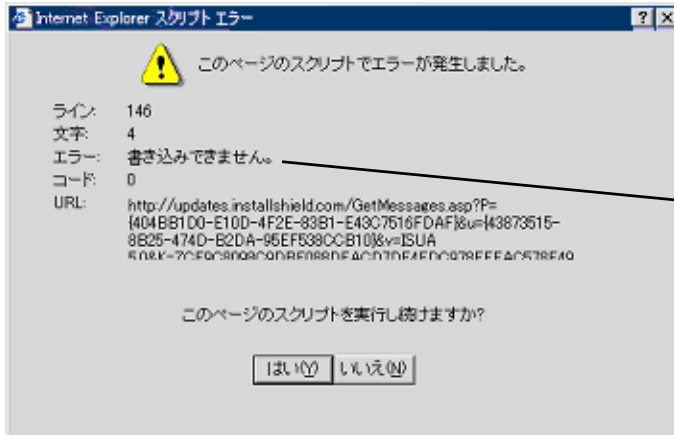
例 2)



ラインNoやエラー内容は環境により異なります。

次のページに続きます。

例 3)

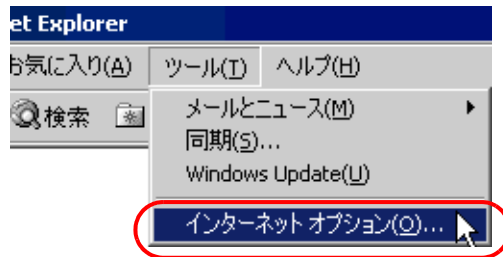


ラインNoやエラー内容は環境により異なります。

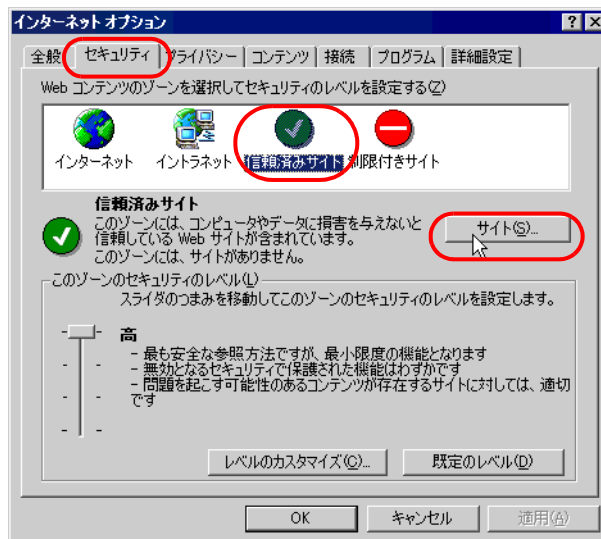
### 対処方法

Internet Explorer のセキュリティ設定で、[信頼サイト] にアップデートサーバーの URL を設定し、アップデートサーバーとの通信を有効にした後、GP-Pro EX の更新を行ってください。

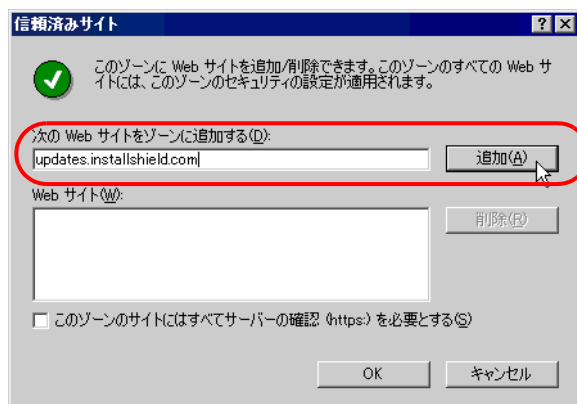
- (1) Internet Explorer の [ ツール (T) ] から [ インターネットオプション (O) ] を選択します。



- (2) [ インターネットオプション ] ダイアログボックスが開くので [ セキュリティ ] タブを開き [ 信頼済みサイト ] を選択します。[ サイト (S) ] ボタンをクリックします。



- (3) [信頼済みサイト] ダイアログボックスで [ 次の Web サイトをゾーンに追加する (D) ] にアップデートサービスの URL(updates.installshield.com) を入力し、[ 追加 (A) ] ボタンをクリックします。



- MEMO** ・ [ このゾーンのサイトにはすべてサーバーの確認 (https) を必要とする (S) ] のチェックボックスは OFF にしてください。

- (4) [OK] ボタンをクリックし、[信頼済みサイト] ダイアログボックスと [インターネットオプション] ダイアログボックスを閉じます。再度オンラインアップデートを行ってください。

## 1.3 表示器本体で困った！

### 1.3.1 タッチ（スイッチ）が反応しない

ステータス LED の点灯がオレンジになっていませんか？

#### 原因

バックライトが切れかけて、バックライト切れ検出機能が働いているか表示器への電源電圧供給が低下しています。

#### 対処方法

- バックライト切れの場合

バックライトを交換してください。交換しても改善しない場合は、修理センターに配送してください。また、ご購入まもなく、ステータス LED がオレンジに点灯した場合は、修理センターに配送してください。

#### 重要

- バックライト切れ検出は消費する電流を監視して行っています。バックライトの故障状態によっては検出できない場合や、完全にバックライトが切れる前に検出される場合があります。購入直後等であれば、本体故障の可能性があります。リペアセンターへ配送してください。

- 電源電圧供給が低下している場合

各表示器の電源電圧を測定し、マニュアルに記載されている [電源電圧許容範囲] の数値以内に設定してください。範囲内に電源電圧を設定しても、改善しない場合は修理センターに配送してください。

☞ 「1.7.3 修理しよう！」(1-106 ページ)

すべてのスイッチでこのような現象になりますか？

#### 原因

スイッチの設定に問題がある考えられます。

#### 対処方法

- すべてのスイッチが反応しない場合

すべてのスイッチで同じ現象になる場合は、下記の [オフラインモードに入れますか？] 項目の 対処方法を行ってください。

- 特定のスイッチのみ反応しない場合

(1) スwitchに、インターロック機能が設定されている可能性があります。設定を確認してください。

☞ GP-Pro EX リファレンスマニュアル「11.7 誤動作を防止したい（インターロック）」  
(11-19 ページ)

(2) タッチ音が鳴る場合はスイッチ機能が働いているので設定されているアドレスを確認してください。また、そのアドレスが接続機器側で ON、OFF されていないか確認してください。

## オフラインモードに入れますか？

### 原因

オフラインモードの自己診断の結果、スイッチが反応しない場合は本体の故障が考えられます。

### 対処方法

#### • オフラインモードに入れる場合

本体の故障かどうか切り分けるために、オフラインモードで表示器本体の自己診断を行います。

- (1) アナログタッチパネルの補正（キャリブレーションの設定）を行います。設定方法は下記を参照してください。

☞ 「2.8.1 表示器本体が正常に動作しているかチェックしたい キャリブレーション」  
(2-43 ページ)

- (2) 次に [タッチパネルチェック] で正しいところが反転するかを確認します。確認方法は下記を参照してください。

☞ 「2.8.1 表示器本体が正常に動作しているかチェックしたい タッチパネルチェック」  
(2-43 ページ)

- (3) (1) と (2) の手順を行っても現象が改善されない場合は本体の故障が考えられます。修理センターに配送してください。

☞ 「1.7.3 修理しよう！」(1-106 ページ)

#### • オフラインモードに入れない場合

オフラインモードに入れない場合は以下の対処方法を行ってください。

- (1) オフラインモードに入るための [システムメニュー] が非表示に設定されている可能性があります。システムメニューが表示されない場合は GP-Pro EX で [本体設定] の [メニューとエラー設定] で [システムメニューの表示] を表示する設定に変更して再度プロジェクトファイルを転送してください。

☞ GP-Pro EX リファレンスマニュアル「5.13.6 [システム設定ウィンドウ] の設定ガイド  
• メニューとエラー設定」(5-103 ページ)

転送後オフラインモードに入れた場合は上記の [・オフラインモードに入れる場合] の対処手順を行ってください。

- (2) 表示器のユーザメモリ（FEPRM）の初期化を行ってプロジェクトファイルを再度転送してください。初期化の方法は下記を参照してください。

☞ 「2.7.1 ユーザメモリ（FEPRM）の初期化をしたい」(2-39 ページ)

**重要** • OS、ランタイム、ドライバなどのシステムや、時刻の設定データ以外のデータはすべて消去されますので、必ずデータのバックアップを行ってから初期化を実行してください。

- (3) (1) と (2) の手順を行ってもオフラインモードに入れない場合は本体の故障が考えられます。修理センターに配送してください。

☞ 「1.7.3 修理しよう！」(1-106 ページ)

## 接続機器との通信は正常に行われていますか？

### 原因

接続機器との通信が正常に行われていない可能性があります。

### 対処方法

エラーコードが表示器に表示されている場合は下記を参照して内容と対処方法を確認してください。また通信ケーブルに断線がないかどうか確認してください。

☞ 「1.6.2 表示器で表示されるエラー」(1-89 ページ)

## 1.3.2 タッチ（スイッチ）が押した所と違う所が反応する（勝手に反応する）

### すべてのスイッチでこのような現象になりますか？

#### 原因

オフラインモードの自己診断の結果、正しいところが反応しない場合本体の故障が考えられます。

#### 対処方法

- すべてのスイッチで押した所と違う所が反応する場合  
すべてのスイッチで同じ現象になる場合は、下記の「オフラインモードに入れますか？」項目の 対処方法を行ってください。
- 特定のスイッチのみ押した所と違う所が反応する場合
  - (1) 「タッチパネルチェック」で正しいところが反転するかを確認します。確認方法は下記を参照してください。  
☞「2.8.1 表示器本体が正常に動作しているかチェックしたい タッチパネルチェック」  
(2-43 ページ)
  - (2) 現象が起きているスイッチの設定、アドレス等を確認してください。設定の確認を行っても現象が改善されない場合は本体の故障が考えられます。修理センターに配送してください。  
☞「1.7.3 修理しよう！」(1-106 ページ)

### オフラインモードに入れますか？

#### 原因

オフラインモードの自己診断の結果、正しいところが反応しない場合本体の故障が考えられます。

#### 対処方法

- オフラインモードに入れる場合  
本体の故障かどうか切り分けるために、オフラインモードで表示器本体の自己診断を行います。
  - (1) アナログタッチパネルの補正（キャリブレーションの設定）を行います。設定方法は下記を参照してください。  
☞「2.8.1 表示器本体が正常に動作しているかチェックしたい キャリブレーション」  
(2-43 ページ)
  - (2) 次に「タッチパネルチェック」で正しいところが反転するかを確認します。確認方法は下記を参照してください。  
☞「2.8.1 表示器本体が正常に動作しているかチェックしたい タッチパネルチェック」  
(2-43 ページ)
  - (3) (1) と (2) の手順を行っても現象が改善されない場合は本体の故障が考えられます。修理センターに配送してください。  
☞「1.7.3 修理しよう！」(1-106 ページ)

次のページに続きます。

- ・ オフラインモードに入れない場合

オフラインモードに入れない場合は以下の対処方法を行ってください。

- (1) オフラインモードに入るための [システムメニュー] が非表示に設定されている可能性があります。システムメニューが表示されない場合は GP-Pro EX で [本体設定] の [メニューとエラー設定] で [システムメニューの表示] を表示する設定に変更して再度プロジェクトファイルを転送してください。

☞ GP-Pro EX リファレンスマニュアル「5.13.6 [システム設定ウィンドウ] の設定ガイド  
・メニューとエラー設定」(5-103 ページ)

転送後オフラインモードに入れた場合は上記の [・オフラインモードに入れる場合] の対処手順を行ってください。

- (2) 表示器のユーザメモリ (FEPR0M) の初期化を行ってプロジェクトファイルを再度転送してください。初期化の方法は下記を参照してください。

☞ 「2.7.1 ユーザメモリ (FEPR0M) の初期化をしたい」(2-39 ページ)

---

**重要**

- ・ OS、ランタイム、ドライバなどのシステムや、時刻の設定データ以外のデータはすべて消去されますので、必ずデータのバックアップを行ってから初期化を実行してください。
- 

- (3) (1) と (2) の手順を行ってもオフラインモードに入れない場合は本体の故障が考えられません。修理センターに配送してください。

☞ 「1.7.3 修理しよう！」(1-106 ページ)



## 1.3.3 電源が入らない（初期画面が表示されない、画面が真っ暗）

### ステータス LED の点灯が消灯またはオレンジになっていませんか？

#### 原因

バックライトが切れかけて、バックライト切れ検出機能が働いているか表示器への電源電圧供給が低下しています。

#### 対処方法

##### ・ステータス LED が消灯の場合

各表示器の電源電圧を測定し、マニュアルに記載されている [ 電源電圧許容範囲 ] の数値以内に設定してください。範囲内に電源電圧を設定しても、改善しない場合は修理センターに配送してください。

☞ 「1.7.3 修理しよう！」(1-106 ページ)

##### ・ステータス LED がオレンジの場合

バックライトを交換してください。交換しても改善しない場合は、修理センターに配送してください。また、ご購入まもなく、ステータス LED がオレンジに点灯した場合は、修理センターに配送してください。

☞ 「1.7.3 修理しよう！」(1-106 ページ)

#### 重要

- ・バックライト切れ検出は消費する電流を監視して行っています。バックライトの故障状態によっては検出できない場合や、完全にバックライトが切れる前に検出される場合があります。購入直後等であれば、本体故障の可能性があります。修理センターへ配送してください。

☞ 「1.7.3 修理しよう！」(1-106 ページ)

### 「RAAA005 初期画面が存在しません」というエラーが表示されていませんか？

#### 原因

電源投入時に表示する最初の画面（初期画面）番号が間違っており違う画面が表示されている可能性があります。

#### 対処方法

初期画面番号の設定を確認してください。設定変更方法は下記を参照してください。

☞ 「2.3.5 電源投入時に最初に表示する画面番号を設定したい」(2-23 ページ)

## オフラインモードに入れますか？

### 原因

オフラインモードの自己診断の結果、正しいところが反応しない場合本体の故障が考えられます。

### 対処方法

#### ・ オフラインモードに入れる場合

本体の故障かどうか切り分けるために、オフラインモードで表示器本体の自己診断を行います。

- (1) アナログタッチパネルの補正（キャリブレーションの設定）を行います。設定方法は下記を参照してください。

☞ 「2.8.1 表示器本体が正常に動作しているかチェックしたい キャリブレーション」  
(2-43 ページ)

- (2) 次に [タッチパネルチェック] で正しいところが反転するかを確認します。確認方法は下記を参照してください。

☞ 「2.8.1 表示器本体が正常に動作しているかチェックしたい タッチパネルチェック」  
(2-43 ページ)

- (3) (1) と (2) の手順を行っても現象が改善されない場合は本体の故障が考えられます。修理センターに配送してください。

☞ 「1.7.3 修理しよう！」(1-106 ページ)

#### ・ オフラインモードに入れない場合

オフラインモードに入れない場合は以下の対処方法を行ってください。

- (1) オフラインモードに入るための [システムメニュー] が非表示に設定されている可能性があります。システムメニューが表示されない場合は GP-Pro EX で [本体設定] の [メニューとエラー設定] で [システムメニューの表示] を表示する設定に変更して再度プロジェクトファイルを転送してください。

☞ GP-Pro EX リファレンスマニュアル「5.13.6 [システム設定ウィンドウ] の設定ガイド  
・メニューとエラー設定」(5-103 ページ)

転送後オフラインモードに入れた場合は上記の [オフラインモードに入れる場合] の対処手順を行ってください。

- (2) 表示器のユーザメモリ (FEPROM) の初期化を行ってプロジェクトファイルを再度転送してください。初期化の方法は下記を参照してください。

☞ 「2.7.1 ユーザメモリ (FEPROM) の初期化をしたい」(2-39 ページ)

### 重要

- ・ OS、ランタイム、ドライバなどのシステムや、時刻の設定データ以外のデータはすべて消去されますので、必ずデータのバックアップを行ってから初期化を実行してください。

- (3) (1) と (2) の手順を行ってもオフラインモードに入れない場合は本体の故障が考えられます。修理センターに配送してください。

☞ 「1.7.3 修理しよう！」(1-106 ページ)

次のページに続きます。

## システムエリアのアドレスに表示 OFF、またはバックライトを OFF するデータが書き込まれていませんか？

---

### 原因

システムエリアのアドレスに表示を OFF、またはバックライトを OFF するデータが書き込まれている可能性があります。

### 対処方法

システムエリアのアドレスに表示を OFF <sup>1</sup>、またはバックライトを OFF <sup>2</sup> するデータが書き込まれているか確認してください。

- 1 「表示 OFF」データ：ダイレクトアクセス方式はアドレス +9、メモリリンク方式はアドレス 12 です。書き込まれたデータを 0 クリアしてください。
- 2 「バックライト OFF」データ：ダイレクトアクセス方式はアドレス +14、メモリリンク方式はアドレス 11 です。書き込まれたデータを 0 クリアしてください。

## 1.3.4 ブザー音が鳴り続ける

### エラーコードは表示されていますか？

#### 原因

転送したプロジェクトファイルにエラーがあるか、接続機器との通信に問題がある可能性があります。

#### 対処方法

エラーコードを確認してください。エラーコードの内容と対処方法は下記を参照してください。

☞ 「1.6.2 表示器で表示されるエラー」(1-89 ページ)

### 画面データや接続機器のラダープログラムなど、設定を変更してからブザーが鳴り出しましたか？

#### 原因

画面データや接続機器のラダープログラムの設定を変更したときに、ブザー音を鳴らすビットが ON した可能性があります。

#### 対処方法

問題を切り分けるために、接続機器と接続をしているのであれば接続ケーブルを抜いて GP の電源を入り切りし、以下の対処方法を順番に行ってください。

**MEMO** ・ 接続機器との接続ケーブルを抜くと、問題の切り分けが簡潔ですが接続ケーブルを抜くことが困難な環境であれば、ケーブルを抜かずに以下同様の対処方法を行ってください。

- GP 単体で電源を入れ直してブザー音が止まった場合  
システムエリア先頭アドレス +14 ワードの 01 ビット目を ON すると GP のブザーを鳴らすことができます。  
☞ GP-Pro EX リファレンスマニュアル「26.3 接続機器から GP のブザーを鳴らしたい」(26-7 ページ)

接続機器側から +14 の 01 ビットが ON していないかどうか確認し、ON している場合は OFF させることによりブザー音を止めることができます。

もし、システムデータエリアの領域が接続機器のラダープログラムで使用している領域と重なっている場合は、オフラインモードでシステムエリア先頭アドレスを変更してください。システムエリア先頭アドレス変更方法は下記を参照してください。

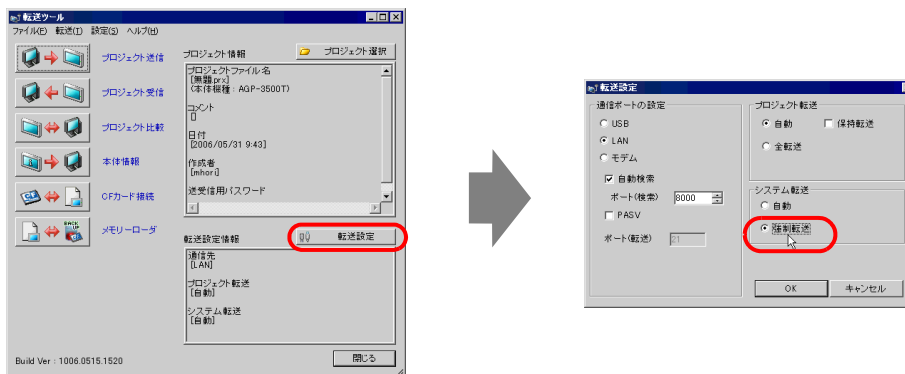
☞ 「2.13.1 表示器共通 システムエリア設定」(2-71 ページ)

次のページに続きます。

- GP 単体で電源を入れ直してもまだブザー音がなっている場合

画面データに異常がある可能性があります。GP-Pro EX の強制セットアップでプロジェクトファイルを転送し直してください。GP-Pro EX 側で強制転送する場合は、[画面転送]をクリックして、[転送ツール]ダイアログボックスの[転送設定]を開きます。[転送設定]ダイアログボックスが開くので[システム転送]から[強制転送]を選択し、[OK]をクリックして転送を開始します。

☞ GP-Pro EX リファレンスマニュアル「32.10.1 [転送設定]の設定ガイド」(32-57 ページ)



- 強制セットアップで転送し直してもブザー音がなっている場合

表示器の故障が考えられます。修理センターに配送してください。

☞ 「1.7.3 修理しよう！」(1-106 ページ)

## 1.3.5 画面に線（筋）が入る、画面が真っ白になる

オフラインモードの[表示パターンチェック]でも同じ現象が出ますか？

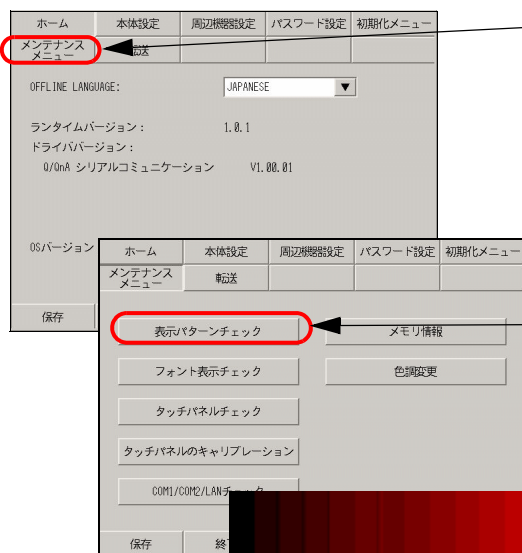
### 原因

オフラインモード、[メンテナンスメニュー]の[表示パターンチェック]画面でも線の位置や太さ、長さに変化がない場合は本体の故障が考えられます。

### 対処方法

本体の故障かどうか切り分けるために以下の手順で、オフラインモードの[表示パターンチェック]画面にて線（筋）の表示を確認します。

☞「2.2.1 オフラインモードへの入り方」(2-12 ページ)



オフラインモードに入り、項目切り替えスイッチから[メンテナンスメニュー]をタッチします。

[メンテナンスメニュー]が開くので[表示パターンチェック]をタッチします。

[表示パターンチェック]が開くので線（筋）の位置や太さ、長さが変化されることがなく常時表示されている、または画面が白くなっている場合は本体の故障が考えられます。修理センターに配送してください。

☞「1.7.3 修理しよう！」(1-106 ページ)

[表示パターンチェック]を終了するには、画面をタッチし[メンテナンスメニュー]まで戻ってから[終了]をタッチしてください。

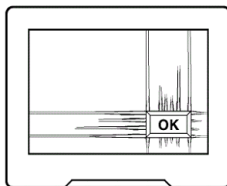
次のページに続きます。

## 以下のような表示になっていますか？

### 原因

カラー STN パネル、モノクロ LCD パネルは、液晶パネルの特性上、以下のような現象が生じる場合があります。

- ・パネルの表示がちらつく場合
- ・画面の明るさにムラがあり均一に表示されない場合
- ・直線などの延長線上に本来存在しない線が流れたように表示される場合 (= クロストーク)



クロストーク

### 対処方法

表示器のコントラストを調整して、緩和される場合があるので以下の手順でコントラストの調整を行ってください。

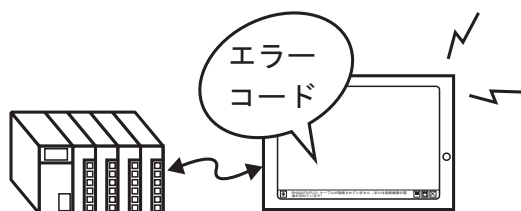
- ☞ 「2.3.1 明るさ（輝度、コントラスト）を調整したい」（2-19 ページ）

## 1.4 接続機器の通信で困った！

### 1.4.1 すべての画面で通信しない

表示器にエラーコードは表示されていますか？

すべての画面で通信できない場合、まず始めに表示器上に表示されるエラーコードを確認してください。



代表的なエラー番号	代表的な原因
RHAA006 ~ RHAA007	ノイズが発生していないか、ケーブル結線、コネクタの差し込みなどを確認してください。
RHAA010 ~ RHAA012	イーサネット通信時に表示されるエラーです。ポート番号やネットワーク環境を確認してください。
RHAA033 ~ RHAA035	接続機器側でエラーが出ています。詳細は「GP-Pro EX 機器接続マニュアル」を参照してください。
RHAA036 ~ RHAA037 <sup>1</sup>	デバイス範囲オーバーです。
RHAA038 <sup>1</sup>	書き込みのみのデータを読み出そうとしてエラーが出ています。
RHAA039 <sup>1</sup>	読み込みのみのデータを書き出そうとしてエラーが出ています。
RHAA040 ~ RHAA045	接続機器側でエラーが出ています。詳細は「GP-Pro EX 機器接続マニュアル」を参照してください。
RHAA065 ~ RHAA066 <sup>1</sup>	イーサネット使用時に通信ができていないと表示される代表的なエラーです。通信設定、IP アドレスなどを確認してください。
RHAA067 ~ RHAA070 <sup>1</sup>	RS-232C/422/485 使用時に通信ができていないと表示される代表的なエラーです。通信設定、ケーブル結線などを確認してください。

<sup>1</sup> 本章で詳細を紹介しているエラーです。これらのエラー以外については下記を参照してください。

「1.6.2 表示器で表示されるエラー 接続がうまくいかないときに出るエラー」(1-89 ページ)



## RHAA067 ~ RHAA070 で始まるエラーが表示されていますか？

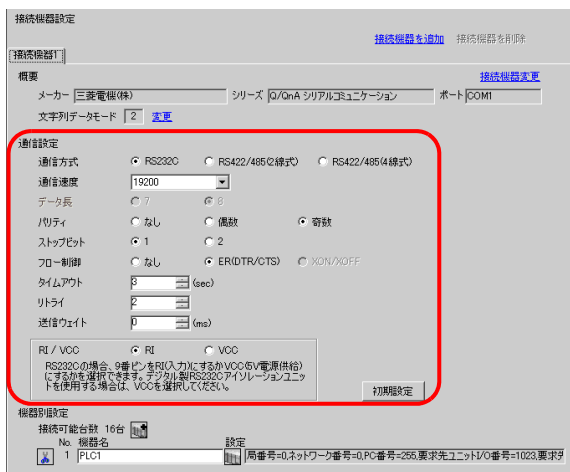
### 原因

RHAA067 ~ RHAA070 で始まるエラーは RS-232C/422/485 通信時にエラーがある場合に表示されます。

### 対処方法

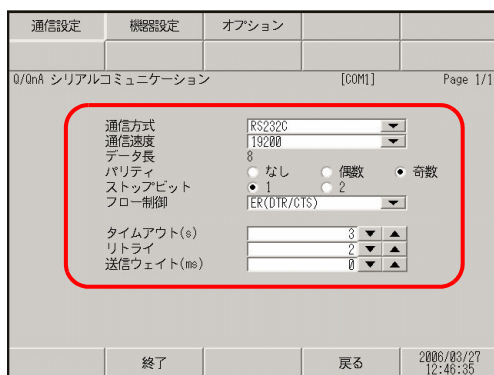
- (1) GP-Pro EX で [システム設定ウィンドウ] から [周辺機器設定] の [接続機器設定] を選択し、次のような画面が表示されたら「GP-Pro EX 機器接続マニュアル」を参照し、通信設定が正しく設定されているか確認してください。

例)「三菱電機(株)製 Q/QnA シリアルコミュニケーションシリーズ」をご利用の場合



- (2) GP のオフラインモードでも [周辺機器設定] から [接続機器設定] を開き、再度「GP-Pro EX 機器接続マニュアル」を参照して、通信設定が正しく設定されているか確認してください。

例)「三菱電機(株)製 Q/QnA シリアルコミュニケーションシリーズ」をご利用の場合



- (3) また接続機器側の通信設定を「GP-Pro EX 機器接続マニュアル」または接続機器のマニュアルを参照し、確認してください。
- (4) ケーブルの型式または配線に間違いがないか「GP-Pro EX 機器接続マニュアル」または接続機器のマニュアルを参照し確認してください。

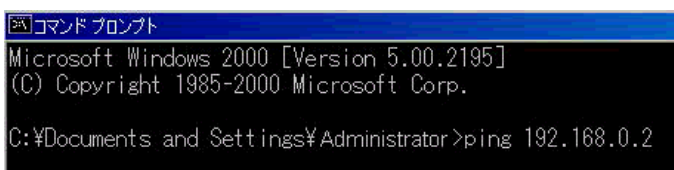
## RHAA065 ~ 066 で始まるエラーが表示されていますか？

### 原因

RHAA065 ~ RHAA066 で始まるエラーはイーサネット通信時にエラーがある場合に発生します。

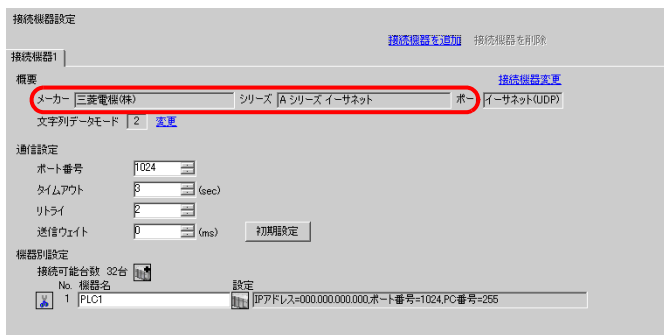
### 対処方法


- (1) ネットワーク内にパソコンが存在している場合は、表示器および接続機器に対して PING コマンドを送信し、応答があるかどうか確認してください。[スタート]メニューより[プログラム(P)]を開き[アクセサリ]を選択します。[アクセサリ]から、[コマンドプロンプト]を選択すると次のような画面が表示されるので C:%Documents and Settings\*(コンピュータ名)の後に ping と入力し、続けてスペース、IP アドレスを入力し Enter キーを押します。(例: ping 192.168.0.2)



- (2) GP-Pro EX で [システム設定ウィンドウ] から [周辺機器設定] の [接続機器設定] を選択し、次のような画面が表示されたら「GP-Pro EX 機器接続マニュアル」を参照し、通信設定が正しく設定されているか確認してください。

例)「三菱電機(株)製 A シリーズイーサネット」をご利用の場合



また上記画面の  をクリックすると以下のようなダイアログボックスが表示されるので接続機器の IP アドレスが正しく設定されているか確認してください。



**MEMO** ・ IP アドレスの設定等についてはネットワーク管理者の方にご確認ください。

次のページに続きます。

- (3) GP のオフラインモードでも [ 周辺機器設定 ] から [ 接続機器設定 ] を開き、再度「GP-Pro EX 機器接続マニュアル」を参照して、通信設定が正しく設定されているか確認してください。

例)「三菱電機(株)製A シリーズイーサネット」をご利用の場合

通信設定	機器設定			
A シリーズ イーサネット [UDP] Page 1/1				
ポート番号	<input type="radio"/> 固定	<input checked="" type="radio"/> 自動	1024	▲ ▼
タイムアウト(s)			3	▲ ▼
リトライ			2	▲ ▼
送信ウェイト(ms)			0	▲ ▼
終了		戻る		2006/04/19 14:41:09

また、接続機器側の IP アドレスと表示器側の IP アドレスの確認方法については、以下を参照してください。

**MEMO** ・ IP アドレスの設定等についてはネットワーク管理者の方にご連絡ください。

- 表示器側の IP アドレス確認  
☞ 「2.5.1 表示器に IP アドレスを設定したい」(2-34 ページ)
  - 接続機器側の IP アドレス確認  
☞ 「2.4.1 接続機器の通信設定を確認したい イーサネット接続」(2-30 ページ)
- (4) また接続機器側の通信設定と IP アドレスを「GP-Pro EX 機器接続マニュアル」または接続機器のマニュアルを参照し、確認してください。
- (5) HUB、ケーブルを交換してみてください。

## RHAA036 ~ RHAA039 で始まるエラーが表示されていますか？

### 原因

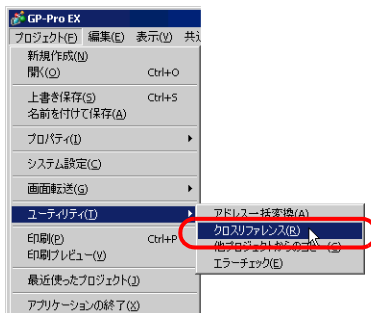
RHAA036 ~ RHAA039 で始まるエラーはアドレス範囲がオーバーしている場合に表示されます。

### 対処方法

サポートしていない接続機器側アドレスを画面上の部品やスクリプトなどで使用している可能性があります。特に、システムデータエリア、アラーム、サンプリング、グローバルDスクリプト、グローバルウィンドウ、ロジックプログラムなど、すべての画面で通信が発生する部品や機能を使用していると、全画面を通してエラーが発生します。

以下の手順に従ってサポート範囲外のデバイスがないか確認してください。

- (1) GP-Pro EX で [プロジェクト (F)] メニューから [ユーティリティ (T)] を開き、[クロスリファレンス (R)] を選択します。



- (2) [クロスリファレンス] ダイアログボックスが表示されるので [対象] で [すべて] を選択します。



青字で表示されているアドレスで以下の項目に該当するものがないか、以下の内容を各エラーごとに確認してください。

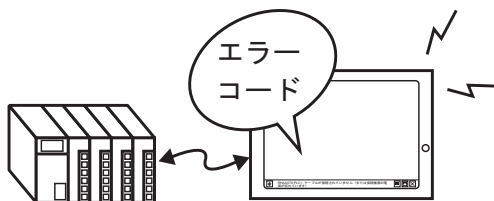
- ・エラーコード RHAA036 ~ RHAA037 が表示されている場合  
GP-Pro EX がサポートしているデバイスアドレスの範囲外のアドレスを使用していないか確認してください。
- ・エラーコード RHAA038 が表示されている場合  
書き込み専用デバイスをデータ表示器やDスクリプトなどで読み込んでいないかどうか確認してください。
- ・エラーコード RHAA039 が表示されている場合  
読み込み専用デバイスをスイッチやDスクリプトなどで書き込んでいないかどうか確認してください。

**MEMO** ・ サポートしているデバイスアドレス範囲、書き込み専用および読み込み専用デバイスについては「GP-Pro EX 機器接続マニュアル」の各ドライバマニュアルの「使用可能デバイス」を参照してください。

## 1.4.2 ある特定の画面でのみ通信しない

### 表示器にエラーコードは表示されていますか？

ある特定の画面でのみ通信できない場合、まず始めに表示器上に表示されるエラーコードを確認してください。



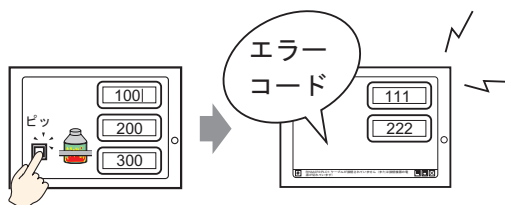
代表的なエラー番号	代表的な原因
RHAA006 ~ RHAA007	ノイズが発生していないか、ケーブル結線、コネクタの差し込みなどを確認してください。
RHAA010 ~ RHAA012	イーサネット通信時に表示されるエラーです。ポート番号やネットワーク環境を確認してください。
RHAA033 ~ RHAA035	接続機器側でエラーが出ています。詳細は「GP-Pro EX 機器接続マニュアル」を参照してください。
RHAA036 ~ RHAA037 <sup>1</sup>	デバイス範囲オーバーです。
RHAA038 <sup>1</sup>	書き込みのみのデータを読み出そうとしてエラーが出ています。
RHAA039 <sup>1</sup>	読み込みのみのデータを書き出そうとしてエラーが出ています。
RHAA040 ~ RHAA045	接続機器側でエラーが出ています。詳細は「GP-Pro EX 機器接続マニュアル」を参照してください。
RHAA065 ~ RHAA066 <sup>1</sup>	イーサネット使用時に通信ができていないと表示される代表的なエラーです。通信設定、IP アドレスなどを確認してください。
RHAA067 ~ RHAA070 <sup>1</sup>	RS-232C/422/485 使用時に通信ができていないと表示される代表的なエラーです。通信設定、ケーブル結線などを確認してください。

<sup>1</sup> 本章で詳細を紹介しているエラーです。これらのエラー以外については下記を参照してください。

「1.6.2 表示器で表示されるエラー 接続がうまくいかないときに出るエラー」(1-89 ページ)

#### 原因

ある特定の画面を開けた時だけ通信エラーが発生する場合は、エラーが発生しているベース画面上にサポート範囲外のデバイスアドレスを部品やスクリプトなどで使用していることが考えられます。

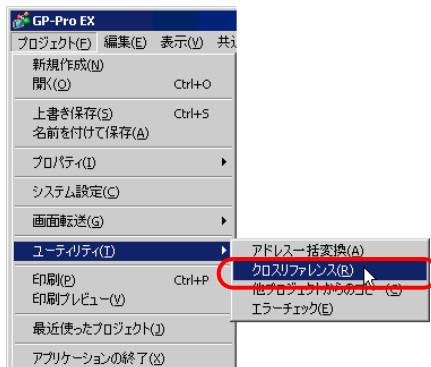


次のページに続きます。

## 対処方法

以下の手順で、エラーが発生している画面で使用されているアドレスを確認してください。

- (1) GP-Pro EX で RHAA036 ~ RHAA039 で始まるエラーが発生している画面を開きます。
- (2) GP-Pro EX で [プロジェクト (F)] メニューから [ユーティリティ (U)] を開き、[クロスリファレンス (R)] を選択します。



- (3) [クロスリファレンス] ダイアログボックスが表示されるので [対象] で [すべて] を選択します。



- (4) 青字で表示されているアドレスで以下の項目に該当するものがないか、以下の内容を各エラーごとに確認してください。

- エラーコード RHAA036 ~ RHAA037 が表示されている場合  
GP-Pro EX がサポートしているデバイスアドレスの範囲外のアドレスを使用していないか確認してください。
- エラーコード RHAA038 が表示されている場合  
書き込み専用デバイスをデータ表示器やDスクリプトなどで読み込んでいないかどうか確認してください。
- エラーコード RHAA039 が表示されている場合  
読み込み専用デバイスをスイッチやDスクリプトなどで書き込んでいないかどうか確認してください。

**MEMO** • サポートしているデバイス範囲、書き込み専用または読み込み専用デバイスについては「GP-Pro EX 機器接続マニュアル」で [使用可能デバイス] を参照してください。

## 1.4.3 通信が遅い

### 表示器と接続機器間の通信量が多くありませんか？

#### 原因

表示器が一度に多くの接続機器のアドレスデータを読み書きしようとする、通信量が増えるため通信に時間がかかる場合があります。このような場合、表示器のスイッチの反応が遅くなったリデータ表示器の数値更新が遅くなったりします。

また、表示器は現在表示している画面で使用されているアドレスに対して通信を行います。さらにシステムデータエリア、アラーム、サンプリング、グローバルDスクリプト、グローバルウィンドウ、ロジックプログラムなどで使用しているアドレスがある場合は全画面で通信を行います。

そのため上記の機能で多くのアドレスを設定している場合は通信に時間がかかる場合があります。

#### 対処方法

- (1) できるだけ1つの画面に配置している部品数を減らしてください。常時使用しない部品はウィンドウで必要なときだけ呼び出すようにしてください。  
☞ GP-Pro EX リファレンスマニュアル「18.3 ウィンドウを表示したい」(18-7 ページ)
- (2) アラーム、サンプリング、グローバルDスクリプト、グローバルウィンドウで使用しているアドレス数をできるだけ少なく設定してください。
- (3) 同一画面上に配置している部品で使用しているアドレスはできるだけ連続したアドレスを使用してください。
- (4) 接続機器側で必ずしも必要のないデータは表示器内部のアドレス [LS エリア] または [USR エリア] を使用するようになしてください。
- (5) ロジックプログラムを設定している接続機器アドレス数を少なくしてください。

### 表示器と接続機器間の通信速度が低く設定されていませんか？

#### 原因

表示器と接続機器間の通信速度が低く設定されていると通信速度は遅くなります。

#### 対処方法

通信速度が遅い場合は、以下の手順で通信速度を上げるように設定を変更してください。

- GP 側で変更する場合  
☞ 「2.4.1 接続機器の通信設定を確認したい」(2-29 ページ)
- GP-Pro EX 側で変更する場合  
☞ GP-Pro EX リファレンスマニュアル「5.13.6 [システム設定ウィンドウ] の設定ガイド [接続機器設定] の設定ガイド」(5-125 ページ)

次のページに続きます。

通信速度を変更した後はプロジェクトファイルの再転送が必要です。また接続機器側の通信速度も合わせて設定し直す必要があります。

- MEMO** ・ 設定できる通信速度の範囲は接続機器によって異なります。各接続機器の通信速度は「GP-Pro EX 機器接続マニュアル」を参照してください。

## 通信ラインにノイズがのっていませんか？

### 原因

通信ラインにノイズがのると、通信が途絶えがちになり、通信が遅く感じられることがあります。

### 対処方法

通信時間の値をチェックまたは通信ラインをチェックして通信ラインにノイズがのっているかどうか確認してください。

#### 1 通信時間（通信サイクルタイム）の値をチェック

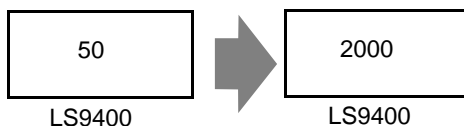
表示器内部のLSエリアに格納されている通信時間（通信サイクルタイム）の値をチェックします。通信時間（通信サイクルタイム）はLSエリアのLS9400に単位msで格納されています。

- (1) 現在使用しているプロジェクトファイルを開き、全ての画面にLS9400を指定したデータ表示器を配置します。



- MEMO** ・ 接続機器側からLS9400の値をモニタできないので数値表示器を配置します。

- (2) プロジェクトファイルを再度転送します。  
(3) 表示器上でこの値をモニタし、ある時だけLS9400の値が大きくなっている場合は、ノイズ等が原因で通信エラーが発生しています。



次のページに続きます。



**MEMO**

- 複数の接続機器を表示器に接続している場合、表示器内部の LS エリアの LS9400 ~ LS9527 に表示器と接続機器が通信にかかっている目安の時間（通信サイクルタイム）が格納されています。LS9400 ~ LS9527 は ms 単位で格納されます。

LS エリア	
LS9400	ドライバ 1 の PLC1 台目
LS9431	ドライバ 1 の PLC32 台目
LS9432	ドライバ 2 の PLC1 台目
LS9463	ドライバ 2 の PLC32 台目
LS9464	ドライバ 3 の PLC1 台目
LS9495	ドライバ 3 の PLC32 台目
LS9496	ドライバ 4 の PLC1 台目
LS9527	ドライバ 4 の PLC32 台目

- GP3000 シリーズでは 1 台の表示器に最大 4 ドライバを割り付けることができます。また、接続機器によっては 1 ドライバあたり最大 32 台まで接続機器をつなげる場合があります。

例) 表示器に三菱ドライバとオムロンドライバを割り付け、それぞれの接続機器を 1 台ずつ接続している場合は LS9400 と LS9432 をモニタしてください。

表示器に三菱のイーサネットのドライバを割り付け、表示器 1 台に対して接続機器を 32 台接続している場合は LS9400 ~ LS9431 をモニタしてください。

- LS エリアのアドレスは、GP-Pro EX で [システム設定ウィンドウ] から [周辺機器一覧] を選択し、[接続機器管理アドレス一覧] で確認することができます。

☞ GP-Pro EX リファレンスマニュアル「5.13.6 [システム設定ウィンドウ] の設定ガイド [周辺機器一覧] の設定ガイド」(5-123 ページ)

2 ラインモニタで通信ラインをチェックしてください。

## 1.4.4 通信が時々止まる

### 通信ラインにノイズがのっていませんか？

#### 原因

通信ラインにノイズがのると、通信が途絶えがちになり、通信が遅く感じられることがあります。

#### 対処方法

通信時間の値をチェックまたは通信ラインをチェックして通信ラインにノイズがのっているかどうか確認してください。

#### 1 通信時間（通信サイクルタイム）の値をチェック

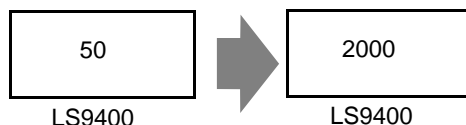
表示器内部のLSエリアに格納されている通信時間（通信サイクルタイム）の値をチェックします。通信時間（通信サイクルタイム）はLSエリアのLS9400に単位（ms）で格納されています。

- (1) 現在使用しているプロジェクトファイルを開き、全ての画面にLS9400を指定したデータ表示器を配置します。



**MEMO** • 接続機器側からLS9400の値をモニタできないので数値表示器を配置します。

- (2) プロジェクトファイルを再度転送します。
- (3) 表示器上でこの値をモニタし、ある時だけLS9400の値が大きくなっている場合は、ノイズ等が原因で通信エラーが発生しています。



次のページに続きます。

**MEMO**

- 複数の接続機器を表示器に接続している場合、表示器内部のLSエリアのLS9400～LS9527に表示器と接続機器が通信にかかっている目安の時間（通信サイクルタイム）が格納されています。LS9400～LS9527はms単位で格納されます。

LS エリア	
LS9400	ドライバ1のPLC1台目
LS9431	ドライバ1のPLC32台目
LS9432	ドライバ2のPLC1台目
LS9463	ドライバ2のPLC32台目
LS9464	ドライバ3のPLC1台目
LS9495	ドライバ3のPLC32台目
LS9496	ドライバ4のPLC1台目
LS9527	ドライバ4のPLC32台目

- GP3000シリーズでは1台の表示器に最大4ドライバを割り付けることができます。また、接続機器によっては1ドライバあたり最大32台まで接続機器をつなげる場合があります。

例)表示器に三菱ドライバとオムロンドライバを割り付け、それぞれの接続機器を1台ずつ接続している場合はLS9400とLS9432をモニタしてください。

表示器に三菱のイーサネットのドライバを割り付け、表示器1台に対して接続機器を32台接続している場合はLS9400～LS9431をモニタしてください。

- LSエリアのアドレスは、GP-Pro EXで[システム設定ウィンドウ]から[周辺機器一覧]を選択し、[接続機器管理アドレス一覧]で確認することができます。

☞ GP-Pro EX リファレンスマニュアル「5.13.6 [システム設定ウィンドウ]の設定ガイド [周辺機器一覧]の設定ガイド」(5-123ページ)

2 ラインモニタで通信ラインをチェックしてください。

## 表示器または接続機器の処理に負荷がかかっていませんか？

### 原因

Dスクリプト、グローバルDスクリプト、CFカード保存、表示器画面のハードコピーなどの機能を使用している場合は、これらの処理が入ると表示器の画面更新処理に負荷がかかる場合があります。一度これらの機能を削除して通信が正常にできるか確認してください。

また、接続機器のプログラムのスキャンに時間がかかっている場合、表示更新が止まり、通信が止まったように見えます。

### 対処方法

以下の手順で画面更新処理への負荷、また接続機器のスキャン時間を確認してください。

次のページに続きます。

- 画面更新処理の負荷チェック

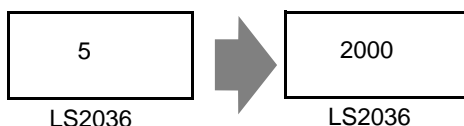
表示器の内部に LS エリアというアドレスがあり、その LS2036 に表示スキャンタイム（画面更新処理にかかっている時間）が格納されています。（単位 /ms）このアドレスに格納された値をモニタし、画面更新処理に負荷がかかっているかをチェックします。

- (1) 現在使用しているプロジェクトファイルを開き、全ての画面に LS2036 を指定したデータ表示器を配置します。



**MEMO** • 接続機器側から LS2036 の値をモニタできないので数値表示器を配置します。

- (2) プロジェクトファイルを再度表示器に転送します。
- (3) 表示器上でこの値をモニタし、ある時だけ LS2036 の値が大きくなっている場合は、そのタイミングで負荷の大きい D スクリプトなどが実行され、表示器の画面更新処理に時間がかかっている可能性があります。



このような場合は、D スクリプトの数を少なくしたり、同じタイミングで複数の処理が同時に実行されないように工夫をしてください。

- 接続機器のスキャン時間チェック

接続機器のラダープログラムのスキャンタイムを読み出し、あるときだけスキャンに時間がかかっているか確認してください。もしラダープログラムの処理に時間がかかるようであれば、各接続機器メーカーへお問い合わせください。

## 1.5 ユニットとの通信で困った！

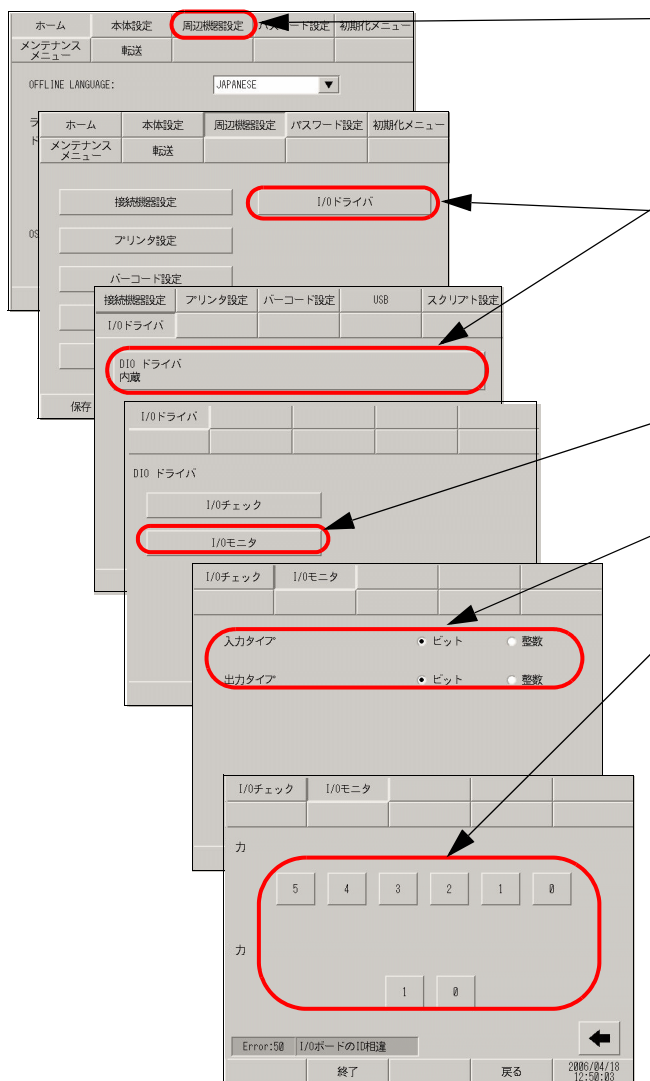
### 1.5.1 DIO インターフェイスに接続している機器が ON、OFF しない

#### DIO ユニットに接続している機器は正常に入力、出力できますか？

DIO ボードに接続した接続機器が正常に入力、出力しているかチェックし、GP-Pro EX の設定に問題があるのか、GP 側の問題が考えられるのか切り分けます。

**MEMO** ・ 設定画面の詳細は設定ガイドを参照してください。

☞ 「2.13.2 GP3000 シリーズ DIO ボードタイプをご利用の場合 I/O ドライバ設定(I/O モニタ)」(2-91 ページ)



オフラインモードに入り、項目切り替えスイッチから[周辺機器設定]をタッチします。

[周辺機器設定]が開くので[I/Oドライバ]をタッチし、[DIOドライバ]をタッチします。

[I/Oドライバ]が開くので[I/Oモニタ]をタッチします。

入出力するデータのタイプを[ビット]、[整数]から選択します。(例：入力、出力ともビット)

入出力ビット表示画面が表示され、[入力]には現在のON/OFF状態が表示されます。[出力]ではタッチするたびにON/OFFを反転します。接続機器が正常に動作する場合はGP-Pro EXでプロジェクトファイルの設定を確認してください。正常に動作しない場合はGPと接続機器の配線を確認して次の項目をチェックします。

次のページに続きます。

## 表示器の内部端子は正常に動作しますか？

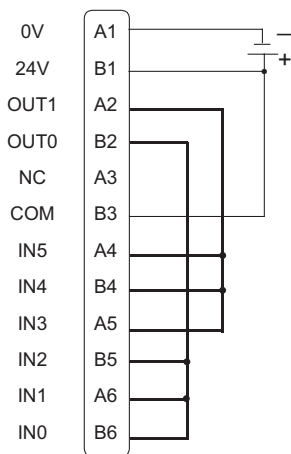
内部端子チェックを実行するには、チェック用のループバックケーブルを作成する必要があります。  
以下のようにループバックケーブルをまず作成してください。

### ループバックケーブルの作成

ループバックの配線は以下のとおりです。

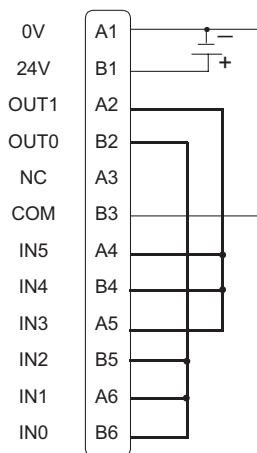
- シンクタイプ

例) OUT0からIN0~IN2へと、OUT1からIN3~IN5への3点ずつチェックする場合



- ソースタイプ

例) OUT0からIN0~IN2へと、OUT1からIN3~IN5への3点ずつチェックする場合



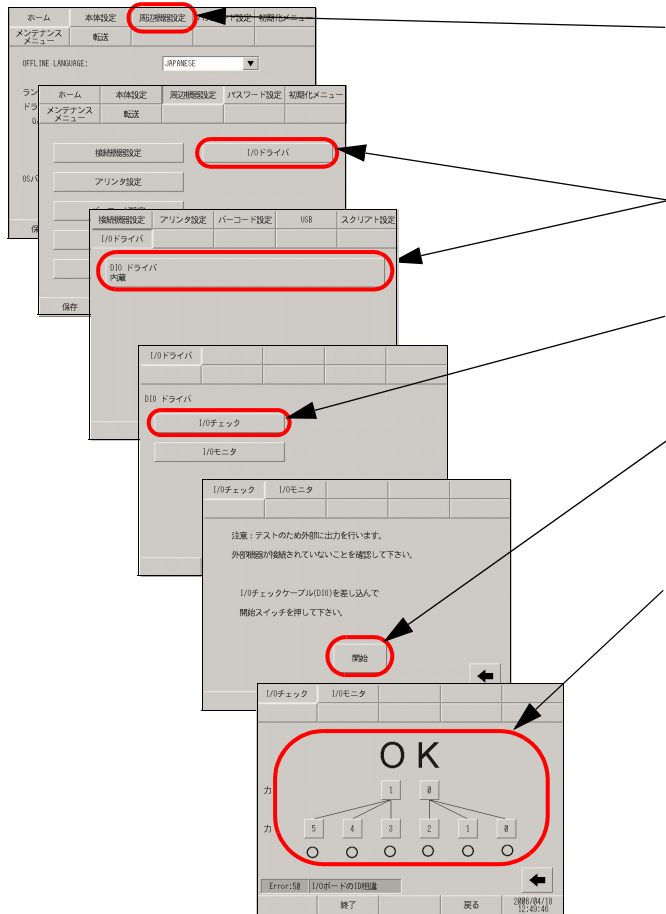
次のページに続きます。

## I/O チェック

DIO ボードにループバックケーブルが接続された状態で出力ターミナル2点の出力を入力ターミナルの6点に入力して出力データと入力データを比較します。データが期待値に一致すると [OK]、一致しないと [NG] が画面に表示され、この結果により接続チェックを行えます。

**MEMO** ・ 設定画面の詳細は設定ガイドを参照してください。

☞ 「2.13.2 GP3000 シリーズ DIO ボードタイプをご利用の場合 I/O ドライバ設定 (I/O チェック) 」(2-90 ページ)



オフラインモードに入り、項目切り替えスイッチから[周辺機器設定]をタッチします。

[周辺機器設定]が開くので[I/O ドライバ]をタッチします。

[I/O ドライバ]が開くので[I/O チェック]をタッチします。

[I/O チェック]が表示されるので[開始]をタッチします。

接続チェック実行画面が表示され、異常がなければ[OK]、エラーがある場合は[NG]と表示されます。[OK]と表示された場合は配線やDIOボードに接続している機器を確認してください。[NG]と表示された場合は本体の故障が考えられます。修理センターに配送してください。

☞ 「1.7.3 修理しよう！」(1-106 ページ)

## 1.5.2 FLEX NETWORK ユニットまたは PROFIBUS(Slave) ユニットが通信しない、VM ユニットが動作しない

まずは各ユニットのマニュアルをご確認ください。

FLEX NETWORK ユニット、PROFIBUS(Slave)、VM ユニットなどの拡張オプションと通信しない場合はまず、各ユニットのマニュアルで「トラブルシューティング」の章をご確認ください。

拡張オプション	マニュアル名
FLEX NETWORK シリーズ	Flex Network アナログユニットユーザーズマニュアル Flex Network 1 軸位置決めユニットユーザーズマニュアル Flex Network DIO ユニットユーザーズマニュアル Flex Network 高速カウンタユニットユーザーズマニュアル Flex Network 2ch アナログユニットユーザーズマニュアル
PROFIBUS(Slave) ユニット	GP3000 シリーズ用 PROFIBUS ユニットユーザーズマニュアル
VM ユニット	GP2000 シリーズ VM ユニットユーザーズマニュアル



## 1.6 エラーが表示されたら... (エラーコード一覧)

エラーが表示されている場合はまずどこで、いつ、どんなエラーが表示されたのかを元に下記の表からエラー内容と対処方法をご確認ください。

どこで?	いつ?	どんな?	エラーの内容、対処方法はこちらへ
ソフト (GP-Pro EX 上) で	画面データを作成中に	メッセージ	☞ 「1.6.1 ソフト (GP-Pro EX) で表示されるエラー 画面作成時に表示されるエラー」(1-63 ページ)
	作成した画面データのエラーチェック時に	メッセージ	☞ 「1.6.1 ソフト (GP-Pro EX) で表示されるエラー 画面作成時」(1-71 ページ)
	作成したロジックプログラムのエラーチェック時に	4桁の数字とメッセージ	☞ 「1.6.1 ソフト (GP-Pro EX) で表示されるエラー ロジックプログラム作成時」(1-76 ページ)
	プロジェクトファイルを転送した時に	メッセージ	☞ 「1.6.1 ソフト (GP-Pro EX) で表示されるエラー 転送共通エラー」(1-85 ページ)
	モデムを接続してプロジェクトファイルを転送した時に	メッセージ	☞ 「1.6.1 ソフト (GP-Pro EX) で表示されるエラー モデム転送時のエラー」(1-88 ページ)
	CFメモリローダでプロジェクトファイルを転送した時に	メッセージ	☞ 「1.6.1 ソフト (GP-Pro EX) で表示されるエラー CFメモリローダ使用時のエラー」(1-88 ページ)
	ロジックプログラムをオンラインモニタした時に	メッセージ	☞ 「1.6.1 ソフト (GP-Pro EX) で表示されるエラー ロジックプログラム、オンラインモニタ時のエラー」(1-89 ページ)
表示器の画面上で	接続機器との通信がうまくいかない時に	RHxx ~	☞ 「1.6.2 表示器で表示されるエラー 接続がうまくいかないときに出るエラー」(1-89 ページ)
	ランタイムシステムで発生しているエラー	RAAAxxx ~	☞ 「1.6.2 表示器で表示されるエラー RAAAで始まるエラー (アプリケーションエラー)」(1-96 ページ)
	ランタイムシステムで通信設定に関わるエラー	REAAxxx ~	☞ 「1.6.2 表示器で表示されるエラー REAAで始まるエラー」(1-101 ページ)
	表示器を起動中に	Start up Error : ~	☞ 「1.6.2 表示器で表示されるエラー その他のエラー (システムエラー)」(1-102 ページ)
	DIO ボードインターフェースに接続している機器が正常に動作しない時	RGE* ~	☞ 「1.6.2 表示器で表示されるエラー I/Oドライバエラー」(1-103 ページ)
	ロジックプログラム運転中に	RGAA001	☞ 「1.6.2 表示器で表示されるエラー Runtime エラー」(1-104 ページ)

## 1.6.1 ソフト (GP-Pro EX) で表示されるエラー

### 画面作成時に表示されるエラー

#### 起動

エラーメッセージ	原因と対処方法	参照
バージョンの異なるエディタを複数起動することは出来ません。	稼働中のエディタと同じバージョンのものを起動してください。	—
これ以上、エディタを起動することができません。	同時に起動できるのは2つまでです。	

#### 新規作成

エラーメッセージ	原因と対処方法	参照
オープンしようとしているファイルは、本アプリケーションのプロジェクトファイルでは無いため、開くことができませんでした。	ファイルの拡張子が (*.prx) となっているかを確認し、再度実行してください。	—
プロジェクトファイルの読み込みに失敗したため、開くことができませんでした。	対象ファイルが壊れているか、フォーマットが異なるため読み込めませんでした。読み込み元ファイルの拡張子等を確認し、再度実行してください。	
GP-Pro/PB が起動できませんでした。 アプリケーションがインストールされている場合はファイルを指定して実行して下さい。	GP-Pro/PB がインストールされているか確認してください。 GP-Pro/PB のインストールには別 CD が必要です。	

#### プロジェクトプロパティ

エラーメッセージ	原因と対処方法	参照
フォルダが作成できませんでした。	CF カード出力フォルダの設定を確認し、指定ドライブ、フォルダを確認してください。	☞ GP-Pro EX リファレンスマニュアル「5.7.2 設定手順 CF カード出力先フォルダの設定手順」(5-38 ページ)

#### 画面管理

エラーメッセージ	原因と対処方法	参照
指定されたプロジェクトファイルが読み込めませんでした。コピーするファイルを指定しなおしてください。	ファイル保存先とのリンクが切れていないか確認して再度読み込んでください。	☞ GP-Pro EX リファレンスマニュアル「5.8 他のプロジェクトから画面をコピーしたい」(5-40 ページ)
現在編集中のプロジェクトが指定されたため、コピーできませんでした。他のプロジェクトを指定してください。	編集中のプロジェクトファイルを指定する場合は編集を終了させてから指定してください。	

次のページに続きます。

## アドレス一括変換

エラーメッセージ	原因と対処方法	参照
アドレス一括変換の処理中に異常が発生しました。変換処理を中断し、変換前の状態に戻します。	ユーティリティ [アドレス一括変換] の設定を再度、手順どおりに設定し直してください。	☞ GP-Pro EX リファレンスマニュアル「5.6.2 設定手順」(5-34 ページ)

## 周辺機器設定

エラーメッセージ	原因と対処方法	参照
接続機器 n はプロジェクトファイル内の各種設定で使用されているため、削除できません。使用箇所はクロスリファレンスで確認することができます。 n は削除対象の接続機器番号	部品や機能でアドレスが使用されている機器は削除できません。使用している部品、機能のアドレスを変更してから再度実行してください。	☞ GP-Pro EX リファレンスマニュアル「5.5 プロジェクト内で使用中のアドレスを一覧で確認したい」(5-25 ページ)

## 機種変更時アドレス一括変換

エラーメッセージ	原因と対処方法	参照
対象ファイルのフォーマットが異なるため、インポートできませんでした。	ファイルが壊れているか、フォーマットが異なるためインポートできませんでした。インポート元のファイルを確認し、再度実行してください。	☞ GP-Pro EX リファレンスマニュアル「7.4.2 設定手順 アドレス変換範囲を指定して機種変更」(7-22 ページ)
対象ファイルの指定アドレスは、現在設定されている接続機器のアドレスではないため、インポートできませんでした。	ファイルのアドレスを確認し、再度実行してください。	
対象ファイルのフォーマットが異なるため、一部のデータをインポートできませんでした。個別機器名やアドレスを確認してください。	ファイルの個別機器名やアドレスを確認し、再度実行してください。	
対象ファイルをインポートできませんでした。	ファイルが壊れているか、使用中のためインポートできませんでした。インポート元のファイルを確認し、再度実行してください。	
対象ファイルへエクスポートできませんでした。	対象ファイルが読み取り専用でないか、指定先のドライブ、フォルダを確認してください。	

次のページに続きます。

## D スクリプト

エラーメッセージ	原因と対処方法	参照
ユーザ定義関数が相互参照しているため、保存できません。相互参照を修正してください。 相互参照とは、ユーザ定義関数 A がユーザ定義関数 B を呼び出し、ユーザ定義関数 B がユーザ定義関数 A を呼び出す状態のことです。	ユーザ定義関数は相互参照できません。呼び出す関数を確認してください。	☞ GP-Pro EX リファレンスマニュアル「20.6.3 ユーザ定義関数の設定の流れ」(20-40 ページ)

## 組み込み関数

エラーメッセージ	原因と対処方法	参照
[開始]アドレスと[終了]アドレスに異なるデバイスを設定することはできません。	[開始]アドレスと[終了]アドレスは同じデバイスを設定してください。	
「終了」アドレスには、「開始」アドレスより若いアドレスまたは同じアドレスを設定することはできません。正しい範囲を設定してください。	[終了]アドレスには[開始]アドレスより大きいアドレスを設定してください。	—

## アラーム文字列

エラーメッセージ	原因と対処方法	参照
アドレスが設定範囲を超えました。n を超える割付はできません。	アドレスの設定範囲を再確認し、自動割り付けを実行してください。(n は設定可能な最大アドレス)	☞ GP-Pro EX リファレンスマニュアル「19.9.1 共通設定 (アラーム設定) の設定ガイド」(19-63 ページ)
現在位置からの設定可能な範囲は 1 ~ n です。範囲内の値を指定してください。	アドレスの設定範囲を再確認し、自動割り付けを実行してください。(n は設定可能な最大追加ビット数)	
上限値、下限値の大小関係が正しくありません。	上限値は下限値よりも大きい値を設定してください。	☞ GP-Pro EX リファレンスマニュアル「19.9.1 共通設定 (アラーム設定) の設定ガイド ワード監視」(19-75 ページ)
最終行にアラーム設定が行われているため、行の挿入はできません。行挿入をキャンセルします。	これ以上アラーム行を挿入することができません。行挿入を行う場合は、最終行のメッセージを削除、または移動してください。	—

次のページに続きます。

## レシピア設定


エラーメッセージ	原因と対処方法	参照
ファイリングデータ (CF) にアクセス出来なかったため変換できませんでした。設定を確認してください。	CF カード出力フォルダ内のデータが読み取り専用になっていないか確認してください。	☞ GP-Pro EX リファレンスマニュアル「5.7.2 設定手順 CF カード出力先フォルダの設定手順」(5-38 ページ)
一部の情報が貼り付けできませんでした	貼り付け範囲と貼り付けるデータの範囲が異なる可能性があります。貼り付けるデータの内容を確認してください。	—
対象ファイルを読み込めませんでした。	指定したデータが壊れている可能性があります。CF カード出力フォルダ内にデータを確認してください。	☞ GP-Pro EX リファレンスマニュアル「5.7.2 設定手順 CF カード出力先フォルダの設定手順」(5-38 ページ)
CSV ファイルが作成されていないため、インデックスファイルを作成できません。	CSV ファイルを作成後に実行してください。	☞ GP-Pro EX リファレンスマニュアル「25.11.3 条件名検索機能について インデックスファイルとは？」(25-99 ページ)
対象ファイルに不要なデータが存在するため、一部のデータを読み込めませんでした。	対象ファイルに指定範囲外のデータが存在します。インポート元ファイルのデータ範囲を再確認してください。 (範囲外のデータは削除してインポートされず)	☞ GP-Pro EX リファレンスマニュアル「25.3 レシピア (CSV データ) を作成したい」(25-9 ページ)
対象ファイルのフォーマットが異なるため、読み込めませんでした。	対象ファイルが壊れているか、フォーマットが異なるため読み込めませんでした。読み込み元のファイルを確認し、再度実行してください。	☞ GP-Pro EX リファレンスマニュアル「25.3 レシピア (CSV データ) を作成したい」(25-9 ページ)
対象ファイルを読み込めませんでした。	対象ファイルが壊れているか、使用中のため読み込めませんでした。ファイルを確認し、再度実行してください。	
対象ファイルへ書込めませんでした。	出力先のファイルやディスクを確認し、再度実行してください。	

## セキュリティ設定



エラーメッセージ	原因と対処方法	参照
同じパスワードが設定されています。パスワードを変更してください。	同一パスワードを複数のレベルで指定することはできません。パスワードを変更してください。	☞ GP-Pro EX リファレンスマニュアル「22.5 共通設定 (セキュリティ設定) の設定ガイド」(22-9 ページ)
「オフライン移行時にレベル 15 のパスワードを使用する」が有効になっています。レベル 15 にパスワードを設定してください。	レベル 15 のパスワードを設定してください。	☞ GP-Pro EX リファレンスマニュアル「22.5.1 パスワード設定」(22-9 ページ)

次のページに続きます。

## サウンド設定

エラーメッセージ	原因と対処方法	参照
貼り付け先の範囲指定が正しくないため、貼り付けできません。	貼り付け先が貼り付け元の範囲指定の N 倍 (N は 1 以上の整数) となるようにしてください。	—
アドレスが設定範囲を超えました。〔最大値〕を超える割付はできません	接続機器に対応したデバイスアドレスを指定してください。	
指定したファイルを読み込むことができませんでした。	対象ファイルを確認し、再度実行してください。	
指定したファイルを変換した後、ファイルに出力することができませんでした。	対象ファイルを確認し、再度実行してください。	
指定したファイルは未対応のフォーマットのため、読み込むことができませんでした。	変換可能なフォーマットに変換し、再度実行してください。	
サウンドデータが存在しないため、編集 (削除、再生) できません。	CF カード出力フォルダ内にデータが存在するか確認してください。	 GP-Pro EX リファレンスマニュアル「5.7.2 設定手順 CF カード出力先フォルダの設定手順」(5-38 ページ)

## 文字列テーブル

エラーメッセージ	原因と対処方法	参照
文字数と文字行数の範囲内に文字列が収まらない場所があります。貼り付けできませんでした。	貼り付ける文字列が文字数と文字行数の範囲内に収まるようにしてください。	 GP-Pro EX リファレンスマニュアル「15.7.3 文字列テーブル設定の設定ガイド」(15-48 ページ)
メッセージが入力されているセルは、削除することができませんでした。	メッセージを削除してから、セルの削除を行ってください。	—
対象ファイルのフォーマットが違いため、インポートできません。	ファイルが壊れているか、フォーマットが違いためインポートできませんでした。インポート元のファイルを確認し、再度実行してください。	 GP-Pro EX リファレンスマニュアル「15.6 登録した文字列テーブルを別ファイルで管理したい/他のプロジェクトでも利用したい」(15-29 ページ)
指定数以上設定されている文字列は、インポートされませんでした。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• [言語番号 : 言語 : テーブル名]</li> <li>• [言語番号 : 言語 : テーブル名]</li> </ul>	指定ファイルに指定範囲外のデータが存在します。範囲外のデータは削除してインポートされます。 [言語番号] 1 ~ 16 [言語] エクスポート時出力される形式 [テーブル名] 文字数 × 文字行数 1200	
対象ファイルをインポートできませんでした。	ファイルが壊れているか、使用中のためインポートできませんでした。インポート元のファイルを確認し、再度実行してください。	

次のページに続きます。

エラーメッセージ	原因と対処方法	参照
使用できない言語が設定されているため、インポートに失敗しました。	ファイル内の言語設定で指定している言語が現在オープン中のプロジェクトでは指定されていません。インポート元ファイルを確認するか、システム設定 → フォント設定で使用フォントの追加を行い、再度実行してください。	☞ GP-Pro EX リファレンスマニュアル「6.2 ストロークフォント、標準フォント」(6-3 ページ)
対象ファイルへエクスポートできませんでした。	出力先のファイルやディスクを確認し、再度実行してください。	☞ GP-Pro EX リファレンスマニュアル「15.6.2 設定手順 エクスポート」(15-30 ページ)
文字数と文字行数の範囲内に文字列が収まらない行があります。インポートできませんでした。	インポートする文字列が文字数と文字行数の範囲内に収まるように設定してください。	☞ GP-Pro EX リファレンスマニュアル「15.6.2 設定手順 インポート」(15-32 ページ)

### 多言語切り替え

エラーメッセージ	原因と対処方法	参照
指定した言語に一致するフォントが、Windows® にインストールされていないため、文字が正常に表示されない場合があります。	選択したテーブルのメッセージに、現在の OS では表示できない言語フォントが含まれています。 OS を変更するかフォントを追加でインストールしてください。	—

### シンボル変数一覧

エラーメッセージ	原因と対処方法	参照
削除対象のシンボルは現在使用中のため、削除できません。使用箇所はクロスリファレンスで確認することができます。	部品等に登録されているシンボルを別のシンボル(もしくはアドレス)に変更してから、対象シンボルの削除を行ってください。	☞ GP-Pro EX リファレンスマニュアル「5.9 アドレスを分かりやすい名前で登録したい」(5-44 ページ)

次のページに続きます。

## イメージ管理

エラーメッセージ	原因と対処方法	参照
作画対象である表示器本体のカラー数範囲と異なる設定のため、選択された設定は、正しく表示されない可能性があります。	表示器本体の色数の制限により、本体上で正しく表示されない場合があります。色数を確認して、再度変換を行ってください。	☞ GP-Pro EX リファレンスマニュアル「9.5色・線種・パターンを変えたい」(9-34 ページ)
イメージを読み込めませんでした。他のイメージを指定してください。	ファイルが壊れているか、フォーマットが違う、あるいは使用中のためインポートできませんでした。インポート元のファイルを確認し、再度実行してください。	—
オリジナルファイルが[元のファイルの場所]に存在しないため、変換できません。	変換元ファイルが指定された場所がありません。ファイルの場所を指定し、再度実行してください。	—

## イメージ部品

エラーメッセージ	原因と対処方法	参照
イメージを読み込めませんでした。他のイメージを指定してください。	指定したイメージファイルが壊れているか、bmp または JPEG 形式ではありません。ファイルを指定しなおしてください。	☞ GP-Pro EX リファレンスマニュアル「9.10 画像を貼り付けたい」(9-62 ページ)

## マーク

エラーメッセージ	原因と対処方法	参照
マークライブラリの更新に失敗しました。	マークの削除に失敗しました。指定ファイルが読み取り専用でないか、指定先ファイル、フォルダ等を確認してください。	—
指定されたマークライブラリ名が無効なため、マークライブラリの新規作成に失敗しました。	マークライブラリ名を変更して、再度実行してください。	
指定されたマークライブラリ名が無効なため、マークライブラリの名称変更失敗しました。	マークライブラリ名を変更して、再度実行してください。	

## パッケージウィンドウ

エラーメッセージ	原因と対処方法	参照
*** パッケージには、ユーザ作成部品を登録することが出来ません。ユーザ作成部品が登録できるのは、ユーザが作成したパッケージです。	パッケージを新規作成し作成した部品を登録し直してください。	☞ GP-Pro EX リファレンスマニュアル「9.8.2 作成した絵をパッケージに登録しよう」(9-54 ページ)

## テンプレート

エラーメッセージ	原因と対処方法	参照
対象テンプレートを読み込めませんでした。	他のテンプレートを選択してください。	—

次のページに続きます。



## 複数コピー

エラーメッセージ	原因と対処方法	参照
1画面に対する部品数の制限を超えたため、指定された数の複数コピーが正常に完了しませんでした。部品数の制限数は までです。	不要な部品がある場合は削除して、再度実行してください。	☞ GP-Pro EX リファレンスマニュアル「5.14.1 画面作成の制限事項 画面に配置できる機能数」(5-145 ページ)
アドレスの設定範囲を超えたため、指定された数の複数コピーが正常に完了しませんでした。	複数のアドレスを持つ部品の場合、1つでもアドレスが範囲を超えていると表示されます。アドレスの範囲を確認し、再度実行してください。	—

## 部品一覧

エラーメッセージ	原因と対処方法	参照
対象ファイルへエクスポートできませんでした。	出力先のファイルやディスクを確認し、再度実行してください。	—

## 部品選択ツールバンド

エラーメッセージ	原因と対処方法	参照
対象ファイルを読み込めませんでした。	指定したイメージファイルが壊れているか、bmp または JPEG 形式ではありません。読み込み先のファイルやドライブを確認してください。	—
対象ファイルへ書込めませんでした。	ファイルの書込みに失敗しました。書込み先のファイルやドライブを確認してください。	

## データ制限

エラーメッセージ	原因と対処方法	参照
データの制限を超えています。エラーを確認して下さい。 * このデータを保存しても、本体への送信は行えません。	エラーが存在するデータは、保存はできませんが、本体へは送信できません。エラー内容を確認してください。	☞ 「1.6.1 ソフト (GP-Pro EX) で表示されるエラー 画面作成時に表示されるエラー」(1-63 ページ)

## 印刷全般

エラーメッセージ	原因と対処方法	参照
項目に設定がないため、印刷対象が存在しません。	印刷項目が選択されていません。選択内容を確認し、再度実行してください。	☞ GP-Pro EX リファレンスマニュアル「33.6.1 [印刷]の設定ガイド 共通設定」(33-42 ページ)

次のページに続きます。

## エラーチェック時に表示されるエラー

## 画面作成時

エラー番号	画面ID/No/行	エラーメッセージ	対処方法	参照
1000	周辺機器設定	ポートの設定が重なっています。周辺機器一覧で確認してください。	ポート項目に！マークの表示がある周辺機器を確認し、重ならないポートへ変更してください。	☞ GP-Pro EX リファレンスマニュアル「7.2.2 設定手順」(7-4 ページ)
1001	セキュリティ設定	セキュリティ設定のパスワードが重複しています。パスワードを変更してください。	各レベルで異なるパスワードを設定してください。	☞ GP-Pro EX リファレンスマニュアル「22.5.1 パスワード設定」(22-9 ページ)
1500	プロジェクト情報	送信データサイズが上限を超えています。送信データサイズを確認してください。	ユーザー画面エリアが各機種に対して下記のメモリ範囲内に収まるように設定してください。 GP-330* (6M バイト) GP-34** ~ 37** (8M バイト) (ただしデータ構造の仕様上 90 % 程度でエラー出力される可能性があります)	☞ GP-Pro EX リファレンスマニュアル「6.4 [フォント設定] の設定ガイド」(6-19 ページ)
1501	—	*** に不正なアドレスがあります。正しいアドレスを設定してください。	指定された場所のアドレスに対してキーパッドを使ってアドレス入力を行ってください。(***には、共通設定の機能や画面の場合、「ベース画面 1」などと場所を特定できる表示を行います)	☞ GP-Pro EX リファレンスマニュアル「14.2.2 設定手順」(14-6 ページ)
1502	シンボル変数設定	実アドレスが定義されていないシンボルがあります。シンボル設定で確認してください。	アドレス設定にシンボルを使用、または空欄になっている部品を削除するか、空欄の場合はアドレスを設定してください。	☞ GP-Pro EX リファレンスマニュアル「5.9.2 設定手順」(5-45 ページ)
1503	フォント設定	プロジェクトで使用するフォントに登録していないフォントが指定されています。フォント設定で追加を行うか、フォントを変更してください。	システム設定のフォント設定で追加を行うか、選択中のフォントを変更してください。	☞ GP-Pro EX リファレンスマニュアル「6.4 [フォント設定] の設定ガイド」(6-19 ページ)
1504	プロジェクト情報	バックアップ SRAM の容量を超えています。超過分は実行されません。プロジェクト情報で確認してください。	使用する SRAM 容量の合計が約 320K バイト (GP-3202B のみ約 120K バイト) を超えないようにしてください。	☞ GP-Pro EX リファレンスマニュアル「5.7 プロジェクト情報をみたい」(5-36 ページ)

次のページに続きます。

エラー番号	画面ID/No/行	エラーメッセージ	対処方法	参照
1505	サンプリング設定	サンプリング設定の「SRAMにバックアップを行う」がOFFのグループの設定が、データ保存領域の範囲を超えています。超過分は実行されません。	「SRAMにバックアップを行う」がOFFのグループの設定が、データ保存領域の範囲を超えています。サンプリングワード数や回数を減らして、保存領域の範囲内に収まるように設定してください。	☞ GP-Pro EX リファレンスマニュアル「24.9.1 概要 DRAM」(24-99 ページ)
1506	—	CF カードを使用する機能が設定されています。この機種は CF カードに対応していませんので、動作できません。	GP-3202B の機種にて CF カード出力フォルダが設定されています。機種変更するか、CF カード出力フォルダを設定しないようにしてください。	☞ GP-Pro EX リファレンスマニュアル「5.13.6 [システム設定ウィンドウ] の設定ガイド [機種設定] の設定ガイド」(5-100 ページ) ☞ GP-Pro EX リファレンスマニュアル「5.7 プロジェクト情報をみたい」(5-36 ページ)
1507	グローバル D スクリプト	グローバル D スクリプトの使用アドレス数が上限を超えています。超過分は実行されません。	トリガ条件の同じスクリプトを複数作り命令文を分けるなどしてグローバル D スクリプト (call している関数も含む) 内での総使用アドレス数が、256 個を超えないように設定してください。	☞ GP-Pro EX リファレンスマニュアル「20.9.1 D スクリプト / グローバル D スクリプトの制限事項」(20-53 ページ)
1508	グローバル D スクリプト	グローバル D スクリプト、関数の総数が上限を超えています。32 個を超えた分は実行されません。	トリガ条件の同じ複数のスクリプトを 1 つにまとめるなどしてグローバル D スクリプト、関数の総数が、32 個を超えないようにしてください。	
1509	グローバル D スクリプト	グローバル D スクリプト [グローバル D スクリプト番号] にエラーが存在します。式が正しくありません。	[メッセージエリア] に表示されたコメント等を参照して、ツールボックス、組み込み関数を利用し確実に式を入力してください。	☞ GP-Pro EX リファレンスマニュアル「20.8.1 D スクリプト (共通設定部分) の設定ガイド」(20-48 ページ)
1510	拡張スクリプト	拡張スクリプトにエラーが存在します。式が正しくありません。	[メッセージエリア] に表示されたコメント等を参照して、ツールボックス、組み込み関数を利用し確実に式を入力してください。	
1511	—	データ転送表示器の総数が上限を超えています。32 個を超えた分は動作できません。	プロジェクト全体での配置の総数が 32 個を超えないようにしてください。	☞ GP-Pro EX リファレンスマニュアル「5.14.1 画面作成の制限事項 画面に配置できる機能数」(5-145 ページ)
1600	1	D スクリプト [ID/No] の式が正しくありません。	ツールボックス、組み込み関数等の入力補助機能を利用して確実に式を入力し、[メッセージエリア] にエラーが残らないようにしてください。	☞ GP-Pro EX リファレンスマニュアル「20.8.1 D スクリプト (共通設定部分) の設定ガイド」(20-48 ページ)





次のページに続きます。

エラー番号	画面ID/No/行	エラーメッセージ	対処方法	参照
1601	1	データ一括表示グラフ、ヒストリカルトレンドグラフは1画面に8個のみ配置可能です。	1 ベース画面において機能するデータ一括表示グラフ、ヒストリカルトレンドグラフ部品は8個までです。それ以上については別画面に分けてください。	☞ GP-Pro EX リファレンスマニュアル「5.14.1 画面作成の制限事項 画面に配置できる機能数」(5-145 ページ)
1602	1	データ一括表示グラフ、ヒストリカルトレンドグラフのチャンネルは20チャンネルのみ設定可能です。	1 ベース画面においてデータ一括表示グラフ、ヒストリカルトレンドグラフの各部品のチャンネル数を足した総数が20チャンネルを超えないようにしてください。	☞ GP-Pro EX リファレンスマニュアル「17.8.2 ヒストリカルトレンドグラフの制限事項」(17-69 ページ)
1603	1	部品数が上限を超えています。	1 画面上に配置した部品の総数が384個を超えないようにしてください。	☞ GP-Pro EX リファレンスマニュアル「5.14.1 画面作成の制限事項 画面に配置できる機能数」(5-145 ページ)
1604	1	アドレス数が上限を超えています。	1 画面上にある部品などに設定したアドレスの総数が1000個を超えないようにしてください。	☞ GP-Pro EX リファレンスマニュアル「5.14.1 画面作成の制限事項 画面に配置できる機能数」(5-145 ページ)
1605	1	画面データのサイズが上限を超えています。	部品を別画面に分けるなどして1画面あたりのデータ容量が1Mバイトを超えないようにしてください。	☞ GP-Pro EX リファレンスマニュアル「5.14.1 画面作成の制限事項 作成できる画面数」(5-144 ページ)
1606	1	データ表示(入力許可)、サンプリングデータ表示器、特殊データ表示器(CSV表示)は同時配置できません。	いずれか1個の表示器だけを配置するようにしてください。	—
1607	1	ウィンドウ画面上ではデータ表示(ポップアップ有り)は使用できません。	ウィンドウ上のデータ表示器にデータを入力する場合は、データ表示器の「ポップアップキーボードを使用する」のチェックをはずし、キーボードを直接ウィンドウ画面に配置してください。	☞ GP-Pro EX リファレンスマニュアル「14.11.1 数値表示」(14-45 ページ)
1610	1	アラームのサマリ機能は1画面に1個のみ配置可能です。	画面上へ配置するアラーム部品(サマリ表示)は1つにしてください。2個目からの配置に関しては動作が保証できません。	☞ GP-Pro EX リファレンスマニュアル「19.3.2 設定手順」(19-14 ページ)
1611	1	サブ表示を使用するアラーム部品は1画面に1個のみ配置可能です。	アラーム部品(履歴)を画面上へ複数配置している場合、サブ表示は行えません。サブ表示を行う場合は、アラーム部品(履歴)を1つにしてください。	☞ GP-Pro EX リファレンスマニュアル「19.9.3 テキストアラーム部品の設定ガイド」(19-119 ページ)
1612	1	図形表示器のCFファイル表示機能は1画面に1個のみ配置可能です。	画面上へ配置する図形表示器(CFファイル表示機能)は1つにしてください。2個目からの配置に関しては動作が保証できません。	☞ GP-Pro EX リファレンスマニュアル「10.6.4 図形表示器(CF画像表示)の制限事項」(10-56 ページ)

次のページに続きます。

エラー番号	画面ID/No/行	エラーメッセージ	対処方法	参照
1613	1	図形表示器の移動表示で指定できる表示位置数は1画面に512個のみ配置可能です。	1画面に配置する図形表示器の表示位置数の合計が512個を超えないようにしてください。	☞ GP-Pro EX リファレンスマニュアル「10.6.3 図形表示器 (移動表示) の制限事項」(10-54 ページ)
1614	1	図形表示器の移動表示は(マーク)は1画面に30個のみ配置可能です。	画面上へ配置する図形表示器の数を減らしてください。	
1615	1	特殊データ表示器のデータ転送機能は1画面に1個のみ配置可能です。	画面上へ配置する特殊データ表示器(データ転送機能)は1つにしてください。2個目からの配置に関しては動作が保証できません。	—
1616	1	特殊データ表示器のCSV表示機能は1画面に1個のみ配置可能です。	画面上へ配置する特殊データ表示器(CSV表示機能)は1つにしてください。2個目からの配置に関しては動作が保証できません。	☞ GP-Pro EX リファレンスマニュアル「25.13.2 CSVデータ表示/編集/印字の制限事項 表示の制限事項」(25-116 ページ)
1618	1	ウィンドウ画面上では特殊データ表示器のCSV表示機能の編集モードは使用できません。	ベース画面上に貼り付けた特殊データ表示器にてCSV表示機能を使用してください。	
1619	1	特殊データ表示器のファイルマネージャ表示機能は1画面に1個のみ配置可能です。	画面上へ配置する特殊データ表示器(ファイルマネージャ表示機能)は1つにしてください。2個目からの配置に関しては動作が保証できません。	
1620	1	ウィンドウ画面上では特殊データ表示器のファイルマネージャ機能は使用できません。	ベース画面上に貼り付けた特殊データ表示器にてファイルマネージャ機能を使用してください。	
1621	1	サンプリングデータ表示器は1画面に1個のみ配置可能です。	画面上へ配置するサンプリングデータ表示器は1つにしてください。2個目からの配置に関しては動作が保証できません。	—
1623	1	ウィンドウ画面上ではサンプリングデータ表示器のデータ編集機能は使用できません。	ウィンドウ画面上でサンプリングデータ表示器を使用する場合は、データ編集機能は使用しないでください。	☞ GP-Pro EX リファレンスマニュアル「24.8.2 サンプリングデータ表示器の設定ガイド 基本設定」(24-92 ページ)
1624	1	スイッチ/ランプの過去表示機能は1画面に1個のみ配置可能です。	画面上へ配置するスイッチ/ランプ(過去表示機能)は1つにしてください。2個目からの配置に関しては動作が保証できません。	☞ GP-Pro EX リファレンスマニュアル「17.8.2 ヒストリカルトレンドグラフの制限事項 過去データ表示の制限事項」(17-71 ページ)
1625	1	ヒストリカルトレンドグラフの過去データ表示機能は1画面に1個のみ配置可能です。	画面上へ配置するヒストリカルトレンドグラフ(過去表示機能)は1つにしてください。2個目からの配置に関しては動作が保証できません。	

次のページに続きます。

エラー番号	画面ID/No/行	エラーメッセージ	対処方法	参照
1626	1	常時読み込みが設定されたウィンドウは1画面に3個(グローバルウィンドウ使用時は2個)まで配置可能です。	画面上へ配置する常時読み込み設定のウィンドウ部品は3個(グローバルウィンドウ使用時は2個)までにしてください。それ以降のウィンドウは動作しませんが常時読み込みあり3個+通常381個という形まで画面上に配置することは可能です。	 GP-Pro EX リファレンスマニュアル「18.7.1 ビット動作」(18-22ページ)
1627	1	1つの画面に呼び出すことのできるキーボードは1個のみです。	画面上へ配置するキーボード(キーボード登録による画面呼び出し)は1つにしてください。2個目からの配置に関しては動作が保証できません。	 GP-Pro EX リファレンスマニュアル「9.10 画像を貼り付けたい」(9-62ページ)
1628	1	動画表示器は1画面に1個のみ配置可能です。	画面上へ配置できる動画表示器は1つです。2個目からの動作は保証できません。	—
1629	1	文字列テーブルでストロークフォントのみ表示可能な言語が設定されています。文字列テーブルを使用する場合は、フォントタイプをストロークフォントに設定してください。	文字列テーブルの[言語切替言語]で選択された言語の中にはストロークフォントでのみ表示可能な言語があります。[文字タイプ]で[文字列テーブル]を使用する場合は、[フォントタイプ]を[ストロークフォント]に設定してください。	 GP-Pro EX リファレンスマニュアル「15.7.1 メッセージ表示器の設定ガイド 表示設定(文字列テーブル)」(15-38ページ)
1630	1	テキストアラームは1画面に1個のみ配置可能です。	画面上へ配置するテキストアラームは1つにしてください。2個目からの配置に関しては動作が保証できません。	 GP-Pro EX リファレンスマニュアル「19.10.4 テキストアラーム部品の制限事項」(19-138ページ)

- 1 ベース[番号:コメント]、ウィンドウ[番号:コメント]、ヘッダ[コメント]、フッタ[コメント]、VM[番号:コメント]が表示されます。

## ロジックプログラム作成時

## ・ 命令オペランドのエラー

エラー番号	エラーメッセージ	原因と対処方法
2000	***は配列ではありません。配列の要素を削除するか、***を配列に指定して下さい。 (***はシンボル変数名)	非配列変数に対して配列要素指定しています。配列の要素指定を削除するか、変数を配列指定してください。
2001	***の配列要素範囲を超えています。要素範囲内で使用するか、配列要素数を大きくして下さい。 (***はシンボル変数名)	配列要素指定が定数で配列の要素数を超えています。 変数名 [n] ...n=0 ~ 要素数 -1 定数値をシンボル変数設定時に設定した、要素数 -1 以下に設定してください。
2002	***のメンバ指定はできません。メンバ指定を削除して下さい。 (***はシンボル変数名)	構造体変数でないのにメンバ名を指定している。(例: aaa.PT aaa は整数変数。)メンバ指定が可能は変数のタイプはタイマ、カウンタ、日付、時刻、PID になります。以外のタイプの場合は、メンバ指定を削除してください。
2003	***に指定されたメンバは存在しません。メンバ指定を確認して下さい。 (***はシンボル変数名)	構造体変数の存在しないメンバ名を参照しています。メンバ指定を変更してください。
2004	***はビット参照できません。整数タイプに変更するか、ビット参照を削除して下さい。 (***はシンボル変数名)	ビット参照できるタイプは、整数タイプになります。整数タイプなら配列・非配列に問わずビット参照可能です。ビット参照を希望する場合はタイプを整数変数に変更してください。整数変数を使用できない場合は、ビット参照を削除してください。
2005	***はバイト参照できません。整数タイプに変更するか、バイト参照を削除して下さい。 (***はシンボル変数名)	バイト参照できるタイプは、整数タイプになります。整数タイプなら配列・非配列に問わずバイト参照可能です。バイト参照を希望する場合はタイプを整数変数に変更してください。整数変数を使用できない場合は、バイト参照を削除してください。
2006	***はワード参照できません。整数タイプに変更するか、ワード参照を削除して下さい。 (***はシンボル変数名)	ワード参照できるタイプは、整数タイプになります。整数タイプなら配列・非配列に問わずワード参照可能です。ワード参照を希望する場合はタイプを整数変数に変更してください。整数変数を使用できない場合は、ワード参照を削除してください。
2500	「ロジックを使用しない」設定になっていますが、ロジックが存在します	ロジックプログラムを「使用しない」の設定になっているにも関わらず、ロジックプログラムが記述されています。記述しているロジックプログラムは「使用しない」の設定の場合は、動作しません。描画動作上問題ありませんが、ロジックプログラムが必要な場合は削除することをお勧めします。

次のページに続きます。

エラー番号	エラーメッセージ	原因と対処方法
2501	この機種ではロジックを使用できません。	ロジックプログラムが使用できない機種の場合、ロジックプログラムを記述しても、ロジックプログラムは動作しません。ロジックプログラムを「使用する」「使用しない」の設定に関わらず使用できません。ロジックプログラムを記述しても、描画動作上問題ありませんが、ロジックプログラムが必要なければ削除することをお勧めします。
3000	*** 内で RET 命令は使用出来ません。変更又は削除して下さい。 (*** はロジック画面名)	INIT、MAIN のロジック画面で RET 命令が使用されています。RET 命令は、SUB-*** 以外の画面で使用することができません。INIT、MAIN のロジック画面で RET 命令を使用している場合は RET 命令を削除してください。
3001	*** 内で EXIT 命令は使用出来ません。変更又は削除して下さい。 (*** はロジック画面名)	INIT、SUB-*** のロジック画面で EXIT 命令が使用されています。EXIT 命令は、MAIN 以外の画面で使用することができません。INIT、SUB-*** のロジック画面で EXIT 命令を使用している場合は EXIT 命令を削除してください。
3002	*** 内 (*** はロジック画面名) で *** (*** は命令名) 命令は使用出来ません。変更又は削除して下さい。	INIT のロジック画面で JMP、JSR、LWA の命令を使用することはできません。INIT のロジック画面で使用している JMP、JSR、LWA の命令を削除してください。JMP、JSR、LWA の命令は、MAIN、SUB-*** のみ使用可能です。
3003	*** 内 (*** はロジック画面名) で *** (*** は命令名) 命令は使用出来ません。変更又は削除して下さい。	INIT、SUB-*** のロジック画面で PBC、PBR 命令が使用されています。EXIT 命令は、MAIN 以外の画面で使用することができません。INIT、SUB-*** のロジック画面で EXIT 命令を使用している場合は EXIT 命令を削除してください。
3004	分岐のネスト数が最大値を超えています。分岐を分割して下さい。	分岐の階層 (ネスト) が 25 を超えています。分岐の階層を 25 以下にしてください。  : 1 ネスト  : 2 ネスト
3005	FOR-NEXT 命令のネスト数が最大値を超えています。ネスト数を 64 以下にして下さい。	FOR-NEXT が実行されるプログラム内に FOR-NEXT の命令が複数登録され、階層 (ネスト) が 64 階層を越えました。64 階層以内でプログラム作成を行ってください。
3200	未対応命令が設定されています。	命令が未定義命令が存在します。未定義命令を削除するか命令が存在するエディターバージョンをご利用ください。
3201	*** 命令は、この位置に配置できません。行の最後に配置してください (*** は命令名)	接続線の右端 (行の最後) のみ設定できる命令が設定されていない。ロジック制御命令 (JMP、JSR、RET、EXIT、PBC、LWA) は行の最後のみ設定できます。ロジック制御命令より右に設定した命令を削除するか、ロジック制御命令行の最後に設定してください。

次のページに続きます。



エラー番号	エラーメッセージ	原因と対処方法
3202	FOR-NEXT 命令のループ内で***命令は使用出来ません。***命令を削除して下さい。 (***は命令名)	FOR ~ NEXT のプログラム内では、ロジック制御命令 (JMP、JSR、RET、EXIT、PBC、LWA) は使用できません。ロジック制御命令を削除するか、FOR ~ NEXT 処理を変更してください。
3203	***命令に対応する***命令が見つかりません。***を追加して下さい。 (***は命令名)	FOR に対する NEXT 命令および NEXT に対する FOR の命令がプログラム内で見つかりません。FOR または NEXT 命令を追加するか、FOR または NEXT 命令を削除してください。
3204	***命令は同じ行内に他の命令を配置することができません。他の命令を全て削除して下さい。 (***は命令名)	FOR、NEXT、PBR のいずれかの命令がある場合は、行上に命令または分岐の設定ができません。FOR、NEXT、PBR 以外の命令を削除するか、FOR、NEXT、PBR の命令を削除してください。
3205	PBC 命令に対応する PBR 命令が見つかりません。対応を確認して下さい。	PBC 命令に対する PBR 命令がありません。必ず PBC 命令に対する PBR 命令を PBC 命令より下に設定してください。
3206	PBR 命令に対応する PBC 命令が見つかりません。対応を確認して下さい。	PBR 命令に対する PBC 命令がありません。必ず PBR 命令より多く PBC 命令を設定してください。
3207	***は行の最後に設定することができません。応用命令またはコイル命令を追加して下さい。(***は命令名)	入力系の命令は行の最後に設定できません。行の最後に応用命令またはコイルを追加してください。
3208	***の後に命令が存在します。命令を削除して下さい。 (***は命令名)	行の最後に設定できる命令の後に命令が存在します。後の命令を削除してください。
3300	JMP 命令で指定された***が存在しません。ラベルを確認して下さい。(***はラベル名)	JMP 命令で指定された、ラベル名が存在しません。JMP 命令で指定されたラベルを追加するか、使用中のラベル名が間違っています。
3301	JMP 命令で指定された***が他のロジックに設定されています。同一ロジック内のラベルを設定して下さい。(***はラベル名)	JMP 命令で指定されたラベル名が、他のロジック画面で使用されています。JMP 命令は同一ロジック画面しか使用できません。ラベル名を変更するか、JMP 命令を削除してください。
3302	JSR 命令で指定された***が存在しません。サブルーチンを確認して下さい。(***はサブルーチン名)	JSR 命令で指定されたサブルーチンが存在しません。JSR 命令の設定内容を変更するか、新規にサブルーチンを作成してください。
3400	未対応オペランドが設定されています。	命令に未定義オペランドが存在します。オペランドを設定してください。
3401	***オペランドが設定されていません。オペランドを設定して下さい。(***はオペランド名)	命令に未定義オペランドが存在します。オペランドを設定してください。
3402	配列要素は整数変数又は定数の指定をして下さい。	配列指定を設定した変数を使用する場合は、要素指定を整数定数にしてください。または整数変数のタイプを非配列に設定してください。整数変数のタイプは必ず非配列変数で設定し内部変数を使用してください。

次のページに続きます。

エラー番号	エラーメッセージ	原因と対処方法
3403	参照要素は整数変数又は定数の参照をして下さい。	指定(ビット、バイトおよびワード)要素は整数定数もしくは整数タイプ非配列変数でなければいけません。 整数タイプ非配列変数の属性は、内部でなければいけません
3404	***が複数のPID命令で使用されています(***は命令名)	1個のPID変数が、複数のPID命令に使用されています。PID変数1個に対して、PID命令1個になります。どちらか一方のPID命令を削除するか、PID変数を追加してください。
3405	オペランド***のタイプが合致しません。タイプ変更して下さい。(***はオペランド名)	オペランドS1、S2、S3、D1、HPなどのタイプが不正です。各オペランドには取り得るタイプが決まっており、これ以外のものを指定しています
3406	オペランド***に定数は設定出来ません。定数以外のタイプを指定して下さい。(***はオペランド名)	オペランドD1に、定数の設定はできません。定数以外のタイプを指定してください。
3407	オペランド***に入力属性タイプを設定できません。入力属性以外のタイプを指定して下さい。(***はオペランド名)	オペランドD1に、入力定義された変数タイプは指定できません。入力の定義を解除するか、他の変数タイプを入力してください。
3408	オペランド***のタイプ又は属性が他のオペランドと一致しません。タイプ又は属性を変更して下さい。(***はオペランド名)	オペランドS1、S2、S3またはD1の内(変数方式で配列の場合は要素数も含める)にタイプが異なるオペランドが存在します。他のオペランドと統一させるために、タイプ変更してください。
3409	オペランド***の定数値がオペランド***のビットサイズを超えました。定数値をビットサイズ内で設定して下さい。(***はオペランド名)	オペランドの定数値がオペランドで指定している変数のビットサイズの範囲を超えています。ビットサイズを範囲に設定してください。
3410	オペランドS1が整数定数ではありません。整数定数を設定して下さい。	オペランドS1は整数定数のみ指定可能です。整数定数以外を設定してる場合は、整数定数を設定してください。
3411	オペランドS1が整数定数の範囲外です。0~7の値で設定して下さい。	オペランドD1のタイプが違います。D1に指定可能なタイプはビットタイプになります。ビットタイプを設定してください。
3412	オペランドD1のタイプが違います。ビットタイプを設定して下さい。	オペランドD1のタイプが違います。D1に指定可能なタイプはビットタイプになります。ビットタイプを設定してください。
3413	オペランドD1に外部入力属性を割り付けることができません。属性変更するか、オペランドの設定を変更して下さい。	オペランドD1に外部入力属性を設定した変数を割り付けることができません。入力属性変更するか、別の変数をオペランドに設定してください。
3414	オペランドに設定されているタイプが全て同一ではありません。全てのタイプを同一タイプに合わせて下さい。	オペランドに設定しているタイプが異なります。全て同一タイプに変更してください。

次のページに続きます。

エラー番号	エラーメッセージ	原因と対処方法
3415	オペランド***の定数値がオペランドD1のビットサイズを超えました。定数値をビットサイズ内で設定して下さい。(***はオペランド名)	オペランドS1またはS2の整数定数値がD1の変数タイプの入力可能ビットサイズの範囲を超えました。オペランドS1またはS2の整数定数値を、D1の入力可能ビットサイズ範囲内に設定してください。
3416	オペランドの配列要素数が異なります。配列要素数を確認して下さい。	オペランドS1、S2およびD1が整数配列の場合、配列要素数が異なります。配列の要素数を合わせてください。しかし、S2のみ整数の場合は、S1とD1の配列要素数が異なっていても問題ありません。
3417	オペランドS1とオペランドD1に設定されているタイプが異なります。タイプを合わせて下さい。	オペランドS1とオペランドD1の変数タイプが異なります。変数のタイプを合わせてください。
3418	オペランド***は配列要素でなければなりません。配列要素を設定して下さい。(***はオペランド名)	オペランドS1、D1がビット、整数、フロート、リアルの配列要素、システム変数(整数配列の要素)以外を設定しています。オペランドS1、D1には、ビット、整数、フロート、リアルの配列要素、システム変数(整数配列の要素)を設定してください。
3419	オペランドS2の値がオペランド*** (***) (***) (***)はオペランド名) (***) (***) (***)は命令名)の配列要素数を超えています。 (***) (***) (***)はオペランド名) (***) (***) (***)は命令名)の配列要素数を大きくするか、S2の設定を変更して下さい。	オペランドS2の値がオペランドS1の配列要素数を超えています。オペランドS1の配列要素数を大きくするか、オペランドS2の値をオペランドS1の配列要素数以下に設定してください。
3420	オペランドS2の値とオペランド*** (***) (***) (***)はオペランド名) (***) (***) (***)は命令名)の要素番号を足した結果、 (***) (***) (***)は命令名)の配列要素数を超えています。要素番号を小さくするか、S2の設定を変更して下さい。	オペランドS2が整数定数、オペランドS1またはD1の要素番号+オペランドS2の値が、オペランドS1またはD1の配列範囲を超えています。オペランドS2の値をオペランドS1またはD1の範囲内に設定するか、オペランドS1またはD1の配列要素を大きくしてください。
3421	オペランド***は、整数、フロート、リアルの配列要素でなければなりません。配列要素を設定して下さい。(***はオペランド名)	オペランドS1またはD1に、整数・フロート・リアル変数の配列要素、またはシステム変数(整数変数)以外を設定しています。オペランドS1またはD1に、整数・フロート・リアル変数の配列要素、またはシステム変数(整数変数)を設定してください。
3422	オペランドS2の値が範囲外です。範囲内で設定して下さい。	オペランドS2が整数定数で、0 S2 31または0 S2 32 × size-1 (配列指定の場合)以外の値になっています。設定範囲内の値を設定してください。
3423	オペランドS2の値が設定範囲外です。範囲内で設定して下さい。	RCL、RCR命令のオペランドS2が整数定数で、0 S2 32以外の値になっています。設定範囲内の値を設定してください。
3424	オペランド***の値が設定範囲外です。範囲内で設定して下さい。(***はオペランド名)	DECO命令のオペランドS1が整数定数で、0 S1 31以外の値が、SAL、SAR命令のオペランドS2が整数定数で0 S2 31以外の値になっています。設定範囲内の値に設定してください。

次のページに続きます。

エラー番号	エラーメッセージ	原因と対処方法
3425	オペランド S1 とオペランド S2 に設定されているタイプが同一ではありません。同一タイプのものを設定して下さい。	オペランド S1 とオペランド S2 のタイプが違います。オペランド S1 とオペランド S2 を同一タイプのものを設定してください。
3426	オペランド * * * の値がオペランド * * * の設定可能範囲を超えています。定数値を変更して下さい。 ( * * * はオペランド名)	オペランド S1 とオペランド S2 の整数定数のビットサイズが入力可能な範囲を超えています。変数のビットサイズの範囲で設定してください。
3427	オペランド S1 が 0 です。範囲内で設定して下さい。	オペランド S1 が整数定数でゼロになっています。定数をゼロ以外に設定してください。
3428	設定値にタイプが一致しないものがあります。全てのタイプを同一タイプに合わせして下さい。	オペランド S2 (S3、S4 または S5) と他のオペランドとのタイプが異なります。タイプが異なる場合は、同一タイプに変更してください。
3429	設定値に不正なタイプが設定されています。タイプを確認して下さい。	設定値に不正なタイプが設定されています。タイプを確認して不正なタイプの場合は削除してください。または正常なタイプに変更してください。
3430	オペランド S2 に定数を設定できません。定数以外を指定して下さい。	オペランド S2 に定数は設定できません。定数以外の変数を設定してください。
3431	設定値 * * * に不正な値が設定されています。正常値になるよう処理を行って下さい。( * * * はメンバ名)	ダイアログからの設定は下記の設定値以外は範囲外です。 下記の範囲内で設定してください。 時 : 0 ~ 23 分 : 0 ~ 59 秒 : 0 ~ 59
3432	設定値 * * * に不正な値が設定されています。正常値になるよう処理を行って下さい。( * * * はメンバ名)	ダイアログからの設定は下記の設定値以外は範囲外です。 下記の範囲内で設定してください。 年 : 0 ~ 99 月 : 1 ~ 12 日 : 1 ~ 31
3433	オペランド S1 が整数定数の範囲外です。1 ~ 10 の値で設定して下さい。	オペランド S1 には定数の 1 ~ 10 以外の値を設定できません。オペランド S1 には定数の 1 ~ 10 を設定してください。
3470	オペランド * * * ( * * * はオペランド名) に配列変数である * * * ( * * * シンボル変数名) を設定できません	オペランド S1、S2、D1 に整数配列 (システム変数) 全体を設定しています。S1、S2、D1 には配列全体の設定はできません。配列を指定する場合は、配列の要素指定をしてください。
3471	オペランド * * * は M、D、F および R アドレス以外を割り付けることはできません。M、D、F および R アドレスを設定して下さい。( * * * はオペランド名)	オペランド S1 または D1 が M、D、F、R のアドレス以外を設定しています。M、D、F、R のアドレスを S1 または D1 に設定してください。
3472	オペランド S2 の値が、オペランド * * * のデバイス数を超えています。S2 の値を小さくして下さい。( * * * はオペランド名)	オペランド S2 が整数定数でオペランド S1 または D1 の範囲を超えています。S2 の値を範囲内にしてください。
3473	オペランド S2 の値とオペランド * * * のアドレスを足した結果、 * * * のデバイス範囲を超えています。S2 の値を小さくするか、 * * * のアドレスを変更して下さい。( * * * はオペランド名)	オペランド S2 が整数定数でオペランド D1+S2 の値が D1 の範囲を超えています。または S1+S2 が S1 の範囲を超えています。S2 の値を設定範囲内にしてください。

次のページに続きます。

エラー番号	エラーメッセージ	原因と対処方法
3474	オペランド***はD、FおよびRアドレス以外を割り付けることはできません。D、FおよびRアドレスを設定して下さい。 (***はオペランド名)	オペランドD1またはS1に整数・フロート・リアル変数以外を設定しています。オペランドD1またはS1に整数・フロート・リアル変数を設定してください。
3600	命令が設定されていません。実行上意味がありません。	空行が存在します。動作上問題ありませんが、必要なければ削除することをお勧め致します。
3601	命令が設定されていない分岐が存在しません。実行上意味がありません。	分岐に命令がありません。意図して設定している場合は問題ありません。使用用途が無い場合は削除することをお勧め致します。
3650	***にプログラムの記述がありません (***はサブルーチン名)	空のサブルーチンプログラムが存在します。動作上問題ありませんが、使用用途が無い場合は削除することをお勧め致します。
3651	***は使用されておりません (***はサブルーチン名)	サブルーチンプログラムがあるがサブルーチンコールされていません。動作上問題ありませんが、使用用途が無い場合は削除することをお勧め致します。
3652	ラベルが連続して定義されています。	ラベルが連続して存在します。動作上問題ありませんが、必要なければ削除することをお勧めいたします。
3700	1行内にコイル命令のみ配置されています。この命令は必ず実行されます。	行中にコイル命令のみ1個だけ存在します。動作上問題ありませんが、常時ONするコイルになります。
3900	***は複数のコイルで使用されています (***はシンボル変数名)	1つの変数で2つ以上のコイル命令を使用しています。(二重コイル)意図的に使用している場合は問題ありません。通常は1つの変数に対して1コイル命令を使用します。(ただし、SET、RESET命令は別です。)
3901	***が複数のタイマ命令で使用されています (***はシンボル変数名)	タイマ変数が複数のタイマ命令で使用されています。誤動作の原因となるので、カウンタ命令1個に対して1変数で定義してください。
3902	***が複数のカウンタ命令で使用されています (***はシンボル変数名)	カウンタ変数が複数のカウンタ命令で使用されています。カウンタ命令1個に対して1変数で定義してください。
3903	オペランドS1の定数が範囲外です。正の定数値を設定して下さい。	オペランドS1の定数が設定外です。正の定数値を設定してください。
3904	オペランドS2にゼロが入っています	オペランドS2が整数定数でかつゼロの場合オペランドS2にゼロが入っています。
3905	オペランドS1とオペランドS2が共に整数定数です	オペランドS1、S2ともに定数を設定。オペランドS1またはS2を定数以外に設定してください。
3906	PTの値がゼロです	PTの値がゼロです。PTの値を別途設定している場合は問題ありません。
3907	PVの値がゼロです	PVの値がゼロです。PVの値を別途設定している場合は問題ありません。

- その他エラー

## 【I/O 設定】

エラー番号	エラーメッセージ	原因と対処方法
4500	マスタ属性を持つ I/O ドライバが複数存在します	マスタ属性を持つ I/O ドライバが複数存在します。

## 【変数】

エラー番号	エラーメッセージ	原因と対処方法
2007	非保持の内部ビット変数が多すぎます。	非保持の内部ビット変数の総量が保持非保持設定の非保持数を超えています。
2008	保持の内部ビット変数が多すぎます。	保持の内部ビット変数の総量が 256 デバイスを超えています。
2009	入力ビット変数が多すぎます。	入力 I/O に割り当てたビット変数の総量が 256 デバイスを超えています。
2010	出力ビット変数が多すぎます。	出力 I/O に割り当てたビット変数の総量が 256 デバイスを超えています。
2011	非保持の内部整数変数が多すぎます。	非保持の内部整数変数の総量が保持非保持設定の保持数を超えています。
2012	保持の内部整数変数が多すぎます。	保持の内部整数変数の総量が保持非保持設定の保持数を超えています。
2013	入力整数変数が多すぎます。	入力 I/O に割り当てた整数変数の総量が 64 デバイスを超えている。
2014	出力整数変数が多すぎます。	出力 I/O に割り当てた整数変数の総量が 64 デバイスを超えている。
2015	保持のフロート変数が多すぎます。	保持のフロート変数の総量が保持非保持設定の保持数を超えています。
2016	非保持のフロート変数が多すぎます。	非保持のフローと変数の総量が保持非保持設定の保持数を超えています。
2017	保持のリアル変数が多すぎます。	保持のリアル変数の総量が保持非保持設定の保持数を超えています。
2018	非保持のリアル変数が多すぎます。	非保持のリアル変数の総量が保持非保持設定の保持数を超えています。
2019	保持のタイマ変数が多すぎます。	保持のタイマ変数の総量が保持非保持設定の保持数を超えています。
2020	非保持のタイマ変数が多すぎます。	非保持のタイマ変数の総量が保持非保持設定の保持数を超えています。
2021	保持のカウンタ変数が多すぎます。	保持のカウンタ変数の総量が保持非保持設定の保持数を超えています。
2022	非保持のカウンタ変数が多すぎます。	非保持のカウンタ変数の総量が保持非保持設定の保持数を超えています。
2023	保持の日付変数が多すぎます。	保持の日付変数の総量が保持非保持設定の保持数を超えています。
2024	非保持の日付変数が多すぎます。	非保持の日付変数の総量が保持非保持設定の保持数を超えています。

次のページに続きます。

エラー番号	エラーメッセージ	原因と対処方法
2025	保持の時刻変数が多すぎます。	保持の時刻変数の総量が保持非保持設定の保持数を超えています。
2026	非保持の時刻変数が多すぎます。	非保持の時刻変数の総量が保持非保持設定の保持数を超えています。
2027	PID 変数が多すぎます。	PID 変数の数が 8 個を超えています。
2028	アドレス数が多すぎます。	CHMI リフレッシュテーブルのレコード数が運用上限値 (256) を超えています。
2029	アドレス (整数) が多すぎます。	縮約による増加分も含めてワードアドレス (ED) が 256 個を超えています。
2030	未割り当てのシンボル「0」がロジックで使用されています。アドレスを設定してください。	未割り当てのシンボルをロジックで使用しています。
2502	保持型の変数「0」を I/O に割り付けています。	変数方式時保持型の変数が I/O に割り当てられています。
2031	一つの変数「0」を複数の I/O に割り付けています。	1 つの変数を複数の I/O に割り付けています。
2032	ターミナルに割り付けていない I/O 変数「0」を利用しています。	アドレス方式時に割り付けられていない I/O 変数を使用しています。

## 【コメント】

エラー番号	エラーメッセージ	原因と対処方法
3006	変数コメントが多すぎます。	変数コメントの数が上限数 (変数コメントブロック数 × 40+210) を超えています。
3007	行コメントが多すぎます。	行コメントの数が上限数 (行コメントブロック数 × 10+55) を超えています。

## 【メモリチェック】

エラー番号	エラーメッセージ	原因と対処方法
3008	ロジックのステップ数が多すぎます。	ロジックの総ステップ数がロジックの上限数 (ロジックブロック数 × 500) を超えています。

## 転送エラー

## 転送共通エラー

エラーメッセージ	原因と対処方法	参照
不正な IP アドレスです。	指定した IP アドレスの値が不正です。 正しい IP アドレスを入力してください。	
IP アドレスは既に存在します。 追加 / 変更できません。	IP アドレスの追加時に既に存在する IP アドレスを設定しています。重複しない IP アドレスを指定してください。	—
フォルダ一覧を受信できませんでした。 ルートフォルダへ移動しました。	CF カードツールにて表示されているフォルダが表示できなくなったためルートフォルダへ移動しました。 表示できない原因としてフォルダが削除された、CF カードが差し替えられた等が考えられます。 フォルダが削除されていないか、もしくは CF カードが抜かれていないか確認してください。	☞ GP-Pro EX リファレンスマニュアル 「32.5 CF カードにデータだけを転送したい」(32-28 ページ)
指定のファイル名は既に存在しません。 別の名前を指定してください。	CF カードツールにてファイルをリネームしようとして指定したファイル名が既に存在する場合表示されます。 重複しないファイル名を指定してください。	
接続が切断されました。CF カードツールを終了します。	ケーブルが抜かれた等が原因で接続が切れました。 ケーブルが正しく接続されているか等を確認してください。 【LAN】 ・ PC の IP アドレスが正しく設定されているか確認してください。 ・ ケーブルの種類は正しいか確認してください。 【USB】 ・ USB ケーブルはデジタル製のものが確認してください。 ・ ドライバはインストールされているか確認してください。	—
不正なパスワードです。	入力されたパスワードが間違っています。 正しいパスワードを設定してください。	☞ GP-Pro EX リファレンスマニュアル 「32.6 パスワードで転送を許可したい」 (32-31 ページ)
不正なパスワードです。送信をキャンセルしました。	パスワード入力を 3 回間違えたときに表示されます。 正しいパスワードを設定してください。	
ソケットがオープンできません。	LAN ポートが有効になっていません。 PC の LAN 設定を確認してください。	
プロジェクトファイルを読み込めません。	ファイルが壊れているか、もしくはプロジェクトファイルではないファイルが選択されています。正しいプロジェクトファイルを選択してください。	—
本体に接続できませんでした。	ケーブルが抜けているか、非対応のものが使用されています。ケーブル接続・種類や USB ドライバのインストールを確認してください。	☞ GP-Pro EX リファレンスマニュアル 「32.2 USB 転送ケーブルで転送したい」 (32-5 ページ)

次のページに続きます。



エラーメッセージ	原因と対処方法	参照
ファイルアクセスに失敗しました。	ファイルのアクセス権がない可能性があります。 PCのアクセス権限を確認してください。	
通信中にエラーが発生しました。	ケーブルが断線しているか、またはノイズの影響で通信ができません。ケーブル周りの状況を確認し、ケーブルが断線していないか、またはノイズ等が発生していないか確認してください。(USBの延長ケーブル等を使用している場合は使用しない等)	—
メモリエラーが発生しました。	PCのメモリが不足しています。他のアプリケーションを終了するかOSを再起動後、再度転送ツールを実行してください。	
接続先の本体を認識できませんでした。 GP-Pro EX もしくは転送ツールのサポート対象機種かどうかを確認してください	エディタの認識できない機器に転送しようとしています。 接続先の本体がGPかどうか確認してください。	
情報取得に失敗しました。	システムがダウンロードされていない、あるいは未サポート機種の可能性があります。サポートされている機種かどうか確認の上、本体のシステムを再度転送し直してください。	☞ GP-Pro EX リファレンスマニュアル「32.1 設定メニュー」(32-2 ページ)
不正なパスワードです。送信をキャンセルしました。	パスワードチェックができません。ファイルが破損した可能性があります。ノイズ等が発生していない場所等で再度確認してください。(USBの延長ケーブル等を使用している場合は使用しない等)	—
本体は通信中。接続できませんでした。	他のパソコンにて通信中です。 アクセス等が終わるまでお待ちください。	
データが書込めませんでした。	ファイルのアクセス不良、破損等でGPへ書き込むことができません。 PCのハードディスクのアクセス権をチェックした後、強制転送を行ってください。	☞ GP-Pro EX リファレンスマニュアル「32.10.1 [転送設定] の設定ガイド」(32-57 ページ)
プロジェクトが受信できませんでした。再度、実行してください。	受信の際にデータエラーが発生しました。ノイズ等が発生していない場所等で再度確認してください。(USBの延長ケーブル等を使用している場合は使用しない等)	—
プロジェクトファイルが送信されていません。	受信先にプロジェクトデータが存在しません。(転送相手がお買い上げ画面等)または、データが壊れています。 まず、プロジェクト送信を行ってください。	☞ GP-Pro EX リファレンスマニュアル「32.1 設定メニュー」(32-2 ページ)
CFカードデータが保存できませんでした。	CFカードが正しく挿入されていないか、ライトプロテクトがかけられています。 CFカードを使用できる状態にしてください。(デジタル製のCFカード以外はアクセスできない場合があります。)	—

次のページに続きます。

エラーメッセージ	原因と対処方法	参照
プロジェクトが転送先本体と異なります。	比較にて転送元プロジェクトと本体内部にあるプロジェクトが異なるため比較できませんでした。比較実行できるのは同一プロジェクトのみとなります。	☞ GP-Pro EX リファレンスマニュアル「32.4 転送前にプロジェクトの変更点を確認したい(比較)」(32-25 ページ)
フォーマットエラー。	本体のデバイスの初期化に失敗しました。ノイズ等が発生していない場所等で再度転送し直してください。	
通信先デバイスが見つかりません。	指定の通信デバイスがない、または使用できません。 PC の LAN 設定や USB ドライバがインストールされているかどうか確認してください。	—
転送に失敗しました。	通信中にエラーが発生しました。ノイズ等が発生していない場所等で再度確認してください。(USB の延長ケーブル等を使用している場合は使用しない等)	
転送先の本体で書き込みエラーが発生しました。	フラッシュの故障等が原因で本体へのデータ書き込みに失敗しました。強制転送を行っても改善されない場合は、サポートダイヤルへお問い合わせください。	☞ GP-Pro EX リファレンスマニュアル「32.10.1 [転送設定] の設定ガイド」(32-57 ページ)
CF カード未サポート機種または CF カードが挿入されていません。	CF カードが正しく挿入されているかどうか確認してください。(デジタル製の CF カード以外はアクセスできない場合があります。)	—
指定のファイル名は既に存在します。別の名前を指定してください。	転送先にコピーするファイルと同じ名前のディレクトリが存在します。CF カードの内容を一旦、削除してから、再度転送してください。プロジェクト転送時にエラーが発生した場合は、強制転送を行ってください。	☞ GP-Pro EX リファレンスマニュアル「32.5 CF カードにデータだけを転送したい」(32-28 ページ)
CF カードへ書込めませんでした。	CF カードが正しく挿入されていないか、ライトプロテクトがかけられている可能性があります。CF カード内のファイルがライトプロテクトされていないか等を PC にて確認してください。	—
転送に必要なファイルが見つかりません。	転送に必要なファイルがハードディスク上に存在しないか壊れています。再度転送ツールをインストールしなおしてください。	☞ GP-Pro EX リファレンスマニュアル「32.10.5 転送ツールのみインストールして転送したい」(32-63 ページ)
タイムアウトエラーが発生しました。	ノイズ等が発生していない場所等で再度確認してください。(USB の延長ケーブル等を使用している場合は使用しない等)	—

次のページに続きます。

エラーメッセージ	原因と対処方法	参照
例外が発生しました。	転送に必要なモジュールが正しくインストールされていない可能性があります。再度転送ツールをインストールしなおしてください。	☞ GP-Pro EX リファレンスマニュアル「32.10.5 転送ツールのみインストールして転送したい」(32-63 ページ)
プロジェクトデータを転送できません。プロジェクトのデータサイズが最大容量を超えています。	転送しようとしたプロジェクトファイルのデータサイズが GP の画面容量を超えています。不要な画面データを削除する等の処理を行い、データサイズを減らしてください。	☞ GP-Pro EX リファレンスマニュアル「5.7 プロジェクト情報をみたい」(5-36 ページ)

### モデム転送時のエラー

エラーメッセージ	原因と対処方法	参照
I/O ドライバが異なるためモデムでは転送できません。	モデム転送時に I/O ドライバの種類またはバージョンが一致しなかったため転送を行えませんでした。	—
ランタイムシステムが異なるためモデムでは転送できません。	モデム転送時にランタイムシステムまたはプロトコルのバージョンが一致しなかったか、プロトコルの種類が異なるため転送を行えませんでした。	—
フォント設定が異なるためモデム転送はできません。	モデム転送時に登録されているフォントの種類が一致しなかったため転送を行えませんでした。	—
プロジェクトまたは編集エディタのバージョンが異なるためモデムでは転送できません。	モデム転送時にプロジェクトの種類または編集バージョンが異なるため転送を行えませんでした。	—

### CF メモリローダ使用時のエラー

エラーメッセージ	原因と対処方法	参照
起動 CF カード作成用のファイルが見つかりません。	メモリローダ用のシステムファイルがインストールされていません。再インストールしてください。	☞ GP-Pro EX リファレンスマニュアル「32.7.2 転送手順 起動 CF カードの作成」(32-41 ページ)
バックアップファイルが作成できませんでした。	容量不足や、ファイルにアクセスできない、プロジェクトファイルが壊れているなどの原因が考えられます。出力先を再度確認してください。	—
サポートされていない機種です。	メモリローダツールがサポートされていない機種のプロジェクトが選択されています。プロジェクトファイルの機種を確認してください。	☞ GP-Pro EX リファレンスマニュアル「1.3 機種別サポート機能一覧」(1-4 ページ)
バックアップファイルが読み込めませんでした。	バックアップファイルが壊れていたり、アクセス権限がないなどの原因が考えられます。バックアップファイルの転送パスワードが設定されていないか確認してください。	☞ GP-Pro EX リファレンスマニュアル「32.6.3 転送パスワードの解除/変更」(32-34 ページ)

次のページに続きます。

エラーメッセージ	原因と対処方法	参照
メモリが確保できませんでした。	PCのメモリ不足が考えられます。他に起動しているアプリケーションを終了してみてください。	—
無効なバックアップファイルです。	バックアップファイルでないファイルを選択しています。正しいファイルを選択してください。	—

### ロジックプログラム、オンラインモニタ時のエラー

ロジックプログラムをパソコン側でモニタする際（オンラインモニタ時）に表示器からロジックプログラムが転送できない場合、以下のエラーが表示されます。

エラーメッセージ	原因と対処方法	参照
モニタの開始を失敗しました。	ケーブルが接続されていないか、通信設定が間違っている可能性があります。ケーブルが接続されていることを確認してください。また[表示(V)]メニューから[オプション設定(O)]を選択し、[モニタステップ]の[通信設定]を確認してください。	☞ GP-Pro EX リファレンスマニュアル「5.13.7 [オプション設定]の設定ガイド モニタステップ」(5-135 ページ)

## 1.6.2 表示器で表示されるエラー

### 表示器共通

#### 接続がうまくいかないときに出るエラー

接続機器（PLC など）の通信に問題がある場合に、下記のエラーメッセージが表示されます。

**MEMO** ・ 以下は全ドライバ（接続機器）共通のエラーメッセージです。各接続機器特有のエラーメッセージについては、「GP-Pro EX 機器接続マニュアル」をご覧ください。

エラー番号	エラーメッセージ	原因と対処方法	対策
RHxx006	(ドライバ名):(ポート名)で受信データがパリティエラーになりました	受信データが欠落したことにより発生しました。ノイズ、接触不良などの要因が考えられます。	ノイズ対策、コネクタの差し込みなどを確認してください。 メモリリンク方式で通信している場合は、表示器側とホスト側のデータ長/パリティビットの設定を確認し、設定を合わせてください。
RHxx007	(ドライバ名):(ポート名)で受信データがフレミングエラーになりました		
RHxx008	(ドライバ名):この機種ではEthernetを使用できません	GP-Pro EXの接続機器設定でEthernet対応ドライバを選択し、LAN接続できない本体機種に転送した場合に発生します。	本体機種がイーサネット対応しているか確認してください。対応している場合は、GP-Pro EXの機種設定が間違っていないか確認してください。
RHxx009	(ドライバ名):(ポート名)ポートを使用できません	同一のCOMポートに2種類以上のドライバを選択し手入の場合に発生します。	GP-Pro EXの接続機器設定で、COMポートの設定を確認してください。

次のページに続きます。

エラー番号	エラーメッセージ	原因と対処方法	対策
RHxx010	(ドライバ名)TCPポート番号(%d)が重なっているか、コネクションクローズ処理が完了していません。	表示器側のTCPポート番号が重複している、または通信途中で接続機器(PLC)側でリセットが行われた場合に発生します。	(1) ポート番号が重複している場合は、別々に割り振ってください。 (2) 本体をリセットしてください。
RHxx011	(ドライバ名):コネクションがクローズされました	通信途中で接続環境に問題が発生しました。	ネットワーク環境が正常か確認してください。PCとGP、PLC(接続機器)を直接繋いでPINGコマンドでIPアドレスを認識しているかなどの確認を行い要因を特定してください。
RHxx012	(ドライバ名):UDPポート番号が重なっています	表示器側のUDPポート番号が重複している場合に発生します。	ポート番号が重複している場合は、別々に割り振ってください。
RHxx013	(ドライバ名):COM1:9番ピンをVCC(5V電源供給)に設定できませんでした。接続ケーブルや接続先の機器を再確認してください。	COM1の9番ピンがRI入力として結線されています。(232C用アイソレーションユニットを使用する設定にした場合など)	GP-Pro EXの接続機器設定で、RI/VCC設定をRI設定に変更し直してください。
RHxx033	(接続機器名):通信開始要求でエラー応答を受信しました(受信エラーコード:(10進数) [(16進数)])	通信設定や配線はあっています。選択しているドライバにより考えられる要因が異なりますので、サポートダイヤルまでお問い合わせください。	
RHxx034	(接続機器名):読出し要求でエラー応答を受信しました(受信エラーコード:(10進数) [(16進数)])		
RHxx035	(接続機器名):書き込み要求でエラー応答を受信しました(受信エラーコード:(10進数) [(16進数)])		

次のページに続きます。

エラー番号	エラーメッセージ	原因と対処方法	対策
RHxx036	(接続機器名): 読み出し要求でエラー応答を受信しました(受信エラーコード:(10進数)[(16進数)]アドレス範囲外デバイスがありません)	表示器側で設定しているアドレスの読み出し要求に対し、PLC(接続機器)から認識できず、エラーコードを返してきています。表示器側でPLC(接続機器)のアドレス範囲外を要求する設定がされている可能性があります。	(1) ご使用の接続機器マニュアルで、受信エラーコードの詳細を確認してください。 (2) 設定しているアドレスがご使用の接続機器のデバイス範囲内におさまっているか確認してください。 <sup>1</sup>
RHxx037	(接続機器名): 書き込み要求でエラー応答を受信しました(受信エラーコード:(10進数)[(16進数)]アドレス範囲外デバイスがありません)	表示器側で設定しているアドレスの書き込み要求に対し、PLC(接続機器)から認識できず、エラーコードを返してきています。表示器側で、PLC(接続機器)のアドレス範囲外を要求する設定がされている可能性があります。	
RHxx038	(接続機器名): 読み出し要求でエラー応答を受信しました(受信エラーコード:(10進数)[(16進数)]書き込み専用デバイスがあります)	AGP側で設定しているアドレスの読み出し要求に対し、PLC(接続機器)から認識できず、エラーコードを返してきています。PLC(接続機器)側の書き込み専用アドレスを要求する設定がAGP側で設定している可能性があります。	(1) ) ご使用の接続機器のマニュアルで、受信エラーコードの詳細を確認してください。 (2) 表示器側でPLC(接続機器)の書き込み専用アドレスを読み込む設定になっていないか確認してください。 <sup>1</sup> データ表示器やランプなど読み込み動作を行う部品を使用している場合は、読み込み専用のアドレスに変更してください。
RHxx039	(接続機器名): 書き込み要求でエラー応答を受信しました(受信エラーコード:(10進数)[(16進数)]読み出し専用デバイスがあります)	表示器側で設定しているアドレスの書き込み要求に対し、PLC(接続機器)から認識できず、エラーコードを返してきています。表示器側で、PLC(接続機器)の読み込み専用アドレスを要求する設定がされている可能性があります。	(1) ご使用の接続機器のマニュアルで、受信エラーコードの詳細を確認してください。 (2) 表示器側でPLC(接続機器)の読み込み専用アドレスに書き込む設定になっていないか確認してください。 <sup>1</sup> スイッチやデータ表示器(入力許可)、トリガアクション、Dスクリプトなど、書き込みを行う部品を使用している場合は、読み書き可能なアドレスに変更してください。

次のページに続きます。

エラー番号	エラーメッセージ	原因と対処方法	対策
RHxx040	(接続機器名): 通信開始要求の応答データに異常がありました	PLC(接続機器)側で異常が発生しています。	通信設定や接続機器が間違っていないか確認してください。
RHxx041	(接続機器名): 読出し要求の応答データに異常がありました		
RHxx042	(接続機器名): 書込み要求の応答データに異常がありました		
RHxx043	(接続機器名): 通信開始要求の応答データがチェックサム異常になりました		
RHxx044	(接続機器名): 読出し要求の応答データがチェックサム異常になりました		
RHxx045	(接続機器名): 書込み要求の応答データがチェックサム異常になりました		
RHxx049	(接続機器名): 読出しデバイスの中に不正なデバイスがあります	間接アドレス指定で間違ったデバイスやアドレスを生成しています。	間接アドレス指定の設定が認識できるアドレス範囲におさまっているかを確認してください。
RHxx050	(接続機器名): 書込みデバイスの中に不正なデバイスがあります		
RHxx051	(接続機器名): 読出しデバイスの中にアドレス範囲外のデバイスがあります(アドレス:(デバイスアドレス))	データ表示器(文字列表示)やスクリプトの memcpy、memset などで、開始アドレスから終了アドレスまでの領域が、アドレス範囲内におさまっていません。	データ表示器(文字列表示)やDスクリプトなど、複数のアドレスにまたがる設定が、アドレス範囲内におさまっているかを確認してください。 <sup>1</sup>
RHxx052	(接続機器名): 書込みデバイスの中にアドレス範囲外のデバイスがあります(アドレス:(デバイスアドレス))		

次のページに続きます。

エラー番号	エラーメッセージ	原因と対処方法	対策
RHxx053	(接続機器名): 読出しデバイスの中に書き込み専用デバイスがありません(アドレス:(デバイスアドレス))	書き込み専用デバイスの読み出しや、読み出し専用デバイスへの書き込みを、プロトコルドライバーが検出した場合。	(1) PLC側のマニュアルから受信エラーコードの詳細を確認してください。 (2) AGP側でPLC側の書き込み専用アドレスを読み込む設定になっていないかを確認してください。数値表示器や、ランプなど読み込み動作を行う部品を使用している場合は、読み込み用のアドレスに変更するか、部品自体を設定から外すなど行い対処を行ってください。
RHxx054	(接続機器名): 書き込みデバイスの中に読出し専用デバイスがありません(アドレス:(デバイスアドレス))		
RHxx065	(接続機器名):TCPコネクションをオープンできませんでした(IPアドレス:(IPアドレス))	接続機器のIPアドレス、ポート番号が認識できていません。接続機器やHUBの電源が入っていない、ケーブルが抜けているなどの可能性があります。	(1) 表示器側と接続機器側のIPアドレス、ポート番号設定を確認してください。 (2) ネットワーク環境が正常か確認してください。PCとGP、PLC(接続機器)を直接つないでPINGコマンドでIPアドレスを認識しているかを確認するなどして要因を特定し、対策を行ってください。
RHxx066	(接続機器名):UDPで接続先が見つかりませんでした(IPアドレス:(IPアドレス))		
RHxx067	(接続機器名): 通信開始要求に応答がありません	以下の可能性があります。 (1) GPとPLCで通信設定があっていない (2) 結線の間違い、接触不良など配線に問題がある (3) PLC(接続機器)の選択が間違っている (4) PLC(接続機器)の電源が入っていない、またはリセットが行われた	(1) 表示器側とPLC(接続機器)側の通信設定があっているかを確認してください。設定例は「GP-Pro EX 機器接続マニュアル」を参照してください。 (2) 配線を再確認してください。ケーブルの導通チェックや、コネクタの差し込みを確認してください。結線については「GP-Pro EX 機器接続マニュアル」を参照してください。COM2の場合は、オンラインアダプタ(CA4-ADPONL-01)が接続されているかどうかを確認してください。 (3) GP-Pro EXの接続機器設定を確認してください。
RHxx068	(接続機器名): 読出し要求に応答がありません		
RHxx069	(接続機器名): 書き込み要求に応答がありません		

次のページに続きます。



エラー番号	エラーメッセージ	原因と対処方法	対策
RHxx070	(接続機器名): ケーブルが接続されていません (または接続機器の電源が切れています)	接続機器の電源が入っていない、ケーブルが抜けているなどの要因で、コマンドを送信できません。	(1) GP3**1 シリーズに GP3**0 シリーズで転送している。機種設定が本体 AGP の型式とあっているか確認してください。 (2) PLC(接続機器)側の電源が入っているか確認してください。 (3) ケーブルの配線があっているか、ケーブルが正常につながっているを確認してください。
RHxx071	(接続機器名): 拡張ユニット(ユニット名)が装着されていません	拡張ユニットが認識できていません。	ユニットが正しく装着されているか確認してください
RHxx072	(接続機器名): オフスキャン中の機器に対して読み出し要求が行われました	オフスキャン中の機器に対しサンプリング、拡張 D スクリプト、Pro-Server EX などより Read された場合に発生します。	通信スキャンを停止している接続機器に対してサンプリング、拡張 D スクリプト、Pro-Server EX などから読み出しが行われました。LS9550 ~ LS9559 の該当するビット <sup>2</sup> を OFF して接続機器の通信スキャンを開始してください。 ☞ GP-Pro EX リファレンスマニュアル「7.3 複数つないだ接続機器から一部切断したい」(7-10 ページ)
RHxx073	(接続機器名): オフスキャン中の機器に対して書き込み要求が行われました	オフスキャン中の機器に対しスクリプト、タッチ、Pro-Server EX などより Write された場合に発生します。	通信スキャンを停止している接続機器に対してスイッチ、D スクリプト、拡張 D スクリプト、Pro-Server EX などから書き込みが行われました。LS9550 ~ LS9559 の該当するビット <sup>2</sup> を OFF して接続機器の通信スキャンを開始してください。 ☞ GP-Pro EX リファレンスマニュアル「7.3 複数つないだ接続機器から一部切断したい」(7-10 ページ)
RHxx084	(接続機器名): 書き込み要求が多すぎて処理できませんでした	通信ドライバの処理速度を超えるタイミングで書き込みを行い続けた場合に発生します。 例) ポーレート 9600 の接続機器に対し、タグスキャンカウンタ更新のタイミングで Write し続ける場合など	高速で書き込みを行う D スクリプトなどの設定をしていないかどうか確認してください。 通信速度 9600bps など低速で通信している機器に対し、高速で ON/OFF をするビット(例: LS9400、タグのスキャンカウンタなど)を使い D スクリプトで書き込みを続けた場合にこのエラーが発生する場合があります。

次のページに続きます。

エラー番号	エラーメッセージ	原因と対処方法	対策
RHxx085	(接続機器名): 読み出し要求が多すぎて処理できませんでした	通信ドライバの処理速度を超えるタイミングで読み込みを行い続けた場合に発生します。 例) ポーレート 9600 の接続機器に対し、タグスキャンカウンタ更新のタイミングで拡張 D スクリプトなどで Read し続ける場合など	高速で読み込みを行う D スクリプトなどの設定をしていないかどうか確認してください。 通信速度 9600bps など低速で通信している機器に対し、高速で ON/OFF をするビット (例: LS9400、タグのスキャンカウンタなど) を使い D スクリプトで読み込みを続けた場合にこのエラーが発生する場合があります。

- すべての画面で発生している場合は、システムデータエリア、アラーム、グローバル D スクリプト、グローバルウィンドウ、サンプリング (ヒストリカルトレンドグラフ) など、全画面で動作する機能で設定しているアドレスを確認してください。確認方法は GP-Pro EX で [システム設定ウィンドウ] から [周辺機器一覧] を選択し、[接続機器管理アドレス一覧] で確認することができます。

GP-Pro EX リファレンスマニュアル「5.13.6 [システム設定ウィンドウ] の設定ガイド [周辺機器一覧] の設定ガイド」(5-123 ページ)

特定画面のみで発生する場合は、その画面でのみ動作する部品などのアドレスを確認してください。

- 通信スキャンを実行するか停止するかをコントロールするビットアドレスの設定範囲は内部デバイスアドレスの LS9550 ~ LS9557 です。それぞれの接続機器アドレスはビット 0 から順に各ドライバの 1 台目から割り付けられています。

LS エリア	
LS9400	ドライバ 1 の PLC1 台目
LS9431	ドライバ 1 の PLC32 台目
LS9432	ドライバ 2 の PLC1 台目
LS9463	ドライバ 2 の PLC32 台目
LS9464	ドライバ 3 の PLC1 台目
LS9495	ドライバ 3 の PLC32 台目
LS9496	ドライバ 4 の PLC1 台目
LS9527	ドライバ 4 の PLC32 台目

例) LS9550 にはドライバ 1 の 1 ~ 16 台までの通信スキャンをコントロールするビットアドレスが設定できるようになっています。

【LS9550】

15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

ビット 0: ドライバ 1 の 1 台目の PLC のスキャン ON/OFF します。

ビット 0 を ON することでドライバ 1 の 1 台目の PLC のスキャンを停止 (スキャン OFF する) します。再開する場合にはビット 0 を OFF してください。








システムエリア先頭アドレスを指定した接続機器の通信スキャンを停止することはできません。ただし、システムデータエリアを使用しない場合は通信スキャンを停止することができます。

GP-Pro EX リファレンスマニュアル「5.13.6 [システム設定ウィンドウ] の設定ガイド システムエリア設定」(5-121 ページ)

接続機器によっては、LS エリアのアドレスが 32 ビット設定できるものもあります。この場合、通信スキャンをコントロールするビットアドレスは下位の 16 ビットを使用します。

通信スキャンを OFF した場合、表示中の部品のデータは継続して表示されますが、画面切り替えを行い再度その画面を表示した場合、部品のデータは表示されません。

## RAAA で始まるエラー (アプリケーションエラー)

エラー番号	エラーメッセージ	原因と対処方法	参照
RAAA001	プロジェクトデータがありません (プロジェクトを転送してください)	プロジェクトファイルが存在していません。 プロジェクトを転送してください。	 GP-Pro EX リファレンスマニュアル「32.2.2 転送手順 パソコンから GP への転送 (送信)」(32-6 ページ)  GP-Pro EX リファレンスマニュアル「32.3.2 転送手順 パソコンから GP への転送 (送信)」(32-13 ページ)
RAAA002	プロジェクトデータの容量がオーバーしています	プロジェクトデータの総容量が最大サイズを超えている、または総画面数が 16000 ファイルを超えています。GP-Pro EX で「プロジェクト情報」を参照し、総容量を超えないようにしてください。  プロジェクトデータの総容量最大サイズは表示器の機種により異なります。(例:GP-3500T の場合、8M バイト)	 GP-Pro EX リファレンスマニュアル「5.7 プロジェクト情報をみたい」(5-36 ページ)
RAAA003	プロジェクトデータに異常があります (プロジェクトを転送してください)	プロジェクトファイルに異常があります。プロジェクトを転送しなおしてください。	 GP-Pro EX リファレンスマニュアル「32.2.2 転送手順 パソコンから GP への転送 (送信)」(32-6 ページ)  GP-Pro EX リファレンスマニュアル「32.3.2 転送手順 パソコンから GP への転送 (送信)」(32-13 ページ)
RAAA004	システム画面に異常があります (強制転送をしてください)	システム画面が存在していない、または異常です。 強制転送をしてください。	 GP-Pro EX リファレンスマニュアル「32.10.1 [転送設定] の設定ガイド」(32-57 ページ)
RAAA005	初期画面で指定された画面が存在しません (XXXX)	初期画面設定で指定した画面番号がプロジェクト内に存在していないため、画面表示できません。初期画面番号を変更するか、画面を追加してください。括弧内には指定された画面番号が表示されます。	 GP-Pro EX リファレンスマニュアル「5.13.6 [システム設定ウィンドウ] の設定ガイド 表示設定」(5-101 ページ)

次のページに続きます。

エラー番号	エラーメッセージ	原因と対処方法	参照										
RAAA006	プロジェクトデータにこのバージョンのシステムでは表示できない未サポート機能があります	ランタイムプログラムが認識できない機能が存在します。 エディタのバージョンとランタイムのバージョンが一致していない可能性があります。ランタイムのバージョンをアップしてください。	—										
RAAA007	同時に使用できる部品数がオーバーしています (最大 384 個)	1 画面に 384 個以上の部品が設定されています。 画面切替、ウィンドウオープン時に部品数がオーバーしています。使用可能な範囲内に設定しなおしてください。	☞ GP-Pro EX リファレンスマニュアル「5.14.1 画面作成の制限事項 作成できる画面数」(5-144 ページ)										
RAAA008	フォント (XXXX) がありません (フォントを追加したプロジェクトを転送してください)	表示しようとしたフォントがシステム内に存在しませんでした。使用しているフォントをシステム内にダウンロードしてください。 カッコ内には以下のフォント名を表示します。 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>日本語標準</td></tr> <tr><td>欧米標準</td></tr> <tr><td>韓国語標準</td></tr> <tr><td>中国語標準</td></tr> <tr><td>台湾語標準</td></tr> <tr><td>日本語ストローク</td></tr> <tr><td>欧米ストローク</td></tr> <tr><td>韓国語ストローク</td></tr> <tr><td>中国語ストローク</td></tr> <tr><td>台湾語ストローク</td></tr> </table>	日本語標準	欧米標準	韓国語標準	中国語標準	台湾語標準	日本語ストローク	欧米ストローク	韓国語ストローク	中国語ストローク	台湾語ストローク	☞ GP-Pro EX リファレンスマニュアル「6.4 [フォント設定] の設定ガイド」(6-19 ページ)
日本語標準													
欧米標準													
韓国語標準													
中国語標準													
台湾語標準													
日本語ストローク													
欧米ストローク													
韓国語ストローク													
中国語ストローク													
台湾語ストローク													
RAAA010	CF カードが挿入されていません、または CF カードのハッチが開いています	図形表示器で CF カードのファイルを表示しようとしたときに、CF カードが挿入されていませんでした。表示しようとしたイメージファイル、または JPEG ファイルを CF カードにコピーし、CF カードを GP3000 シリーズに挿してください。	☞ GP3000 シリーズハードウェアマニュアル										
RAAA011	CF カードからの起動に失敗しました	DIP SW1 が ON にも関わらず、CF カードからの起動に必要なファイルが存在していない。または起動に必要なファイルが異常である可能性があります。CF カードに起動用プロジェクトをコピーしなおしてください。											
RAAA012	プロジェクトデータにこの機種では表示できない未サポート機能があります。	ランタイムプログラムが認識できない機能が存在します。対応する機種に変更してください。	—										
RAAA050	時計設定でエラーが発生しました	時計データを更新する際、時計 IC に書き込みが失敗しました。 IC チップが故障している可能性があります。											

次のページに続きます。

エラー番号	エラーメッセージ	原因と対処方法	参照
RAAA051	バックアップ電池の充電が必要です	バックアップリチウム電池の電圧が低下したことが原因でバックアップ SRAM のデータが消え、時計データが正しく保持されていません。 GP へ電源を供給し十分な充電を行った上で、再度時計データを設定しなおしてください。充電は電源投入後、24 時間でバックアップ可能な限り充電され、充電を完了するには約 96 時間 (4 日間) を必要とします。	☞ GP3000 シリーズ ハードウェアマ ニュアル
RAAA100	システム先頭デバイスアドレスが正しくありません	システムデバイス先頭アドレスが正しく設定されていない、または異常です。 オフラインで正しいアドレスを設定するか、プロジェクトを転送してください。	☞ GP-Pro EX リファ レンスマニュアル 「5.13.6 [システム 設定ウィンドウ] の設定ガイド シ ステムエリア設定」 (5-121 ページ)
RAAA101	不正または未設定のデバイスアドレスがあります	部品や機能の設定で使用しているデバイスアドレスが不正です。正しいデバイスアドレスに設定しなおしてください。	—
RAAA102	接続機器からの読み出しに失敗しました (XXXX)	接続機器からの読み出しに失敗しました。 通信ケーブルが外れていないか等、接続状況を確認してください。 カッコ内には部品名が入ります。	☞ GP3000 シリーズ ハードウェアマ ニュアル
RAAA103	指定したアドレス設定が正しくありません (XXXX)	指定したアドレスが正しくありません。正しいアドレスに設定しなおしてください。	—
RAAA120	指定した関数が存在しない、または関数内にエラーがあります (D スクリプト)	D スクリプトで呼び出している関数が存在しない。または関数内にエラーがあります。関数の書式を再確認してください。	☞ GP-Pro EX リファ レンスマニュアル 「21 章 プログラ ム命令、記述式一 覧」(21-1 ページ)
RAAA121	関数のネストが 10 段階以上になっています (D スクリプト)	D スクリプトで関数のネストが 10 段階以上になっています。 if、loop 文の階層を減らしてください。  ネストとは、A 関数にて B 関数を呼び出しており、さらに B 関数では C 関数を呼び出している状態 (関数呼び出し階層) のことを言います。	☞ GP-Pro EX リファ レンスマニュアル 「21.8.3 loop - endloop」(21-64 ページ)
RAAA122	このバージョンのシステムでは実行できない未対応のスク립トが記述されています (D スクリプト)	プロジェクトデータの D スクリプトの中に未対応の機能が記述されています。ランタイムのバージョンをアップしてください。	—
RAAA123	接続機器の設定が未設定の状態です SIO 操作関数が使用されています (D スクリプト)	接続機器の設定が未設定の場合に D スクリプトで SIO 操作関数を使用しています。接続機器の設定をおこなってください。	☞ GP-Pro EX リファ レンスマニュアル 「5.13.6 [システム 設定ウィンドウ] の設定ガイド [ス クリプト設定]の設 定ガイド」(5-128 ページ)

次のページに続きます。

エラー番号	エラーメッセージ	原因と対処方法	参照
RAAA124	D スクリプト内にエラーがあります	使用している D スクリプト内にエラーがあります。命令文の書式を再確認してください。	☞ GP-Pro EX リファレンスマニュアル「21 章 プログラム命令、記述式一覧」(21-1 ページ)
RAAA130	最大数 32 個をオーバーしています (グローバル D スクリプト)	グローバル D スクリプトの総数がオーバーしています。グローバル D スクリプトの総数は最大 32 個です (関数も 1 個とカウントします)。	☞ GP-Pro EX リファレンスマニュアル「20.9.1 D スクリプト/グローバル D スクリプトの制限事項」(20-53 ページ)
RAAA131	デバイス合計が最大数 255 個をオーバーしています (グローバル D スクリプト)	グローバル D スクリプト内の全てのデバイス合計が最大の 255 デバイスをオーバーしています。メモリ操作関数等を利用して使用デバイス数を減らしてください。	
RAAA132	指定した関数が存在しないか関数内にエラーがあります (グローバル D スクリプト)	グローバル D スクリプトで呼び出している関数が存在しない。または関数内にエラーがあります。関数の書式を再確認してください。	☞ GP-Pro EX リファレンスマニュアル「21 章 プログラム命令、記述式一覧」(21-1 ページ)
RAAA133	関数のネストが 10 段階以上になっています (グローバル D スクリプト)	グローバル D スクリプトで関数のネストが 10 段階以上になっています。 if、loop 文の階層を減らしてください。  ネストとは、A 関数にて B 関数を呼び出しており、さらに B 関数では C 関数を呼び出している状態 (関数呼び出し階層) のことを言います。	☞ GP-Pro EX リファレンスマニュアル「21.8.3 loop - endloop」(21-64 ページ)
RAAA134	このバージョンのシステムでは実行できない未対応のスク립トが記述されています (グローバル D スクリプト)	プロジェクトデータのグローバル D スクリプトの中に未対応の機能が記述されています。ランタイムのバージョンをアップしてください。	—
RAAA135	接続機器の設定が未設定の状態です SIO 操作関数が使用されています (グローバル D スクリプト)	接続機器の設定が未設定の場合にグローバル D スクリプトで SIO 操作関数を使用しています。接続機器の設定をおこなってください。	☞ GP-Pro EX リファレンスマニュアル「5.13.6 [システム設定ウィンドウ] の設定ガイド [スクリプト設定] の設定ガイド」(5-128 ページ)
RAAA136	グローバル D スクリプト内にエラーがあります	使用しているグローバル D スクリプト内にエラーがあります。命令文を再確認してください。	☞ GP-Pro EX リファレンスマニュアル「21 章 プログラム命令、記述式一覧」(21-1 ページ)
RAAA140	関数の最大数 255 個をオーバーしています (拡張スクリプト)	拡張スクリプトの総数がオーバーしています。拡張スクリプトの総数は最大 255 個です。2 つのスクリプトを 1 つにまとめるなどしてスクリプト総数を減らしてください。	☞ GP-Pro EX リファレンスマニュアル「20.9.2 拡張スクリプトの制限事項」(20-56 ページ)
RAAA141	指定した関数が存在しないか関数内にエラーがあります (拡張スクリプト)	拡張スクリプトで呼び出している関数が存在しない。または関数内にエラーがあります。関数の書式を再確認してください。	☞ GP-Pro EX リファレンスマニュアル「21 章 プログラム命令、記述式一覧」(21-1 ページ)

次のページに続きます。

エラー番号	エラーメッセージ	原因と対処方法	参照
RAAA142	関数のネストが 10 段階以上になっています (拡張スクリプト)	拡張スクリプトで関数のネストが 10 段階以上になっています。 If、loop 文の階層を減らしてください。  ネストとは、A 関数にて B 関数を呼び出しており、さらに B 関数では C 関数を呼び出している状態 (関数呼び出し階層) のことを言います。	☞ GP-Pro EX リファレンスマニュアル「21.8.3 loop - endloop」(21-64 ページ)
RAAA143	このバージョンのシステムでは実行できない未対応のスクリプトが記述されています (拡張スクリプト)	プロジェクトデータの拡張スクリプトの中に未対応の機能が記述されています。ランタイムのバージョンをアップしてください。	—
RAAA144	接続機器の設定が未設定の状態です IO 操作関数が使用されています (拡張スクリプト)	接続機器の設定が未設定の場合に拡張スクリプトで SIO 操作関数を使用しています。接続機器の設定をおこなってください。	☞ GP-Pro EX リファレンスマニュアル「5.13.6 [システム設定ウィンドウ] の設定ガイド [スクリプト設定] の設定ガイド」(5-128 ページ)
RAAA145	拡張スクリプト内にエラーがあります	使用している拡張スクリプト内にエラーがあります。関数の書式を再確認してください。	☞ GP-Pro EX リファレンスマニュアル「21 章 プログラム命令、記述式一覧」(21-1 ページ)
RAAA150	パスワードが一致しません 正しいパスワードを入力してください	セキュリティ機能のパスワード入力が入力されています。大文字・小文字の区別などが正しいか確認の上、パスワードを再度入力してください。	☞ GP-Pro EX リファレンスマニュアル「22.4.1 パスワード入力ウィンドウのご紹介」(22-7 ページ)
RAAA151	ホストから画面を切替てください	強制画面切替方式 (従来の画面切替方式) で、PLC (ホスト) から画面切替をおこなった場合に表示されるパスワード入力を、キャンセルしたときに表示されます。キャンセルしたい場合には、キャンセル通知ビットを利用して PLC (ホスト) から前の画面に戻すようにしてください。	—
RAAA152	COM ポートを使用できません	使用しようとした COM ポートがすでに別の機能で使用されている場合に表示されます。設定を再確認してください。	☞ GP-Pro EX リファレンスマニュアル「7.4 接続機器 (PLC など) を変更したい」(7-17 ページ)
RAAA153	辞書ファイルがありません	日本語 FEP 用辞書ファイルが内部ストレージ、または CF カードに存在していません。プロジェクトデータを再転送してください。	—
RAAA154	指定したファイリングデータは、このプロジェクトでは使用できません	CF カードから SRAM にファイリングデータを転送するときに、指定したファイリングデータがプロジェクトデータと一致していない場合に表示されます。プロジェクトデータと一致するファイリングデータを使用するようにしてください。	☞ GP-Pro EX リファレンスマニュアル「24.6 収集したデータを CF カードに保存したい (CSV 保存)」(24-20 ページ)

次のページに続きます。

エラー番号	エラーメッセージ	原因と対処方法	参照
RAAA155	IP アドレスが他の機器と重複しています。本機もしくは他の機器の IP アドレスを変更してください。 (IP:XXX.XXX.XXX.XX X,MAC:XX:XX:XX:XX: XX:XX) <sup>1</sup>	ネットワーク上に同じ IP アドレスの機器が存在します。本機もしくは他の機器の IP アドレスを変更してください。	☞ GP-Pro EX リファレンスマニュアル「32.2.2 転送手順 パソコンから GP への転送 (送信)」(32-6 ページ)
RAAA156	COM ポートの 9 番ピンを VCC(5V 電源供給) に設定できませんでした。COM ポートの接続ケーブルまたは接続先の機器を再確認して、本機をリセットしていただくか、あるいは、プロジェクトのスクリプト設定の 5V 電源供給を再確認してください。	COM ポートの 9 番ピンを VCC(5V 電源供給) に設定できませんでした。COM ポートの接続ケーブルまたは接続先の機器を再確認して、本機をリセットしていただくか、あるいは、プロジェクトのスクリプト設定の 5V 電源供給を再確認してください。	☞ GP-Pro EX リファレンスマニュアル「5.13.6 [システム設定ウィンドウ] の設定ガイド [スクリプト設定] の設定ガイド」(5-128 ページ)
RAAA157	システム先頭デバイスアドレスに割り当てている接続機器をオフスキャンにすることはできません。	システム先頭デバイスアドレスに割り当てている接続機器 (メイン PLC) がオフスキャンに設定されました。メイン PLC をオフスキャンにすることはできません。メイン PLC をオフスキャンにしたい場合はシステムデータエリアを使用しない設定にしてください。または、メイン PLC のオフスキャンの設定を解除してください。	☞ GP-Pro EX リファレンスマニュアル「5.13.6 [システム設定ウィンドウ] の設定ガイド システムエリア設定」(5-121 ページ)

<sup>1</sup> IP アドレスは 10 進表記、MAC アドレスは 16 進表記

### REAA で始まるエラー

エラー番号	エラーメッセージ	原因と対処方法	参照
REAA016	XXX ポート番号 (XXX) のオープンに失敗しました	XXX(UDP または TCP) ポート番号 (XXX) のオープンに失敗しました。システムポート番号が既に使用されている可能性があります。システム番号を変更してください。	—
REAA017	書き込み禁止エリアにアクセスしました (アドレス:XXX)	D スクリプトまたはネットワーク越しで書き込み禁止エリア (LS0000 ~ LS0019、LS2032 ~ LS2095、LS9000 ~ LS9999) に書き込みすることはできません。書き込み禁止エリアにデータを書込まないでください。	—
REAA018	アドレス範囲外のデバイスにアクセスしました (アドレス:XXX)	範囲外のデバイスにアクセスしました。範囲外のデバイスアドレスを指定しないでください。	—
REAA021 REAA022	不正な ID (局、機器、デバイス) が指定されました	不正な ID が指定されました。存在しないデバイスにアクセスしています。プロジェクトファイルを強制転送するか、使用可能なデバイスを確認してください。	☞ 「2.12.3 プロジェクトファイルを強制転送したい」(2-62 ページ)
REAA026 REAA027 REAA028	不正または未設定のデバイスアドレスがあります	不正なデバイスが指定されました。存在しないデバイスにアクセスしています。プロジェクトファイルを強制転送するか、使用可能なデバイスを確認してください。	☞ 「2.12.3 プロジェクトファイルを強制転送したい」(2-62 ページ)



## その他のエラー (システムエラー)

- GP 内部のシステムが正常に起動できない場合

システムの起動に関するファイルに問題がある場合、強制転送画面が下記エラーメッセージと共に表示されます。転送ツールによるシステムデータの再転送を行ってください。

**MEMO** • 転送ツールの詳細については GP-Pro EX リファレンスマニュアル「32.10 転送ツールの設定ガイド」(32-55 ページ)を参照してください。

エラーメッセージ	対象ファイル	原因と対処方法
Start up Error : Boot.cfg	BOOT.CFG	起動に必要な Boot.cfg ファイルが消失もしくは破損しています。プロジェクトファイルを強制転送してください。
Start up Error : Default Font	*****.FNT	デフォルトフォントデータが消失もしくは破損しています。プロジェクトファイルを強制転送してください。
Start up Error : LanSys.cfg	LANSYS.CFG	LAN 設定ファイルが破損しています。プロジェクトファイルを強制転送してください。
Start up Error : System.cfg	SYSTEM.CFG	ランタイム起動に必要なファイル (システム設定ファイル) が存在しません。プロジェクトファイルを強制転送してください。
Start up Error : CF memory loader	BOOT.CFG	CD カード起動で CF カード内にある Boot.cfg ファイルデータ異常があります。CF カードのデータを入れ直してください。
Start up Error : CF MOUNT Error	—	CF カード起動で CF カード読み込み失敗しました。CF カードを交換するなどして再度読み込み直してください。
Start up Error : Runtime Load NG	BOOT.CFG LDMODULE.SYS STARTUP.SYS RUN***.SYS	ランタイムシステムデータが消失、もしくは破損しています。プロジェクトファイルを強制転送してください。
Start up Error : Runtime Start NG	—	ランタイム起動中にエラー発生 • デフォルトフォントロードエラー • ユーザフォントロードエラー
Compulsion Transfer Mode (DipSW2=ON)	—	ディップスイッチ 2 を ON による強制転送 <sup>1</sup>
Compulsion Transfer Mode (Panel Touch)	—	起動時に画面左下もしくは右下をタッチしつづけての強制転送表示 <sup>1</sup>

<sup>1</sup> この項目は異常ではなく、正常時に表示される画面です。

次のページに続きます。

- GP の起動中にファイル異常を検出した場合  
システムの起動後の初期処理に必要なファイルに問題がある場合、通常転送画面が下記エラーメッセージと共に表示されます。問題を修正後、転送ツールで再転送を行ってください

**MEMO** ・ 転送ツールの詳細については GP-Pro EX リファレンスマニュアル「32.10 転送ツールの設定ガイド」(32-55 ページ)を参照してください。

エラーメッセージ	原因と対処方法	参照
起動に必要なファイル(****)が読み出せません。プロジェクトデータを再転送してください。	起動に必要なファイルの読み出しができませんでした。再転送して復旧してください。カッコ内には異常、または存在していないファイル名が表示されます。	
不正または未設定のデバイスアドレスがあります(****)。設定を見直してプロジェクトデータを再転送してください。	部品や機能の設定で使用しているデバイスアドレスが不正な場合。カッコ内は不正なアドレスが使用されている部品または機能名が表示されます。ただしカッコは表示されないときもあります。	—
接続機器の最大設定数を超過しています。設定を見直してプロジェクトデータを再転送してください。	接続機器の最大設定数を超過しています。(大型機種：4、中型機種：2)プロジェクトの設定を確認して再度転送してください。	☞ GP-Pro EX リファレンスマニュアル「5.13.6 [システム設定ウィンドウ] の設定ガイド [周辺機器一覧] の設定ガイド」(5-123 ページ)

## GP3000 シリーズの DIO ボードタイプをご利用の場合

### I/O ドライバエラー

エラー番号	エラーメッセージ	原因と対処方法
RGE*002	設定値異常	I/O に割り当たっているシンボル変数の型に異常があります。I/O の設定値に異常があります。設定値異常の場合は、再度プログラムを転送してください。
RGE*003	デバイス範囲外エラー	I/O に割り当たっているシンボル変数のアドレスが範囲外の設定です。デバイス範囲外エラーの場合は、再度プログラムを転送してください。
RGE*004	ターミナル設定が重複	I/O のターミナル数の制限数(ビット入力6点、ビット出力2点)を超過して設定しています。ターミナル設定が重複の場合は、再度プログラムを転送してください。
RGE*005	ターミナル設定順異常	I/O ターミナル番号が昇順で設定されていません。ターミナル設定順異常の場合は、再度プログラムを転送してください。
RGE*006	ターミナル登録数不足	適正な I/O ターミナル数ではありません。ターミナル登録数不足の場合は、再度プログラムを転送してください。
RGE*009	ドライバ設定が重複	ドライバが2重登録されています。ドライバ設定が重複の場合は、再度プログラムを転送してください。
RGE*011	ビット / 整数値が不一致	I/O で指定している変数型設定が正しくありません。プロジェクトデータを、再度転送してください。
RGE*012	設定レベル値の異常	I/O ドライバに異常があります。プロジェクトデータを、再度転送してください。

次のページに続きます。

エラー番号	エラーメッセージ	原因と対処方法
RGE*013	データ取得アドレス異常	I/O ドライバ情報が正しくありません。プロジェクトデータを、再度転送してください。 コントローラ情報が正しくありません。プロジェクトデータを、再度転送してください。
RGE*014	ドライバ/ユニット未登録	I/O ドライバまたは I/O が未登録状態になりました。プロジェクトデータを、再度転送してください。
RGE*050	I/O ボードの ID 相違	接続している I/O ボードがプロジェクトの I/O ボードと異なります。プロジェクトデータを、再度転送してください。
RGE*100	I/O ユニット通信エラー	DIO ボードからの入力時にチャタリング発生しました。ノイズまたは本体の故障の可能性があります。発生頻度が高い場合は故障の可能性がある高いので修理依頼してください。
RGE*101	4ch. アナログ設定エラー	DIO ボードに出力したが、出力結果をフィードバックした時に出力されていなかった。ノイズまたは本体の故障の可能性があります。発生頻度が高い場合は故障の可能性がある高いので修理依頼してください。

### Runtime エラー

ロジックプログラム運転中に表示されるエラーです。

エラー番号	エラーメッセージ	原因と対処方法
RGAA001	ウォッチドッグエラーが発生しました	プログラム上で無限ループに入っているか、ロジックプログラム待機命令が沢山使用されている可能性があります。GP-Pro EX の [システム設定ウィンドウ] より [本体設定] を選択し、[ロジック設定] タブを開いて [WDT(ウォッチドッグタイマ)設定] の時間を長く設定してください。

## 1.7 それでも解決しない場合は...

本書やほかのマニュアルをご覧頂いても解決しない場合は、以下のステップで解説いたします。

### 1.7.1 サイトをみよう！

本書や他のマニュアルをご覧頂いても解決しない場合は、弊社ホームページにアクセスしてみてください。



GP-Pro EX 商品のサポート専用サイトです。

<http://www.proface.co.jp/otasuke/>

おたすけコンテンツとして、  
よくあるご質問 (FAQ 集)  
すぐ使えるサンプル画面のダウンロード  
マニュアルの製本サービス  
表示器の修理 24 時間受付サービス

など、お客様の工数削減！を目指して随時内容を更新しています。

### 1.7.2 電話しよう！

本書や他のマニュアルをご覧頂いても解決しない場合や、弊社ホームページにアクセスして頂いても問題が解決しない場合は、弊社「サポートダイヤル」にお問い合わせください。

月～金 9:00～17:00  
大阪 TEL (06) 6613-3115  
東京 TEL (03) 5821-1105  
名古屋 TEL (052) 932-4093

月～金 17:00～19:00  
専用ダイヤル TEL (06) 6613-3206

土・日・祝日 (12月31日～1月3日を除く) 9:00～17:00  
専用ダイヤル TEL (06) 6613-3206

## 1.7.3 修理しよう！

### サービス・リペアセンター

(株) デジタル製品の故障、修理などのご相談に対応いたします。

お問い合わせの際には問題点、現象などをあらかじめご確認の上、ご連絡ください。また製品送付時には、問題点、現象を書き留めた修理依頼書を同封してください。その際、輸送時の振動で製品が破損しないよう、梱包状態には十分ご注意くださいようお願いいたします。

(修理依頼書は下記の受付窓口へご請求ください。)

### お問い合わせ先

サービス・リペアセンター 大阪

TEL (06) 6613-1638 FAX (06) 6613-1639

以下のサービスの受付窓口は、お買い求めの代理店、(株) デジタルの営業担当、または (株) デジタル サービス・リペアセンターです。

### 契約保守

製品ご購入時に年間一定料金で契約を結ぶことにより、不具合に対して無償でサービス・リペアセンター修理をするシステムです。

### サービス・リペアセンター修理

お客様より修理品をサービス・リペアセンターへ返却していただき、修理するシステムです。故障した製品を宅配便等でお送りいただき、修理後ご指定の場所へお返しいたします。処置内容により修理費用は異なります。

### 保証および修理について

#### 1 無償保証期間

無償保障期間は、納入後 12ヶ月とさせていただきます（有償修理品の故障に対しては、同一部位のみ修理後 3ヶ月）。無償保障期間終了後は有償での修理となります。

#### 2 無償補償範囲

(1) 無償保証につきましては、上記無償保障期間中、弊社製品の使用環境・使用状態・使用方法などがマニュアル・取扱説明書・製品本体注意ラベル等に記載された諸条件や注意事項に従っていた場合に限定させていただきます。

(2) 無償保障期間内であっても、次のような場合には有償修理とさせていただきます。

1. 納入後の輸送（移動）時の落下、衝撃等、貴社の取扱い不相当により生じた故障損傷の場合。
2. カタログ・マニュアル記載の仕様範囲外でご使用された場合。
3. 取扱説明書に基づくメンテナンス、消耗部品の交換保守が正しく行われていれば防げたと認められる故障の場合。
4. 火災、地震、水害、落雷、その他天変地異、公害や異常気圧による故障および損傷。
5. 接続している他の機器、および不適当な消耗品やメディアの使用に起因して本製品に生じた故障および損傷。
6. 消耗部品の交換。
7. 販売当時の科学・技術の水準では予見できない原因による故障の場合。
8. その他、貴社による故障、損傷または不具合の責と認められる場合。

(3) 次のような場合には、たとえ有償であっても修理をお断りすることがございます。

弊社以外での修理、改造等をされたと認められる場合。

### 3 生産中止について

(1) 弊社製品の生産中止は、弊社ホームページ上で、最終出荷の6ヶ月前に掲示いたします。

(2) ただし、使用部品の生産中止に伴う弊社製品の生産中止に関しましては、部品メーカーからの生産中止の連絡があり次第、弊社ホームページ上に掲示いたします。

### 4 生産中止後の修理期間（有償修理）

(1) 生産中止を弊社ホームページで掲示した月を起点として7年間は、弊社サービスリペアセンターにて当該製品の修理を行います（2005年10月現在）。2005年9月以前に生産中止となった製品は、最終出荷日より5年間は修理期間となります。

(2) 上記期間に限らず、交換部品が入手不可能となった場合には、修理できなくなることがございますのでご了承ください。

### 5 修理条件

(1) 修理は、弊社製品のみを対象といたします。オプション品は対象外となります。

(2) 修理に際し、お客様のプログラムやデータが消失することがありますので、あらかじめデータを保存しておいてください。

(3) 弊社製品に記憶されているお客様のデータにつきましては、取り扱いには十分に注意をいたしますが、お客様の重要機密に関する事項等は、修理前に消去いただくようお願いいたします。消去できない故障の場合は、その旨をあらかじめご連絡ください。

(4) 修理は、センドバックによる弊社工場修理を原則とさせていただきます。この場合、弊社工場への送料はお客様負担にてお願いいたします。

修理にて交換された部品の所有権は（株）デジタルに帰属するものとします。

---

# *Memo*

# 2

# メンテナンス編

この章では、GPの「オフラインモード」についての基本的な説明と、基本操作について説明します。まず「2.1 オフラインモードでできること」(2-2 ページ) から目的に合った説明ページへ読み進んでください。

2.1	オフラインモードでできること.....	2-2
2.2	オフラインモードについて.....	2-12
2.3	表示器の画面設定.....	2-17
2.4	周辺機器設定.....	2-28
2.5	イーサネット設定.....	2-33
2.6	パスワード設定.....	2-35
2.7	メモリやCFカードの初期化.....	2-38
2.8	表示器本体の動作チェック.....	2-42
2.9	ロジック機能の動作(通信)チェック.....	2-45
2.10	コントローラ設定.....	2-52
2.11	ビデオ表示の調整と確認.....	2-55
2.12	GP-Pro EXからの画面転送.....	2-59
2.13	オフライン設定ガイド.....	2-63

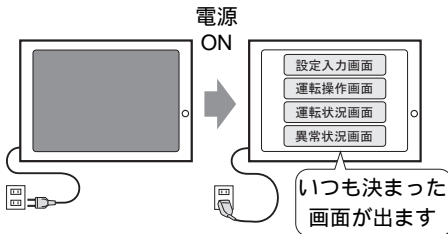
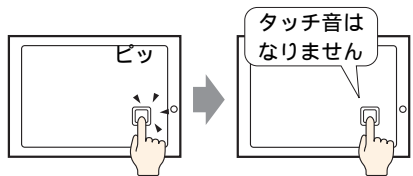
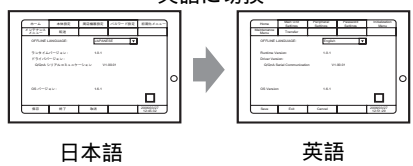
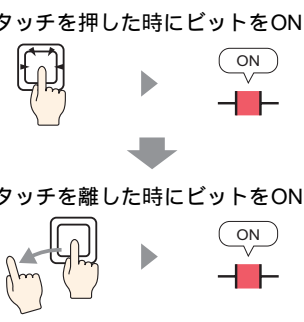

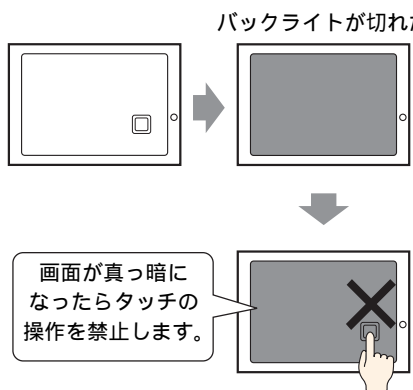


## 2.1 オフラインモードでできること

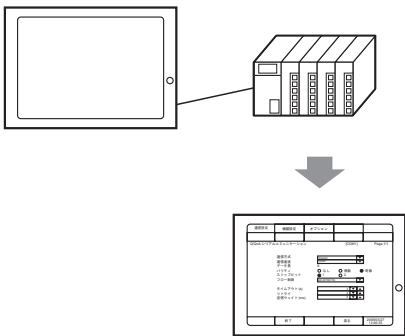
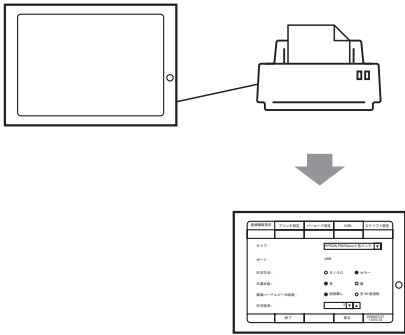
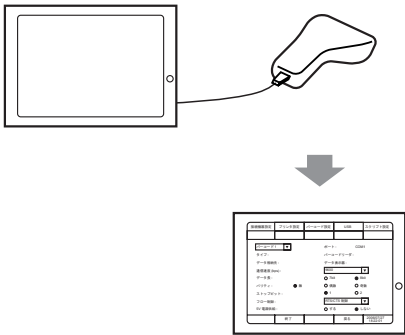
表示器のオフラインモードでは以下のような設定ができます。

できること	設定手順
<p>表示器の画面や操作に関する設定ができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>表示器の輝度、コントラストの調整</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>表示器の時刻の設定</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>スタンバイモードの設定</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>表示器の起動タイミングの設定</li> </ul>	<p>☞ 「2.3 表示器の画面設定」(2-17 ページ)</p>

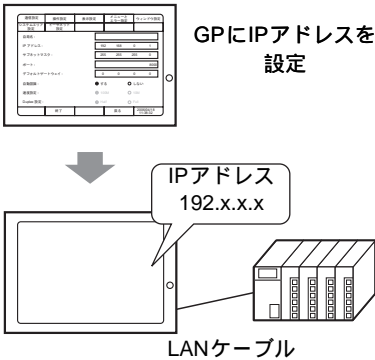
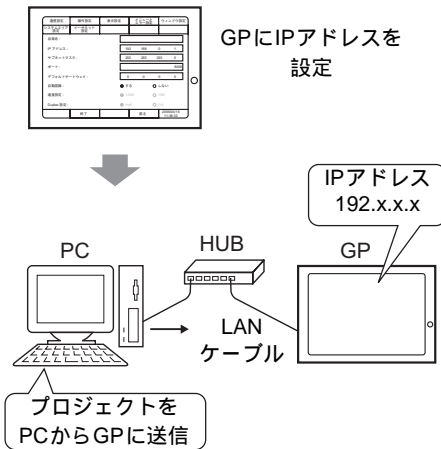
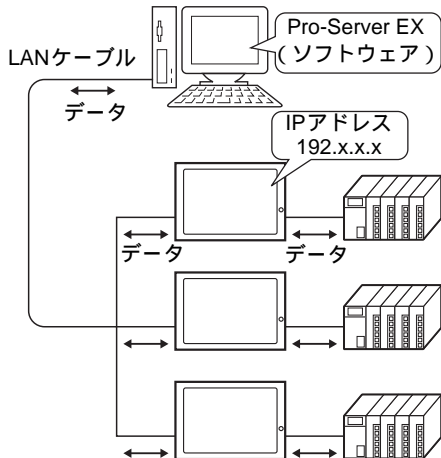
次のページに続きます。

できること	設定手順
<ul style="list-style-type: none"> <li>表示器に最初に表示される画面の設定                     <p>電源 ON</p>  </li> <li>タッチ音の有無の設定                      </li> <li>オフラインモードのメニューを英語で設定                     <p>メニューを英語に切換</p>  </li> <li>タッチの認識タイミングを設定                     <p>タッチを押した時にビットをON</p>  <p>タッチを離れた時にビットをON</p>  </li> <li>バックライト切れ時の誤動作防止設定                     <p>バックライトが切れた!</p>  </li> </ul>	<p>☞ 「2.3 表示器の画面設定」(2-17 ページ)</p>

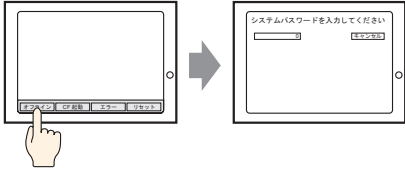
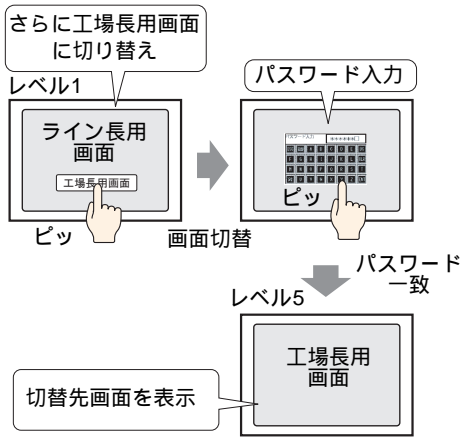
次のページに続きます。

できること	設定手順
<p>周辺機器に関する設定や確認ができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>接続している接続機器の通信設定や確認</li> </ul>  <ul style="list-style-type: none"> <li>接続しているプリンタの印刷方法変更や確認</li> </ul>  <ul style="list-style-type: none"> <li>接続しているバーコードの通信設定や確認</li> </ul> 	<p>☞ 「2.4 周辺機器設定」(2-28 ページ)</p>

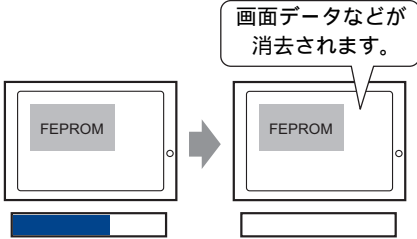
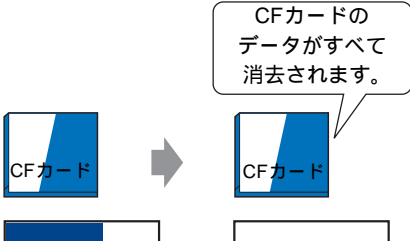
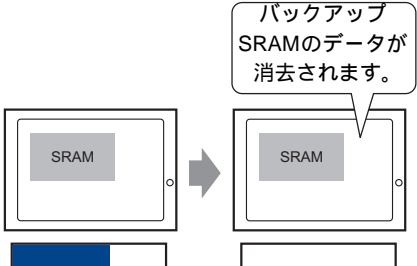
次のページに続きます。

できること	設定手順
<p>下記のような通信時に表示器に IP アドレスを設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 接続機器とイーサネットで通信する場合</li> </ul>  <p>GPにIPアドレスを設定</p> <p>IPアドレス 192.x.x.x</p> <p>LANケーブル</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• プロジェクトファイルを転送する場合</li> </ul>  <p>GPにIPアドレスを設定</p> <p>IPアドレス 192.x.x.x</p> <p>PC</p> <p>HUB</p> <p>LANケーブル</p> <p>GP</p> <p>プロジェクトを PCからGPに送信</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Pro-Server EX 使用時に通信する場合</li> </ul>  <p>LANケーブル</p> <p>Pro-Server EX (ソフトウェア)</p> <p>データ</p> <p>データ</p> <p>データ</p> <p>データ</p> <p>IPアドレス 192.x.x.x</p>	<p>設定手順</p> <p>☞ 「2.5 イーサネット設定」(2-33 ページ)</p>

次のページに続きます。

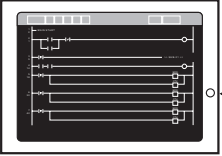
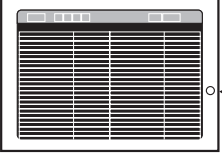
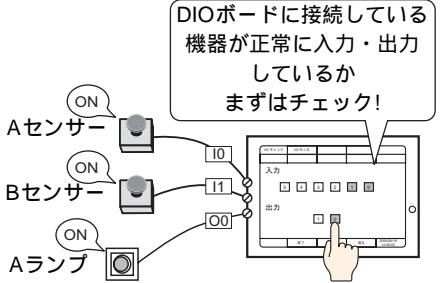
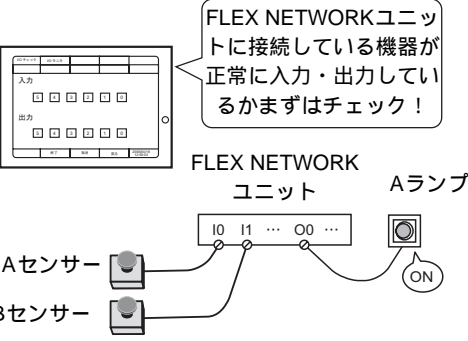
できること	設定手順
<p>オフラインモードに入るとき、メモリやCFカードの初期化や各画面操作のパスワードを設定できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>初期化やオフラインモードに入る場合のパスワードを設定</li> </ul>  <ul style="list-style-type: none"> <li>権限別に操作できる画面を設定</li> </ul> 	<p>設定手順</p> <p>☞ 「2.6 パスワード設定」(2-35 ページ)</p>

次のページに続きます。

できること	設定手順
<p>メモリや CF カードのデータを初期化できます。初期化できるデータは下記のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• ユーザメモリ (FEPROM) の初期化</li> </ul>  <ul style="list-style-type: none"> <li>• CF カードの初期化</li> </ul>  <ul style="list-style-type: none"> <li>• バックアップ SRAM の初期化</li> </ul> 	<p>☞ 「2.7 メモリや CF カードの初期化」(2-38 ページ)</p>

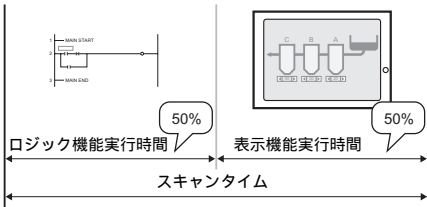
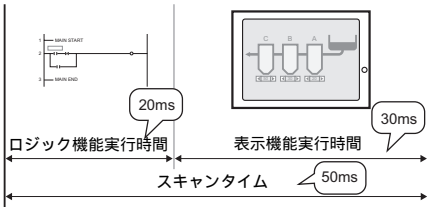
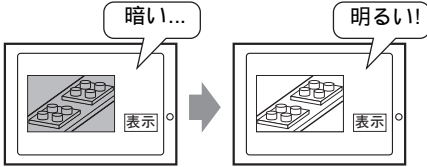
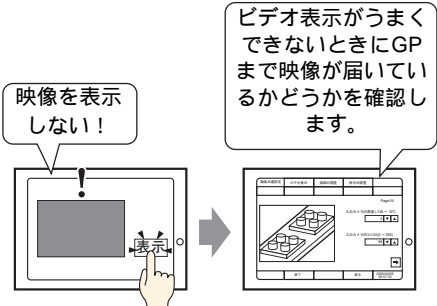
次のページに続きます。

できること	設定手順
<p>表示器本体が正常に動作しているか下記のようなチェックができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• タッチパネルチェック                     <div data-bbox="244 336 670 562"> </div> </li> <li>• アナログタッチパネルの補正                     <div data-bbox="234 687 657 989"> </div> </li> <li>• COM1/COM2/LAN のチェック                     <div data-bbox="225 1103 666 1408"> </div> </li> </ul> <p>* COM1 と COM2 の端子をチェックするにはループバックケーブルの作成が必要になります。</p>	<p>設定手順</p> <p>☞ 「2.8 表示器本体の動作チェック」(2-42 ページ)</p> <p>次のページに続きます。</p>

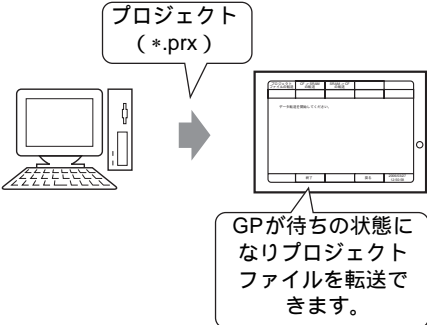
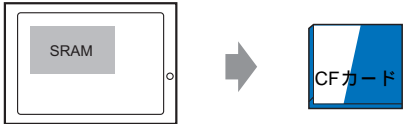
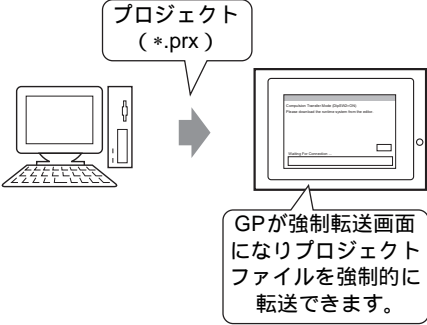
できること	設定手順
<p>ロジックプログラムが正常に動作するか、また GP3000 シリーズ DIO ボードタイプ、FLEX NETWORK ユニットに接続している機器が正常に動作するかチェックできます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ロジックプログラムのモニタ                     <div data-bbox="230 363 669 517">  <p>ロジックプログラムの動作状況と命令で 使用している変数の 状態をチェックでき ます。</p> </div> </li> <li>ロジックプログラムで使用されている変数のアドレスモニタ                     <div data-bbox="230 653 669 807">  <p>ロジックプログラム で使用されている 変数の変数名と 現在値をチェックで きます。</p> </div> </li> <li>GP3000 シリーズ DIO ボードタイプに接続している機器の動作チェック                     <div data-bbox="230 933 669 1213">  <p>DIOボードに接続している 機器が正常に<input/>・<input/>出 力しているか まずはチェック!</p> </div> </li> <li>FLEX NETWORK ユニットに接続している機器の動作チェック                     <div data-bbox="230 1358 696 1696">  <p>FLEX NETWORKユニット に接続している機器が 正常に<input/>・<input/>出 力しているか まずはチェック!</p> </div> </li> </ul>	<p>☞「2.9 ロジック機能の動作（通信） チェック」(2-45 ページ)</p>

次のページに続きます。



できること	設定手順
<p>ロジックプログラムの実行時間を下記のどちらかの方法で設定できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>コントローラ機能実行時間の割合で設定</li> </ul>  <ul style="list-style-type: none"> <li>コントローラ機能実行時間と表示機能実行時間で設定</li> </ul> 	<p>設定手順</p> <p>☞「2.10 コントローラ設定」(2-52 ページ)</p>
<p>GP-3*50 シリーズの動画機能や VM ユニット使用時にビデオ表示の調整や確認ができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ビデオ表示の画質調整</li> </ul>  <ul style="list-style-type: none"> <li>ビデオ表示できない時の映像の確認</li> </ul> 	<p>☞「2.11 ビデオ表示の調整と確認」(2-55 ページ)</p>

次のページに続きます。

できること	設定手順
<p>プロジェクトファイルを転送できないときに下記のような転送ができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li> <b>オフラインモードで転送</b>                      GPが自動で転送モードにならない時に以下の転送を行います。                 </li> </ul>  <ul style="list-style-type: none"> <li> <b>SRAMのデータをCFカードにバックアップ</b> </li> </ul>  <p style="text-align: center;">SRAMのデータをバックアップ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li> <b>強制転送</b>                      GPが自動で転送モードにならず、オフラインモードにも入れない場合に以下の転送を行います。                 </li> </ul> 	<p>☞ 「2.12 GP-Pro EX からの画面転送」 (2-59 ページ)</p>

## 2.2 オフラインモードについて

オフラインモードとは、システム設定・自己診断などを行うモードのことです。運転する前の準備をここで行います。

**重要**

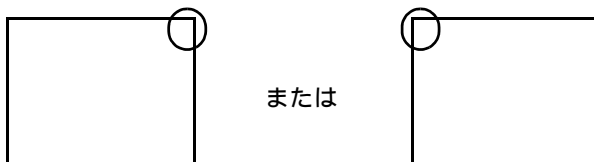
- 購入後初めて本機を使用する場合、GP 画面作成ソフトからシステムを GP に転送しないとオフラインモード（システム設定）へは入れません。転送は GP の電源が ON の状態で行います。画面データを GP に送信すると、自動的にシステムが GP に送信されます。転送方法については「GP-Pro EX リファレンスマニュアル」を参照してください。

### 2.2.1 オフラインモードへの入り方

GP 本体には使用時に必要な各種の設定をするためのオフラインモードがあります。オフラインモードへの移行方法は電源投入時と運転時によって異なります。

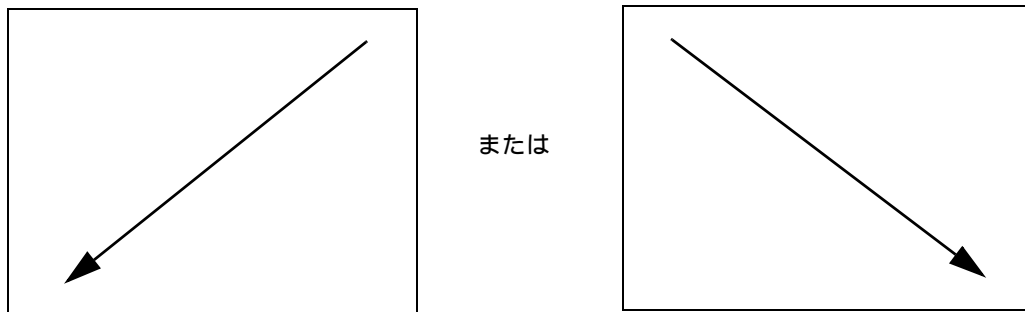
#### 電源投入時

起動中画面表示後に、パネルの右上隅または左上隅（縦横 40 ドット以内）を 3 秒以上タッチします。



#### 運転時

- 1 パネルの右上隅 → 左下隅または左上隅 → 右下隅（縦横 40 ドット以内）の順に 0.5 秒以内にタッチします。



- 2 画面にシステムメニューが表示されますので「オフライン」をタッチします。

システムメニューの各ボタンの詳細については下記を参照してください。

👉 「2.13.6 システムメニュー」(2-115 ページ)



次のページに続きます。

**MEMO**

- システムメニューが表示されない場合は GP-Pro EX で [ 本体設定 ] の [ メニューとエラー設定 ] で [ システムメニューの表示 ] が [ 表示しない ] になっています。表示する設定に変更して再度プロジェクトファイルを転送してください。

☞ GP-Pro EX リファレンスマニュアル 「5.13.6 [ システム設定ウィンドウ ] の設定ガイド・メニューとエラー設定」(5-103 ページ)

- 「パスワード設定」でパスワードを設定していると、オフラインモードに入る前にパスワードの入力画面が表示されます。パスワードを入力してオフラインモードに入ります。

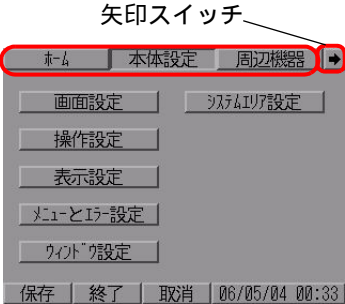
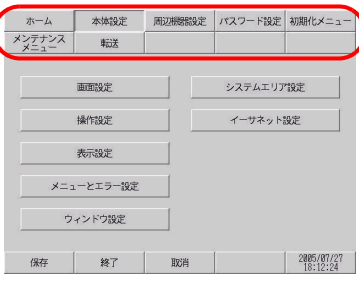
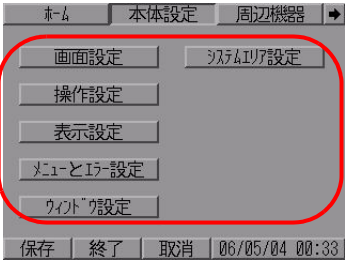
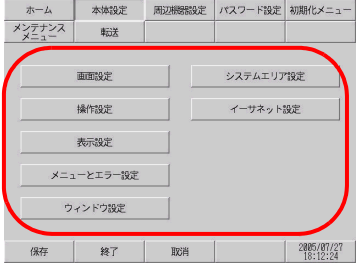
パスワード設定、パスワードの数値入力については下記を参照してください。

☞ 「2.6 パスワード設定」(2-35 ページ)

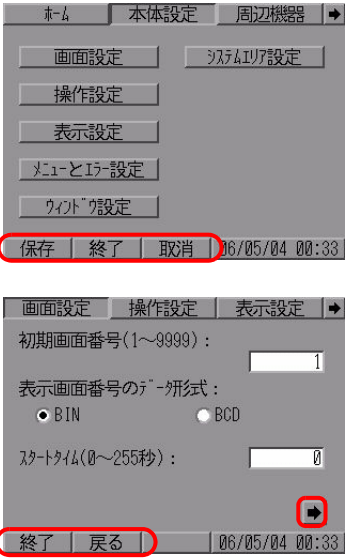
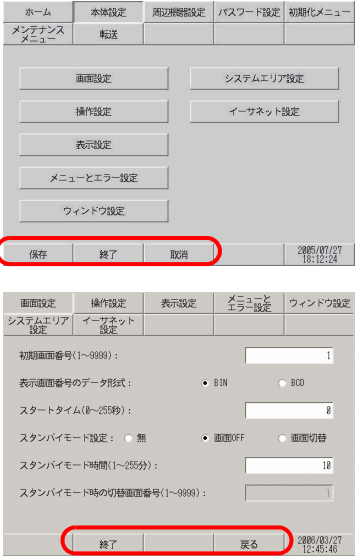
☞ 「2.2.3 オフラインモードでの操作」(2-15 ページ)

## 2.2.2 オフラインモード共通スイッチ

オフラインモードで使用する共通のスイッチをご紹介します。ただし、GP の表示ドット数によりスイッチの表示または表示方法が異なる場合があります。

スイッチ	画面の表示ドット数が 320 × 240 ドット	画面の表示ドット数が 640 × 480 ドット
<p>• 項目切替スイッチ</p> <p>表示される設定項目を切り替えます。すべてのスイッチが一度に表示できない場合、スイッチの右端に矢印スイッチが表示されます。矢印スイッチをタッチすることで残りのスイッチが表示されます。</p>	<p>矢印スイッチ</p> 	
<p>• 設定項目</p> <p>GP 使用時に必要な項目を設定します。すべての項目が一度に表示できない場合、設定項目の右下にページ切替スイッチが表示されます。[ ページ切替スイッチ ] をタッチすることで残りの項目が表示されます。</p>		

次のページに続きます。

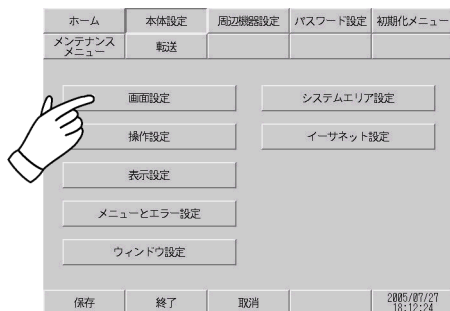
スイッチ	画面の表示ドット数が 320 × 240 ドット	画面の表示ドット数が 640 × 480 ドット
<p>• コントロールスイッチ</p> <p>オフラインモードで「保存」「取消」「終了」「戻る」を実行させるボタンです。</p> <p>保存 .. 変更した項目の設定を保存します。</p> <p>取消 .. 変更した項目の設定を以前の状態（前回保存した状態）に戻します。</p> <p>終了 .. オフラインモードを終了します。</p> <p>戻る .. 一つ上の階層の画面に戻ります。</p>		

## 2.2.3 オフラインモードでの操作

ここでは設定を行っていくうえで必要な操作について説明します。

### メニューを選択するとき

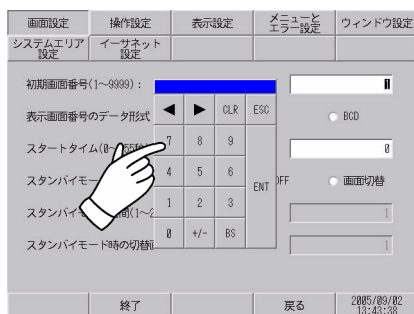
設定したいメニュー項目にタッチします。



### 数値を入力するとき

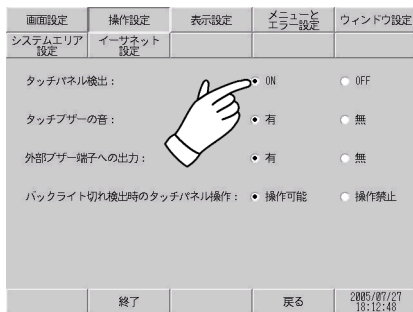
メニューを選択、または入力枠をタッチすると、数値入力が可能となります。

画面に表示されるテンキーで入力します。



### 設定条件を選択するとき

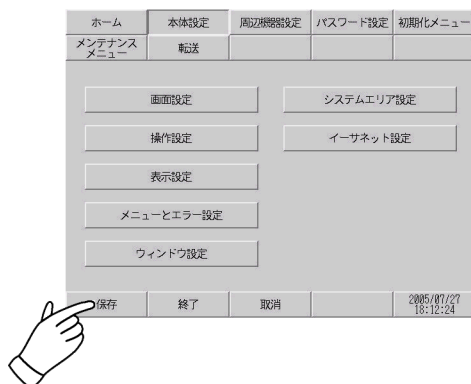
メニューを選択した後、表示されている設定条件のうち、設定したい条件を選んでタッチします。



## すべての設定を終えたら

画面下の「保存」ボタンをタッチします。

設定内容を取り消したいときは、「取消」ボタンをタッチします。

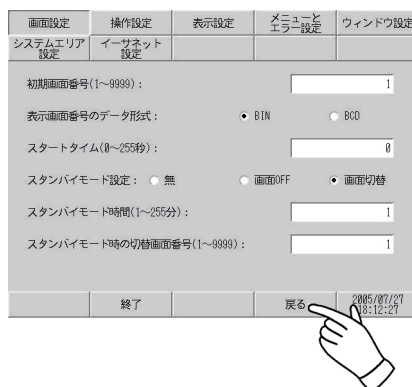


### 重要

- 「保存」ボタンをタッチすることによって、内部 FEPROM に設定内容が書き込まれます。
- 「保存」ボタンのタッチで内部 FEPROM へ書き込むため、元のメニューに戻るのに時間がかかる場合があります。元のメニューに戻るまでは、何もタッチしないでそのままお待ちください。
- 設定内容の保存中は GP の電源を切らないようにしてください。内部 FEPROM の内容が破損する恐れがあります。
- 「取消」ボタンをタッチした場合は、変更した項目の設定を以前の状態（前回保存した状態）に戻します。

## 一つ上の階層に戻りたいとき

「戻る」ボタンにタッチします。



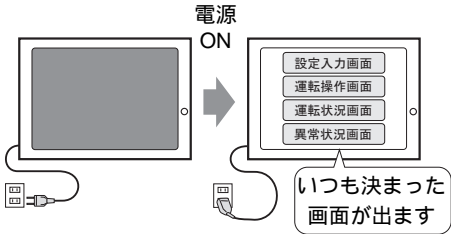
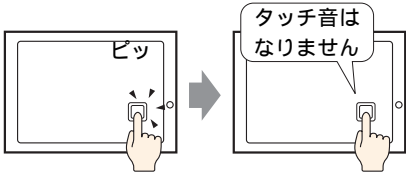
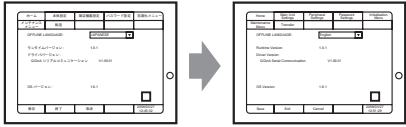
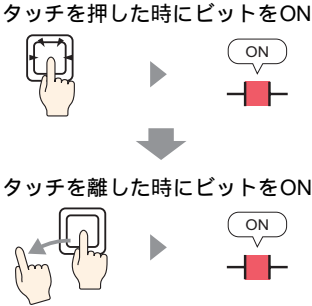
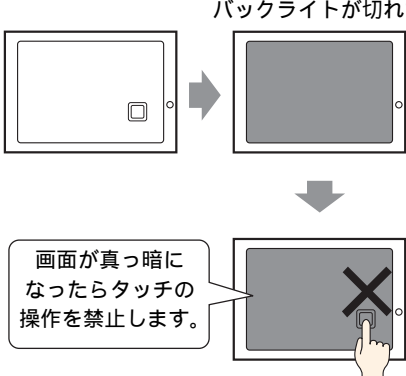
## 2.3 表示器の画面設定

表示器の画面や操作に関する設定ができます。

できること	設定手順
<ul style="list-style-type: none"> <li>表示器の輝度、コントラストの調整</li> </ul>	<p>☞ 「2.3.1 明るさ（輝度、コントラスト）を調整したい」（2-19 ページ）</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>表示器の時刻の設定</li> </ul>	<p>☞ 「2.3.2 表示器の時刻を調整したい」（2-20 ページ）</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>スタンバイモードの設定</li> </ul>	<p>☞ 「2.3.3 一定の時間がたつと画面を消したい」（2-21 ページ）</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>表示器の起動タイミングの設定</li> </ul>	<p>☞ 「2.3.4 電源を入れてから本体が起動するまでの時間を設定したい」（2-22 ページ）</p>

次のページに続きます。



できること	設定手順
<p>• 表示器に最初に表示される画面の設定</p> <p>電源 ON</p>  <p>設定入力画面 運転操作画面 運転状況画面 異常状況画面</p> <p>いつも決まった画面が出ます</p>	<p>☞「2.3.5 電源投入時に最初に表示する画面番号を設定したい」(2-23 ページ)</p>
<p>• タッチ音の有無の設定</p>  <p>ピッ</p> <p>タッチ音はなりません</p>	<p>☞「2.3.6 タッチした時の音を消したい」(2-24 ページ)</p>
<p>• オフラインモードのメニューを英語で設定</p> <p>メニューを英語に切換</p>  <p>日本語</p> <p>英語</p>	<p>☞「2.3.7 システムメニューやオフラインモードメニューの表示を英語にしたい」(2-25 ページ)</p>
<p>• タッチの認識タイミングを設定</p> <p>タッチを押した時にビットを ON</p>  <p>ON</p> <p>ON</p> <p>タッチを離れた時にビットを ON</p>	<p>☞「2.3.8 タッチを認識するタイミングを変更したい」(2-26 ページ)</p>
<p>• バックライト切れ時の誤動作防止設定</p> <p>バックライトが切れた!</p>  <p>画面が真っ暗になったらタッチの操作を禁止します。</p>	<p>☞「2.3.9 バックライトが切れたときの誤動作を防止したい」(2-27 ページ)</p>

### 2.3.1 明るさ（輝度、コントラスト）を調整したい

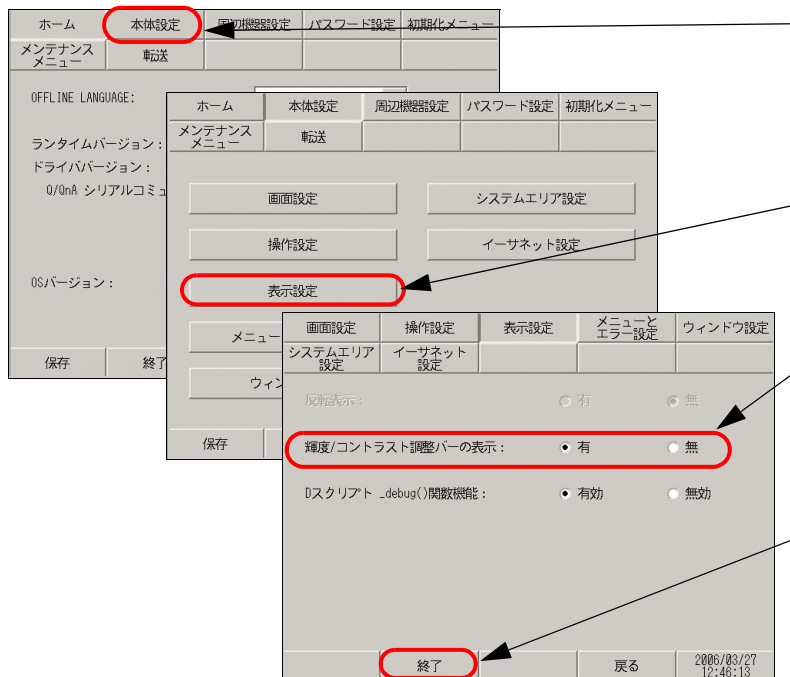
GPの画面の明るさ（輝度、コントラスト）を調整する設定を行います。

**MEMO** ・ 設定画面の詳細は設定ガイドを参照してください。

☞ 「2.13.1 表示器共通 表示設定」(2-67 ページ)

#### オフラインモードでの設定

GPの明るさ（輝度、コントラスト）を調整するバーを画面に表示するかどうかを設定します。



オフラインモードに入り、項目切り替えスイッチから[本体設定]をタッチします。

[本体設定]が開くので[表示設定]をタッチします。

[表示設定]が開くので[輝度/コントラスト調整バーの表示]で[有]を選択します。

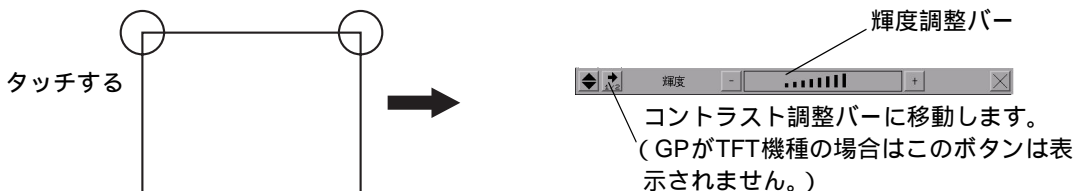
[終了]をタッチしてオフラインモードを終了します。

#### 輝度 / コントラスト調整バーの表示

オフラインモードの[表示設定]で[輝度 / コントラスト調整バーの表示]を[有]に設定すると、輝度 / コントラスト調整バーを GP の画面で表示することができます。

**重要** ・ GP 起動中は、このモードには入れません。運転画面が表示されてからこのモードに入ってください。  
・ 運転中（接続機器と通信中）でもこの操作は可能です。

パネルの右上隅 → 左上隅または左上隅 → 右上隅（縦横 40 ドット以内）の順に 0.5 秒以内にタッチします。



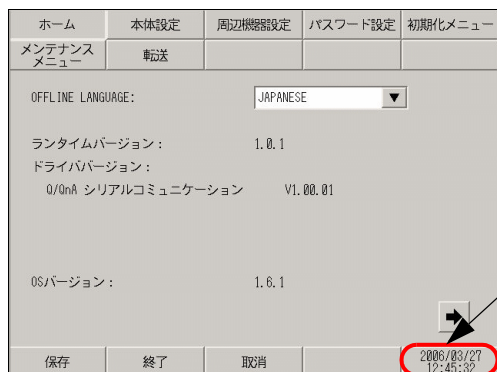
輝度 / コントラスト調整バーの [ + ] [ - ] で強弱を設定し、[ × ] で調整を終了します。TFT カラー LCD の機種（AGP-3500T など）では輝度調整のみ設定できます。

輝度 / コントラスト調整モードの終了

輝度 / コントラスト調整バーの [ × ] をタッチしてください。

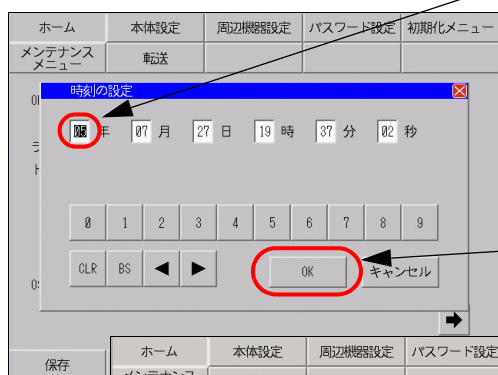
## 2.3.2 表示器の時刻を調整したい

GP に表示される日付、時間を設定します。

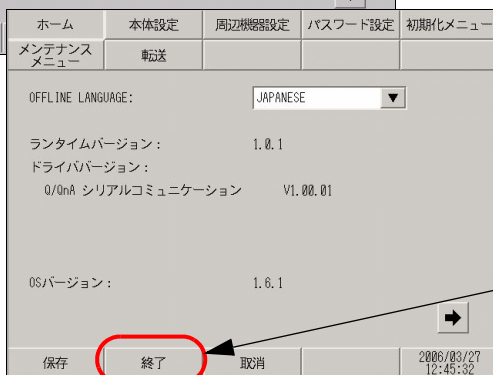


オフラインモードに入り、コントロールスイッチの時刻表示エリアをタッチすると[時刻の設定]ダイアログボックスが表示されます。

変更したい日付、時刻の単位をタッチし、黒く反転したら下のテンキー数値入力キーで入力します。



入力が完了したら[OK]をタッチし、[時刻の設定]ダイアログボックスを閉じます。



[ホーム]の[終了]をタッチし、以上で設定完了です。

**重要**

- GP に内蔵されている時計には誤差があります。設定した現在時刻をタグ設定などで表示させる場合は、実際の時刻との誤差にご注意ください。常温無通電状態（バックアップ時）での誤差は、1ヶ月 ± 65 秒です。温度差や使用年数によっては1ヶ月に -380 ~ +90 秒の誤差になります。時計の誤差が問題となるシステムでご使用になる場合、定期的に正確な時間の設定をしてください。
- [IRAAA051 バックアップ電池の充電が必要です]というメッセージが表示された場合、GP へ電源を供給し、十分な充電を行ってください。充電は電源投入後、24 時間でバックアップ可能な限り充電され、充電を完了するには約 96 時間（4 日間）を必要とします。

### 2.3.3 一定の時間がたつと画面を消したい

液晶ディスプレイを保護するために、自動的に画面を消す機能（スタンバイモード）があります。スタンバイモードを設定するには以下の順番で「画面設定」を開きます。

**MEMO** ・ 設定画面の詳細は設定ガイドを参照してください。

☞ 「2.13.1 表示器共通 画面設定」(2-65 ページ)

オフラインモードに入り項目切り替えスイッチから [本体設定] をタッチします。

[本体設定] が開くので [画面設定] をタッチします。

[画面設定] が開くので [スタンバイモード設定] で [画面OFF] をタッチします。

一定の時間（例：10分）がたったら画面を消したい場合は下記のように詳細を設定します。

[スタンバイモード設定] で入力枠をタッチするとテンキーが表示されるので「10」と入力し、[ENT]キーをタッチします。

[終了] をタッチすると左のような [終了] ダイアログボックスが表示されるので [変更を保存して終了] をタッチします。

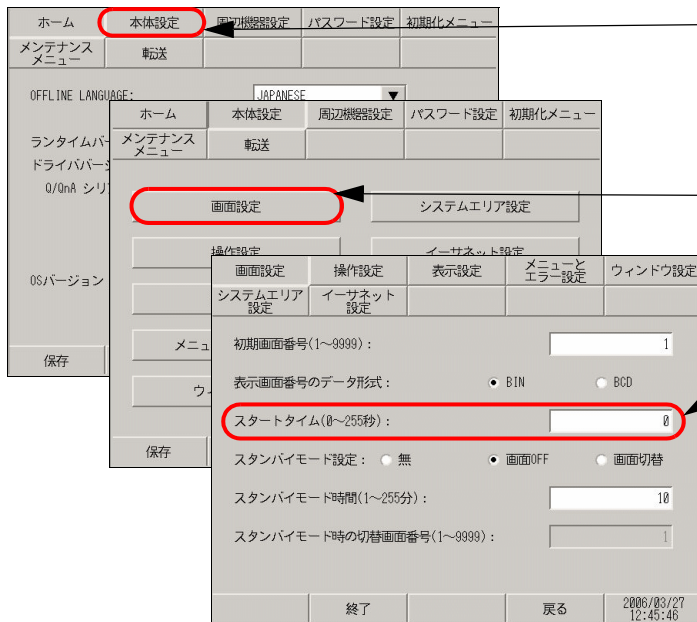
[設定の保存] ダイアログボックスが表示された後、自動的にGPが再起動されます。以上で設定完了です。

### 2.3.4 電源を入れてから本体が起動するまでの時間を設定したい

GPの立ち上げ時間の設定です。電源を入れ、接続機器の立ち上げ後にGPを立ち上げるなど、電源投入時間を調整するために設定します。

**MEMO** ・設定画面の詳細は設定ガイドを参照してください。

☞「2.13.1 表示器共通 表示設定」(2-67 ページ)

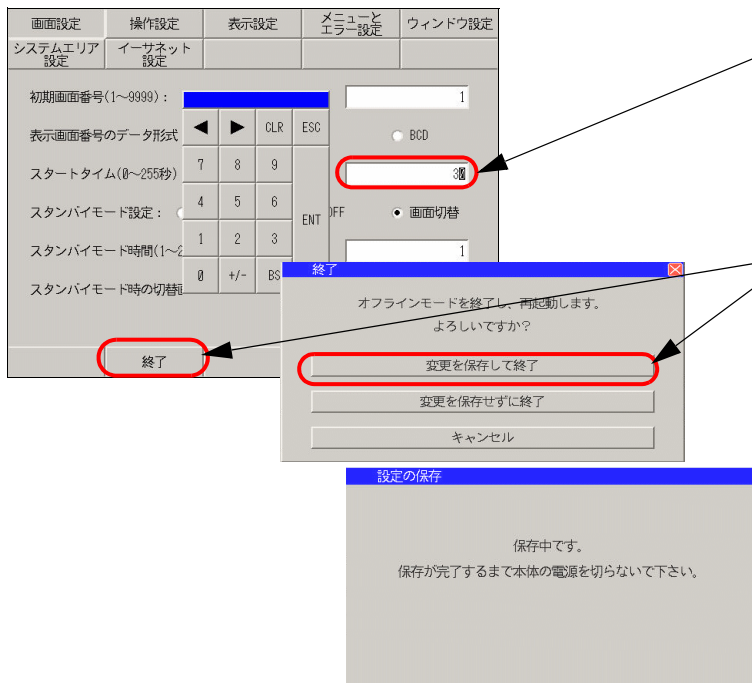


オフラインモードに入り、項目切り替えスイッチから[本体設定]をタッチします。

[本体設定]が開くので[画面設定]をタッチします。

[画面設定]画面が開くので[スタートタイム(0~255秒)]の入力枠をタッチします。

電源投入後、30秒後に初期画面を表示したい場合は下記のように設定します。



入力枠をタッチするとテンキーが表示されるので「30」と入力し、[ENT]キーをタッチします。

[終了]をタッチすると左のような[終了]ダイアログボックスが表示されるので[変更を保存して終了]をタッチします。

[設定の保存]ダイアログボックスが表示された後、自動的にGPが再起動されます。以上で設定完了です。

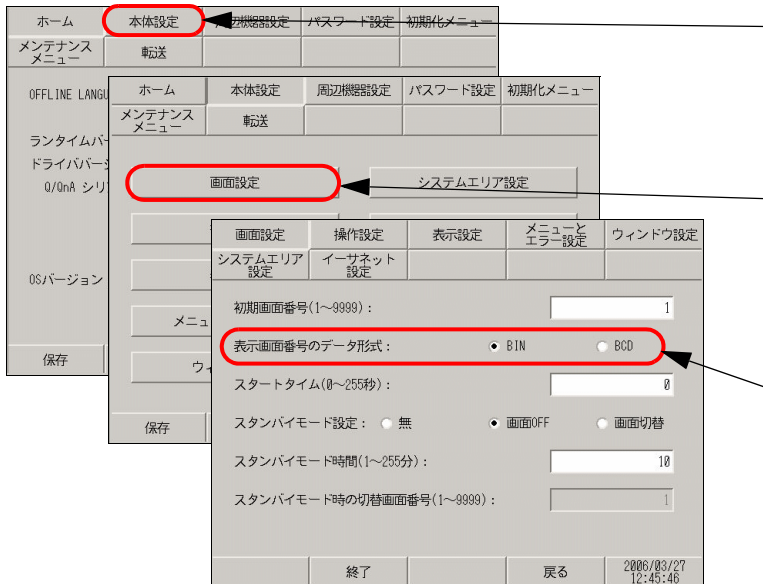
再起動後、初期画面を表示するまでの間、で設定したスタートタイムの秒数がカウントダウンされ、画面の右上に表示されます。

## 2.3.5 電源投入時に最初に表示する画面番号を設定したい

電源を投入後、最初に表示させたい画面ファイル番号を変更します。

**MEMO** ・ 設定画面の詳細は設定ガイドを参照してください。

☞ 「2.13.1 表示器共通 表示設定」(2-67 ページ)

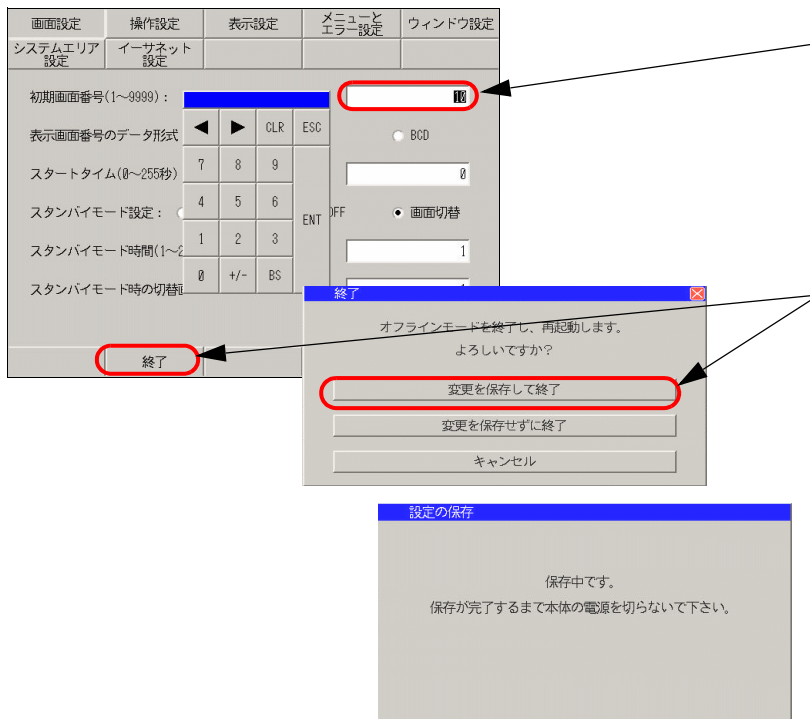


オフラインモードに入り、項目切り替えスイッチから[本体設定]をタッチします。

[本体設定]が開くので[画面設定]をタッチします。

[画面設定]が開くので[表示画面番号のデータ形式]で画面番号のデータ形式を[BIN]、[BCD]から選択します。

電源投入後、最初に表示する画面を（例：表示画面番号のデータ形式 BIN、ベース画面 10）変更したい場合は下記のように設定します。



[初期画面番号(1 ~ 9999)]の入力枠をタッチするとテンキーが表示されるので「10」と入力し、[ENT]キーをタッチします。

[終了]をタッチすると左のような[終了]ダイアログボックスが表示されるので[変更を保存して終了]をタッチします。

[設定の保存]ダイアログボックスが表示された後、自動的にGPが再起動されます。以上で設定完了です。

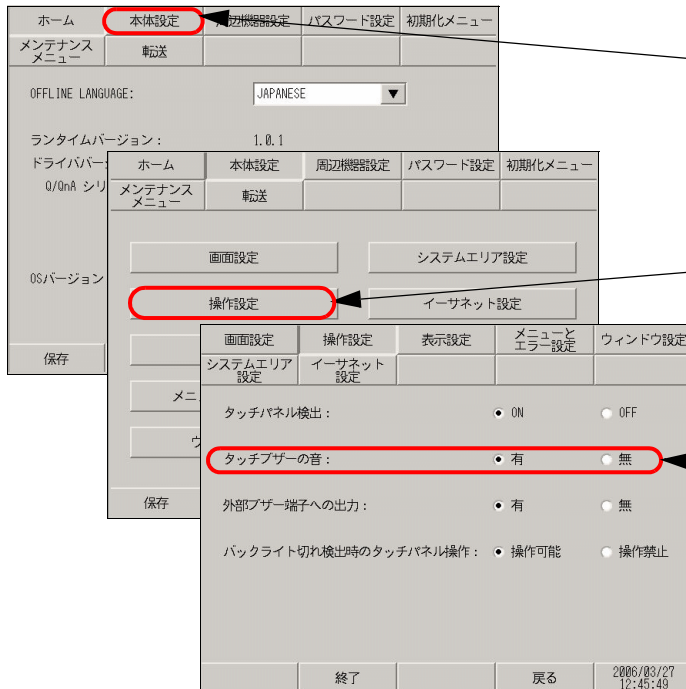
## 2.3.6 タッチした時の音を消したい

画面をタッチした時に内部ブザー音を出すか出さないかの設定を行います。

**MEMO** ・ 設定画面の詳細は設定ガイドを参照してください。

☞ 「2.13.1 表示器共通 操作設定」(2-66 ページ)

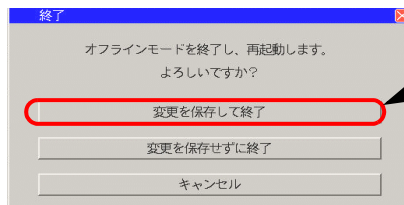
## タッチ音、有効無効の設定



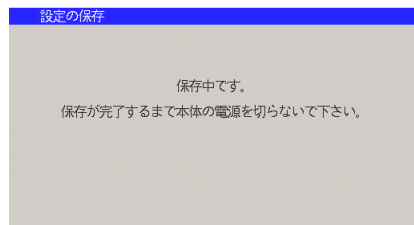
オフラインモードに入り、項目切り替えスイッチから[本体設定]をタッチします。

[本体設定]が開くので[操作設定]をタッチします。

[操作設定]が開くので[タッチブザーの音]で[無]を選択します。



[終了]をタッチすると左のような[終了]ダイアログボックスが表示されるので[変更を保存して終了]をタッチします。



[設定の保存]ダイアログボックスが表示された後、自動的にGPが再起動されます。以上で設定完了です。

## 2.3.7 システムメニューやオフラインモードメニューの表示を英語にしたい

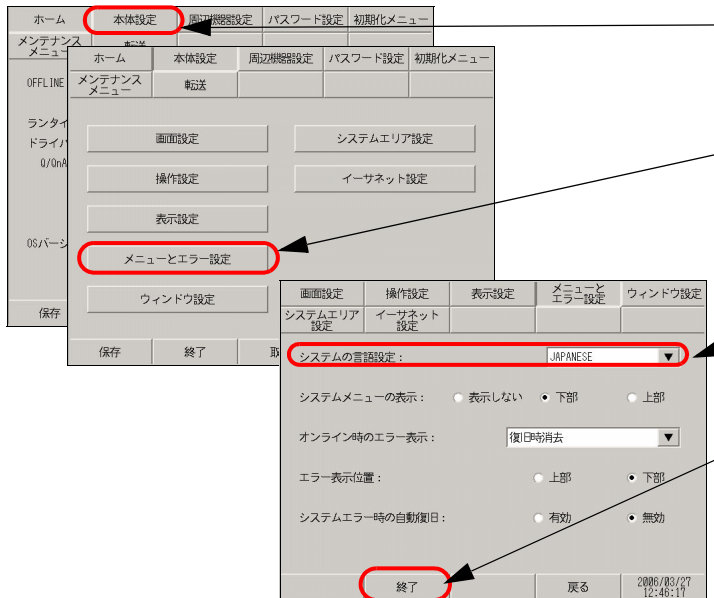
**MEMO** ・ 設定画面の詳細は設定ガイドを参照してください。

☞ 「2.13.1 表示器共通 メニューとエラー設定」(2-67 ページ)

☞ 「2.13.1 表示器共通 [ホーム] の設定ガイド」(2-64 ページ)

## システムメニューやエラーメッセージ

システムメニューやエラーメッセージで表示される文字列の言語を設定します。



オフラインモードに入り、項目切り替えスイッチから[本体設定]をタッチします。

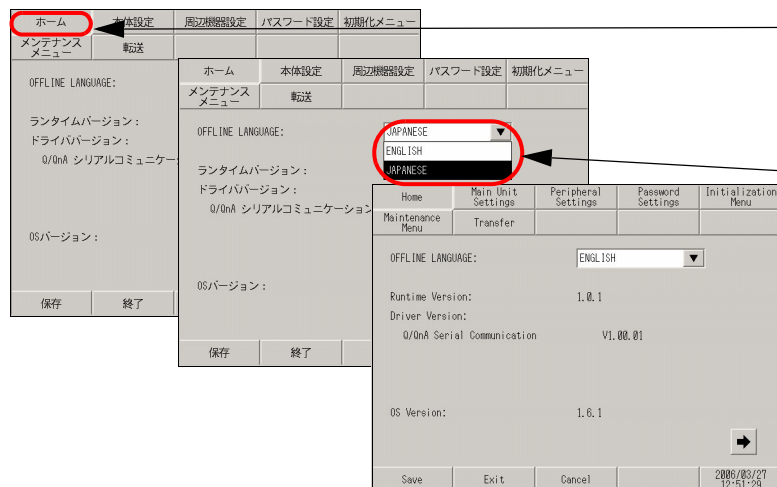
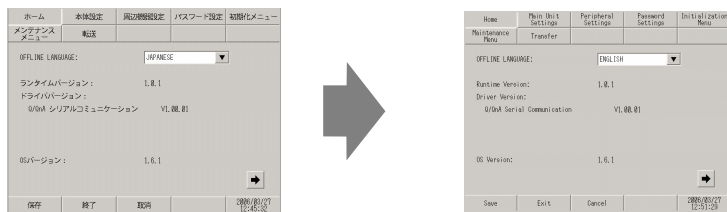
[本体設定]が開くので[メニューとエラー設定]をタッチします。

[メニューとエラー設定]が開くので[システムの言語設定]で▼をタッチして[ENGLISH]を選択します。

[終了]をタッチして変更を保存すると自動的にGPが再起動されます。

## オフラインモードメニュー

オフラインメニューで表示される文字列の言語を設定します。



オフラインモードに入り[ホーム]が表示されていることを確認します。

[OFFLINE LANGUAGE]で▼をタッチし、[ENGLISH]を選択します。

オフラインメニューが英語で表示されます。

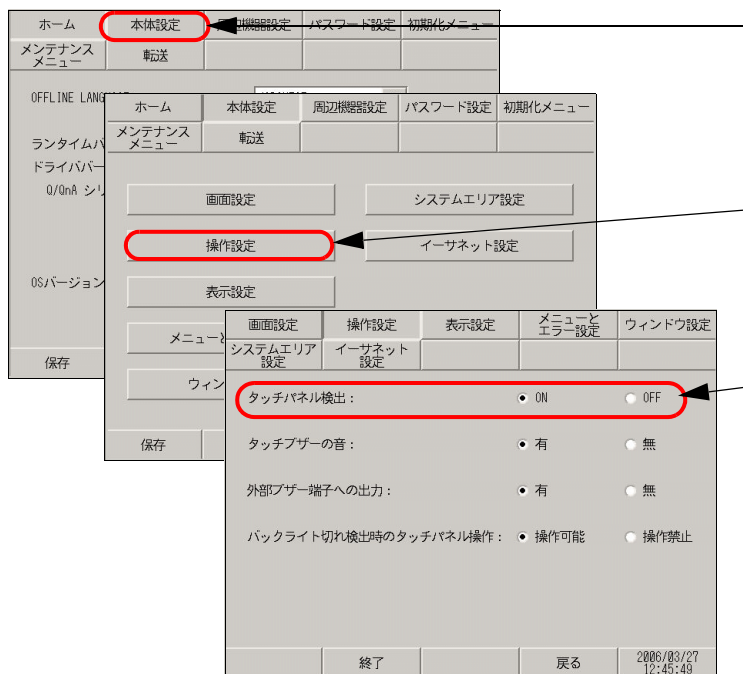


## 2.3.8 タッチを認識するタイミングを変更したい

タッチが押された時のタイミングでタッチを検出するか、タッチをはなした時にタッチを検出するかを設定します。

**MEMO** ・ 設定画面の詳細は設定ガイドを参照してください。

☞ 「2.13.1 表示器共通 操作設定」(2-66 ページ)



オフラインモードに入り、項目切り替えスイッチから[本体設定]をタッチします。

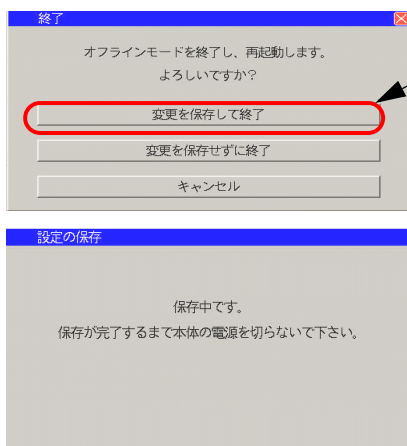
[本体設定]が開くので [操作設定]をタッチします。

[操作設定]が開くので [タッチパネル検出]で[ON]、[OFF]を選択します。

ON ..... タッチが押された時にタッチを検出します。

OFF ..... タッチをはなした時にタッチを検出します。

モーメンタリ動作の場合は、タッチパネル検出の設定に関係なくタッチが押された時にタッチ検出されます。リピート動作の場合、タッチパネル検出は無効になります。



[終了]をタッチすると左のような[終了]ダイアログボックスが表示されるので[変更を保存して終了]をタッチします。

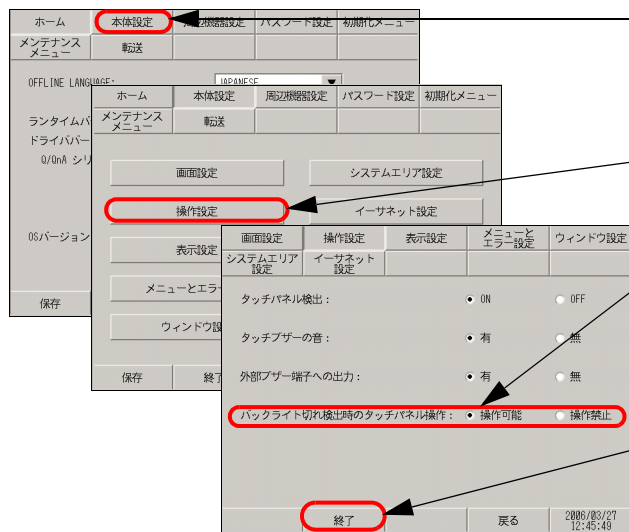
[設定の保存]ダイアログボックスが表示された後、自動的にGPが再起動されます。以上で設定完了です。

### 2.3.9 バックライトが切れたときの誤動作を防止したい

バックライト切れを検出した場合のタッチパネル操作を有効にするか無効にするかを設定します。  
[無効]にするとバックライトが切れた際にタッチパネル操作を受け付けなくなり、誤動作を防止することができます。

**MEMO** ・ 設定画面の詳細は設定ガイドを参照してください。

☞ 「2.13.1 表示器共通 操作設定」(2-66 ページ)



オフラインモードに入り、項目切り替えスイッチから[本体設定]をタッチします。

[本体設定]が開くので [操作設定]をタッチします。

[操作設定]が開くので [バックライト切れ検出時のタッチパネル操作]から[操作可能]、[操作禁止]を選択します。

[終了]をタッチして変更を保存すると自動的にGPが再起動されます。

操作可能 ... バックライトが切れた場合でも、タッチで操作できます。

操作禁止 ... バックライトが切れた場合、タッチ操作を受け付けなくなり、誤動作を防止することができます。

**MEMO**

- バックライト切れを検出するとステータス LED は橙色に点灯します。
- GP3000 シリーズではバックライト (CCFL) を使用しています。バックライトが切れた場合には、バックライト切れの検出を行い、タッチパネル操作を無効にできます。また、バックライトを 2 本使用している機種では 1 本が切れた場合でもバックライト切れが検出されます。
- バックライト切れを検出するとシステムデータエリアの「ステータス」のビット 10<sup>1</sup> が ON になります。
- 「システムメニューの表示」を「下部」または「上部」に設定している場合、メニューバーを表示させることができます。(画面は真っ暗で見えない状態ですが、メニューバーでのタッチパネル操作は有効です。)
- オフラインモード中にバックライトが切れた場合は、ここでの設定に関わらず、タッチパネル操作は有効です。

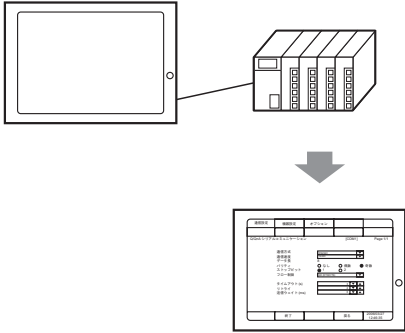
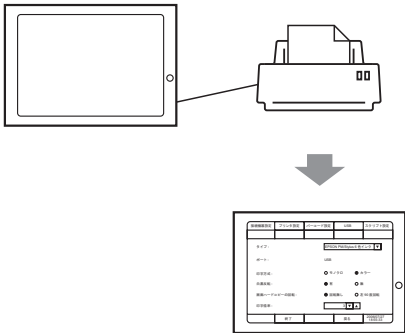
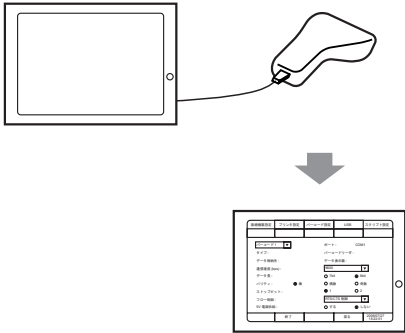
1 ダイレクトアクセス方式でご使用の場合は +6、メモリリンク方式でご使用の場合は 11 が対象のアドレスになります。

**重要**

- バックライト切れは、消費する電流を監視しています。バックライトの故障状態によっては、検出できない場合や完全にバックライトが切れる前に検出される場合もあります。

## 2.4 周辺機器設定

周辺機器に関する設定や確認ができます。

できること	設定手順
<ul style="list-style-type: none"> <li>接続している接続機器の通信設定や確認</li> </ul> 	<p>☞ 「2.4.1 接続機器の通信設定を確認したい」(2-29 ページ)</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>接続しているプリンタの印刷方法変更や確認</li> </ul> 	<p>☞ 「2.4.2 プリンタの設定を確認したい」(2-31 ページ)</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>接続しているバーコードの通信設定や確認</li> </ul> 	<p>☞ 「2.4.3 バーコードの設定を確認したい」(2-32 ページ)</p>

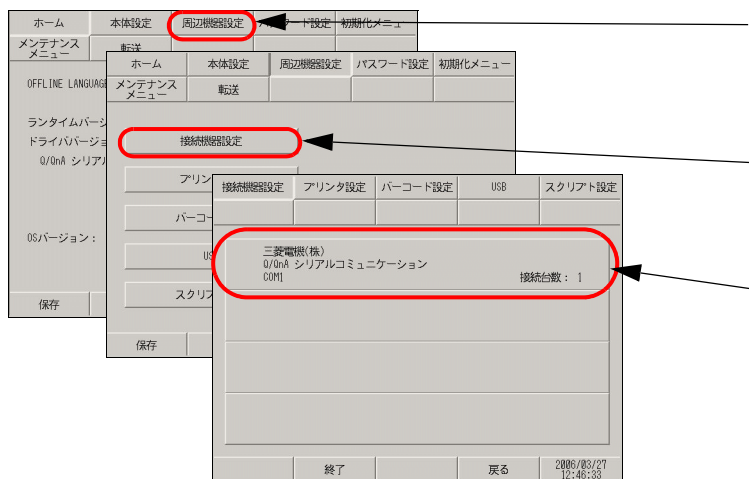
## 2.4.1 接続機器の通信設定を確認したい

接続機器の通信の設定や確認ができます。接続機器の通信設定と合わせるようにしてください。選択された項目は接続機器によって異なります。

**MEMO** ・ 設定画面の詳細は設定ガイドを参照してください。

☞ 「2.13.1 表示器共通 接続機器設定」(2-73 ページ)

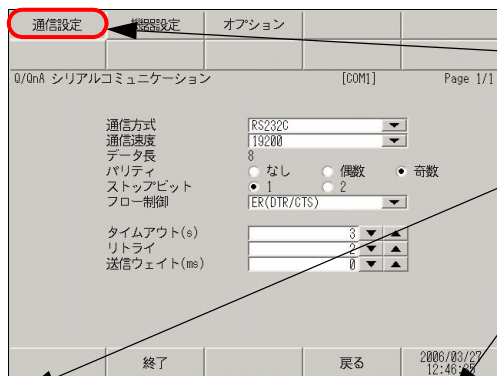
### シリアル接続



オフラインモードに入り、項目切り替えスイッチから[周辺機器設定]をタッチします。

[周辺機器設定]が開くので [接続機器設定]をタッチします。

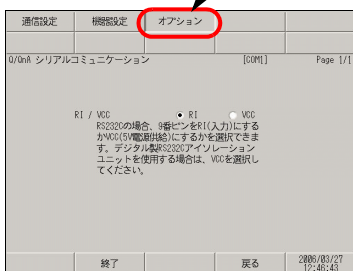
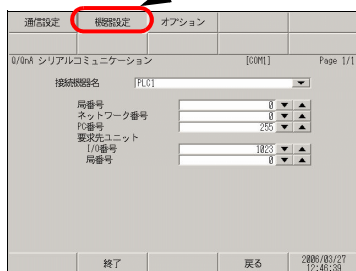
[接続機器設定]が開くので 詳細設定を確認、または変更する場合は接続機器の項目をタッチします。



・ [通信設定]  
[通信設定]をタッチすると、通信するための設定を行えます。

・ [機器設定]  
[機器設定]をタッチすると、各接続機器に応じた内容を設定できます。

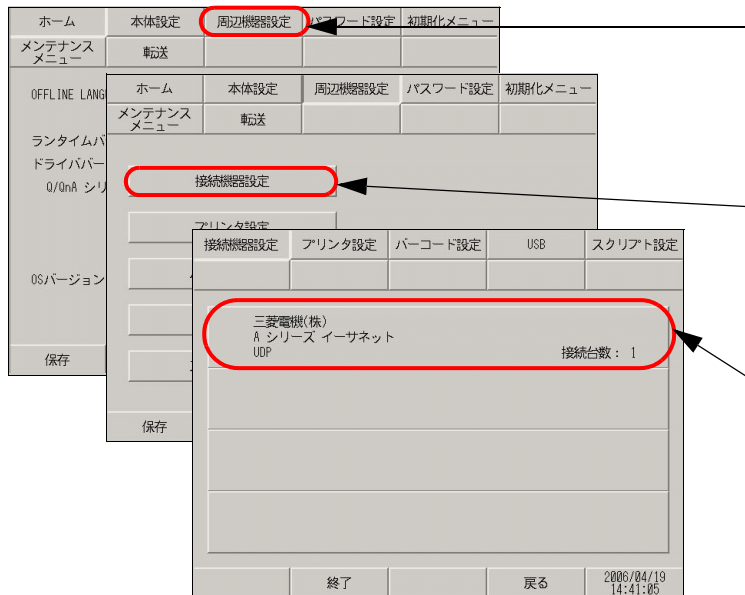
・ [オプション]  
RS-232C を使用の場合 9 番ピンの信号を変更する設定を行えます。



設定を変更した場合、[終了]をタッチして変更を保存します。保存した後は、自動的にGPが再起動されます。

**MEMO** ・ [通信設定] [機器設定] [オプション] の設定内容は各接続機器シリーズにより異なります。ご使用になる接続機器の「GP-Pro EX 機器接続マニュアル」を参照してください。ただし、[受信タイムアウト]、[リトライ]、[送信ウェイト] は初期設定の状態でご使用になることをおすすめします。

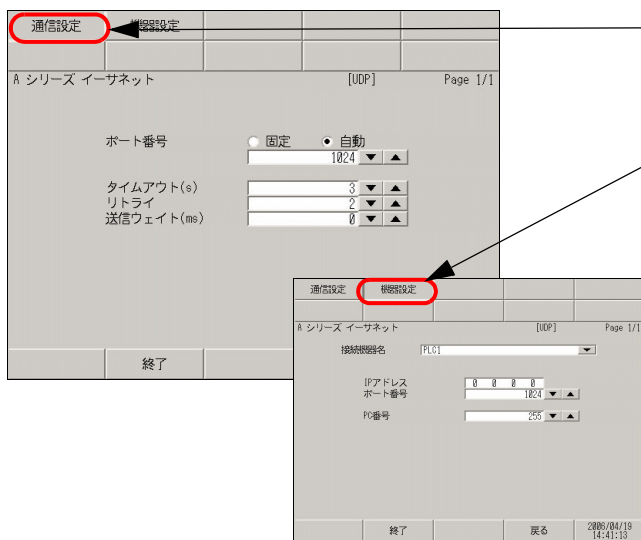
## イーサネット接続



オフラインモードに入り、項目切り替えスイッチから[周辺機器設定]をタッチします。

[周辺機器設定]が開くので[接続機器設定]をタッチします。

[接続機器設定]が開くので詳細設定を確認、または変更する場合は接続機器の項目をタッチします。



• [通信設定]  
[通信設定]をタッチすると、通信するための設定を行えます。

• [機器設定]  
[機器設定]をタッチすると、各接続機器に応じた内容を設定できます。

設定を変更した場合、[終了]をタッチして変更を保存します。保存した後は、自動的にGPが再起動されます。

### MEMO

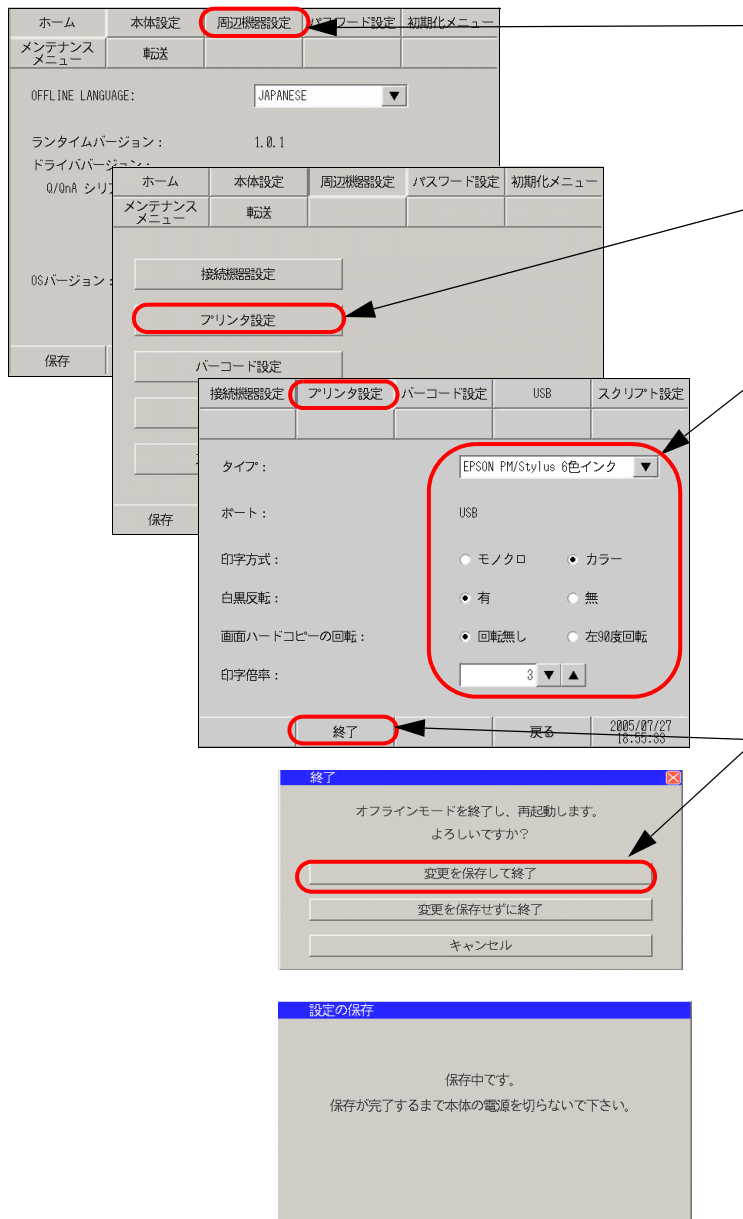
• [通信設定][機器設定]の設定内容は各接続機器シリーズにより異なります。ご使用になる接続機器の「GP-Pro EX 機器接続マニュアル」を参照してください。ただし、[受信タイムアウト]、[リトライ]、[送信ウェイト]は初期設定の状態でご使用になることをおすすめします。

## 2.4.2 プリンタの設定を確認したい

プリンタの設定を確認する画面を開く手順をご説明します。

**MEMO** ・ 設定画面の詳細は設定ガイドを参照してください。

☞ 「2.13.1 表示器共通 プリンタ設定」(2-74 ページ)



オフラインモードに入り、項目切り替えスイッチから[周辺機器設定]をタッチします。

[周辺機器設定]が開くので [プリンタ設定]をタッチします。

[プリンタ設定]が開くので 設定を確認、または変更する項目をタッチします。

[終了]をタッチすると左のような[終了]ダイアログボックスが表示されるので[変更を保存して終了]をタッチします。

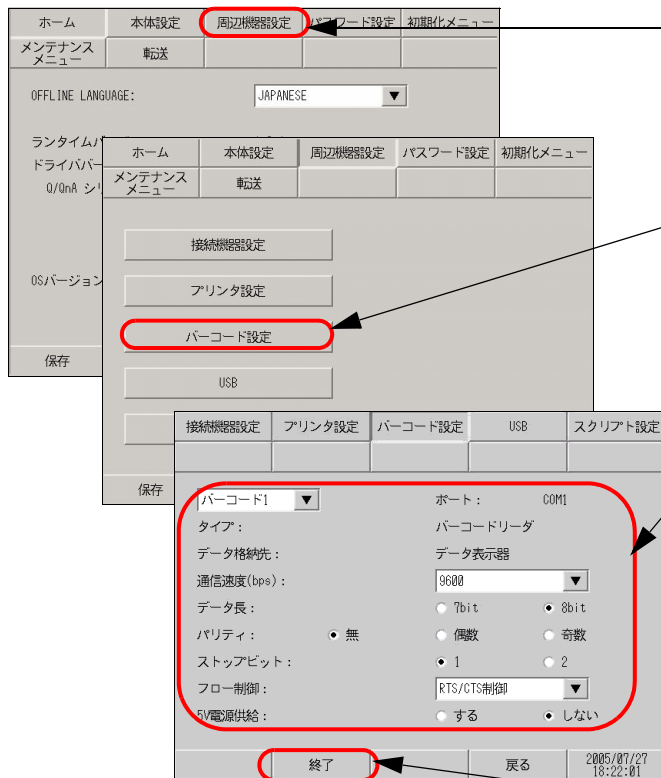
[設定の保存]ダイアログボックスが表示された後、自動的にGPが再起動されます。以上で設定完了です。

### 2.4.3 バーコードの設定を確認したい

バーコードの設定を確認する画面を開く手順をご説明します。

**MEMO** ・ 設定画面の詳細は設定ガイドを参照してください。

☞ 「2.13.1 表示器共通 バーコード設定」(2-75 ページ)

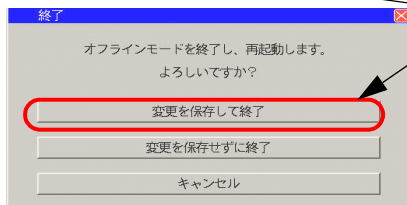


オフラインモードに入り、項目切り替えスイッチから[周辺機器設定]をタッチします。

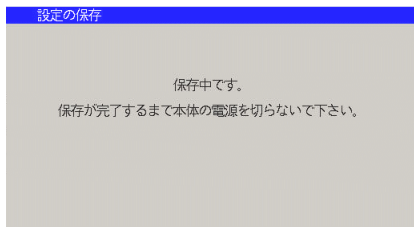
[周辺機器設定]が開くので [バーコード設定]をタッチします。

[バーコード設定]が開くので 設定を確認、または変更する項目をタッチします。

[終了]をタッチすると左のような[終了]ダイアログボックスが表示されるので[変更を保存して終了]をタッチします。



[設定の保存]ダイアログボックスが表示された後、自動的にGPが再起動されます。以上で設定完了です。



## 2.5 イーサネット設定

下記のような通信時に表示器に IP アドレスを設定します。

できること	設定手順
<ul style="list-style-type: none"> <li>• 接続機器とイーサネットで通信する場合                     <div data-bbox="244 363 617 714"> <p>GPにIPアドレスを設定</p> <p>IPアドレス 192.x.x.x</p> <p>LANケーブル</p> </div> </li> <li>• プロジェクトファイルを転送する場合                     <div data-bbox="219 788 658 1232"> <p>GPにIPアドレスを設定</p> <p>IPアドレス 192.x.x.x</p> <p>PC</p> <p>HUB</p> <p>LANケーブル</p> <p>GP</p> <p>プロジェクトをPCからGPに送信</p> </div> </li> <li>• Pro-Server EX 使用時に通信する場合                     <div data-bbox="233 1309 672 1767"> <p>LANケーブル</p> <p>Pro-Server EX (ソフトウェア)</p> <p>データ</p> <p>データ</p> <p>データ</p> <p>データ</p> <p>IPアドレス 192.x.x.x</p> </div> </li> </ul>	<p>設定手順</p> <p>☞「2.5.1 表示器にIPアドレスを設定したい」(2-34 ページ)</p>

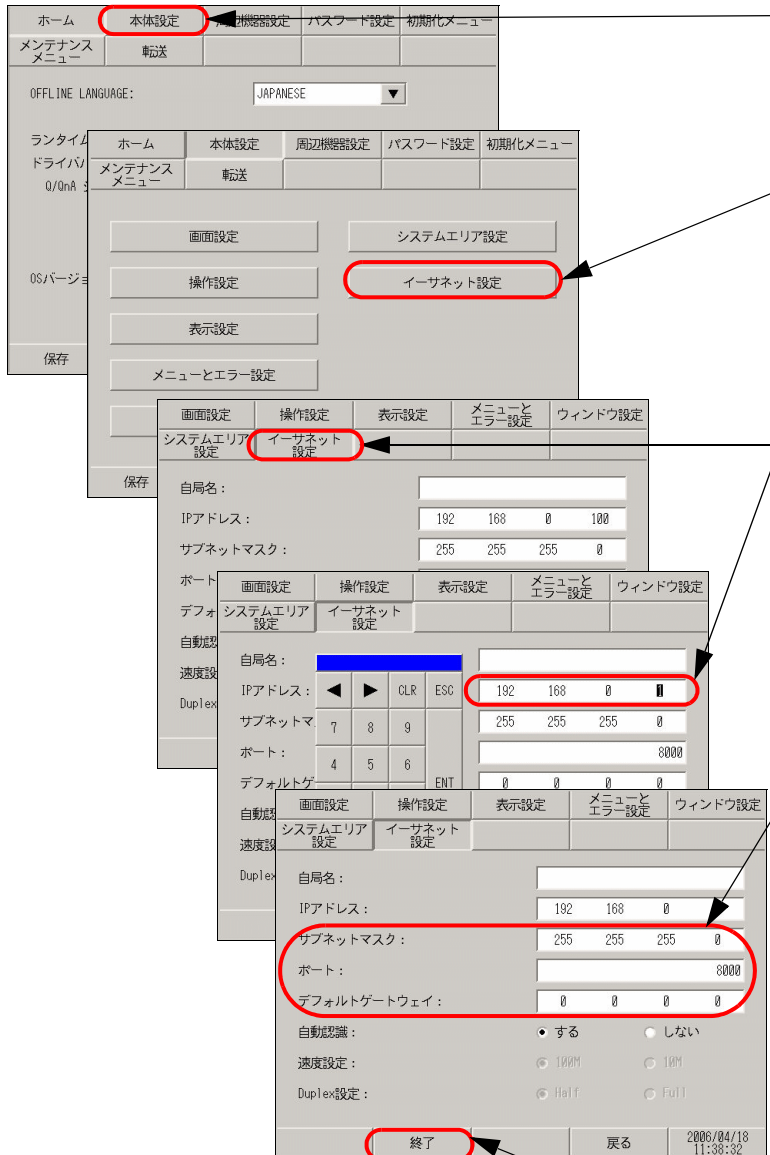


## 2.5.1 表示器に IP アドレスを設定したい

イーサネットに関する設定を行います。ここでのイーサネット情報は、接続機器とイーサネットで通信する場合や、プロジェクトファイル転送、Pro-Server EX 使用時の通信に関する設定です。

**MEMO** ・ 設定画面の詳細は設定ガイドを参照してください。

☞ 「2.13.1 表示器共通 イーサネット設定」(2-72 ページ)



オフラインモードに入り、項目切り替えスイッチから[本体設定]をタッチします。

[本体設定]が開くので[イーサネット設定]をタッチします。

[イーサネット設定]が開きます。IPアドレス入力枠をタッチするとテンキーが表示されるのでIPアドレスを入力します。(例：192.168.0.1) IPアドレスの設定等についてはネットワーク管理者の方にご連絡ください。

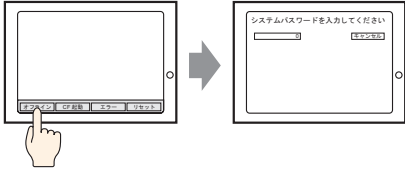
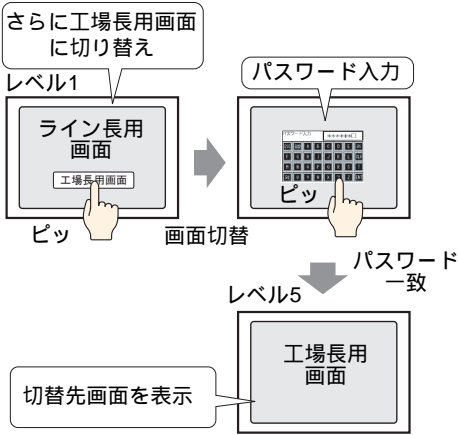
同様に、[サブネットマスク]、[ポート]<sup>1</sup>、[デフォルトゲートウェイ]を設定します。

<sup>1</sup> ここで設定する [ポート] 番号はイーサネット経路でのセットアップやプロジェクトファイル転送、Pro-Server EX 使用時の通信の際に設定するポート番号です。初期値 [8000] のままご使用ください。

[終了]をタッチして変更を保存すると自動的にGPが再起動されます。

## 2.6 パスワード設定

オフラインモードに入るとき、メモリやCFカードの初期化や各画面操作のパスワードを設定できます。

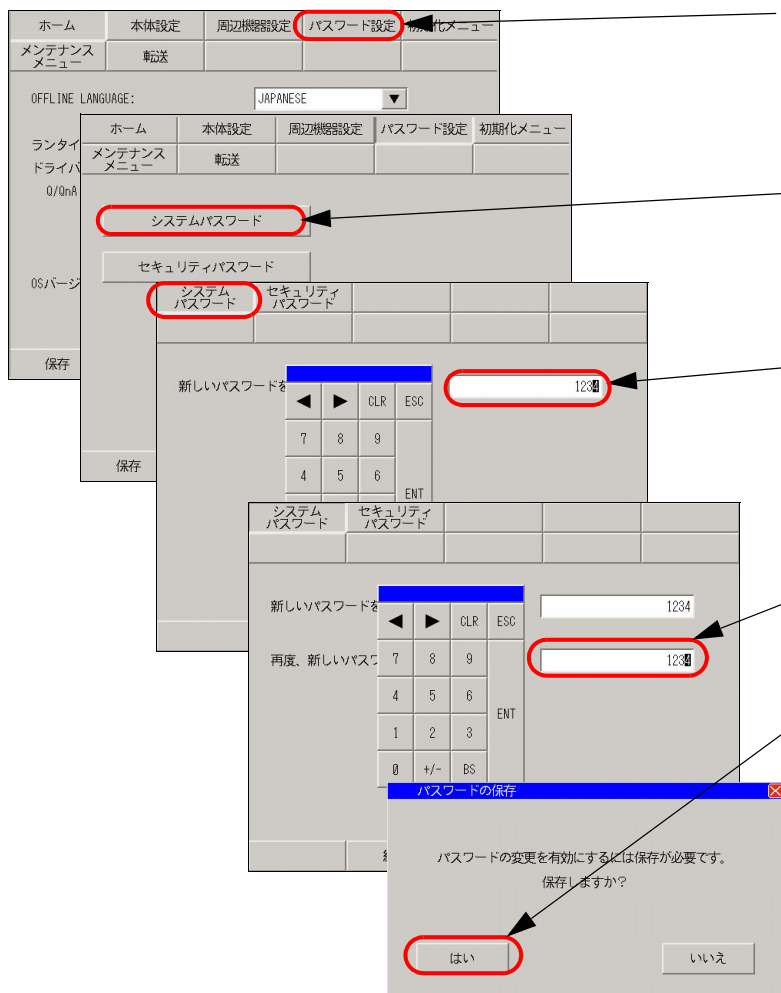
できること	設定手順
<ul style="list-style-type: none"> <li>初期化やオフラインモードに入る場合のパスワードを設定</li> </ul> 	<p>☞「2.6.1 他の方がオフライン設定を変更できないようにしたい」(2-36 ページ)</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>権限別に操作できる画面を設定</li> </ul> 	<p>☞「2.6.2 権限別に操作できる画面を設定したい」(2-37 ページ)</p>

## 2.6.1 他の人がオフライン設定を変更できないようにしたい

オフラインモードに入る時や、メモリの初期化を行う場合に入力するパスワードを設定します。

**MEMO** ・ 設定画面の詳細は設定ガイドを参照してください。

☞ 「2.13.1 表示器共通 システムパスワード」(2-77 ページ)



オフラインモードに入り、項目切り替えスイッチから[パスワード設定]をタッチします。

[パスワード設定]が開くので[システムパスワード]をタッチします。

[システムパスワード]が開きます。入力枠をタッチするとテンキーが表示されるのでパスワードを入力します。  
(例：1234)

確認のため再度パスワードを入力します。

[パスワードの保存]ダイアログボックスが表示されるので[はい]をタッチします。自動的にGPが再起動され、設定完了です。

## 2.6.2 権限別に操作できる画面を設定したい

レベル 15 のパスワードを入力すると、レベル 1 からレベル 15 までのパスワードが変更できるようになります。各レベルのパスワードを変更する際は、現在設定されているパスワードを入力後に変更したいパスワードを入力します。

**MEMO** ・ 設定画面の詳細は設定ガイドを参照してください。

☞ 「2.13.1 表示器共通 セキュリティパスワード」(2-77 ページ)

**重要** ・ GP-Pro EX でレベル 15 のセキュリティパスワードが設定されていない場合、オフラインモードではセキュリティパスワードの設定変更はできません。

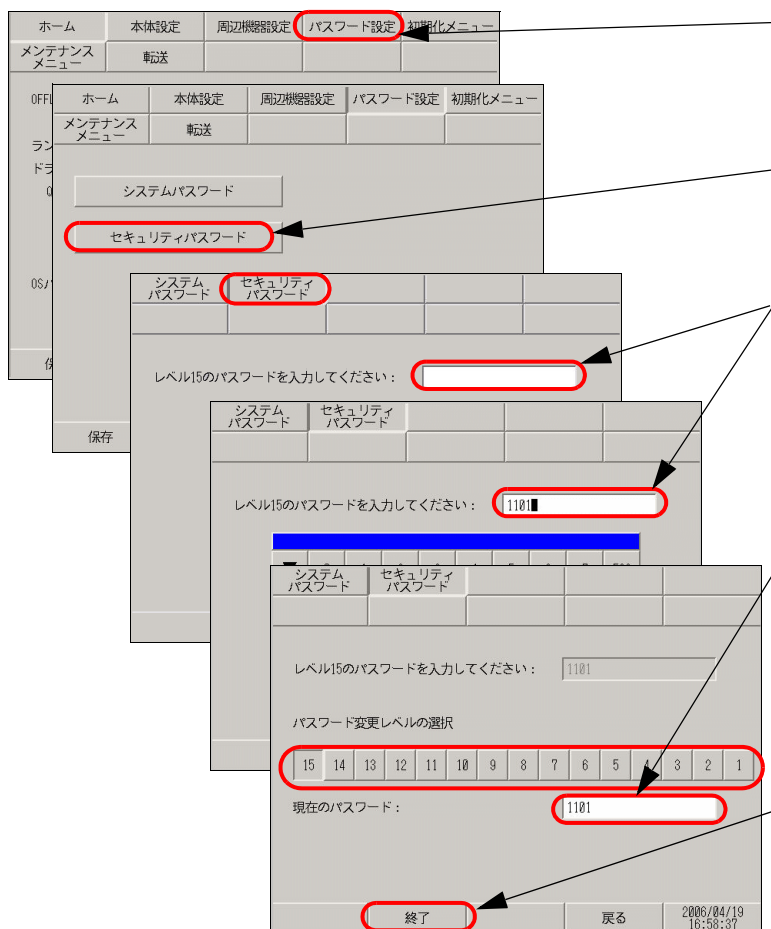
☞ GP-Pro EX リファレンスマニュアル 「22.3 さらに、権限により使える画面を制限したい」(22-5 ページ)

### GP-Pro EX の設定

GP-Pro EX で [ 共通設定 (R) ] メニューの、[ セキュリティ設定 (O) ] から、[ パスワード設定 (P) ] を選択します。パスワード設定画面が開くので [ セキュリティ機能 ] を使用するにチェックを入れ [ レベル 15 ] にパスワードを設定します。

で設定したプロジェクトファイルを GP に転送します。

### オフラインモードの設定



オフラインモードに入り、項目切り替えスイッチから [ パスワード設定 ] をタッチします。

[ パスワード設定 ] が開くので [ セキュリティパスワード ] をタッチします。

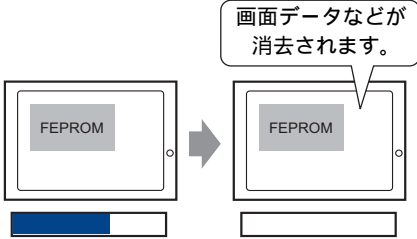
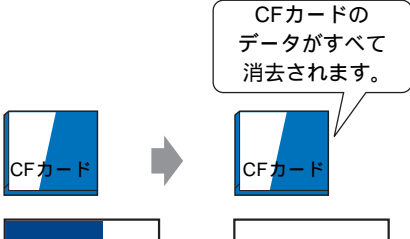
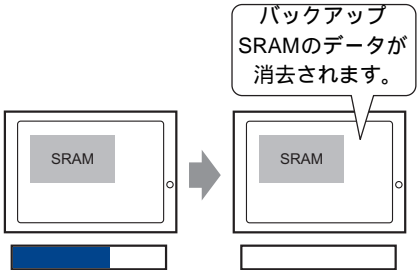
[ セキュリティパスワード ] が開きます。入力枠をタッチするとテンキーが表示されるので GP-Pro EX で設定したパスワードを入力します。(例：1101)

[ パスワード変更レベルの選択 ] でレベルの番号をタッチして、パスワードを変更します。パスワードは半角英数8文字以内で入力します。

[ 終了 ] をタッチして変更を保存します。保存後は自動的に GP が再起動されます。

## 2.7 メモリやCFカードの初期化

メモリやCFカードのデータを初期化できます。初期化できるデータは右記のとおりです。

できること	設定手順
<ul style="list-style-type: none"> <li>ユーザメモリ (FEPROM) の初期化</li> </ul> 	<p>☞ 「2.7.1 ユーザメモリ (FEPROM) の初期化をしたい」 (2-39 ページ)</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>CFカードの初期化</li> </ul> 	<p>☞ 「2.7.2 CFカードを初期化したい」 (2-40 ページ)</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>バックアップSRAMの初期化</li> </ul> 	<p>☞ 「2.7.3 バックアップSRAMの初期化をしたい」 (2-41 ページ)</p>

## 2.7.1 ユーザメモリ (FEPROM) の初期化をしたい

GPのユーザメモリ (FEPROM) に格納されているデータをすべて消去します。

**MEMO**

- 設定画面の詳細は設定ガイドを参照してください。
- ☞ 「2.13.1 表示器共通 ユーザメモリの初期化」(2-78 ページ)
- 初期化に数十秒かかる場合があります。

**重要**

- 「開始」スイッチを押したあとに初期化の取り消しはできませんので、ご注意ください。初期化中は電源を切らないでください。
- バックアップ SRAM のデータも消去されます。
- 初期化を行っても、GP のシステム、ドライバなどのシステムや、時刻の設定データは消去されません。
- ロジックプログラムの保持データもすべて消去されます。

オフラインモードに入り、項目切り替えスイッチから[初期化メニュー]をタッチします。

[初期化メニュー]が開くので[ユーザメモリの初期化]をタッチします。

[ユーザメモリの初期化]が開くので入力枠をタッチし、テンキーで「1101」(システムパスワード)が[無]の場合のみ)または「システムパスワード」で設定したパスワードを入力してください。

[開始]をタッチします。

[本当によろしいですか? ]というメッセージが表示されるので[はい]をタッチします。

初期化が完了したら[閉じる]をタッチします。

## 2.7.2 CFカードを初期化したい

GPに装着されたCFカードのデータをすべて消去します。

**MEMO** • 設定画面の詳細は設定ガイドを参照してください。

☞ 「2.13.1 表示器共通 CFカードの初期化」(2-79 ページ)

**重要** • 「開始」スイッチを押したあとに初期化の取り消しはできませんので、ご注意ください。初期化中は電源を切らないでください。

オフラインモードに入り、項目切り替えスイッチから[初期化メニュー]をタッチします。

[初期化メニュー]が開くので[CFカードの初期化]をタッチします。

[CFカードの初期化]が開くので入力枠をタッチし、テンキーで「1101」([システムパスワード]が[無]の場合のみ)または「システムパスワード」で設定したパスワードを入力してください。

[開始]をタッチします。

[本当によろしいですか?]というメッセージが表示されるので[はい]をタッチします。

初期化が完了したら[閉じる]をタッチします。

## 2.7.3 バックアップSRAMの初期化をしたい

GPのバックアップSRAMに格納されているデータをすべて消去します。

**MEMO**

- 設定画面の詳細は設定ガイドを参照してください。

☞ 「2.13.1 表示器共通 バックアップSRAMの初期化」(2-79ページ)

**重要**

- 「開始」スイッチを押したあとに初期化の取り消しはできませんので、ご注意ください。初期化中は電源を切らないでください。
- バックアップしているデータは消去されます。
- 初期化を行っても、システム、通信プロトコル、時刻の設定データ、ロジックプログラムの保持データは消去されません。

オフラインモードに入り、項目切り替えスイッチから[初期化メニュー]をタッチします。

[初期化メニュー]が開くので[バックアップSRAMの初期化]をタッチします。

[バックアップSRAMの初期化]が開くので入力枠をタッチし、テンキーで「1101」([システムパスワード]が[無]の場合のみ)または「システムパスワード」で設定したパスワードを入力してください。

[開始]をタッチします。

[本当によろしいですか? ]というメッセージが表示されるので[はい]をタッチします。

初期化が完了したら[閉じる]をタッチします。



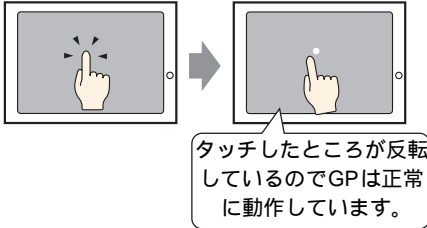
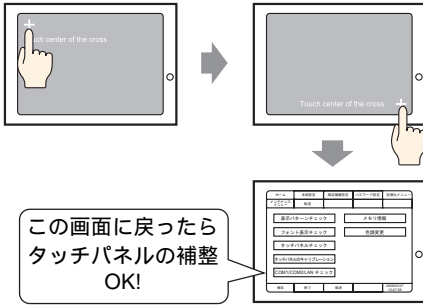
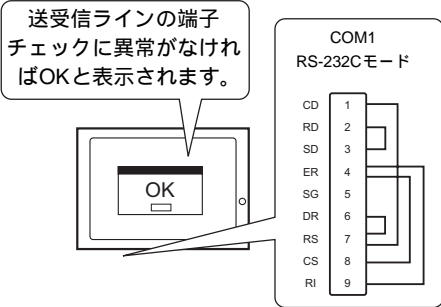
## 2.8 表示器本体の動作チェック

表示器本体が正常に動作しているか右記のようなチェックができます。

### MEMO

- 液晶ディスプレイの表示、フォントの表示、GP 本体のメモリ情報、オフラインモードの色調などのチェック項目については下記を参照してください。

☞「2.13.1 表示器共通 [メンテナンスメニュー]の設定ガイド」(2-80 ページ)

できること	設定手順																		
<p>• タッチパネルチェック</p> 	<p>☞「2.8.1 表示器本体が正常に動作しているかチェックしたい タッチパネルチェック」(2-43 ページ)</p>																		
<p>• アナログタッチパネルの補正</p> 	<p>☞「2.8.1 表示器本体が正常に動作しているかチェックしたい キャリブレーション」(2-43 ページ)</p>																		
<p>• COM1/COM2/LAN のチェック</p>  <p>COM1 RS-232Cモード</p> <table border="1" data-bbox="499 1277 666 1561"> <tr><td>CD</td><td>1</td></tr> <tr><td>RD</td><td>2</td></tr> <tr><td>SD</td><td>3</td></tr> <tr><td>ER</td><td>4</td></tr> <tr><td>SG</td><td>5</td></tr> <tr><td>DR</td><td>6</td></tr> <tr><td>RS</td><td>7</td></tr> <tr><td>CS</td><td>8</td></tr> <tr><td>RI</td><td>9</td></tr> </table> <p>* COM1 と COM2 の端子をチェックするにはループバックケーブルの作成が必要になります。</p>	CD	1	RD	2	SD	3	ER	4	SG	5	DR	6	RS	7	CS	8	RI	9	<p>☞「2.8.1 表示器本体が正常に動作しているかチェックしたい COM1/COM2/LAN チェック」(2-44 ページ)</p>
CD	1																		
RD	2																		
SD	3																		
ER	4																		
SG	5																		
DR	6																		
RS	7																		
CS	8																		
RI	9																		

## 2.8.1 表示器本体が正常に動作しているかチェックしたい

GP のシステムやインターフェイスが正常に動作するかをチェックします。ここでは、[タッチパネルチェック]と[キャリブレーション]、[COM1/COM2/LAN チェック]チェックの手順をご紹介します。

**MEMO**

- 液晶ディスプレイの表示、フォントの表示、GP 本体のメモリ情報、オフラインモードの色調などのチェック項目については下記を参照してください。

☞「2.13.1 表示器共通 [メンテナンスメニュー]の設定ガイド」(2-80 ページ)

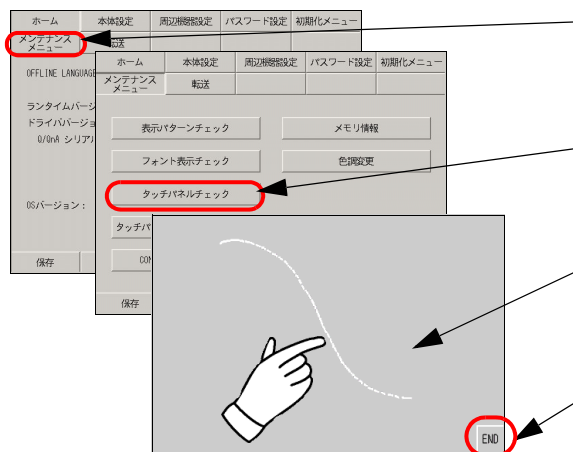
## タッチパネルチェック

タッチパネルのチェックを行います。タッチした箇所が正しく点灯するかチェックします。

**MEMO**

- 設定画面の詳細は設定ガイドを参照してください。

☞「2.13.1 表示器共通 タッチパネルチェック」(2-82 ページ)



オフラインモードに入り、項目切り替えスイッチから[メンテナンスメニュー]をタッチします。

[メンテナンスメニュー]が開くので[タッチパネルチェック]をタッチします。

[タッチパネルチェック]画面が開くのでタッチして入力された箇所にドット表示されるか、表示反転を見て確認します。

チェックを終了するためには[END]をタッチします。

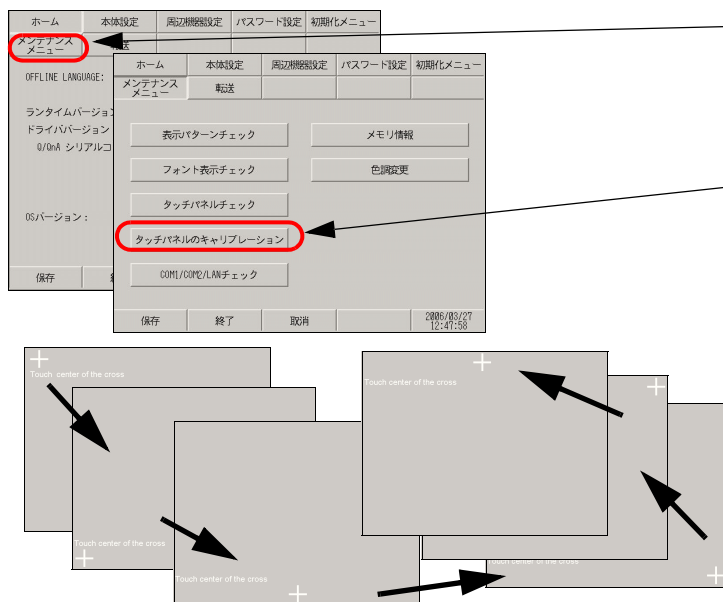
## キャリブレーション

アナログタッチパネルの補正 (キャリブレーションの設定) を行います。

**MEMO**

- 設定画面の詳細は設定ガイドを参照してください。

☞「2.13.1 表示器共通 タッチパネルのキャリブレーション」(2-82 ページ)



オフラインモードに入り、項目切り替えスイッチから[メンテナンスメニュー]をタッチします。

[メンテナンスメニュー]が開くので[タッチパネルのキャリブレーション]をタッチします。

[タッチパネルのキャリブレーション]が開き、+マークが表示されるので、このマークが消えるまでタッチしつづけます。

正常に認識できたら[メンテナンスメニュー]画面に戻ります。

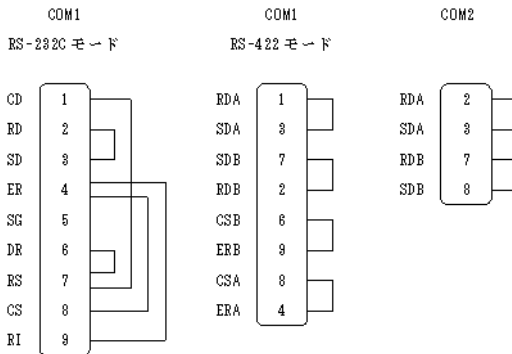
## COM1/COM2/LAN チェック

RS-232C、RS-422、LAN の送受信ラインのチェックです。異常が発生したときにチェックします。COM1、COM2 のチェックを行うには SIO ケーブルの接続が必要です。

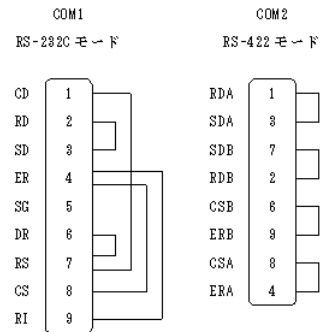
## ループバックケーブルの作成

チェックを行うためにループバックケーブルを作成する必要があります。ループバックの配線は以下のとおりです。

## GP3000シリーズ (GP-3302Bを除く)



## GP-3302B

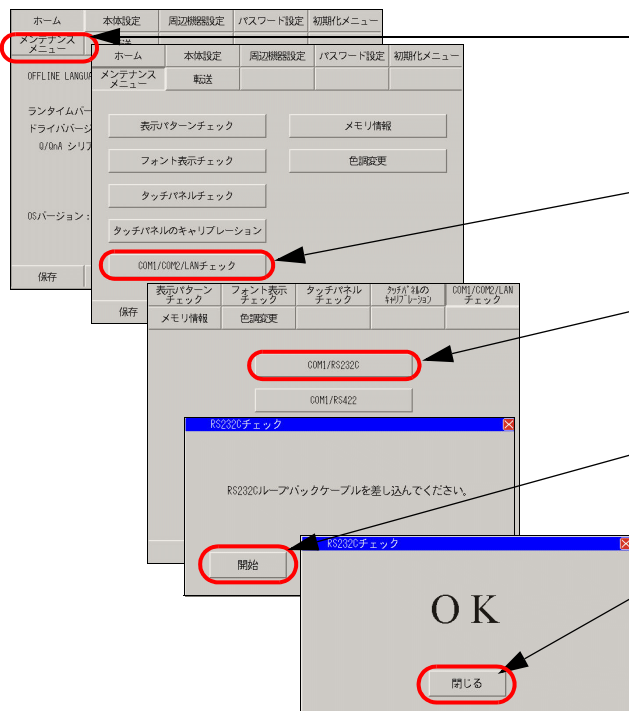


## チェック

作成したループバックケーブルをインターフェイスに接続し、チェックを行います。正常なら [OK]、異常なら [NG] が表示されます。

**MEMO** ・ 設定画面の詳細は設定ガイドを参照してください。

☞ 「2.13.1 表示器共通 COM1/COM2/LAN チェック」(2-83 ページ)



オフラインモードに入り、項目切り替えスイッチから [メンテナンスメニュー] をタッチします。

[メンテナンスメニュー] が開くので [COM1/COM2/LAN チェック] をタッチします。

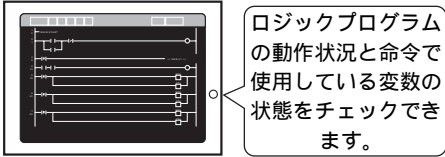
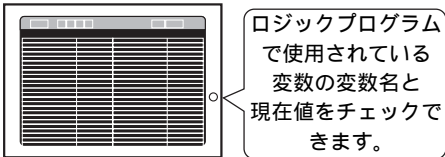
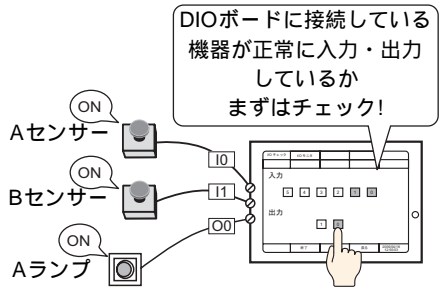
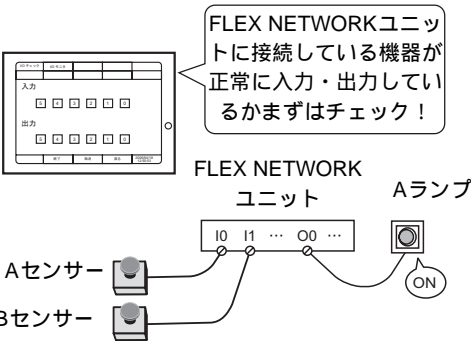
[COM1/COM2/LAN チェック] が開くのでチェックするインターフェイスを選択します。(例: COM1/RS232C)

次のようなメッセージが表示されるのでループバックケーブルを差し込んで [開始] をタッチしてください。

チェックに異常がなければ [OK]、エラーが発生した場合は [NG] と表示されます。チェック確認後は [閉じる] をタッチします。

## 2.9 ロジック機能の動作（通信）チェック

ロジックプログラムが正常に動作するか、また GP3000 シリーズ DIO ボードタイプ、FLEX NETWORK ユニットに接続している機器が正常に動作するかチェックできます。

できること	設定手順
<ul style="list-style-type: none"> <li>ロジックプログラムのモニタ</li> </ul>  <p>ロジックプログラムの動作状況と命令で使用している変数の状態をチェックできます。</p>	<p>☞ 「2.9.1 ロジックプログラムが正常に動作するかチェックしたい ロジックモニタ」(2-46 ページ)</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>ロジックプログラムで使用されている変数のアドレスモニタ</li> </ul>  <p>ロジックプログラムで使用されている変数の変数名と現在値をチェックできます。</p>	<p>☞ 「2.9.1 ロジックプログラムが正常に動作するかチェックしたい アドレスモニタ」(2-47 ページ)</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>GP3000 シリーズ DIO ボードタイプに接続している機器の動作チェック</li> </ul>  <p>DIOボードに接続している機器が正常に入力・出力しているかまずはチェック!</p>	<p>☞ 「2.9.2 本体 DIO インターフェイスの ON/OFF が正常かチェックしたい」(2-48 ページ)</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>FLEX NETWORK ユニットに接続している機器の動作チェック</li> </ul>  <p>FLEX NETWORKユニットに接続している機器が正常に入力・出力しているかまずはチェック!</p>	<p>☞ 「2.9.3 FLEX NETWORK への通信ができるかチェックしたい」(2-50 ページ)</p>

## 2.9.1 ロジックプログラムが正常に動作するかチェックしたい

ロジックプログラムが GP で正常に動作するか、またロジックプログラムの命令を確認します。またロジックプログラムでの動作確認やロジックプログラムで使用されている変数名とその現在値を一覧で確認できます。

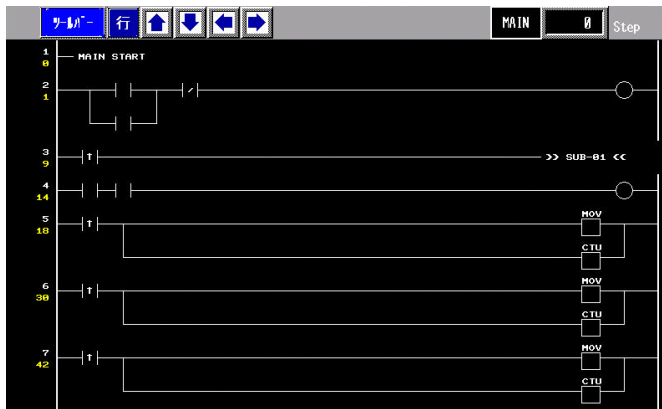
## ロジックモニタ

ロジック全体のモニタを行います。ロジックモニタではプログラムの動作状況と命令で使用している変数の状態が確認できます。

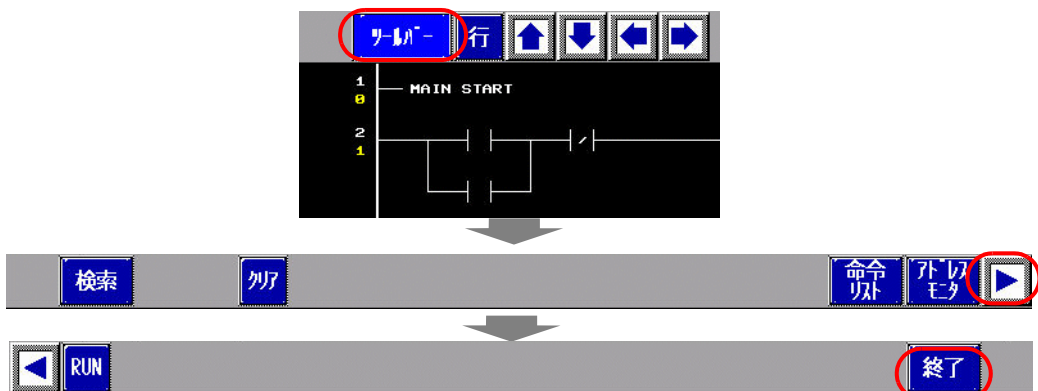
- 1 ロジックプログラムを GP に転送します。
- 2 画面の右上隅 → 左下隅または左上隅 → 右上隅の順をタッチしてオフラインのシステムメニューを表示し、3 つめのメニューから [ロジックモニタ] のスイッチをタッチします。



- 3 システムメニューより [ロジックモニタ] のスイッチをタッチします。タッチすると次のような画面が表示されて、転送したロジックプログラムが正常に動作しているか確認できます。



- 4 ロジックモニタを終了します。[ツールバー] をタッチし、ツールバーの [終了] スイッチをタッチすると運転画面に戻ります。

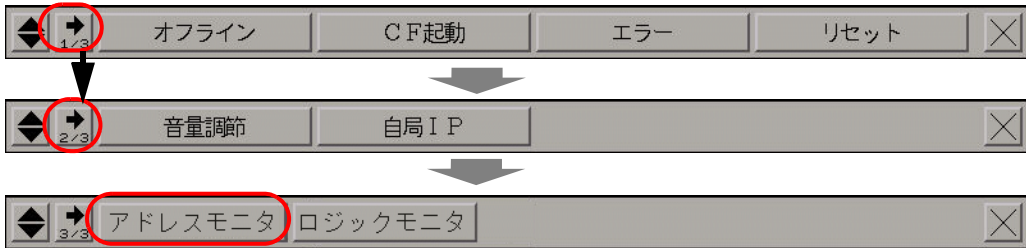


## アドレスモニタ

ロジックプログラムで使用されている変数のモニタを行います。変数名と現在値が確認できます。また、ロジックプログラムで「アドレス方式」が使用されている場合は、アドレスと現在値が確認できます。


**MEMO** ・ アドレスモニタはロジックプログラムに対応していない機種や、ロジックプログラムを使用しない場合でもシンボル変数の変数が登録されていればモニタできます。

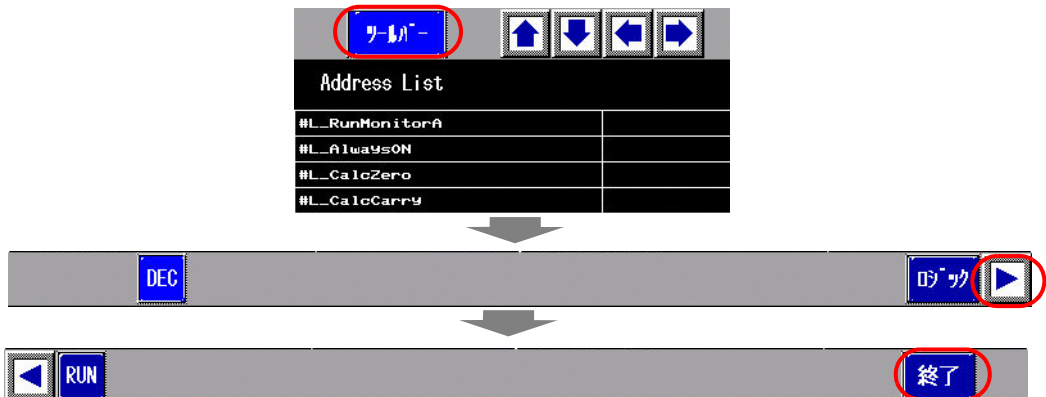
- 1 画面の右上隅 → 左下隅または左上隅 → 右上隅の順をタッチしてオフラインのシステムメニューを表示し、3 つめのメニューから「アドレスモニタ」のスイッチをタッチします。



- 2 タッチすると次のような画面が表示されて、転送したプロジェクトファイルで設定されている変数名と現在値が表示されます。

Address List			
HL_RunMonitor0	OFF	HL_MaxLogicTime	0
HL_AlwaysON	ON	HL_Status	0
HL_CalcZero	OFF	HL_Platform	133140
HL_CalcCarry	OFF	HL_Version	6056
HL_ScanModeSM	OFF	HL_EditCount	0
HL_AutoRunSM	OFF	HL_IOInFoE0	0
HL_InpuSM	OFF	HL_ConstantScan	100
HL_FaultRunSM	ON	HL_PercentScan	50
HL_UnlatchClear	OFF	HL_Matchd0Time	5000
HL_LatchClear	OFF	HL_AddressRefreshTime	1010
HL_Clock100ms	ON	HL_Time	0521
HL_Clock1sec	ON	HL_Command	0
HL_Clock1min	OFF	HL_LogicMonitor	1
HL_BatteryErr	OFF	HL_LogicMonStep	0
HL_Error	OFF	HL_I0StatusE0	0
HL_StopPending	OFF	HL_CalcErrCode	0
HL_Fault	OFF	HL_FaultStep	0
HL_I0FaultE0	OFF	HL_FaultLogicScreen	0
HL_ScanTime	0	HL_ForceCount	0
HL_AvgScanTime	0	HL_StopScans	0
HL_MinScanTime	0	BitTrnTran(0)	OFF
HL_MaxScanTime	0	BitTrnTran(1)	OFF
HL_ScanCount	0	BitTrnTran(2)	OFF
HL_LogicTime	0	RealTrnTran(0)	0
HL_AvgLogicTime	0	RealTrnTran(1)	0
HL_MinLogicTime	0	RealTrnTran(2)	0

- 3 アドレスモニタを終了します。「ツールバー」をタッチし、ツールバーの  をタッチします。「終了」スイッチをタッチすると運転画面に戻ります。



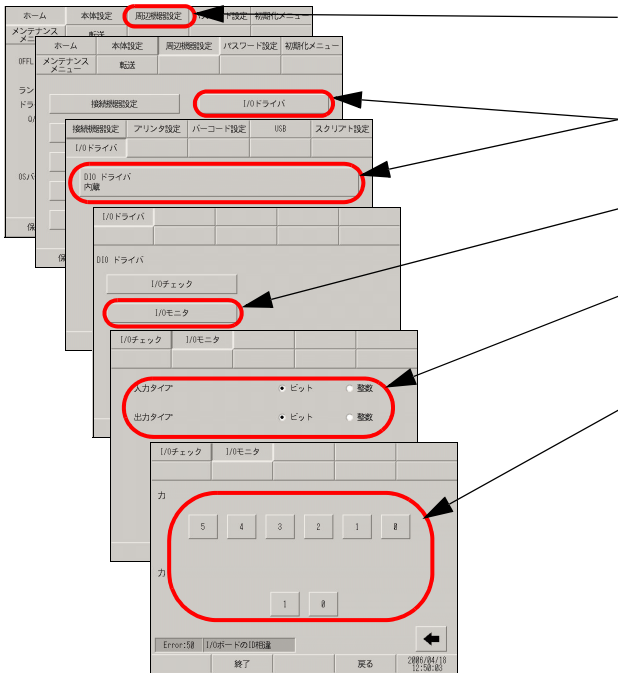
## 2.9.2 本体 DIO インターフェイスの ON/OFF が正常かチェックしたい

入力、出力が正常に動作するかチェックしよう！

DIO ボードに接続した接続機器が正常に入力、出力しているかチェックし、GP-Pro EX の設定に問題があるのか、GP 側の問題が考えられるのか切り分けます。

**MEMO** ・ 設定画面の詳細は設定ガイドを参照してください。

☞ 「2.13.2 GP3000 シリーズ DIO ボードタイプをご利用の場合 I/O ドライバ設定(I/O モニタ)」（2-91 ページ）



オフラインモードに入り、項目切り替えスイッチから[周辺機器設定]をタッチします。

[周辺機器設定]が開くので[I/O ドライバ]をタッチし、[DIO ドライバ]をタッチします。

[I/O ドライバ]が開くので[I/O モニタ]をタッチします。

入出力するデータのタイプを[ビット]、[整数]から選択します。(例：入力、出力ともビット)

入出力ビット表示画面が表示され、[入力]には現在のON/OFF状態が表示されます。[出力]ではタッチするたびにON/OFFを反転します。接続機器が正常に動作する場合はGP-Pro EXでプロジェクトファイルの設定を確認してください。正常に動作しない場合はGPと接続機器の配線を確認して次の項目をチェックします。

### 内部端子チェックを実行しよう！

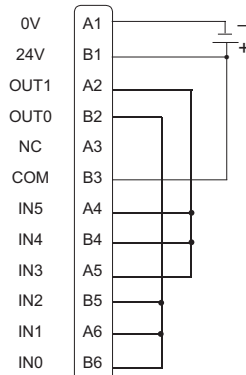
内部端子チェックを実行するには、チェック用のループバックケーブルを作成する必要があります。以下のようにループバックケーブルをまず作成してください。

#### ループバックケーブルの作成

ループバックの配線は以下のとおりです。

- シンクタイプ

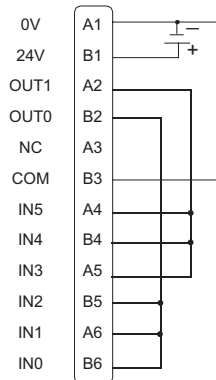
例) OUT0からIN0~IN2へと、OUT1からIN3~IN5への3点ずつチェックする場合



次のページに続きます。

・ ソースタイプ

例) OUT0からIN0~IN2へと、OUT1からIN3~IN5への3点ずつチェックする場合

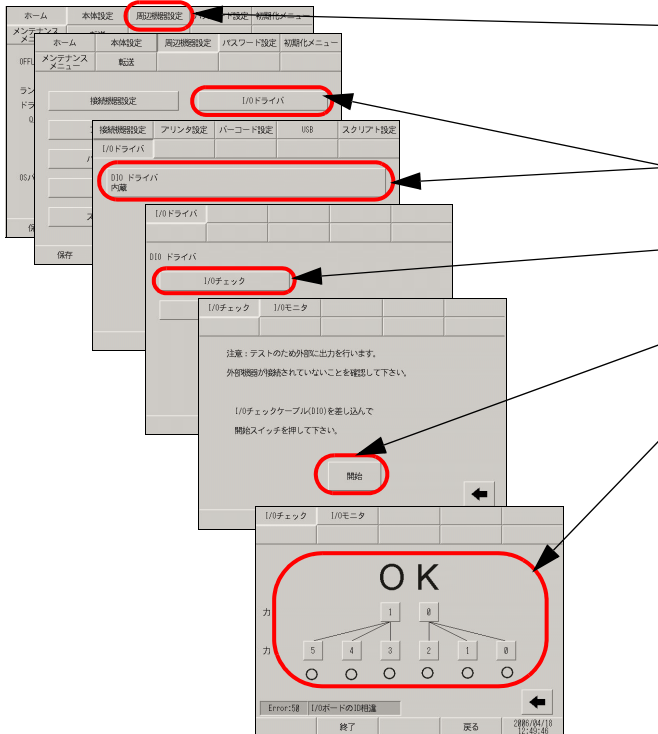


I/O チェック

DIO ボードにループバックケーブルが接続された状態で出力ターミナル 2 点の出力を入力ターミナルの 6 点に入力して出力データと入力データを比較します。データが期待値に一致すると [OK]、一致しないと [NG] が画面に表示され、この結果により接続チェックを行います。

**MEMO** ・ 設定画面の詳細は設定ガイドを参照してください。

☞ 「2.13.2 GP3000 シリーズ DIO ボードタイプをご利用の場合 I/O ドライバ設定 (I/O チェック) 」(2-90 ページ)



オフラインモードに入り、項目切り替えスイッチから[周辺機器設定]をタッチします。

[周辺機器設定]が開くので[I/O ドライバ]をタッチします。

[I/O ドライバ]が開くので[I/O チェック]をタッチします。

[I/O チェック]が表示されるので[開始]をタッチします。

接続チェック実行画面が表示され、異常がなければ[OK]、エラーがある場合は[NG]と表示されます。[OK]と表示された場合は配線やDIOボードに接続している機器を確認してください。[NG]と表示された場合は本体の故障が考えられます。修理センターに配送してください。

☞ 「1.7.3 修理しよう! 」(1-106 ページ)



### 2.9.3 FLEX NETWORK への通信ができるかチェックしたい

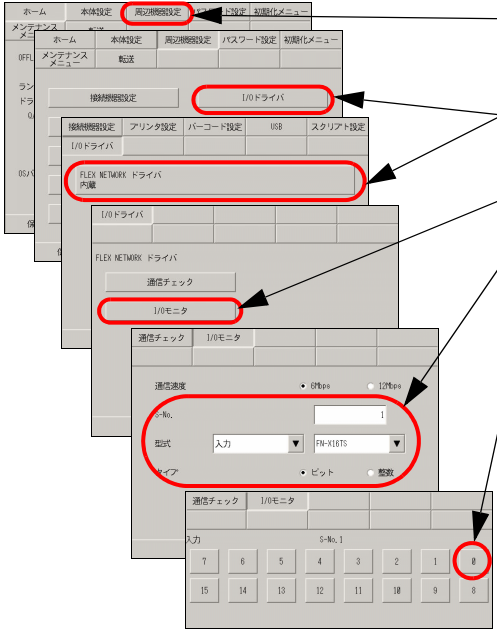
入力、出力が正常に動作するかチェックしよう！

FLEX NETWORK ボードに接続した接続機器が正常に入力、出力しているかチェックします。GP-Pro EX の設定に問題があるのか、GP 側の問題が考えられるのか切り分けます。

**MEMO** ・ 設定画面の詳細は設定ガイドを参照してください。

☞ 「2.13.3 FLEX NETWORK ユニットをご利用の場合 I/O モニタ」(2-97 ページ)

#### DIO（例：FN-X16TS）をご利用の場合



オフラインモードに入り、項目切り替えスイッチから [周辺機器設定] をタッチします。

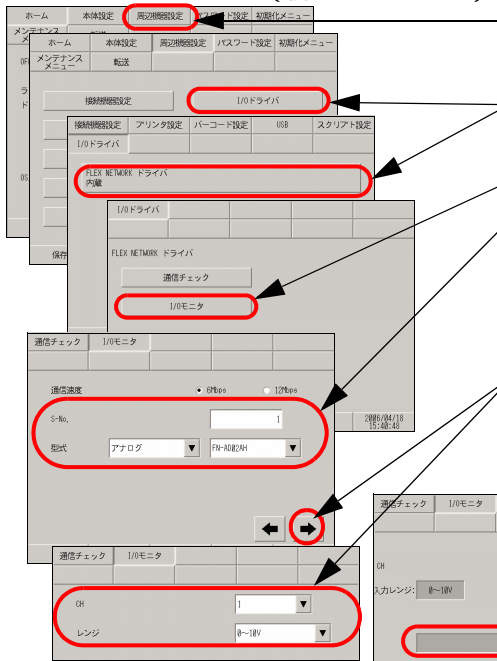
[周辺機器設定] が開くので [I/O ドライバ] をタッチし、[FLEX NETWORK ドライバ] をタッチします。

[I/O ドライバ] が開くので [I/O モニタ] をタッチします。

[I/O モニタ] が表示されるので [通信速度]、[S-No.]、[型式]、[タイプ] を設定します。（例：[S-No.]1、[型式]入力、FN-X16TS、[通信速度]6Mbps、[タイプ]ビット）

ビットモニタ画面が表示され、ON/OFF 状態が表示されます。スイッチが出た状態が OFF、出ていない状態が ON を示します。接続機器が正常に動作する場合は GP-Pro EX の設定を確認してください。正常に動作しない場合は GP と接続機器の配線を確認して次の項目をチェックします。

#### アナログユニット（例：FN-AD02AH）をご利用の場合



オフラインモードに入り、項目切り替えスイッチから [周辺機器設定] をタッチします。

[周辺機器設定] が開くので [I/O ドライバ] をタッチし、[FLEX NETWORK ドライバ] をタッチします。

[I/O ドライバ] が開くので [I/O モニタ] をタッチします。

[I/O モニタ] が表示されるので [通信速度]、[S-No.]、[型式]、[タイプ] を設定します。（例：[S-No.]1、[型式]入力、FN-AD02AH、[通信速度]6Mbps

矢印スイッチで画面を移動し、[CH(チャンネル)]、[レンジ] を設定します。

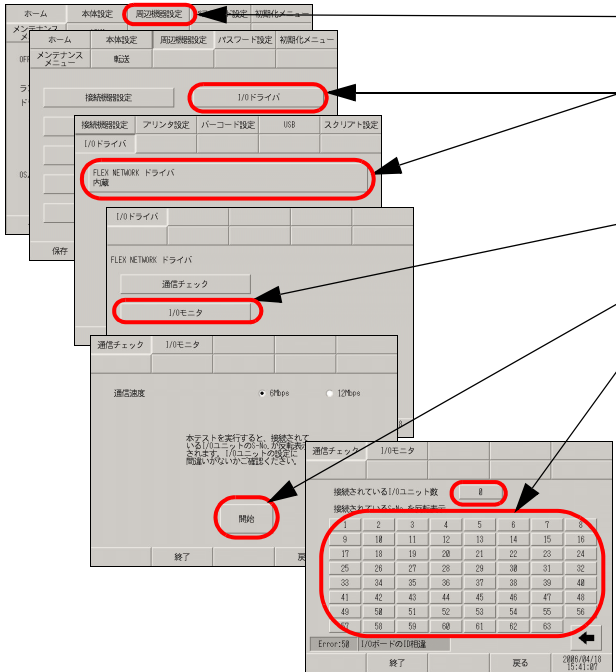
入力モニタ画面が表示され、入力状態が整数で表示されます。接続機器が正常に動作する場合は GP-Pro EX の設定を確認してください。正常に動作しない場合は GP と接続機器の配線を確認して次の項目をチェックします。

## 通信チェックでケーブルが正常かチェックしよう！

FLEX NETWORK ボードに接続されている FLEX NETWORK ユニットが通信できているかチェックします。

**MEMO** ・ 設定画面の詳細は設定ガイドを参照してください。

☞ 「2.13.3 FLEX NETWORK ユニットをご利用の場合 通信チェック」(2-96 ページ)



オフラインモードに入り、項目切り替えスイッチから[周辺機器設定]をタッチします。

[周辺機器設定]が開くので[I/O ドライバ]をタッチし、[FLEX NETWORK ドライバ]をタッチします。

[I/O ドライバ]が開くので[通信チェック]をタッチします。

[開始]をタッチします。

通信チェック実行画面が表示され、通信に問題ない場合は、正常に通信されたユニットの合計数値と、ユニットに設定されたS-No.が反転します。正常に通信している場合は配線やFLEX NETWORKユニットに接続している機器を確認してください。正常に通信していない場合は本体の故障が考えられます。修理センターに配送してください。

☞ 「1.7.3 修理しよう！」(1-106 ページ)

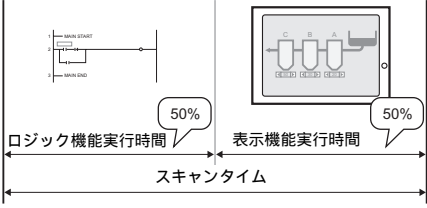
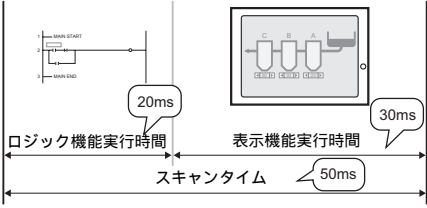
以下は通信チェックで対応する I/O ユニット一覧です。

例) FN-X16TS (占有局数 1) 1 台、S-No.1 と FN-XY32SKS (占有局数 4) 1 台、S-No.2 で設定している場合は上記の通信チェック実行画面で 1 ~ 5 の S-No. が反転します。

種類	型式	占有局数
DIO	FN-X16TS	1
	FN-X32TS	2
	FN-Y08RL	1
	FN-Y16SK	1
	FN-Y16SC	1
	FN-XY08TS	1
	FN-XY16SK	1
	FN-XY16SC	1
	FN-XY32SKS	4
アナログ	FN-AD02AH	1
	FN-AD04AH	4
	FN-DA02AH	1
	FNDA04AH	4
高速カウンタ	FN-HC10SK	8
位置決め	FN-PC10SK	4

## 2.10 コントローラ設定

ロジックプログラムの実行時間を右記のどちらかの方法で設定できます。

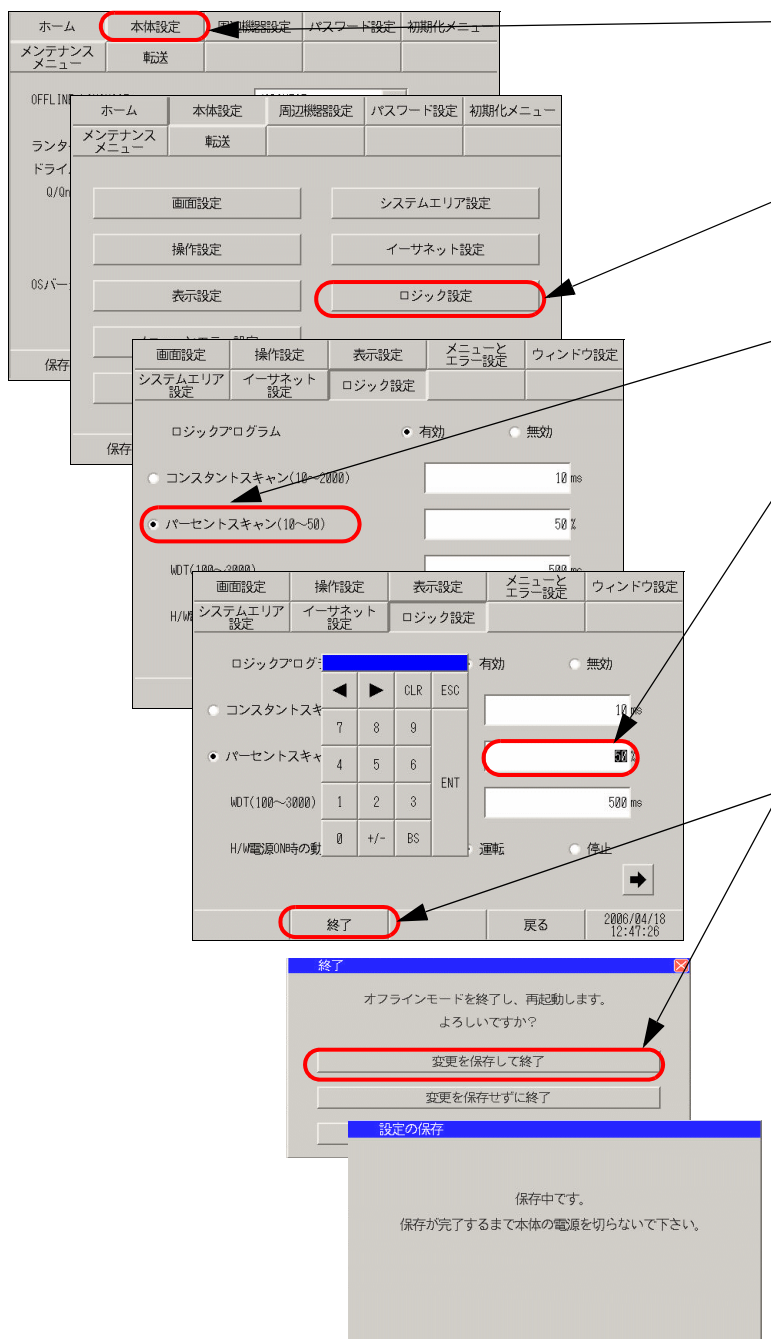
できること	設定手順
<p>• コントローラ機能実行時間の割合で設定</p>  <p>The diagram illustrates a scan cycle where the total scan time is divided equally between logic function execution time and display function execution time, each representing 50% of the total. A timing diagram on the left shows the main start and end points. A schematic on the right shows three logic functions (C, B, A) and three display functions (C, B, A) being scanned sequentially.</p>	<p>☞ 「2.10.1 スキャンタイムをロジック機能実行時間の割合で調整したい (パーセントスキャン)」 (2-53 ページ)</p>
<p>• コントローラ機能実行時間と表示機能実行時間で設定</p>  <p>The diagram illustrates a scan cycle with specific time allocations. The logic function execution time is set to 20ms, and the display function execution time is set to 30ms, resulting in a total scan time of 50ms. A timing diagram on the left shows the main start and end points. A schematic on the right shows three logic functions (C, B, A) and three display functions (C, B, A) being scanned sequentially.</p>	<p>☞ 「2.10.2 スキャンタイムをロジック機能実行時間と表示機能実行時間の設定で調整したい (コンスタントスキャン)」 (2-54 ページ)</p>

## 2.10.1 スキャンタイムをロジック機能実行時間の割合で調整したい(パーセントスキャン)

スキャンタイムのうち、ロジック機能実行時間を指定してロジックプログラムを実行するための設定を行います。

**MEMO** ・ 設定画面の詳細は設定ガイドを参照してください。

☞ 「2.13.2 GP3000シリーズDIOボードタイプをご利用の場合 [本体設定]の設定ガイド」(2-89 ページ)



オフラインモードに入り、項目切り替えスイッチから[本体設定]をタッチします。

[本体設定]が開くので[ロジック設定]をタッチします。

[ロジック設定]が開くので[パーセントスキャン]をタッチします。

[パーセントスキャン]の入力枠をタッチし、テンキーでロジックプログラムのスキャンを実行する割合を入力してください。

[終了]をタッチすると左のような[終了]ダイアログボックスが表示されるので[変更を保存して終了]をタッチします。

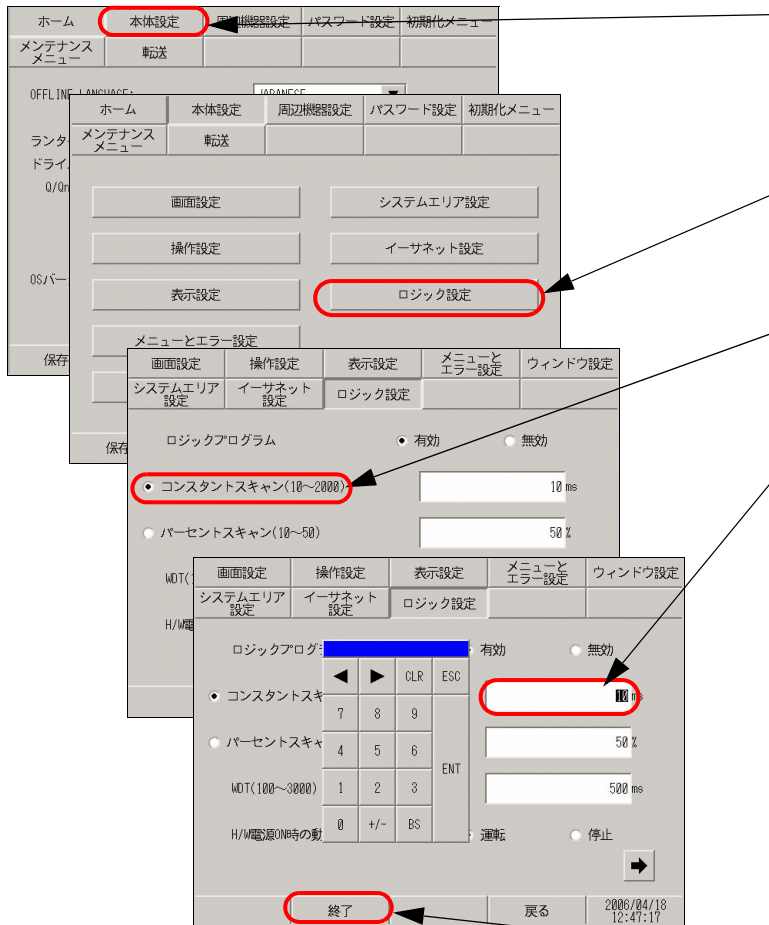
[設定の保存]ダイアログボックスが表示された後、自動的にGPが再起動されます。以上で設定完了です。

## 2.10.2 スキャンタイムをロジック機能実行時間と表示機能実行時間の設定で調整したい (コンスタントスキャン)

指定した一定周期でロジックプログラムを実行させるための設定を行います。

**MEMO** ・ 設定画面の詳細は設定ガイドを参照してください。

☞ 「2.13.2 GP3000シリーズDIOボードタイプをご利用の場合 [本体設定]の設定ガイド」 (2-89 ページ)



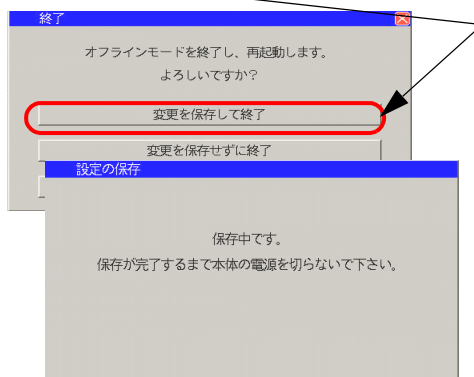
オフラインモードに入り、項目切り替えスイッチから[本体設定]をタッチします。

[本体設定]が開くので[ロジック設定]をタッチします。

[ロジック設定]が開くので[コンスタントスキャン]をタッチします。

[コンスタントスキャン]の入力枠をタッチし、テンキーでロジックプログラムのスキャンを実行する周期を入力してください。

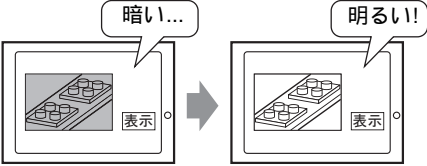
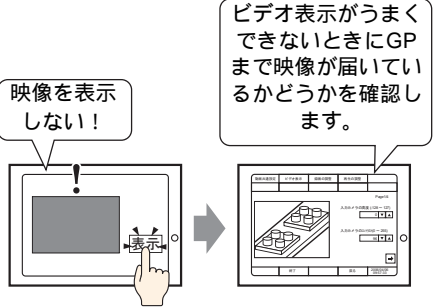
[終了]をタッチすると左のような[終了]ダイアログボックスが表示されるので[変更を保存して終了]をタッチします。



[設定の保存]ダイアログボックスが表示された後、自動的にGPが再起動されます。以上で設定完了です。

## 2.11 ビデオ表示の調整と確認

GP-3\*50 シリーズの動画機能や VM ユニット使用時にビデオ表示の調整や確認ができます。

できること	設定手順
<ul style="list-style-type: none"> <li>ビデオ表示の画質調整</li> </ul> 	<p>☞「2.11.1 ビデオ表示の画質を調整したい」(2-56 ページ)</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>ビデオ表示できない時の映像の確認</li> </ul> 	<p>☞「2.11.2 ビデオ表示できないときに表示器まで映像が届いているか確認したい」(2-58 ページ)</p>

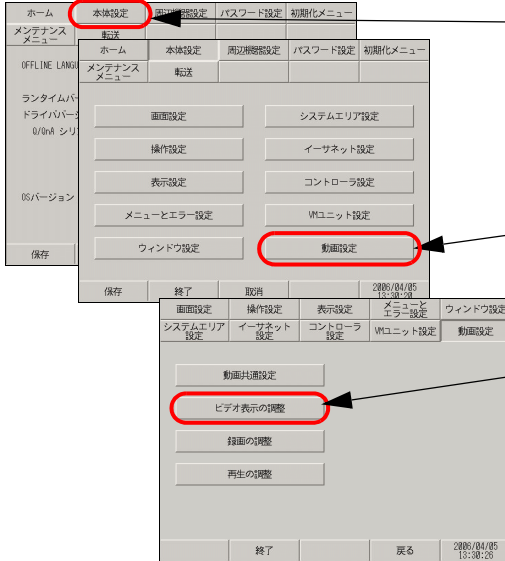
## 2.11.1 ビデオ表示の画質を調整したい

GP-3\*50 シリーズの動画機能や VM ユニット使用時にビデオ表示の調整ができます。

**MEMO** ・ 設定画面の詳細は設定ガイドを参照してください。

☞ 「2.13.4 GP-3\*50 シリーズで動画機能をご利用の場合 動画設定 (ビデオ表示) 」(2-106 ページ)

### GP-3\*50 シリーズで動画機能をご利用の場合

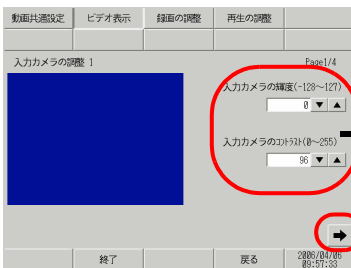


オフラインモードに入り、項目切り替えスイッチから[本体設定]をタッチします。

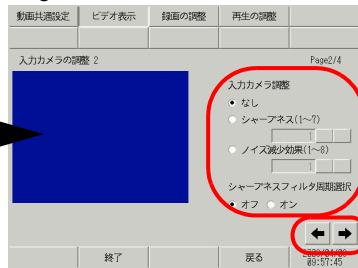
[本体設定]が開くので[動画設定]をタッチします。

[動画設定]が開くので[ビデオ表示の調整]をタッチします。

Page 1/4

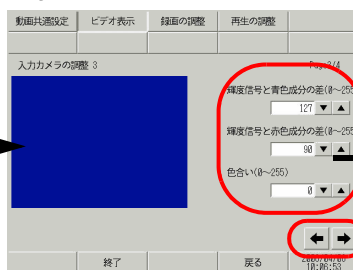


Page 2/4

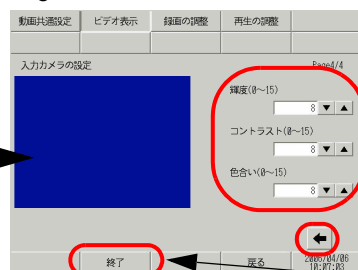


[ビデオ表示の調整]が開くので設定を確認、または変更する項目をタッチします。次のページへは、画面右下の矢印キーで移動できます。

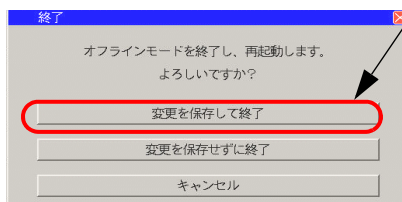
Page 3/4



Page 4/4



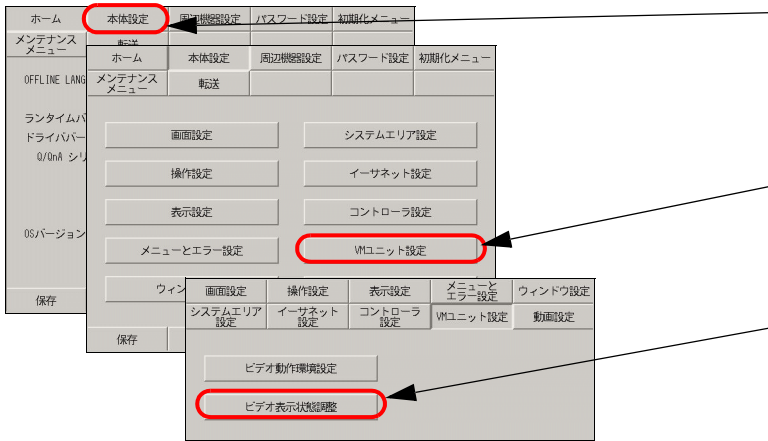
[終了]をタッチすると[終了]ダイアログボックスが表示されるので[変更を保存して終了]をタッチします。自動的にGPが再起動されます。



## VM ユニットをご利用の場合

**MEMO** ・ 設定画面の詳細は設定ガイドを参照してください。

☞ 「2.13.5 VM ユニットをご利用の場合 VM ユニット設定 (ビデオ表示状態調整)」 (2-112 ページ)

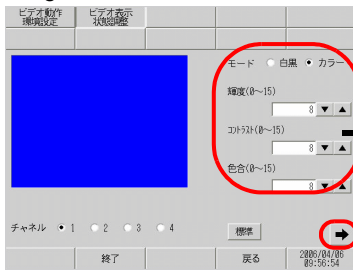


オフラインモードに入り、項目切り替えスイッチから[本体設定]をタッチします。

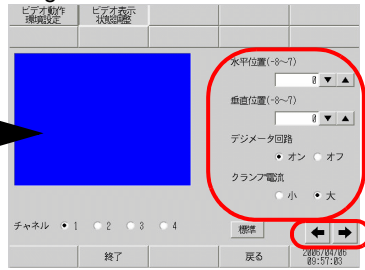
[本体設定]が開くので[VMユニット設定]をタッチします。

[VMユニット設定]が開くので[ビデオ表示状態調整]をタッチします。

Page 1/4

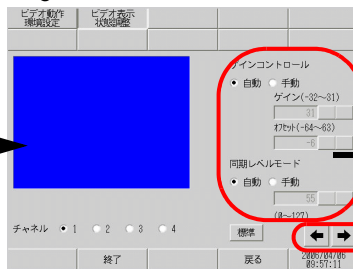


Page 2/4

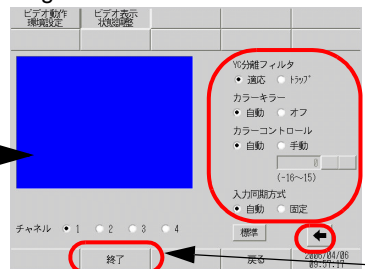


[ビデオ表示状態調整]が開くので設定を確認、または変更する項目をタッチします。次のページへは、画面右下の矢印キーで移動できます。

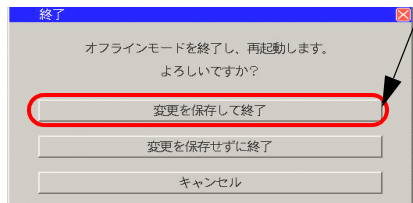
Page 3/4



Page 4/4



[終了]をタッチすると[終了]ダイアログボックスが表示されるので[変更を保存して終了]をタッチします。自動的にGPが再起動されます。





## 2.11.2 ビデオ表示できないときに表示器まで映像が届いているか確認したい

ビデオ表示がうまくできないときに GP まで映像が届いているか確認します。

- MEMO** ・ 設定画面の詳細は設定ガイドを参照してください。  
 ☞ 「2.13.4 GP-3\*50 シリーズで動画機能をご利用の場合 動画設定 (ビデオ表示)」(2-106 ページ)

### GP-3\*50 シリーズで動画機能をご利用の場合

オフラインモードに入り、項目切り替えスイッチから[本体設定]をタッチします。

[本体設定]が開くので[動画設定]をタッチします。

[動画設定]が開くので[ビデオ表示の調整]をタッチします。

[ビデオ表示の調整]の左のエリアに映像が表示されていれば、GP まで映像が届いていることを表します。このエリアに表示されていない場合は映像機器の接続を確認してください。

### VM ユニットをご利用の場合

- MEMO** ・ 設定画面の詳細は設定ガイドを参照してください。  
 ☞ 「2.13.5 VM ユニットをご利用の場合 VM ユニット設定 (ビデオ表示状態調整)」(2-112 ページ)

オフラインモードに入り、項目切り替えスイッチから[本体設定]をタッチします。

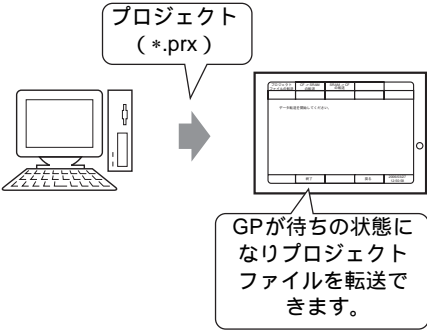
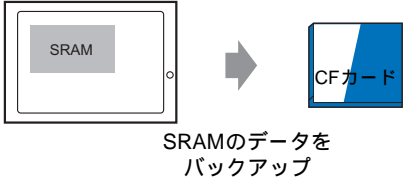
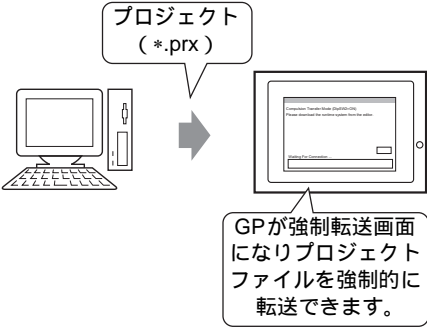
[本体設定]が開くので[VMユニット設定]をタッチします。

[VMユニット設定]が開くので[ビデオ表示状態調整]をタッチします。

[ビデオ表示状態調整]の左のエリアに映像が表示されていれば、GP まで映像が届いていることを表します。このエリアに表示されていない場合はVMユニットに正しく映像機器が接続されているか確認してください。

## 2.12 GP-Pro EX からの画面転送

プロジェクトファイルを転送できないときに下記のような転送ができます。

できること	設定手順
<ul style="list-style-type: none"> <li>オフラインモードで転送</li> </ul> 	<p>☞「2.12.1 プロジェクトファイルが転送できないときに手で転送画面に切り替えたい」(2-60 ページ)</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>SRAM のデータを CF カードにバックアップ</li> </ul> 	<p>☞「2.12.2 新しいプロジェクトファイルを転送する前に、SRAM のデータを CF カードにバックアップしたい」(2-61 ページ)</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>強制転送</li> </ul> 	<p>☞「2.12.3 プロジェクトファイルを強制転送したい」(2-62 ページ)</p>

## 2.12.1 プロジェクトファイルが転送できないときに手動で転送画面に切り替えたい

プロジェクトファイルが転送できないときに、オフラインモードから手動でプロジェクトファイルを転送することができます。オフラインモードでプロジェクトファイルを転送する場合は GP を待ち状態に移行する必要があります。

**MEMO** ・ 設定画面の詳細は設定ガイドを参照してください。

☞ 「2.13.1 表示器共通 プロジェクトファイルの転送」(2-85 ページ)

オフラインモードに入り、項目切り替えスイッチから[転送]をタッチします。

[転送]が開くので[プロジェクトファイルの転送]をタッチします。

[設定の保存]ダイアログボックスが開くので[はい]をタッチします。

[保存中です]というメッセージがダイアログボックスに表示されます。

[データ転送を開始してください。]と表示されたら、GP-Pro EXからプロジェクトファイルを転送してください。

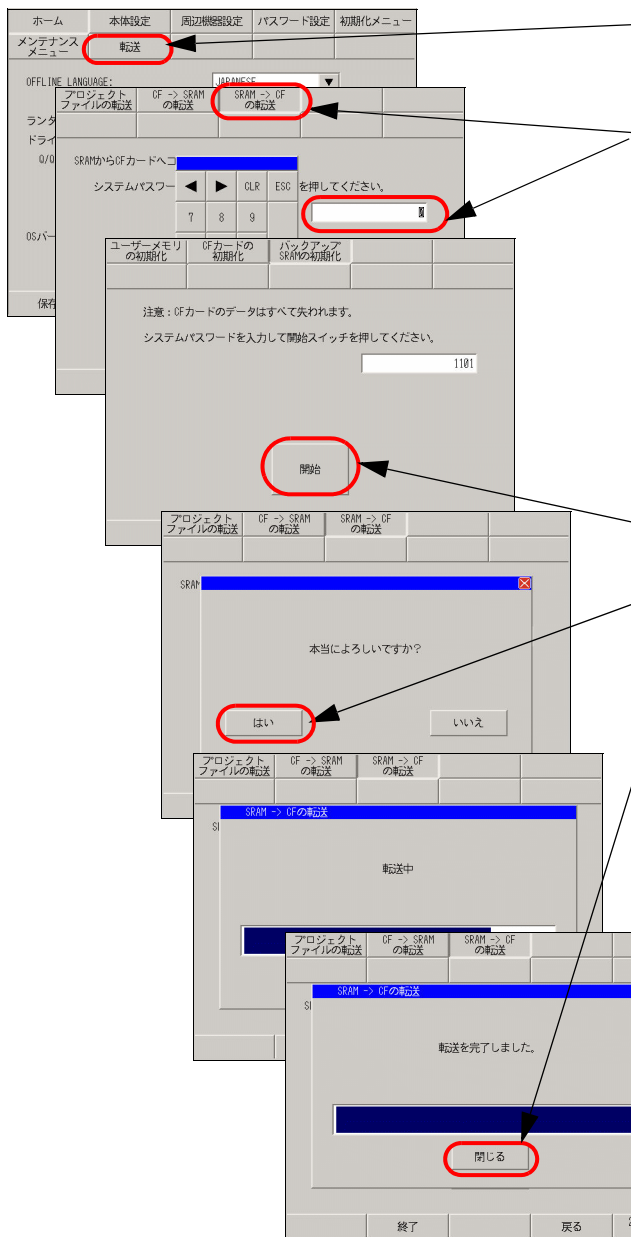
## 2.12.2 新しいプロジェクトファイルを転送する前に、SRAM のデータを CF カードにバックアップしたい

内部メモリ (SRAM) の内容を CF カードに転送します。CF カードのデータは消去され、内部メモリの内容が上書きされます。

### MEMO

- 設定画面の詳細は設定ガイドを参照してください。

☞ 「2.13.1 表示器共通 SRAM->CF の転送」(2-86 ページ)



オフラインモードに入り、項目切り替えスイッチから[転送]をタッチします。

[転送]が開くので[SRAM->CFの転送]をタッチします。入力枠をタッチし、テンキーで「1101」([システムパスワード]が[無]の場合のみ)または「システムパスワードの設定」で設定したパスワードを入力してください。

[開始]ボタンをタッチします。

次のような確認メッセージが表示されるので[はい]をタッチします。

転送が完了すると以下のようなメッセージが表示されるので、[閉じる]をタッチします。

CFカードのSRAMフォルダの中にZ000001.BINというファイルが作成されていることを確認してください。

### MEMO

- CFカードにバックアップされたSRAMのデータを転送する場合は[転送]画面で[CF->SRAMの転送]をタッチして、上記同様の手順を行います。

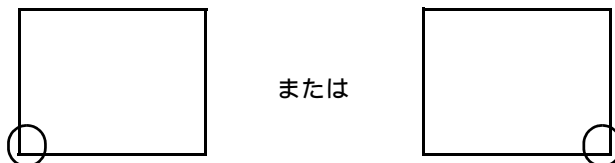
### 2.12.3 プロジェクトファイルを強制転送したい

プロジェクトファイルが転送できないときに、強制的にプロジェクトファイルを転送することができます。強制転送には2つの方法があります。

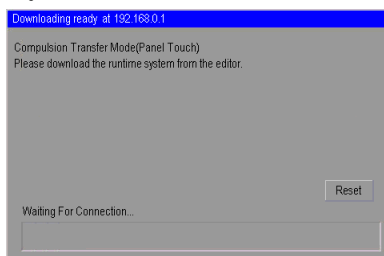
#### 画面タッチで強制転送

画面タッチで強制転送を行えます。

- 1 GPの電源投入時に画面の左下もしくは右下（各40×40ドット）をタッチし続けます。



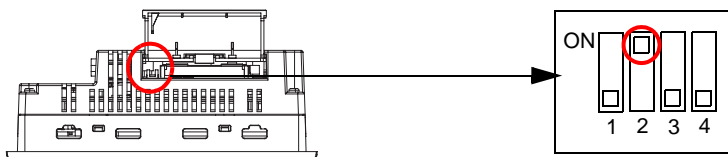
- 2 タッチし続けると次のようなダイアログボックスが表示されるので、GP-Pro EX よりプロジェクトファイルを転送します。強制転送が完了したら、自動的にGPが再起動し、転送したプロジェクトファイルの画面が表示されます。



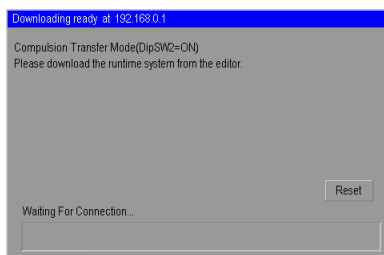
#### ディップスイッチで強制転送

ディップスイッチ2をONしてプロジェクトファイルの強制転送を行います。ディップスイッチが無い機種（GP-3302Bなど）をご利用の場合、画面タッチによる強制転送が行えます。

- 1 GPに電源が入っていない状態で、底面のCFカードカバーを開けます。カバーを開けると、CFカードインターフェイスとディップスイッチがあるので、ディップスイッチ2をONにします。



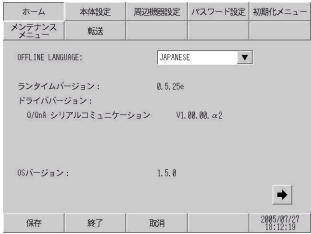
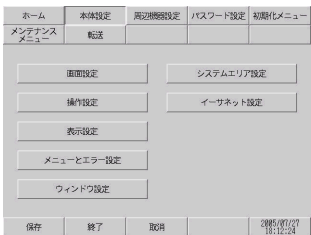
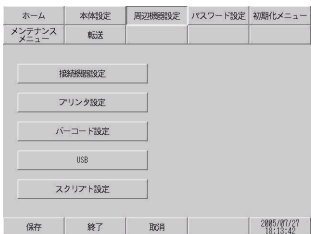
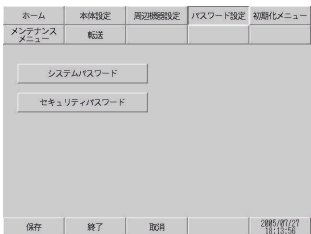
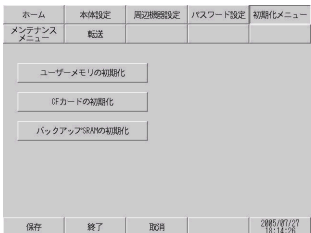
- 2 再度電源を投入すると次のようなダイアログボックスが表示されるので、GP-Pro EX よりプロジェクトファイルを転送します。強制転送が完了したら自動的にGPが再起動し、以下の強制転送画面にもどります。



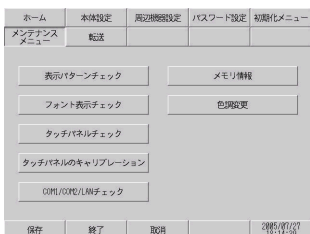
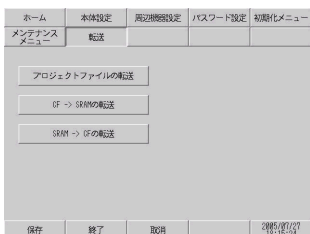
- 3 GPの電源をOFFにし、ディップスイッチ2をOFFにします。再度GPの電源を入れると上記画面が表示されるので、[Reset] ボタンをタッチしてください。強制転送時以外はディップスイッチ2はOFFでご使用ください。

## 2.13 オフライン設定ガイド

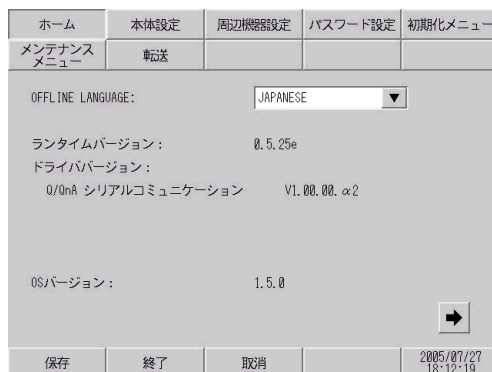
### 2.13.1 表示器共通

メニュー	設定内容
	<p>「2.13.1 表示器共通 [ホーム]の設定ガイド」(2-64 ページ)</p>
	<p>「2.13.1 表示器共通 [本体設定]の設定ガイド」(2-65 ページ)          「2.13.1 表示器共通 画面設定」(2-65 ページ)          「2.13.1 表示器共通 操作設定」(2-66 ページ)          「2.13.1 表示器共通 表示設定」(2-67 ページ)          「2.13.1 表示器共通 メニューとエラー設定」(2-67 ページ)          「2.13.1 表示器共通 ウィンドウ設定」(2-68 ページ)          「2.13.1 表示器共通 システムエリア設定」(2-71 ページ)          「2.13.1 表示器共通 イーサネット設定」(2-72 ページ)</p>
	<p>「2.13.1 表示器共通 [周辺機器設定]の設定ガイド」(2-73 ページ)          「2.13.1 表示器共通 接続機器設定」(2-73 ページ)          「2.13.1 表示器共通 プリンタ設定」(2-74 ページ)          「2.13.1 表示器共通 バーコード設定」(2-75 ページ)          「2.13.1 表示器共通 USB」(2-76 ページ)          「2.13.1 表示器共通 スクリプト設定」(2-76 ページ)</p>
	<p>「2.13.1 表示器共通 [パスワード設定]の設定ガイド」(2-77 ページ)          「2.13.1 表示器共通 システムパスワード」(2-77 ページ)          「2.13.1 表示器共通 セキュリティパスワード」(2-77 ページ)</p>
	<p>「2.13.1 表示器共通 [初期化メニューの設定]ガイド」(2-78 ページ)          「2.13.1 表示器共通 ユーザメモリの初期化」(2-78 ページ)          「2.13.1 表示器共通 CFカードの初期化」(2-79 ページ)          「2.13.1 表示器共通 バックアップSRAMの初期化」(2-79 ページ)</p>

次のページに続きます。

メニュー	設定内容
	<p>「2.13.1 表示器共通 [メンテナンスメニュー] の設定ガイド」(2-80 ページ)</p> <p>「2.13.1 表示器共通 表示パターンチェック」(2-80 ページ)</p> <p>「2.13.1 表示器共通 フォント表示チェック」(2-81 ページ)</p> <p>「2.13.1 表示器共通 タッチパネルチェック」(2-82 ページ)</p> <p>「2.13.1 表示器共通 タッチパネルのキャリブレーション」(2-82 ページ)</p> <p>「2.13.1 表示器共通 COM1/COM2/LAN チェック」(2-83 ページ)</p> <p>「2.13.1 表示器共通 メモリ情報」(2-83 ページ)</p> <p>「2.13.1 表示器共通 色調変更」(2-84 ページ)</p>
	<p>「2.13.1 表示器共通 [転送] の設定ガイド」(2-85 ページ)</p> <p>「2.13.1 表示器共通 プロジェクトファイルの転送」(2-85 ページ)</p> <p>「2.13.1 表示器共通 CF-&gt;SRAM の転送」(2-85 ページ)</p> <p>「2.13.1 表示器共通 SRAM-&gt;CF の転送」(2-86 ページ)</p>

### [ホーム] の設定ガイド



設定項目	設定内容
OFFLINE LANGUAGE	オフラインメニューで使用する言語を [JAPANESE]、[ENGLISH] から選択します。
ランタイムバージョン	ランタイムのバージョンが表示されます。
ドライババージョン	プロトコルドライバのバージョンが表示されます。使用可能最大数の4ドライバを表示します。GP-3300 シリーズの場合は使用可能最大数の2ドライバを表示します。
OSバージョン	OSのバージョンが表示されます。

次のページに続きます。

ホーム	本体設定	周辺機器設定	パスワード設定	初期化メニュー
メンテナンスメニュー	転送			
プロジェクト情報 最終保存日時: 2005/07/27 18:10 機種情報: AGP-3500S 表示カラー: 4096色3速プリンク 作成エディタ名: GP-Pro EX 作成エディタバージョン: 1.0.0 作成者: User name コメント:				
				←
保存	終了	取消	2005/07/27 18:12:21	

設定項目	設定内容
最終保存日時	プロジェクトの最終保存日時を表示します。
機種情報	設定 GP 機種を表示します。
表示カラー	GP の表示カラーを表示します。
作成エディタ名	プロジェクトを作成したエディタ名を表示します。
作成エディタバージョン	プロジェクトを作成したエディタのバージョンを表示します。
作成者	プロジェクトを作成した人の名前を表示します。
コメント	プロジェクトのコメントを表示します。

## [ 本体設定 ] の設定ガイド

### 画面設定

電源投入後最初に表示される画面の設定やスタンバイモードの設定を行います。

画面設定	操作設定	表示設定	メニューとエラー設定	ウィンドウ設定
システムエリア設定	イーサネット設定			
初期画面番号(1~9999): <input type="text" value="1"/> 表示画面番号のデータ形式: <input checked="" type="radio"/> BIN <input type="radio"/> BCD スタートタイム(0~255秒): <input type="text" value="0"/> スタンバイモード設定: <input type="radio"/> 無 <input type="radio"/> 画面OFF <input checked="" type="radio"/> 画面切替 スタンバイモード時間(1~255分): <input type="text" value="1"/> スタンバイモード時の切替画面番号(1~9999): <input type="text" value="1"/>				
				戻る
				終了
				2005/07/27 18:12:27

設定項目	設定内容
初期画面番号	GP が起動時に表示する画面の番号を設定します。 GP-Pro EX リファレンスマニュアル「12.3 GP 起動時の表示画面を決めたい」(12-7 ページ) <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content;">MEMO</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>画面番号は [ 表示画面番号のデータ形式 ] が [Bin] の場合 1 ~ 9999、[BCD] の場合は 1 ~ 7999 で設定します。</li> </ul>
表示画面番号のデータ形式	画面切り替え時に指定する画面番号のデータ形式を [Bin]、[BCD] から選択します。

次のページに続きます。



設定項目	設定内容
スタートタイム	電源を投入してから GP が立ち上がるまでの時間を 0 ~ 255 秒で設定します。
スタンバイモード設定	スタンバイモードを [ 無 ]、[ 画面 OFF ]、[ 画面切替 ] から選択します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>無 スタンバイモードには切り替わりません。</li> <li>画面 OFF [ スタンバイモード時間 ] で設定した時間が経過しても画面のタッチや、画面切替、アラームメッセージ表示などの動作がない場合、画面を消去します。</li> <li>画面切替 [ スタンバイモード時間 ] で設定した時間が経過しても画面のタッチや、画面切替、アラームメッセージ表示などの動作がない場合 [ スタンバイモード時の切替画面番号 ] で設定した画面に切り替えます。</li> </ul>
スタンバイモード時間	GP 保護のために自動画面消去の時間を 1 ~ 255 分で設定します。GP を何も操作せずに、設定時間が経過すると自動的に画面の表示を消したり、設定した画面に切り替えます。
スタンバイモード時の切り替え画面番号	[ スタンバイモード設定 ] が [ 画面切替 ] の場合、[ スタンバイモード時間 ] の経過後に切り替える画面の番号を設定します。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 5px 0;">MEMO</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>画面番号は [ 表示画面番号のデータ形式 ] が [ Bin ] の場合 1 ~ 9999、[ BCD ] の場合は 1 ~ 7999 で設定します。</li> </ul>

### 操作設定

タッチ操作に関する設定を行います。

画面設定	操作設定	表示設定	メニューとエラー設定	ウィンドウ設定
システムエリア設定	イーサネット設定			
タッチパネル検出:		<input checked="" type="radio"/> ON	<input type="radio"/> OFF	
タッチブザーの音:		<input checked="" type="radio"/> 有	<input type="radio"/> 無	
外部ブザー端子への出力:		<input checked="" type="radio"/> 有	<input type="radio"/> 無	
バックライト切れ検出時のタッチパネル操作:		<input checked="" type="radio"/> 操作可能 <input type="radio"/> 操作禁止		
終了		戻る	2005/07/27 18:12:48	

設定項目	設定内容
タッチパネル検出	タッチパネルの検出を、タッチで反応する [ ON 検出 ] か、はなしたときに反応する [ OFF 検出 ] から選択します。
タッチブザーの音	画面にタッチしたときに内蔵のブザー音を鳴らすかどうかを設定します。
外部ブザー端子への出力	タッチパネルブザーを外部ブザー端子へ出力するかどうかを設定します。
バックライト切れ検出時のタッチパネル操作	バックライト切れを検出した際にタッチパネルの操作を可能にするかどうか [ 操作可能 ]、[ 操作禁止 ] から設定します。

## 表示設定

パネル表示に関する設定を行います。

画面設定	操作設定	表示設定	メニューとエラー設定	ウィンドウ設定
システムエリア設定	イーサネット設定			
反転表示: <input type="radio"/> 有 <input checked="" type="radio"/> 無				
輝度/コントラスト調整バーの表示: <input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無				
D スクリプト _debug() 関数機能: <input checked="" type="radio"/> 有効 <input type="radio"/> 無効				
		終了	戻る	2005/07/27 18:12:51

設定項目	設定内容
反転表示	画面の白黒反転表示を行うかどうかを設定します。 <b>MEMO</b> ・モノクロの GP が選択されている場合のみ設定できます。
輝度 / コントラスト調整バーの表示	タッチ入力による、輝度やコントラストを調整する [輝度 / コントラスト調整バー] を表示するかどうかを設定します。
D スクリプト _debug ( ) 関数機能	D スクリプトに記述された _debug() 関数のデータを実行するかを設定します。 ☞ GP-Pro EX リファレンスマニュアル「20.8.1 D スクリプト ( 共通設定部分 ) の設定ガイド」( 20-48 ページ )

## メニューとエラー設定

システムメニューやエラーメッセージの表示位置などを設定します。

画面設定	操作設定	表示設定	メニューとエラー設定	ウィンドウ設定
システムエリア設定	イーサネット設定			
システムの言語設定: JAPANESE ▼				
システムメニューの表示: <input type="radio"/> 表示しない <input checked="" type="radio"/> 下部 <input type="radio"/> 上部				
オンライン時のエラー表示: 復旧時消去 ▼				
エラー表示位置: <input type="radio"/> 上部 <input checked="" type="radio"/> 下部				
システムエラー時の自動復旧: <input checked="" type="radio"/> 有効 <input type="radio"/> 無効				
		終了	戻る	2005/07/27 18:12:54

設定項目	設定内容
システムの言語設定	GP 上で表示される「システムメニュー」、「輝度、コントラストの調整」、「エラーメッセージ」( 1 行メッセージ、詳細メッセージ両方 ) 「ファイルマネージャ」の言語を [ 日本語 ]、[ 英語 ] から設定します。
システムメニューの表示	システムメニューを表示する位置を [ 表示しない ]、[ 上部 ]、[ 下部 ] から選択します。

次のページに続きます。

設定項目	設定内容
オンライン時のエラー表示	<p>オンライン時のエラー表示を消去するタイミングを [ 無 ]、[ 復旧時消去 ]、[ 画面切替時消去 ] から選択します。</p> <p><b>重要</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>通信エラーなどにより接続機器（PLC など）への書き込みができなかった場合のエラーメッセージは、[ 復旧時消去 ] を設定していても GP 画面上から消去されません。このエラーメッセージは画面切り替えを行うと消去できます。</li> </ul>
エラー表示位置	エラーを表示する位置を [ 上部 ]、[ 下部 ] から選択します。
システムエラー時の自動復旧	システムエラー時に自動復旧を行うかどうかを設定します。[ 有効 ] を選択した場合、エラー発生から約 20 秒後に GP が再起動します。

## ウィンドウ設定

ウィンドウに関する設定を行います。

画面設定	操作設定	表示設定	メニューとエラー設定	ウィンドウ設定
システムエリア設定	イーサネット設定			
グローバルウィンドウ動作: <input type="radio"/> 無効 <input checked="" type="radio"/> 直接 <input type="radio"/> 間接				
ウィンドウ画面番号(1~2000): <input type="text" value="1"/>				
ウィンドウ位置X座標: <input type="text" value="320"/>				
ウィンドウ位置Y座標: <input type="text" value="240"/>				
終了		戻る		2005/07/27 18:13:10

画面設定	操作設定	表示設定	メニューとエラー設定	ウィンドウ設定
システムエリア設定	イーサネット設定			
グローバルウィンドウ動作: <input type="radio"/> 無効 <input type="radio"/> 直接 <input checked="" type="radio"/> 間接				
データ形式: <input checked="" type="radio"/> BIN <input type="radio"/> BCD				
終了		戻る		2005/07/27 18:13:13

次のページに続きます。



設定項目	設定内容				
間接	<p>表示するウィンドウ画面番号、表示位置は GP 内部デバイスのアドレス (LS16 ~ LS19) にデータを格納することで設定します。システムデータエリアを接続機器に割り付けると、接続機器からウィンドウ画面を切り替えたり表示位置を変更できます。</p> <p style="text-align: center;">&lt; 設定画面 &gt; <span style="margin-left: 150px;">&lt; 使用する内部デバイスアドレス &gt;</span></p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-start;"> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; width: 30%;"> <p>グローバルウィンドウ動作 <span style="border: 1px solid gray; padding: 2px;">間接</span></p> <p>データ形式 <span style="margin-left: 20px;"><input checked="" type="radio"/> Bin <input type="radio"/> BCD</span></p> </div> <div style="width: 30%;"> <p>LS0016 <table border="1" style="display: inline-table; border-collapse: collapse;"><tr><td style="padding: 2px;">コントロールアドレス</td></tr></table></p> <p>LS0017 <table border="1" style="display: inline-table; border-collapse: collapse;"><tr><td style="padding: 2px;">ウィンドウ画面番号</td></tr></table></p> <p>LS0018 <table border="1" style="display: inline-table; border-collapse: collapse;"><tr><td style="padding: 2px;">表示位置 (X 座標)</td></tr></table></p> <p>LS0019 <table border="1" style="display: inline-table; border-collapse: collapse;"><tr><td style="padding: 2px;">表示位置 (Y 座標)</td></tr></table></p> </div> <div style="width: 30%;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>コントロールアドレス</b> グローバルウィンドウの表示をコントロールするアドレスです。ビット 0 を ON するとウィンドウが表示されます。</li> </ul> <div style="text-align: center; margin: 10px 0;"> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>ウィンドウ画面番号</b> 表示したいウィンドウ画面の番号を 1 ~ 2000 で指定します。</li> <li>• <b>表示位置 X 座標 / Y 座標</b> グローバルウィンドウの表示位置を指定します。アドレスに格納する値を変更するとウィンドウを移動できます。ここで指定した座標はウィンドウの左上隅の位置になります。</li> </ul> <div style="text-align: center; margin: 10px 0;"> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 10px 0;"><b>MEMO</b></div> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 接続機器でシステムデータエリアを使用する場合は、割り付けたアドレスの連続 4 ワードを使用して設定します。 ☞ 「2.13.1 表示器共通 システムエリア設定」(2-71 ページ)</li> </ul> </div> </div>	コントロールアドレス	ウィンドウ画面番号	表示位置 (X 座標)	表示位置 (Y 座標)
コントロールアドレス					
ウィンドウ画面番号					
表示位置 (X 座標)					
表示位置 (Y 座標)					
データ形式	アドレスに格納するデータの形式を [Bin]、[BCD] から選択します。				

次のページに続きます。

システムエリア設定

GP の内部メモリ（システムデータエリア）と接続機器のデバイス（メモリ）を同期させる場合の設定を行います。

画面設定	操作設定	表示設定	メニューとエラー設定	ウィンドウ設定
システムエリア設定	イーサネット設定			
システムエリア機器:		PLC1		
システムエリア先頭アドレス:		D00000		
読み込みエリアサイズ(0~256):		0		
システムデータエリア:		<input type="radio"/> 使用しない <input checked="" type="radio"/> 使用する		
➡				
終了		戻る		2005/07/27 18:13:18

設定項目	設定内容
システムエリア機器	システムデータエリアを設定する接続機器を選択します。
システムエリア先頭アドレス	システムエリアに使用する先頭アドレスを指定します。
読み込みエリアサイズ (0 ~ 256)	全画面共通で使用するデータや折れ線グラフの一括表示データなどを格納する [読み込みエリア] のワード数を 0 ~ 256 で設定します。 <b>MEMO</b> ・メモリリンク方式で接続している場合は設定できません。
システムデータエリア	システムデータエリアを使用するかどうかを設定します。

[システムデータエリアを使用する] を選択した場合は次の画面に移行します。

画面設定	操作設定	表示設定	メニューとエラー設定	ウィンドウ設定	
システムエリア設定	イーサネット設定				
LS0	表示中画面番号	H0	LS17	ウィンドウ画面番号	H10
LS1	エラーステータス	+1	LS18	ウィンドウ表示位置	+11
LS2	時計データ(現在値)	+2	LS19	ウィンドウ表示位置	+12
LS3	時計データ(現在値)	+3			+13
LS4	時計データ(現在値)	+4			+14
LS5	時計データ(現在値)	+5			+15
LS10	時計データ(設定値)	+6			+16
LS11	時計データ(設定値)	+7			+17
LS12	時計データ(設定値)	+8			+18
LS13	時計データ(設定値)	+9			+19
<input checked="" type="checkbox"/>	表示中画面番号	19-D	<input checked="" type="checkbox"/>	時計データ(設定値)	49-D
<input checked="" type="checkbox"/>	エラーステータス	19-D	<input type="checkbox"/>	コントロール	19-D
<input checked="" type="checkbox"/>	時計データ(現在値)	49-D	<input type="checkbox"/>	予約(Read)	19-D
<input type="checkbox"/>	ステータス	19-D	<input type="checkbox"/>	ウィンドウコントロール	19-D
<input type="checkbox"/>	予約(Write)	19-D	<input checked="" type="checkbox"/>	ウィンドウ画面番号	19-D
<input type="checkbox"/>	切替画面番号	19-D	<input checked="" type="checkbox"/>	ウィンドウ表示位置	29-D
<input type="checkbox"/>	画面表示ON/OFF	19-D			
←					
終了		戻る		2005/07/27 18:13:31	

設定項目	設定内容
システムデータエリアの項目	使用するシステムデータエリアの項目にタッチするとチェックをつけ、その項目を選択したことになります。
総使用ワード数	システムエリアの設定で選択した項目をワード数で表示します。 <b>MEMO</b> ・画面の表示ドット数が 320 × 240 の場合は [表示] キーをタッチすると [システムエリアの設定確認] が表示され選択項目を確認できます。 ・この設定はダイレクトアクセス方式を使用している場合のみ有効です。 ・画面内で表示される [システムエリア] とは、システムデータエリアのことです。

## イーサネット設定

イーサネットに関する設定を行います。

画面設定	操作設定	表示設定	メニューとエラー設定	ウィンドウ設定
システムエリア設定	イーサネット設定			
自局名:	<input type="text"/>			
IPアドレス:	<input type="text" value="192"/>	<input type="text" value="168"/>	<input type="text" value="0"/>	<input type="text" value="5"/>
サブネットマスク:	<input type="text" value="255"/>	<input type="text" value="255"/>	<input type="text" value="255"/>	<input type="text" value="0"/>
ポート:	<input type="text" value="8000"/>			
デフォルトゲートウェイ:	<input type="text" value="0"/>	<input type="text" value="0"/>	<input type="text" value="0"/>	<input type="text" value="0"/>
自動認識:	<input type="radio"/> する <input checked="" type="radio"/> しない			
速度設定:	<input checked="" type="radio"/> 100M <input type="radio"/> 10M			
Duplex設定:	<input checked="" type="radio"/> Half <input type="radio"/> Full			
終了		戻る		2005/07/27 18:13:36

設定項目	設定内容
自局名	ネットワーク上で使用される名前を半角 32 文字以内で設定します。
IP アドレス	GP の IP アドレスを設定します。IP アドレスは全 32 ビットを 8 ビットごとの 4 つの組に分け、それぞれ 10 進数で入力します。
サブネットマスク	サブネットマスクを設定します。使用しない場合は「0」を設定します。
ポート	強制転送時は「8000」固定です。LAN での自動検索を行う場合は、「8000」を設定します。自局ポート番号を 5001 ~ 65516 で設定します。設定された値から連続した 10 ポートを使用します。
デフォルトゲートウェイ	ゲートウェイの IP アドレスを設定します。ゲートウェイを使用しない場合は、すべて「0」に設定します。設定できるゲートウェイは 1 つのみです。
自動認識	ネットワークの自動認識を有効にするかどうかを設定します。自動認識を行わない場合、[速度設定]、[Duplex] を手動で設定します。
速度設定	ネットワークの速度を [100M]、[10M] から選択します。
Duplex 設定	ネットワークの通信方式を [Half]、[Full] から選択します。

## [ 周辺機器設定 ] の設定ガイド

### 接続機器設定

接続機器（PLC やホストなど）の通信に関する設定をここで行います。接続機器の通信設定と合わせるようにしてください。

**MEMO** ・ [ 接続機器設定 ] の詳細設定内容は接続機器により異なります。各接続機器の設定内容詳細は「GP-Pro EX 機器接続マニュアル」をご確認ください。

接続機器設定	プリンタ設定	バーコード設定	USB	スクリプト設定
三菱電機(株) Q/OnA シリアルコミュニケーション COM2 <span style="float: right;">接続台数: 1</span>				
終了 <span style="margin-left: 100px;">戻る</span> <span style="float: right;">2005/07/27 18:13:44</span>				

設定項目	設定内容
メーカー	現在設定されている接続機器のメーカー名を表示します。
シリーズ	現在設定されている接続機器のシリーズ名を表示します。
ポート	現在設定されている接続機器の接続ポートを表示します。
接続台数	現在設定されている接続機器のタイプに何台接続されているかを表示します。



## プリンタ設定

GP と接続するプリンタの機種や印字方法を設定します。

接続機器設定	プリンタ設定	バーコード設定	USB	スクリプト設定
タイプ: EPSON PM/Stylus 6色インク ▼				
ポート: USB				
印字方式: <input type="radio"/> モノクロ <input checked="" type="radio"/> カラー				
白黒反転: <input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無				
画面ハードコピーの回転: <input checked="" type="radio"/> 回転無し <input type="radio"/> 左30度回転				
印字倍率: 3 ▼ ▲				
終了		戻る		2005/07/27 18:55:33

設定項目	設定内容
タイプ	接続するプリンタのタイプを [ 使用しない ]、[ NEC PR201 ]、[ EPSON ESC/P 高速 ]、[ EPSON ESC/P 高品位 ]、[ HP Laser Jet ]、[ EPSON PM /Stylus6 色インク ]、[ EPSON Stylus4 色インク ]、[ テキスト ASCII ] から選択します。 <b>MEMO</b> ・ [ テキスト ASCII ] の場合は印刷の方法が異なるため、文字の形状が異なる可能性があります。
ポート	プリンタが設定されているポートを表示します。
印字方式	印字方式を [ モノクロ ]、[ カラー ] から選択します。 <b>MEMO</b> ・ GP がモノクロの機種の場合は [ 印字方式 ] を [ カラー ] に設定してもモノクロで印字されます。
白黒反転	白黒反転で印字するかどうかを指定します。
画面ハードコピーの回転	画面ハードコピーする際の印字方向を [ 横 ]、[ 縦 ] から選択します。
印字倍率	タイプが [ EPSON PM/Stylus6 色インク ]、[ EPSON Stylus4 色インク ] の場合のみ、印字の倍率を 1 ~ 4 で設定します。

## バーコード設定

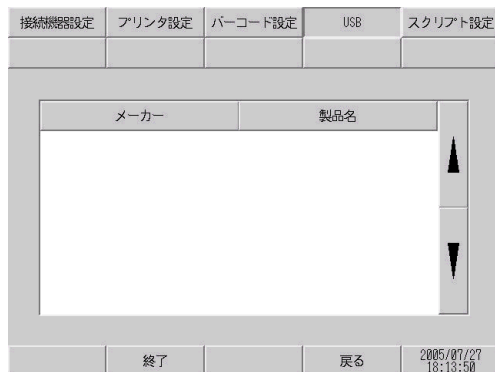
GP と接続するバーコードの通信方法を設定します。

接続機器設定	プリンタ設定	バーコード設定	USB	スクリプト設定
<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>バーコード1 ▼</p> <p>タイプ:</p> <p>データ格納先:</p> <p>通信速度(bps):</p> <p>データ長:</p> <p>パリティ: <input checked="" type="radio"/> 無</p> <p>ストップビット:</p> <p>フロー制御:</p> <p>5V電源供給:</p> </div> <div style="width: 45%;"> <p>ポート: COM1</p> <p>バーコードリーダー</p> <p>データ表示器</p> <p>9600 ▼</p> <p><input type="radio"/> 7bit <input checked="" type="radio"/> 8bit</p> <p><input type="radio"/> 偶数 <input type="radio"/> 奇数</p> <p><input checked="" type="radio"/> 1 <input type="radio"/> 2</p> <p>RTS/CTS制御 ▼</p> <p><input type="radio"/> する <input checked="" type="radio"/> しない</p> </div> </div>				
終了		戻る		2005/07/27 18:22:01

設定項目	設定内容
ポート	バーコードリーダーを接続するポートの種別が表示されます。
タイプ	設定するバーコードを [ バーコード 1]、[ バーコード 2] から選択します。
データ格納先	バーコードリーダーが読み取ったデータがどこへ格納されるか [ データ表示器 ]、[ 内部デバイス ] から表示されます。
通信速度	バーコードリーダーと GP 間の通信速度を [2400]、[4800]、[9600]、[19200]、[38400]、[57600]、[115200] から選択します。
データ長	通信するデータの長さ ( ビット ) を [7]、[8] から選択します。
パリティ	パリティチェックの方法を [ 無 ]、[ 偶数 ]、[ 奇数 ] から選択します。
ストップビット	ストップビットの長さ ( ビット ) を [1]、[2] から選択します。
フロー制御	送受信データのオーバーフローを防ぐために行う通信制御の方式を [ 無 ]、[ ER(DTR/CTS) 制御 ]、[ RTS/CTS 制御 ] から選択します。
5V 電源供給	GP から 5V 電源を供給するかどうかを選択します。

## USB

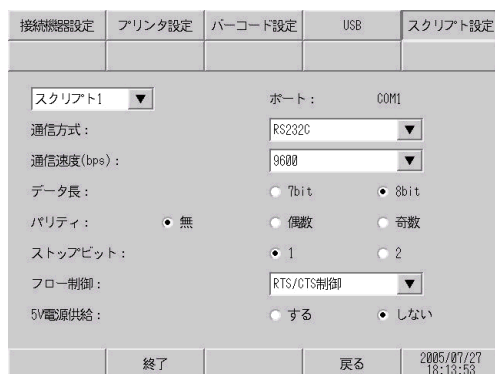
GP に接続している USB デバイスの情報（メーカー名と製品名）を表示します。



設定項目	設定内容
メーカー	GP に接続している USB 機器のメーカー名を表示します。
製品名	GP に接続している USB 機器の製品名を表示します。

## スクリプト設定

スクリプトで使用する接続機器の通信設定を行います。



設定項目	設定内容
ポート	スクリプトで使用するポートを [COM1]、[COM2] から選択します。
通信方式	通信方式を [RS232C]、[RS422/485(4 線式)]、[RS422/485(2 線式)] から選択します。
通信速度 (bps)	通信速度を [2400]、[4800]、[9600]、[19200]、[38400]、[57600]、[115200] から選択します。
データ長	通信データ長を [7 ビット]、[8 ビット] から選択します。
パリティビット	通信パリティビットを [無]、[奇数]、[偶数] から選択します。
ストップビット	通信ストップビット長を [2 ビット]、[1 ビット] から選択します。
フロー制御	通信方式が [RS232C] の場合のみ、通信制御方式を [無]、[RTS/CTS 制御]、[ER(DTR/CTS) 制御] から選択します。
5V 電源供給	通信方式が [RS232C] の場合のみ、5V 電源供給の設定をするかどうかを設定します。接続機器が電源供給を必要とする時のみ [する] に設定してください。5V 電源供給を必要としないのに [する] を設定した場合、接続機器や GP の故障の原因になります。設定する際は接続機器や接続ケーブルの仕様をよくご確認ください。

## [パスワード設定] の設定ガイド

### システムパスワード

「メモリの初期化」やオフラインモードに切り替えるときに使用するパスワードの設定です。

設定項目	設定内容
新しいパスワードを入力してください	初期設定時やオフラインモードに入る際のシステムパスワードを 0 ~ 99999999 で設定します。システムパスワードが不要な場合は「0」を設定します。
再度、新しいパスワードを入力してください	確認のため再度パスワードを入力します。

### セキュリティパスワード

レベル 15 のパスワードを入力すると、レベル 1 からレベル 15 までのパスワードが変更できるようになります。

設定項目	設定内容
レベル 15 のパスワードを入力してください	セキュリティパスワードを変更するために、レベル 15 のパスワードを入力します。 <b>MEMO</b> • あらかじめレベル 15 のセキュリティパスワードが設定されていない場合は、オフラインモードでセキュリティパスワードの変更はできません。セキュリティパスワードを設定したプロジェクトファイルを GP に転送してください。
パスワード変更レベルの選択	変更したいパスワードレベルを 1 ~ 15 で選択します。
現在のパスワード	現在のパスワードを入力します。

## [ 初期化メニューの設定 ] ガイド

### ユーザメモリの初期化

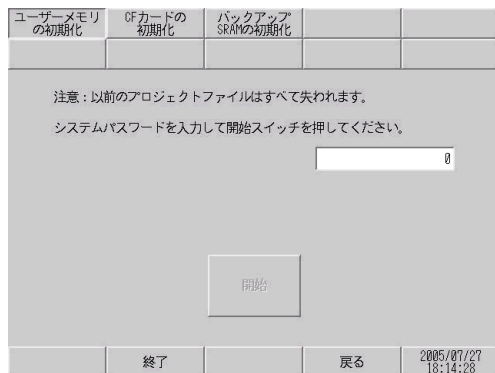
GP のユーザメモリに格納されているデータをすべて消去します。

#### 重要

- [ 開始 ] スイッチを押したあとに初期化の取り消しはできませんので、ご注意ください。初期化中は電源を切らないでください。
- バックアップ SRAM のデータも消去されます。
- 初期化を行っても、GP のシステム、ドライバなどのシステムや、時刻の設定データは消去されません。
- ロジックプログラムの保持データもすべて消去されます。

#### MEMO

- 初期化に数十秒かかる場合があります。

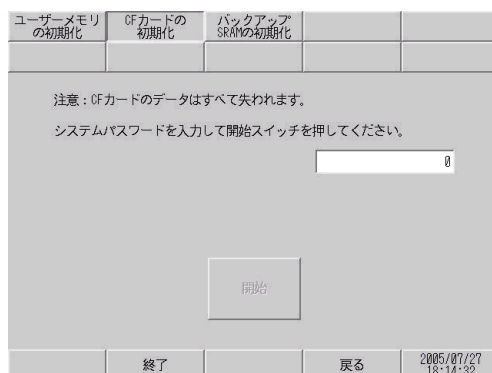


設定項目	設定内容
システムパスワードを入力して開始スイッチを押してください。	システムパスワード入力枠をタッチし、システムパスワードを入力します。システムパスワードを設定していない場合は標準のパスワード「1101」を入力します。
開始	ユーザメモリの初期化を開始します。

### CF カードの初期化

GP に装着された CF カードのデータをすべて消去します。

- 重要**
- [ 開始 ] スイッチを押したあとに初期化の取り消しはできませんので、ご注意ください。初期化中は電源を切らないでください。

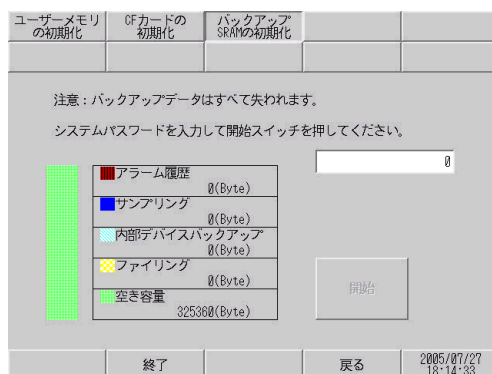


設定項目	設定内容
システムパスワードを入力して開始スイッチを押してください。	システムパスワード入力枠をタッチし、システムパスワードを入力します。システムパスワードを設定していない場合は、標準のパスワード「1101」を入力します。
開始	CF カードの初期化を開始します。

### バックアップ SRAM の初期化

GP のバックアップ SRAM に格納されているデータをすべて消去します

- 重要**
- [ 開始 ] スイッチを押したあとに初期化の取り消しはできませんので、ご注意ください。初期化中は電源を切らないでください。
  - バックアップしているデータは消去されます。
  - 初期化を行っても、システム、通信プロトコル、時刻の設定データ、ロジックプログラムの保持データは消去されません。



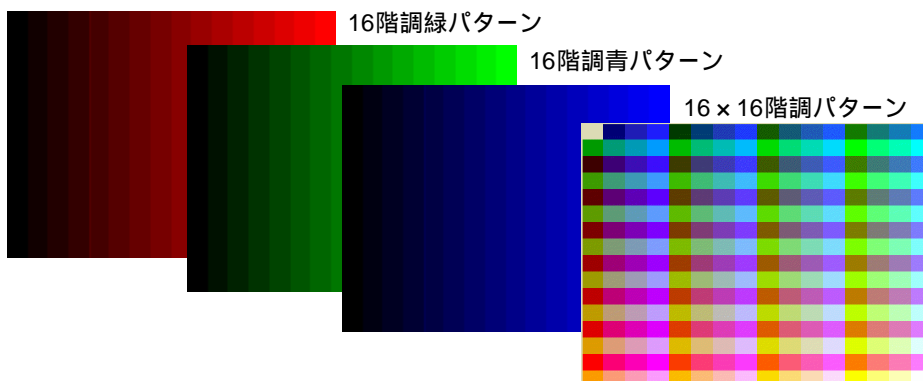
設定項目	設定内容
システムパスワードを入力して開始スイッチを押してください。	システムパスワード入力枠をタッチし、システムパスワードを入力します。システムパスワードを設定していない場合は、標準のパスワード「1101」を入力します。
開始	バックアップ SRAM の初期化を開始します。

## [メンテナンスメニュー] の設定ガイド

### 表示パターンチェック

描画機能のチェックです。液晶ディスプレイが正しく表示されるかチェックします。画面をタッチすると表示パターンを切り替えて表示します。

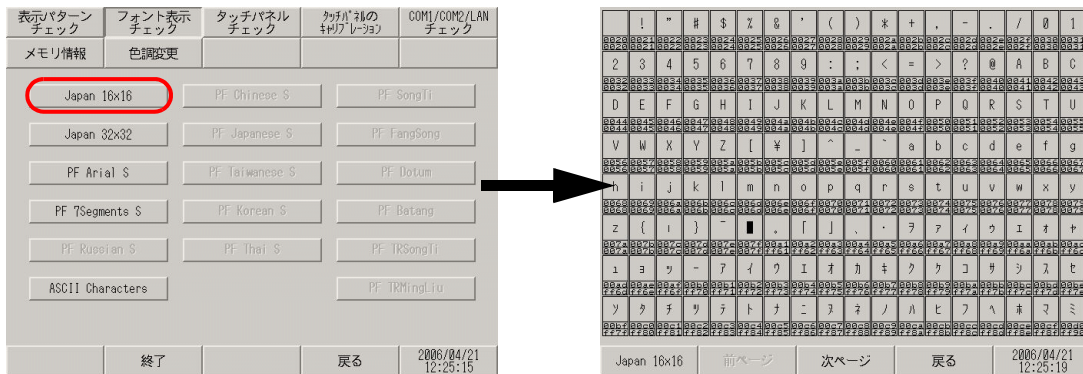
16階調赤パターン



設定項目	設定内容
16 階調赤パターン	16 階調赤パターンを表示します。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; margin: 5px;">MEMO</div> ・ モノクロ機種では、16 階調赤パターンのみ表示します。
16 階調緑パターン	16 階調緑パターンを表示します。
16 階調青パターン	16 階調青パターンを表示します。
16 × 16 階調パターン	16 × 16 階調パターンを表示します。

フォント表示チェック

インストールされているフォントのフォントパターンを表示します。各フォント（日本、欧米、中国語（繁体字）中国語（簡体字）、韓国、キリル文字、タイ語）の文字パターンをチェックします。各言語のフォントイメージをチェックします。中国語（繁体字）中国語（簡体字）、韓国、キリル文字、タイ語についてはユーザがダウンロードしているフォントのみチェックできます。

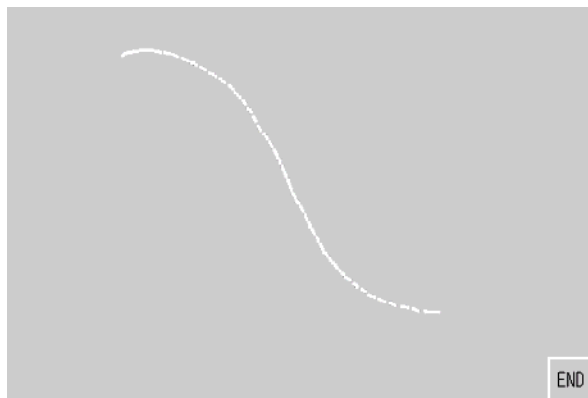


設定項目	設定内容
<p>フォント一覧</p>	<p>イメージチェックするフォントを [Japan16 × 16]、[Japan32 × 32]、[PF Arial S]、[PF 7Segments S]、[PF Russian S]、[ASCII Characters]、[PF Chinese S]、[PF Japanese S]、[PF Taiwanese S]、[PF Korean S]、[PF Thai S]、[PF SongTi]、[PF FangSong]、[PF Dotum]、[PF Batang]、[PF TRSongTi]、[PF TRMingLiu] から選択します。フォントの項目をタッチするとパターン表示確認画面に移行します。</p> <p><b>MEMO</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• ASCII フォントグループのみ別画面に項目を表示します。</li> </ul>



### タッチパネルチェック

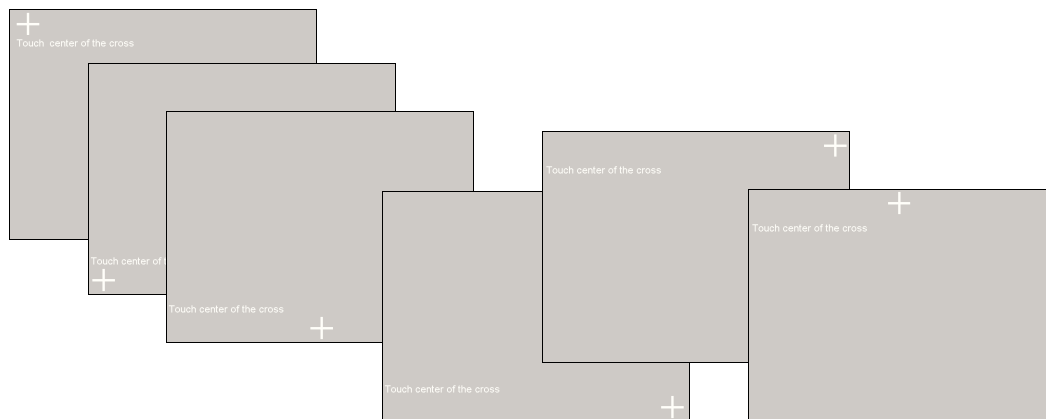
タッチパネルのチェックです。タッチした箇所が正しく反応するかチェックします。



設定項目	設定内容
タッチパネルチェック	<p>タッチパネルの入力を行い、入力された座標にドット表示を行います。タッチ箇所が表示反転を目視確認できます。</p> <p><b>MEMO</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>画面の右上か左上または左下のいずれかをタッチすると、ドットの色を変更することができます。それぞれの色は右上（黄色） 左上（青色） 左下（赤色）です。</li> </ul>
END	メニュー画面に戻ります。

### タッチパネルのキャリブレーション

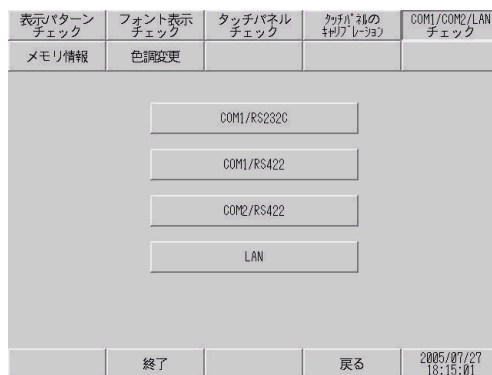
アナログタッチパネルの補正（キャリブレーションの設定）を行います。



設定項目	設定内容
Touch Center of the Cross	<p>+ 印が移動、または消えるまでタッチし続けます。</p> <p><b>MEMO</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>+ 印と離れている箇所をタッチした場合は、誤入力と認識し、正常にキャリブレーションモードを終了しません。</li> </ul>

### COM1/COM2/LAN チェック

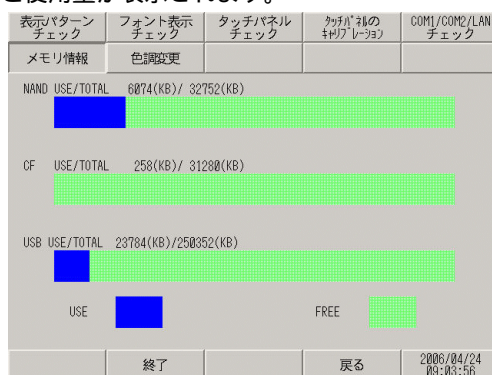
RS-232C、RS-422、LAN の送受信ラインのチェックです。異常が発生したときにチェックします。COM1、COM2 のチェックを行うには SIO ケーブルの接続が必要です。正常なら [OK]、異常ならエラーメッセージを表示します。



設定項目	設定内容
COM1/RS232C	GP の COM1、RS-232C モードの端子が正常かどうかをチェックします。
COM1/RS422	GP の COM1、RS-422 モードの端子が正常かどうかをチェックします。
COM2/RS422	GP の COM2 の端子が正常かどうかをチェックします。
LAN	内部のループバックチェックを行います。MAC アドレスのチェックを行います。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; margin: 5px 0;">MEMO</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>LAN インターフェイスのない機種ではこの項目は表示されません。</li> </ul>

### メモリ情報

GP 本体のメモリの総量と使用量が表示されます。



設定項目	設定内容
NAND USE/TOTAL	NAND (画面データが格納されるエリア) のメモリ総量と使用量を表示します。ヒストグラムでは青色部分が使用量、緑色部分が空き容量を示します。
CF USE/TOTAL	CF カードのメモリ総量と使用量を表示します。ヒストグラムでは青色部分が使用量、緑色部分が空き容量を示します。

次のページに続きます。

設定項目	設定内容
USB USE/TOTAL	<p>USB メモリの総量と使用量を表示します。ヒストグラムでは青色部分が使用量、緑色部分が空き容量を示します。</p> <p><b>MEMO</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各デバイスの表示容量の上限は 2,097,151 KB(2,147,483,647 バイト)です。(約 2G バイト) 総容量もしくは空き容量が上記上限を超える場合も 2,097,151 KB と表示されます。</li> <li>USB メモリが正しく装着されていない場合は表示されません。</li> </ul>

色調変更

オフラインモードの色調を変更できます。

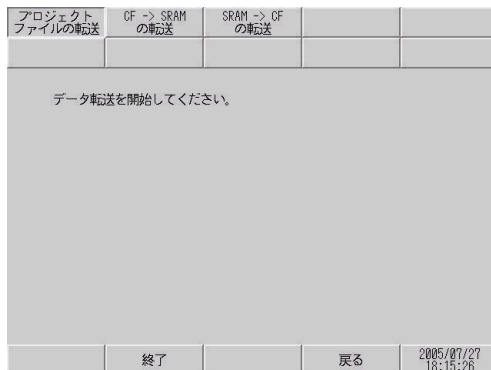


設定項目	設定内容
Color	色調を変更する箇所を [Base]、[Text]、[BackGround] から選択します。
Default	調整値を初期状態に戻します。
RGB	<p>[Color] で選択した箇所の色調を変更します。R、G、B の各色設定値を 0 ~ 255 で入力します。入力方法には 3 つの方法があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>数値で入力する (数値をタッチして表示されたキーボードで各要素の値を入力します。)</li> <li>ドラムボタンで入力する (数値入力枠の横にある ▼ で数値を変更します。+5 または -5 ずつ変化します。)</li> <li>直接入力する (RGB の各ヒストグラムを直接タッチして数値を変更します。)</li> </ul>

## [ 転送 ] の設定ガイド

### プロジェクトファイルの転送

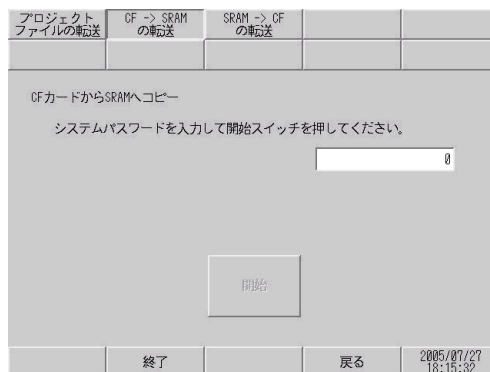
オフラインモードでプロジェクトファイルを転送する場合に設定します。



設定項目	設定内容
データ転送を開始してください。	<p>オフラインモードでプロジェクトファイルを転送する場合は、上記画面で GP を転送待ち状態にする必要があります。                      [データ転送を開始してください。] というメッセージが表示されてから、GP-Pro EX でプロジェクトファイル転送を行ってください。</p> <p><b>MEMO</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>プロジェクトファイル転送後は自動的に GP が再起動されます。</li> <li>オフラインモードで設定を変更し、保存していない場合は [設定の保存] ダイアログボックスが表示されます。</li> </ul>

### CF->SRAM の転送

CF カードにある SRAM バックアップデータ (SRAM→CF で転送したデータ) の内容を内部メモリ (SRAM) に転送します。



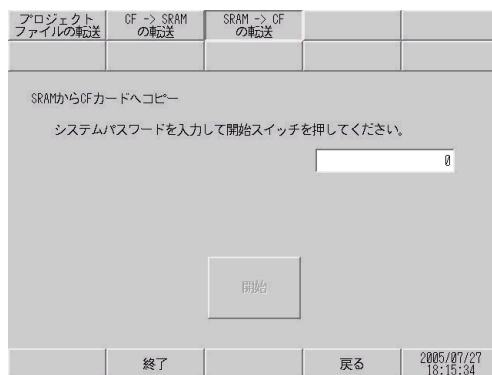
設定項目	設定内容
システムパスワードを入力して開始スイッチを押してください。	システムパスワード入力枠をタッチし、システムパスワードを入力します。システムパスワードを設定していない場合は、標準のパスワード「1101」を入力します。
開始	CF カードに保存したバックアップ SRAM データを GP に転送開始します。

SRAM->CF の転送

内部メモリ（SRAM）の内容を CF カードに転送します。

- MEMO**
- SRAM の内容は GP-Pro EX で [SRAM 自動バックアップ] の [コントロールワードアドレス] を設定し、このアドレスのビットを ON することでも CF カードに転送できます。アドレスの設定方法は下記を参照してください。

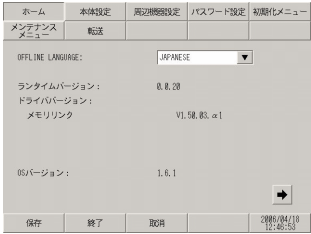
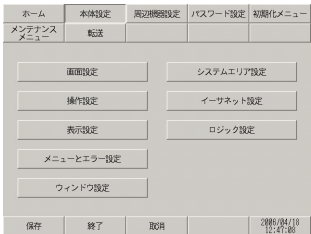
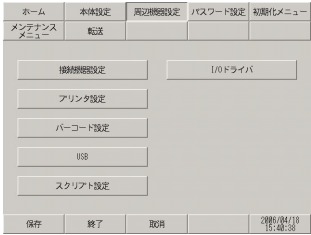
☞ GP-Pro EX リファレンスマニュアル「5.13.6[システム設定ウィンドウ]の設定ガイド・メモリカード設定」(5-115 ページ)



設定項目	設定内容
システムパスワードを入力して開始スイッチを押してください。	システムパスワード入力枠をタッチし、システムパスワードを入力します。システムパスワードを設定していない場合は、標準のパスワード「1101」を入力します。
開始	GP 内のバックアップ SRAM データを CF カードに転送開始します。CF カード内に ¥SRAM¥Z000001.BIN というファイルが作成されます。

- 重要**
- CF カードの空き容量は必ずバックアップ SRAM のサイズより大きくしてください。
  - バックアップ SRAM のファイルは CF カードに 1 ファイルしか保存できません。
  - オフラインモードで [CF カードの初期化] を実行すると SRAM フォルダを作成します。
  - オフラインモードで CF カードからバックアップ SRAM への転送を実行すると、それまで保存していたデータ（ロギングデータなど）がすべて転送されたデータに書き換わり、消去されます。
  - オフラインモードで CF カードからバックアップ SRAM への転送を実行しても、[輝度]、[コントラスト]、[音量調節] の設定値は変更されません。ただし、運転モードに移行したり、電源を再度投入した場合は転送されたデータで動作します。
  - オフラインモードで CF カードからバックアップ SRAM への転送を実行すると、VGA、SVGA 表示している場合に調整済みの VGA/SVGA 表示が変更される場合があります。
  - オフラインモードで CF カードからバックアップ SRAM への転送を実行すると、それまで記憶していた日本語 FEP の学習情報が上書きされます。このため日本語 FEP の変換候補に表示されていた使用頻度の優先順位が変わる場合があります。

## 2.13.2 GP3000 シリーズ DIO ボードタイプをご利用の場合

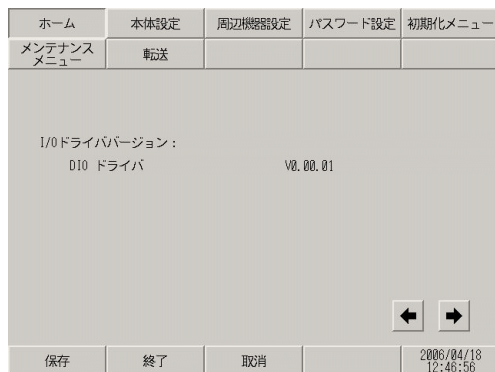
メニュー	設定内容
	<p>「2.13.2 GP3000 シリーズ DIO ボードタイプをご利用の場合 [ホーム] の設定ガイド」(2-87 ページ)</p>
	<p>「2.13.2 GP3000 シリーズ DIO ボードタイプをご利用の場合 [本体設定] の設定ガイド」(2-89 ページ)</p>
	<p>「2.13.2 GP3000 シリーズ DIO ボードタイプをご利用の場合 [周辺機器設定] の設定ガイド」(2-90 ページ)</p> <p>「2.13.2 GP3000 シリーズ DIO ボードタイプをご利用の場合 I/O ドライバ設定 (I/O チェック)」(2-90 ページ)</p> <p>「2.13.2 GP3000 シリーズ DIO ボードタイプをご利用の場合・I/O チェック 接続チェック実行画面」(2-90 ページ)</p> <p>「2.13.2 GP3000 シリーズ DIO ボードタイプをご利用の場合 I/O ドライバ設定 (I/O モニタ)」(2-91 ページ)</p> <p>「2.13.2 GP3000 シリーズ DIO ボードタイプをご利用の場合・入力タイプ (ビット) 出力タイプ (ビット)」(2-91 ページ)</p> <p>「2.13.2 GP3000 シリーズ DIO ボードタイプをご利用の場合・入力タイプ (ビット) 出力タイプ (整数)」(2-91 ページ)</p> <p>「2.13.2 GP3000 シリーズ DIO ボードタイプをご利用の場合・入力タイプ (整数) 出力タイプ (ビット)」(2-92 ページ)</p> <p>「2.13.2 GP3000 シリーズ DIO ボードタイプをご利用の場合・入力タイプ (整数) 出力タイプ (整数)」(2-92 ページ)</p>

### [ホーム] の設定ガイド

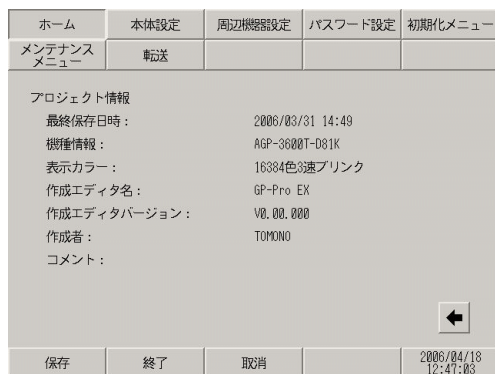
ホーム	本体設定	周辺機器設定	パスワード設定	初期化メニュー
メンテナンスメニュー	転送			
OFFLINE LANGUAGE:	JAPANESE ▼			
ランタイムバージョン:	0.0.20			
ドライババージョン:	V1.50.03.alpha1			
OSバージョン:	1.6.1			
保存	終了	取消	2006/04/18 12:46:53	

次のページに続きます。

設定項目	設定内容
OFFLINE LANGUAGE	オフラインメニューで使用する言語を [JAPANESE]、[ENGLISH] から選択します。
ランタイムバージョン	ランタイムのバージョンが表示されます。
ドライババージョン	プロトコルドライバのバージョンが表示されます。使用可能最大数の4ドライバを表示します。GP-3300 シリーズの場合は使用可能最大数の2ドライバを表示します。
OS バージョン	OS のバージョンが表示されます。



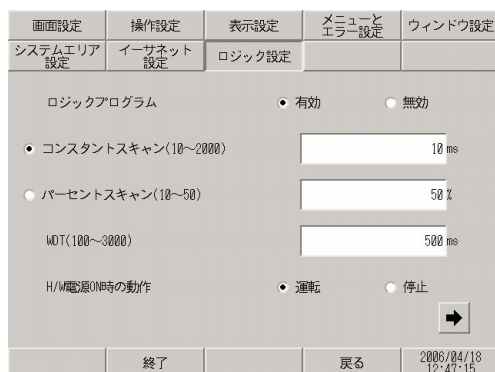
設定項目	設定内容
I/O ドライババージョン	I/O ドライバ名と I/O ドライバランタイムバージョンが表示されます。



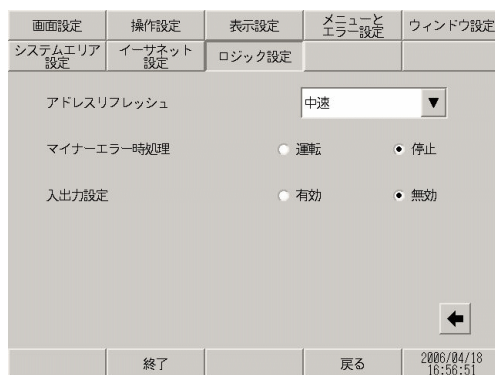
設定項目	設定内容
最終保存日時	プロジェクトの最終保存日時を表示します。
機種情報	設定 GP 機種を表示します。
表示カラー	GP の表示カラーを表示します。
作成エディタ名	プロジェクトを作成したエディタ名を表示します。
作成エディタバージョン	プロジェクトを作成したエディタのバージョンを表示します。
作成者	プロジェクトを作成した人の名前を表示します。
コメント	プロジェクトのコメントを表示します。

## [ 本体設定 ] の設定ガイド

ロジックプログラムの設定を行います。



設定項目	設定内容
ロジックプログラム	[ 有効 ] の場合は、以下のすべての項目が設定できます。[ 無効 ] の場合は設定できません。
コンスタントスキャン	ロジック機能実行時間を 10~2000ms で設定します。
パーセントスキャン	ロジック機能実行時間の割合を 10 ~ 50% で設定します。
WDT(100 ~ 3000)	ウォッチドッグタイムを 100 ~ 3000ms で設定します。
H/W 電源 ON 時の動作	GP 本体を ON した時のロジックの動作を [ 運転 ]、[ 停止 ] から選択します。



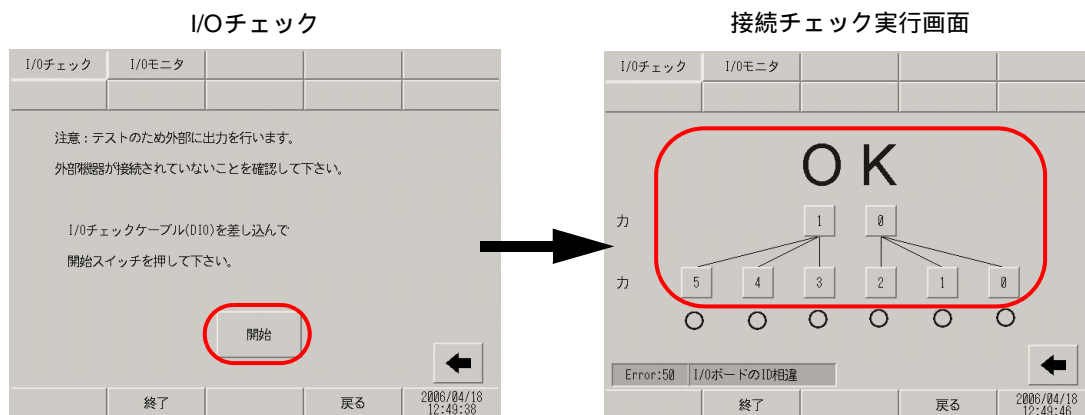
設定項目	設定内容
アドレスリフレッシュ	ロジックプログラムに割り付けられた接続機器や内部デバイスアドレスの値を更新する早さを [ 高速 ]、[ 中速 ]、[ 低速 ] から選択します。
マイナーエラー時処理	継続異常が発生したときのロジック動作を [ 運転 ]、[ 停止 ] から選択します。
入出力設定	入力、出力の動作を行う場合は [ 有効 ]、入力、出力の動作を [ 停止 ] する場合は [ 無効 ] を選択します。



## [ 周辺機器設定 ] の設定ガイド

### I/O ドライバ設定 (I/O チェック)

- I/O チェック 接続チェック実行画面

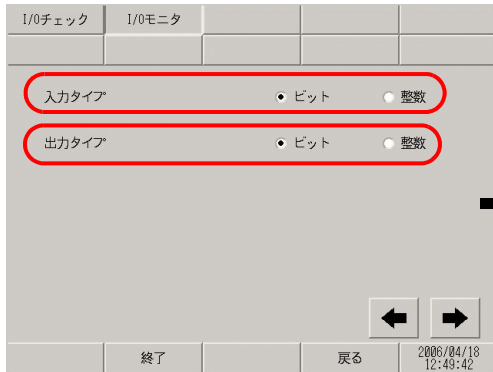


設定項目	設定内容
I/O チェック	I/O チェックを開始する画面です。
開始	<p>接続チェック実行画面に移り、I/O チェックを開始します。</p> <p><b>MEMO</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• I/O チェックを開始するにはループバックケーブルの接続が必要です。DIO ボードにはシンクタイプとソースタイプがあり、それぞれループバックの配線も異なります。各配線方法は下記を参照してください。</li> </ul> <p>☞「2.9.2 本体DIOインターフェイスのON/OFFが正常かチェックしたい 内部端子チェックを実行しよう!」(2-48 ページ)</p>
接続チェック実行画面	接続チェックを実行する画面です。
接続チェック実行画面	DIO ボードにループバックケーブルが接続された状態で、出力ターミナル2点の出力を入力ターミナル6点に入力して出力データと入力データを比較し、データが期待値に一致すれば正常に動作していると判断され [OK] が画面に表示されます。期待値と一致しない場合は [NG] が表示されます。

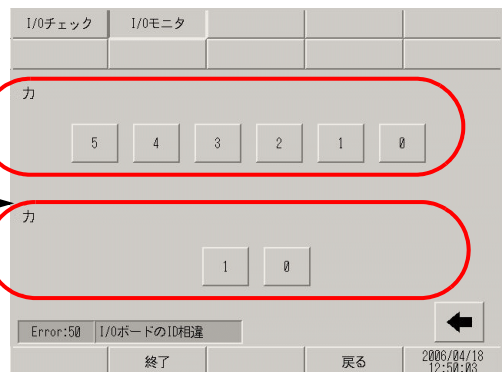
I/O ドライバ設定 (I/O モニタ)

- 入カタイプ (ビット) 出カタイプ (ビット)

ビット・整数切替画面



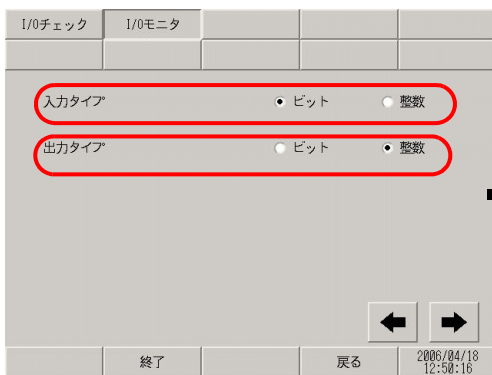
入出力表示画面



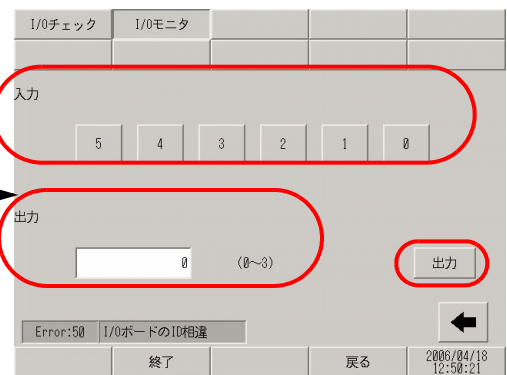
設定項目	設定内容
ビット・整数切替画面	入出力の状態をビットで表示するか、整数で表示するかを選択する画面です。
入力タイプ	入力する値のタイプを [ビット]、[整数] から選択します。
出力タイプ	出力する値のタイプを [ビット]、[整数] から選択します。
入出力表示画面	入出力状態をビットで表示する画面です。
入力	DIO の入力ビット 0 ~ 5 の現在の ON/OFF 状態が表示されます。
出力 [1]	タッチするたびに、DIO の出力ビット 1 の ON/OFF を反転します。
出力 [0]	タッチするたびに、DIO の出力ビット 0 の ON/OFF を反転します。

- 入カタイプ (ビット) 出カタイプ (整数)

ビット・整数切替画面

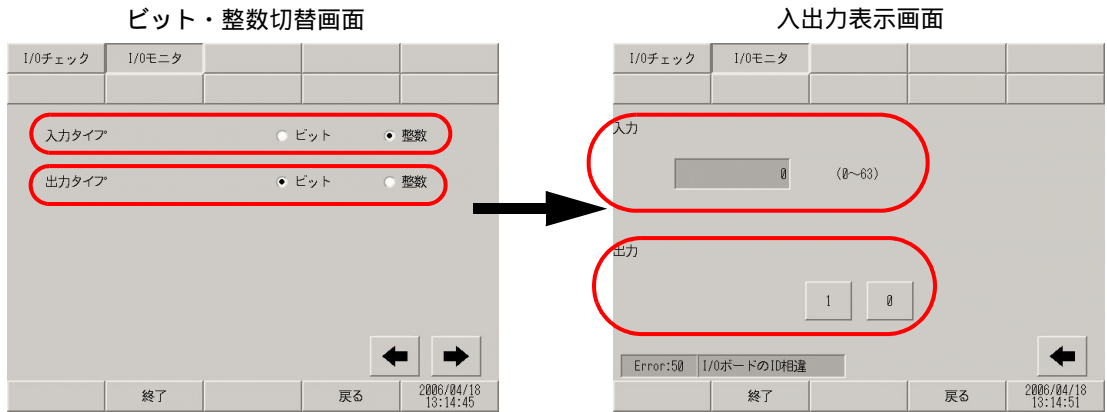


入出力表示画面



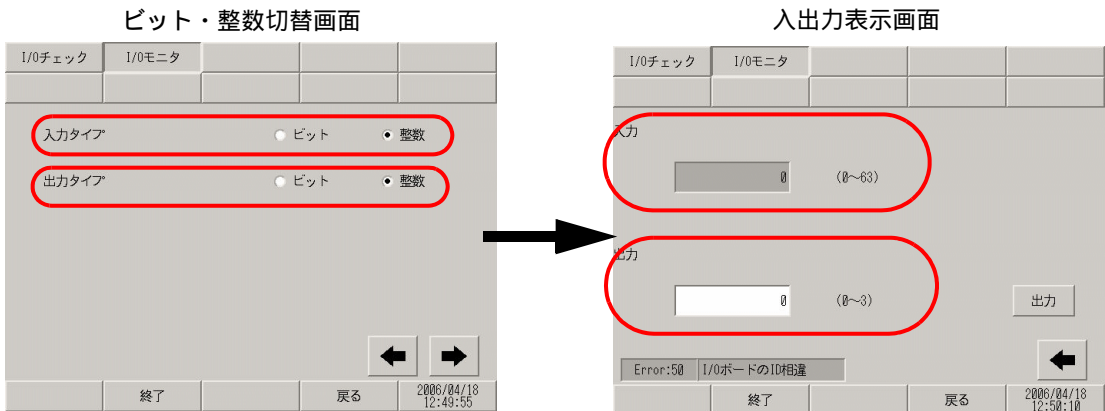
設定項目	設定内容
ビット・整数切替画面	入出力の状態をビットで表示するか、整数で表示するかを選択する画面です。
入力タイプ	入力する値のタイプを [ビット]、[整数] から選択します。
出力タイプ	出力する値のタイプを [ビット]、[整数] から選択します。
入出力表示画面	入力状態をビット、出力状態を整数で表示する画面です。
入力	DIO の入力ビット 0 ~ 5 の現在の ON/OFF 状態が表示されます。
出力	タッチするとテンキーが表示されます。出力する値を 0 ~ 3 で設定します。
出力	入力枠をタッチして表示される、テンキーで設定した値を出力します。

- 入カタイプ (整数) 出力タイプ (ビット)  
ビット・整数切替画面



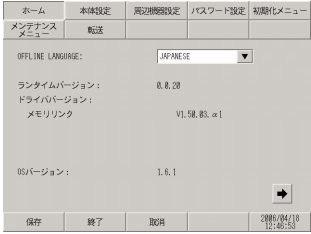
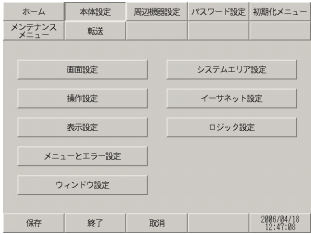
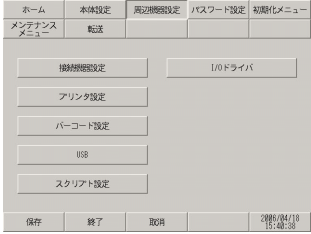
設定項目	設定内容
ビット・整数切替画面	入出力の状態をビットで表示するか、整数で表示するかを選択する画面です。
入力タイプ	入力する値のタイプを [ビット]、[整数] から選択します。
出力タイプ	出力する値のタイプを [ビット]、[整数] から選択します。
入出力表示画面	入力状態を整数、出力状態をビットで表示する画面です。
入力	DIN の現在の入力値が 0 ~ 63 で表示されます。
出力 [1]	タッチするたびに、DIO の出力ビット 1 の ON/OFF を反転します。
出力 [0]	タッチするたびに、DIO の出力ビット 0 の ON/OFF を反転します。

- 入カタイプ (整数) 出力タイプ (整数)  
ビット・整数切替画面

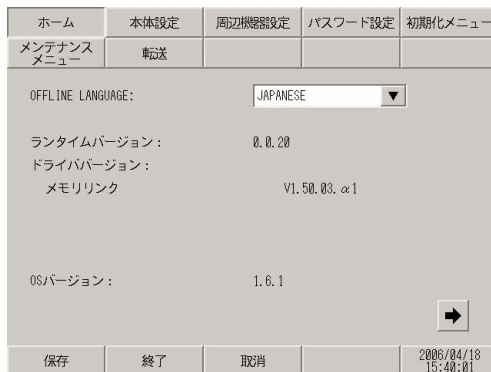


設定項目	設定内容
ビット・整数切替画面	入出力の状態をビットで表示するか、整数で表示するかを選択する画面です。
入力タイプ	入力する値のタイプを [ビット]、[整数] から選択します。
出力タイプ	出力する値のタイプを [ビット]、[整数] から選択します。
入出力表示画面	入出力の状態を整数で表示します。
入力	DIN の現在の入力値が 0 ~ 63 で表示されます。
出力	タッチするとテンキーが表示されます。出力する値を 0 ~ 3 で設定します。
出力	入力枠をタッチして表示される、テンキーで設定した値を出力します。

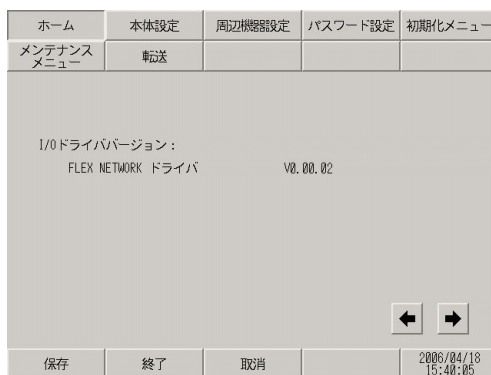
## 2.13.3 FLEX NETWORK ユニットをご利用の場合

メニュー	設定内容
	<p>「2.13.3 FLEX NETWORK ユニットをご利用の場合 [ ホーム ] の設定ガイド」(2-94 ページ)</p>
	<p>「2.13.3 FLEX NETWORK ユニットをご利用の場合 [ 本体設定 ] の設定ガイド」(2-95 ページ)</p>
	<p>「2.13.3 FLEX NETWORK ユニットをご利用の場合 [ 周辺機器設定 ] の設定ガイド」(2-96 ページ)</p> <p>「2.13.3 FLEX NETWORK ユニットをご利用の場合 通信チェック」(2-96 ページ)</p> <p>「2.13.3 FLEX NETWORK ユニットをご利用の場合・通信チェック 通信チェック実行画面」(2-96 ページ)</p> <p>「2.13.3 FLEX NETWORK ユニットをご利用の場合 I/O モニタ」(2-97 ページ)</p> <p>「2.13.3 FLEX NETWORK ユニットをご利用の場合・[ 型式 ] 入力、FN-X16TS 使用時」(2-97 ページ)</p> <p>「2.13.3 FLEX NETWORK ユニットをご利用の場合・[ 型式 ] 入力、FN-X32TS 使用時」(2-97 ページ)</p> <p>「2.13.3 FLEX NETWORK ユニットをご利用の場合・[ 型式 ] 出力、FN-Y08L 使用時」(2-98 ページ)</p> <p>「2.13.3 FLEX NETWORK ユニットをご利用の場合・[ 型式 ] 出力、FN-Y16SK 使用時」(2-98 ページ)</p> <p>「2.13.3 FLEX NETWORK ユニットをご利用の場合・[ 型式 ] 出力、FN-Y16SC 使用時」(2-99 ページ)</p> <p>「2.13.3 FLEX NETWORK ユニットをご利用の場合・[ 型式 ] 入出力、FN-XY08TS 使用時」(2-99 ページ)</p> <p>「2.13.3 FLEX NETWORK ユニットをご利用の場合・[ 型式 ] 入出力、FN-XY16SK 使用時」(2-100 ページ)</p> <p>「2.13.3 FLEX NETWORK ユニットをご利用の場合・[ 型式 ] 入出力、FN-XY16SC 使用時」(2-100 ページ)</p> <p>「2.13.3 FLEX NETWORK ユニットをご利用の場合・[ 型式 ] 入出力、FN-XY32SKS 使用時」(2-101 ページ)</p> <p>「2.13.3 FLEX NETWORK ユニットをご利用の場合・[ 型式 ] アナログ、FN-AD02AH 使用時」(2-101 ページ)</p> <p>「2.13.3 FLEX NETWORK ユニットをご利用の場合・[ 型式 ] アナログ、FN-DA02AH 使用時」(2-102 ページ)</p> <p>「2.13.3 FLEX NETWORK ユニットをご利用の場合・[ 型式 ] アナログ、FN-AD04AH 使用時」(2-103 ページ)</p> <p>「2.13.3 FLEX NETWORK ユニットをご利用の場合・[ 型式 ] アナログ、FN-DA04AH 使用時」(2-104 ページ)</p>

[ホーム] の設定ガイド



設定項目	設定内容
OFFLINE LANGUAGE	オフラインメニューで使用する言語を [JAPANESE]、[ENGLISH] から選択します。
ランタイムバージョン	ランタイムのバージョンが表示されます。
ドライババージョン	プロトコルドライバのバージョンが表示されます。使用可能最大数の4ドライバを表示します。GP-3300 シリーズの場合は使用可能最大数の2ドライバを表示します。
OSバージョン	OSのバージョンが表示されます。



設定項目	設定内容
I/O ドライババージョン	I/O ドライバ名と I/O ドライバランタイムバージョンが表示されます。

次のページに続きます。

ホーム	本体設定	周辺機器設定	パスワード設定	初期化メニュー
メンテナンスメニュー	転送			
プロジェクト情報				
最終保存日時:	2006/03/31 15:53			
機種情報:	AGP-3000T			
表示カラー:	16384色 <sup>3</sup> 速ブリック			
作成エディタ名:	Convert Tool			
作成エディタバージョン:				
作成者:				
コメント:	無題			
				←
保存	終了	取消	2006/04/18 15:40:09	

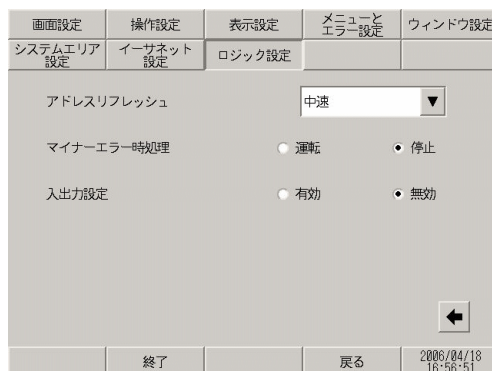
設定項目	設定内容
最終保存日時	プロジェクトの最終保存日時を表示します。
機種情報	設定 GP 機種を表示します。
表示カラー	GP の表示カラーを表示します。
作成エディタ名	プロジェクトを作成したエディタ名を表示します。
作成エディタバージョン	プロジェクトを作成したエディタのバージョンを表示します。
作成者	プロジェクトを作成した人の名前を表示します。
コメント	プロジェクトのコメントを表示します。

### [ 本体設定 ] の設定ガイド

画面設定	操作設定	表示設定	メニューとエリア設定	ウィンドウ設定
システムエリア設定	イーサネット設定	ロジック設定		
ロジックプログラム				
		<input checked="" type="radio"/> 有効 <input type="radio"/> 無効		
<input checked="" type="radio"/> コンスタントスキャン(10~2000)		<input type="text" value="10"/> ms		
<input type="radio"/> パーセントスキャン(10~50)		<input type="text" value="50"/> %		
WDT(100~3000)		<input type="text" value="500"/> ms		
H/W電源ON時の動作		<input checked="" type="radio"/> 運転 <input type="radio"/> 停止		
				→
終了		戻る		2006/04/18 12:47:15

設定項目	設定内容
ロジックプログラム	[ 有効 ] の場合は、以下のすべての項目が設定できます。[ 無効 ] の場合は設定できません。
コンスタントスキャン	ロジック機能実行時間を 10~2000ms で設定します。
パーセントスキャン	ロジック機能実行時間の割合を 10 ~ 50% で設定します。
WDT	ウォッチドッグタイムを 100 ~ 3000ms で設定します。
H/W 電源 ON 時の動作	GP 本体を ON した時のロジックの動作を [ 運転 ]、[ 停止 ] から選択します。

次のページに続きます。

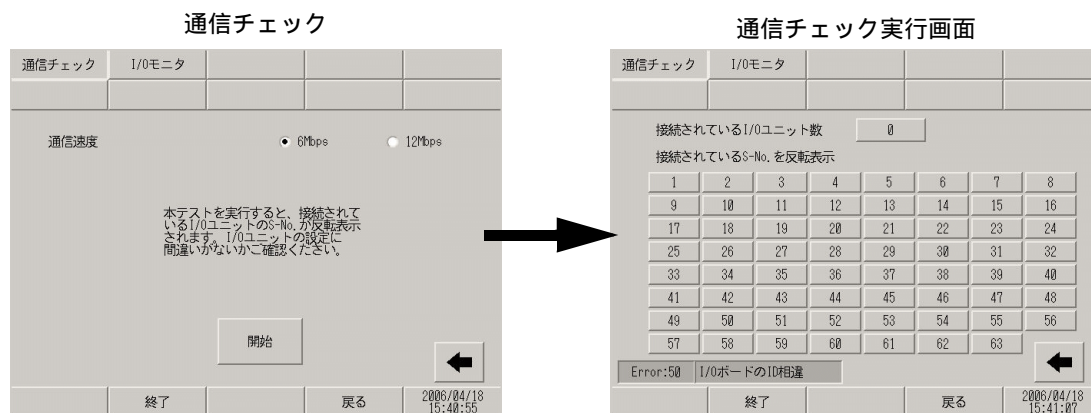


設定項目	設定内容
アドレスリフレッシュ	ロジックプログラムに割り付けられた接続機器や内部デバイスアドレスの値を更新する早さを [ 高速 ]、[ 中速 ]、[ 低速 ] から選択します。
マイナーエラー時処理	継続異常が発生したときのロジック動作を [ 運転 ]、[ 停止 ] から選択します。
入出力設定	入力、出力の動作を行う場合は [ 有効 ]、入力、出力の動作を [ 停止 ] する場合は [ 無効 ] を選択します。

### [ 周辺機器設定 ] の設定ガイド

#### 通信チェック

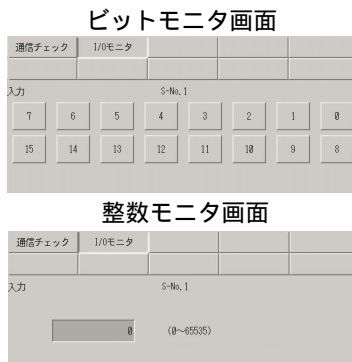
- 通信チェック → 通信チェック実行画面



設定項目	設定内容
通信チェック	通信チェック開始画面です。
通信速度	通信速度を [6Mbps]、[12Mbps] から選択します。
開始	通信チェック実行画面に移り、通信チェックを開始します。
通信チェック実行画面	通信チェックを実行する画面です。
接続されている I/O ユニット数	正常に通信が行われたユニットの合計数が数値で表示されます。
接続されている S-No. を反転表示	正常に通信が行われたユニットの S-No. が反転表示されます。

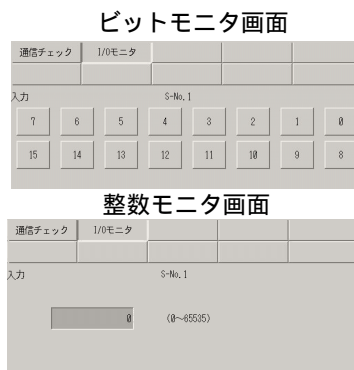
I/O モニタ

- [ 型式 ] 入力、FN-X16TS 使用時  
 ユニット設定画面



設定項目	設定内容
ユニット設定画面	I/O モニタする局番とユニットを選択する画面です。
通信速度	通信速度を [6Mbps]、[12Mbps] から選択します。
S-No.	I/O モニタを行うユニットの S-No. を 1 ~ 63 で入力します。
型式	I/O モニタを行うユニットの型式を選択します。
タイプ	入出力するデータのタイプ [ビット]、[整数] から選択します。
ビットモニタ画面	I/O モニタした結果の入力状態をビット表示します。
整数モニタ画面	I/O モニタした結果の入力状態を整数表示します。

- [ 型式 ] 入力、FN-X32TS 使用時  
 ユニット設定画面



設定項目	設定内容
ユニット設定画面	I/O モニタする局番とユニットを選択する画面です。
通信速度	通信速度を [6Mbps]、[12Mbps] から選択します。
S-No.	I/O モニタを行うユニットの S-No. を 1 ~ 62 で入力します。
型式	I/O モニタを行うユニットの型式を選択します。
タイプ	入出力するデータのタイプ [ビット]、[整数] から選択します。
ビットモニタ画面	I/O モニタした結果の入力状態をビット表示します。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; margin: 5px 0;">MEMO</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 一度にモニタできるのは 16 ビットです。入力 16 ~ 31 をモニタしたい場合は前画面に戻り、[S-No] を +1 の値で入力してからモニタしてください。</li> </ul>
整数モニタ画面	I/O モニタした結果の入力状態を整数表示します。



- [ 型式 ] 出力、FN-Y08L 使用時

ユニット設定画面

通信チェック I/Oモニタ

通信速度  6Mbps  12Mbps

S-No.

型式 出力 FN-Y08L

タイプ  ビット  整数

終了 戻る 2006/04/18 15:42:48



ビットモニタ画面

出力 7 6 5 4 3 2 1 0

Error:5回 I/Oポートの回相違

終了 戻る 2006/04/18 15:42:43

整数モニタ画面

出力 0 (0~255) 出力

Error:5回 I/Oポートの回相違

終了 戻る 2006/04/18 15:42:38

設定項目	設定内容
ユニット設定画面	I/O モニタする局番とユニットを選択する画面です。
通信速度	通信速度を [6Mbps]、[12Mbps] から選択します。
S-No.	I/O モニタを行うユニットの S-No. を 1 ~ 63 で入力します。
型式	I/O モニタを行うユニットの型式を選択します。
タイプ	入出力するデータのタイプ [ビット]、[整数] から選択します。
ビットモニタ画面	I/O モニタした結果の出力状態をビット表示します。
整数モニタ画面	I/O モニタした結果の出力状態を整数表示します。

- [ 型式 ] 出力、FN-Y16SK 使用時

ユニット設定画面

通信チェック I/Oモニタ

通信速度  6Mbps  12Mbps

S-No.

型式 出力 FN-Y16SK

タイプ  ビット  整数

終了 戻る 2006/04/18 15:43:09



ビットモニタ画面

出力 7 6 5 4 3 2 1 0  
15 14 13 12 11 10 9 8

Error:5回 I/Oポートの回相違

終了 戻る 2006/04/18 15:43:13

整数モニタ画面

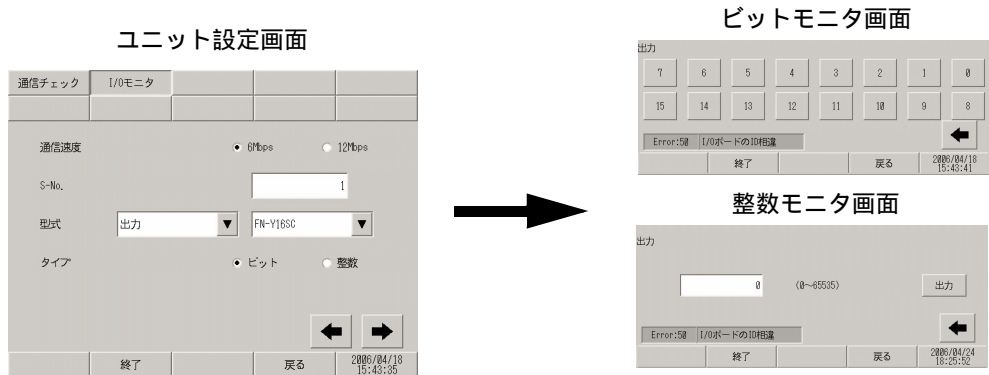
出力 0 (0~85505) 出力

Error:5回 I/Oポートの回相違

終了 戻る 2006/04/18 15:43:06

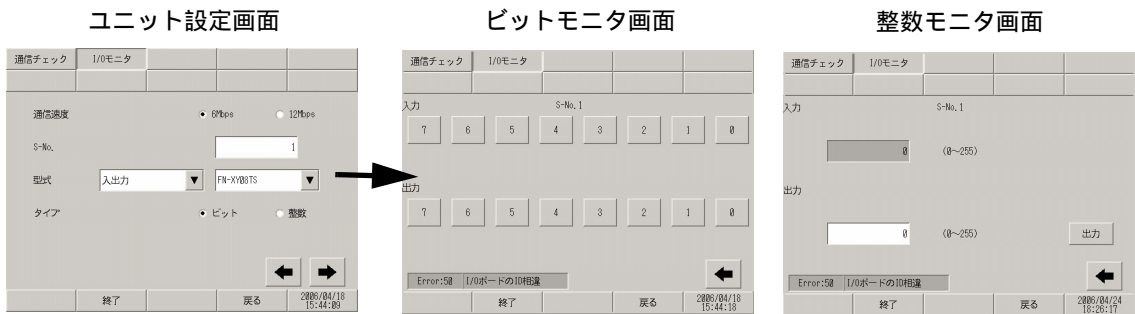
設定項目	設定内容
ユニット設定画面	I/O モニタする局番とユニットを選択する画面です。
通信速度	通信速度を [6Mbps]、[12Mbps] から選択します。
S-No.	I/O モニタを行うユニットの S-No. を 1 ~ 63 で入力します。
型式	I/O モニタを行うユニットの型式を選択します。
タイプ	入出力するデータのタイプ [ビット]、[整数] から選択します。
ビットモニタ画面	I/O モニタした結果の出力状態をビット表示します。
整数モニタ画面	I/O モニタした結果の出力状態を整数表示します。

- [ 型式 ] 出力、FN-Y16SC 使用時



設定項目	設定内容
ユニット設定画面	I/O モニタする局番とユニットを選択する画面です。
通信速度	通信速度を [6Mbps]、[12Mbps] から選択します。
S-No.	I/O モニタを行うユニットの S-No. を 1 ~ 63 で入力します。
型式	I/O モニタを行うユニットの型式を選択します。
タイプ	入出力するデータのタイプ [ビット]、[整数] から選択します。
ビットモニタ画面	I/O モニタした結果の出力状態をビット表示します。
整数モニタ画面	I/O モニタした結果の出力状態を整数表示します。

- [ 型式 ] 入出力、FN-XY08TS 使用時



設定項目	設定内容
ユニット設定画面	I/O モニタする局番とユニットを選択する画面です。
通信速度	通信速度を [6Mbps]、[12Mbps] から選択します。
S-No.	I/O モニタを行うユニットの S-No. を 1 ~ 63 で入力します。
型式	I/O モニタを行うユニットの型式を選択します。
タイプ	入出力するデータのタイプ [ビット]、[整数] から選択します。
ビットモニタ画面	I/O モニタした結果の入出力状態をビット表示します。
整数モニタ画面	I/O モニタした結果の入出力状態を整数表示します。

- [ 型式 ] 入出力、FN-XY16SK 使用時

ユニット設定画面

ビットモニタ画面

整数モニタ画面

設定項目	設定内容
ユニット設定画面	I/O モニタする局番とユニットを選択する画面です。
通信速度	通信速度を [6Mbps]、[12Mbps] から選択します。
S-No.	I/O モニタを行うユニットの S-No. を 1 ~ 63 で入力します。
型式	I/O モニタを行うユニットの型式を選択します。
タイプ	入出力するデータのタイプ [ビット]、[整数] から選択します。
ビットモニタ画面	I/O モニタした結果の入出力状態をビット表示します。
整数モニタ画面	I/O モニタした結果の入出力状態を整数表示します。

- [ 型式 ] 入出力、FN-XY16SC 使用時

ユニット設定画面

ビットモニタ画面

整数モニタ画面

設定項目	設定内容
ユニット設定画面	I/O モニタする局番とユニットを選択する画面です。
通信速度	通信速度を [6Mbps]、[12Mbps] から選択します。
S-No.	I/O モニタを行うユニットの S-No. を 1 ~ 63 で入力します。
型式	I/O モニタを行うユニットの型式を選択します。
タイプ	入出力するデータのタイプ [ビット]、[整数] から選択します。
ビットモニタ画面	I/O モニタした結果の入出力状態をビット表示します。
整数モニタ画面	I/O モニタした結果の入出力状態を整数表示します。

- [ 型式 ] 入出力、FN-XY32SKS 使用時



設定項目	設定内容
ユニット設定画面	I/O モニタする局番とユニットを選択する画面です。
通信速度	通信速度を [6Mbps]、[12Mbps] から選択します。
S-No.	I/O モニタを行うユニットの S-No. を 1 ~ 60 で入力します。
型式	I/O モニタを行うユニットの型式を選択します。
タイプ	入出力するデータのタイプ [ビット]、[整数] から選択します。
ビットモニタ画面	I/O モニタした結果の入出力状態をビット表示します。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; margin: 5px 0;">MEMO</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>一度にモニタできるのは 16 ビットです。入力 16 ~ 31 をモニタしたい場合は前画面に戻り、[S-No] を +1 の値で入力してからモニタしてください。</li> </ul>
整数モニタ画面	I/O モニタした結果の入出力状態を整数表示します。

- [ 型式 ] アナログ、FN-AD02AH 使用時



設定項目	設定内容
ユニット設定画面	I/O モニタする局番とユニットを選択する画面です。
通信速度	通信速度を [6Mbps]、[12Mbps] から選択します。
S-No.	I/O モニタを行うユニットの S-No. を 1 ~ 63 で入力します。
型式	I/O モニタを行うユニットの型式を選択します。
アナログモニタ設定画面	確認するチャンネルとレンジを設定します。
CH (チャンネル)	確認するチャンネルを 1 ~ 2 で選択します。
レンジ	確認するレンジを [0 ~ 10V]、[0 ~ 20mA]、[4 ~ 20mA] から選択します。

次のページに続きます。

設定項目	設定内容
アナログ入力モニタ画面	I/O モニタした結果の入力状態を整数表示します。
S-No.	AD ユニットの設定した S-No. が表示されます。
入力レンジ	アナログモニタ設定画面で選択されたレンジが表示されます。
入力値の表示	ユニットから読み出された 12 ビットの AD 値が表示されます。

- [ 型式 ] アナログ、FN-DA02AH 使用時



設定項目	設定内容
ユニット設定画面	I/O モニタする局番とユニットを選択する画面です。
通信速度	通信速度を [6Mbps]、[12Mbps] から選択します。
S-No.	I/O モニタを行うユニットの S-No. を 1 ~ 63 で入力します。
型式	I/O モニタを行うユニットの型式を選択します。
アナログモニタ設定画面	確認するチャンネルとレンジを設定します。
CH (チャンネル)	確認するチャンネルを 1 ~ 2 で選択します。
レンジ	確認するレンジを [0 ~ 10V]、[0 ~ 20mA]、[4 ~ 20mA] から選択します。
アナログ出力モニタ画面	I/O モニタした結果の出力状態を整数表示します。
S-No.	DA ユニットの設定した S-No. が表示されます。
出力レンジ	アナログモニタ設定画面で選択されたレンジが表示されます。
数値入力	ユニットに出力する 12 ビットの DA 値を設定します。
出力	設定された DA 値をユニットに出力します。
↑↓	出力する DA 値を ± 1 ずつ上げ下げするスイッチです。

- [ 型式 ] アナログ、FN-AD04AH 使用時

ユニット設定画面



アナログモニタ設定画面

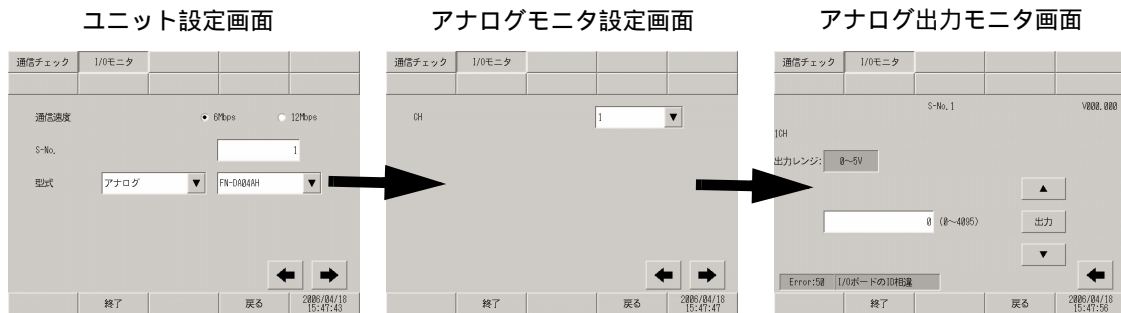


アナログ入力モニタ画面



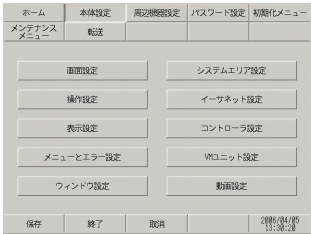
設定項目	設定内容
ユニット設定画面	I/O モニタする局番とユニットを選択する画面です。
通信速度	通信速度を [6Mbps]、[12Mbps] から選択します。
S-No.	I/O モニタを行うユニットの S-No. を 1 ~ 60 で入力します。
型式	I/O モニタを行うユニットの型式を選択します。
アナログモニタ設定画面	確認するチャンネルを設定します。
CH (チャンネル)	確認するチャンネルを 1 ~ 4 で選択します。
アナログ入力モニタ画面	I/O モニタした結果の入力状態を整数表示します。
S-No.	AD ユニットの設定した S-No. が表示されます。
バージョン	ユニットのバージョン情報が表示されます。
入力レンジ	ユニット側で設定されたレンジが表示されます。
入力値の表示	ユニットから読み出された 12 ビットの AD 値が表示されます。

- [ 型式 ] アナログ、FN-DA04AH 使用時



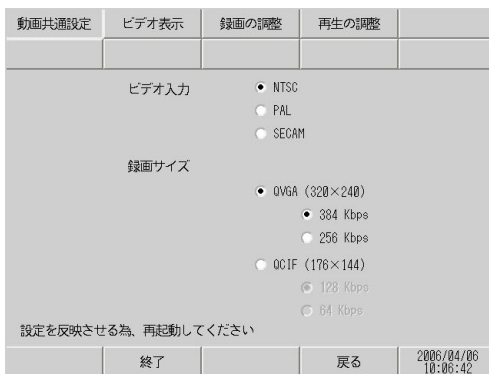
設定項目	設定内容
ユニット設定画面	I/O モニタする局番とユニットを選択する画面です。
通信速度	通信速度を [6Mbps]、[12Mbps] から選択します。
S-No.	I/O モニタを行うユニットの S-No. を 1 ~ 60 で入力します。
型式	I/O モニタを行うユニットの型式を選択します。
アナログモニタ設定画面	確認するチャンネルを設定します。
CH (チャンネル)	確認するチャンネルを 1 ~ 4 で選択します。
アナログ出力モニタ画面	I/O モニタした結果の出力状態を整数表示します。
S-No.	DA ユニットの設定した S-No. が表示されます。
バージョン	ユニットのバージョン情報が表示されます。
出力レンジ	ユニット側で設定されたレンジが表示されます。
数値入力	ユニットに出力する 12 ビットの DA 値を設定します。
出力	設定された DA 値をユニットに出力します。
↑↓	出力する DA 値を ± 1 ずつ上下するスイッチです。

2.13.4 GP-3\*50 シリーズで動画機能をご利用の場合

メニュー	設定内容
	<p>「2.13.4 GP-3*50 シリーズで動画機能をご利用の場合 [ 本体設定 ] の設定ガイド」(2-105 ページ)</p> <p>「2.13.4 GP-3*50 シリーズで動画機能をご利用の場合 動画設定 ( 動画共通設定 )」(2-105 ページ)</p> <p>「2.13.4 GP-3*50 シリーズで動画機能をご利用の場合 動画設定 ( ビデオ表示 )」(2-106 ページ)</p> <p>「2.13.4 GP-3*50 シリーズで動画機能をご利用の場合 動画設定 ( ビデオ録画 )」(2-108 ページ)</p> <p>「2.13.4 GP-3*50 シリーズで動画機能をご利用の場合 動画設定 ( ビデオ再生 )」(2-110 ページ)</p>

[ 本体設定 ] の設定ガイド

動画設定 ( 動画共通設定 )

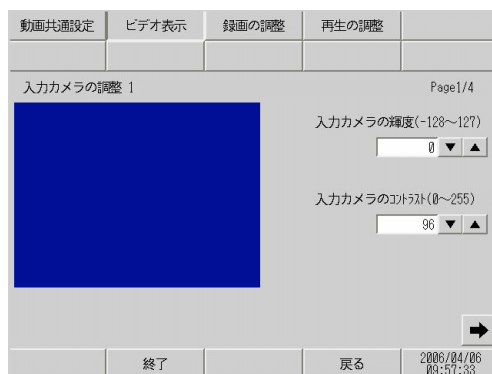


設定項目	設定内容
ビデオ入力	入力画像信号を選択します。 ・ NTSC : 640 × 480 ドット ・ PAL : 768 × 576 ドット ・ SECAM : 768 × 576 ドット
録画サイズ	録画サイズを選択します。 ・ QVGA(384kbps) : 320 × 240 ドット ・ QVGA(256kbps) : 320 × 240 ドット ・ QCIF(128kbps) : 176 × 144 ドット ・ QCIF(64kbps) : 176 × 144 ドット



動画設定（ビデオ表示）

(1/4)



設定項目	設定内容
入力カメラの輝度	入力カメラの輝度を設定します。設定範囲は 0 ~ 255 です。
入力カメラのコントラスト	入力カメラのコントラストを設定します。設定範囲は 0 ~ 255 です。

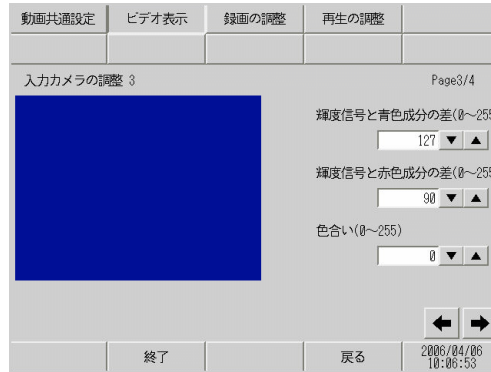
(2/4)



設定項目	設定内容
入力カメラ調整	入力カメラの調整を [ なし ]、[ シャープネス ]、[ ノイズ減少効果 ] から選択します。[ シャープネス ] はコントラストを上げることで被写体をくっきり見せますがノイズまでくっきり見えてしまう場合があります。[ ノイズ減少効果 ] はコントラストを下げ、ノイズをぼやけさせます。[ シャープネス ] を選択している場合は、1(弱) ~ 7(強) で設定します。
シャープネスフィルタ周期選択	輝度信号の輪郭部を強調補正するかどうかを設定します。これにより、映像の細部をよりクリアに表現することができます。

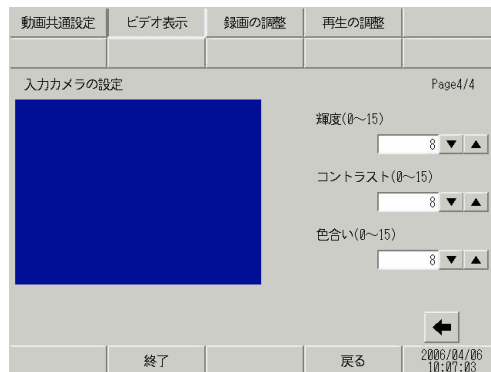
次のページに続きます。

(3/4)



設定項目	設定内容
輝度信号と青色成分の差 (0 ~ 255)	輝度信号 (Y) と、輝度信号と青色成分の差 (U)、輝度信号と赤色成分の差 (V) の 3 つの情報で色を表記する際の (YUV 表記) 青色成分の差を 0 ~ 255 で設定します。人間の目において調整すると、輝度情報により多くのデータ量を割り当てることができ、少ない画質の劣化で高いデータ圧縮率を得ることができます。
輝度信号と赤色成分の差 (0 ~ 255)	輝度信号 (Y) と、輝度信号と青色成分の差 (U)、輝度信号と赤色成分の差 (V) の 3 つの情報で色を表記する際の (YUV 表記) 赤色成分の差を 0 ~ 255 で設定します。人間の目において調整すると、輝度情報により多くのデータ量を割り当てることができ、少ない画質の劣化で高いデータ圧縮率を得ることができます。
色合い (0 ~ 255)	入力カメラ画面の色合いを設定します。設定範囲は 0 ~ 255 です。

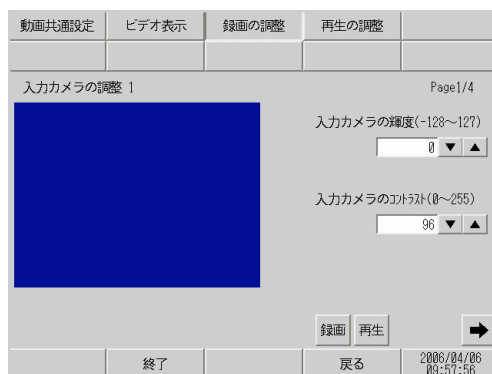
(4/4)



設定項目	設定内容
輝度 (0 ~ 15)	画面の輝度を設定します。設定範囲は 0 ~ 15 です。
コントラスト (0 ~ 15)	画面のコントラストを設定します。設定範囲は 0 ~ 15 です。
色合い (0 ~ 15)	画面の色合いを設定します。設定範囲は 0 ~ 15 です。

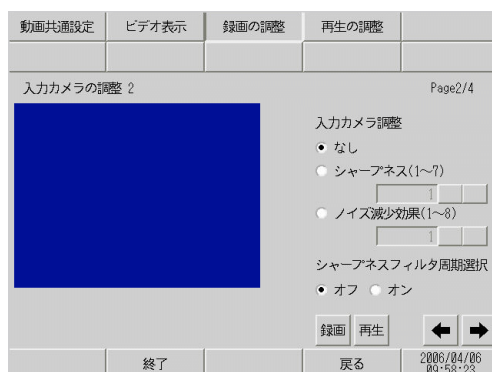
動画設定 (ビデオ録画)

(1/4)



設定項目	設定内容
入力カメラの輝度	入力カメラの輝度を設定します。設定範囲は 0 ~ 255 です。
入力カメラのコントラスト (0 ~ 255)	入力カメラのコントラストを設定します。設定範囲は 0 ~ 255 です。

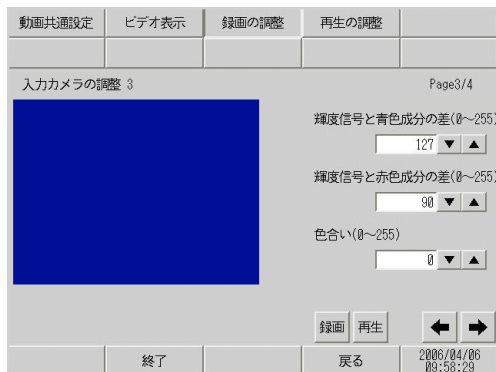
(2/4)



設定項目	設定内容
入力カメラ調整	入力カメラの調整を [なし]、[シャープネス]、[ノイズ減少効果] から選択します。[シャープネス] はコントラストを上げることで被写体をくっきり見せますがノイズまでくっきり見えてしまう場合があります。[ノイズ減少効果] はコントラストを下げ、ノイズをぼやけさせます。[シャープネス] を選択している場合は、1(弱) ~ 7(強) で設定します。
シャープネスフィルタ周期選択	輝度信号の輪郭部を強調補正するかどうかを設定します。これにより、映像の細部をよりクリアに表現することができます。

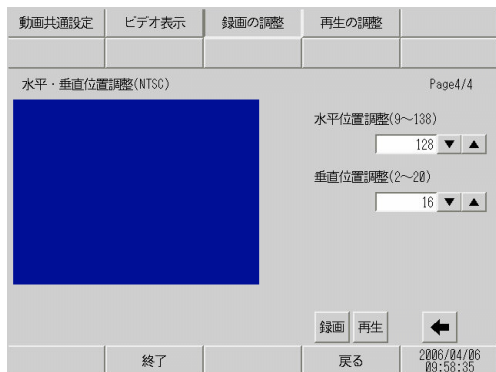
次のページに続きます。

(3/4)



設定項目	設定内容
輝度信号と青色成分の差 (0 ~ 255)	輝度信号 (Y) と、輝度信号と青色成分の差 (U)、輝度信号と赤色成分の差 (V) の 3 つの情報で色を表記する際の (YUV 表記) 青色成分の差を 0 ~ 255 で設定します。人間の目において調整すると、輝度情報により多くのデータ量を割り当てることができ、少ない画質の劣化で高いデータ圧縮率を得ることができます。
輝度信号と赤色成分の差 (0 ~ 255)	輝度信号 (Y) と、輝度信号と青色成分の差 (U)、輝度信号と赤色成分の差 (V) の 3 つの情報で色を表記する際の (YUV 表記) 赤色成分の差を 0 ~ 255 で設定します。人間の目において調整すると、輝度情報により多くのデータ量を割り当てることができ、少ない画質の劣化で高いデータ圧縮率を得ることができます。
色合い (0 ~ 255)	入力カメラ画面の色合いを設定します。設定範囲は 0 ~ 255 です。

(4/4)

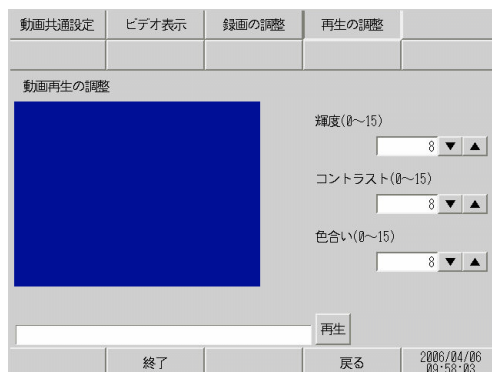


設定項目	設定内容
水平位置調整 (9 ~ 138)	ビデオ入力信号の水平位置を選択します。設定範囲は使用するカメラの映像信号の種類により異なります。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• NTSC の場合 水平位置を 9 ~ 138 で設定します。</li> <li>• PAL の場合 水平位置を 9 ~ 144 で設定します。</li> <li>• SECAM の場合 水平位置を 9 ~ 144 で設定します。</li> </ul>

次のページに続きます。

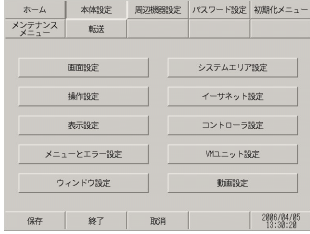
設定項目	設定内容
垂直位置調整 (2 ~ 20)	<p>ビデオ入力信号の垂直位置を選択します。設定範囲は使用するカメラの映像信号の種類により異なります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• NTSC の場合 垂直位置を 2 ~ 20 で設定します。</li> <li>• PAL の場合 垂直位置を 2 ~ 22 で設定します。</li> <li>• SECAM の場合 垂直位置を 2 ~ 22 で設定します。</li> </ul>

動画設定 (ビデオ再生)



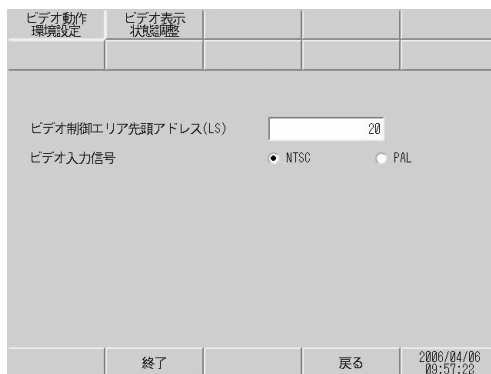
設定項目	設定内容
輝度 (0 ~ 15)	画面の輝度を設定します。設定範囲は 0 ~ 15 です。
コントラスト (0 ~ 15)	画面のコントラストを設定します。設定範囲は 0 ~ 15 です。
色合い (0 ~ 15)	画面の色合いを設定します。設定範囲は 0 ~ 15 です。

### 2.13.5 VM ユニットをご利用の場合

メニュー	設定内容
	<p>「2.13.5 VM ユニットをご利用の場合 [本体設定] の設定ガイド」(2-111 ページ)</p> <p>「2.13.5 VM ユニットをご利用の場合 VM ユニット設定 (ビデオ動作環境設定)」(2-111 ページ)</p> <p>「2.13.5 VM ユニットをご利用の場合 VM ユニット設定 (ビデオ表示状態調整)」(2-112 ページ)</p>

#### [本体設定] の設定ガイド

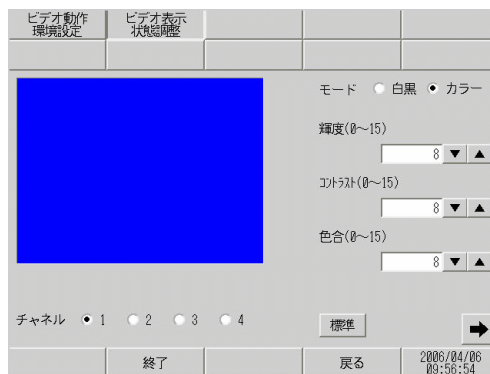
##### VM ユニット設定 (ビデオ動作環境設定)



設定項目	設定内容
ビデオ制御エリア先頭アドレス	GP の LS エリアのうち、LS0020 ~ LS1989、LS2096 ~ LS8957 がビデオ制御エリア先頭エリアに指定できます。先頭アドレスから連続する 43 ワードが、ビデオ制御エリアとして割り付けられます。
ビデオ入力信号	入力画像信号を選択します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• NTSC : 640 × 480 ドット</li> <li>• PAL : 768 × 576 ドット</li> </ul>

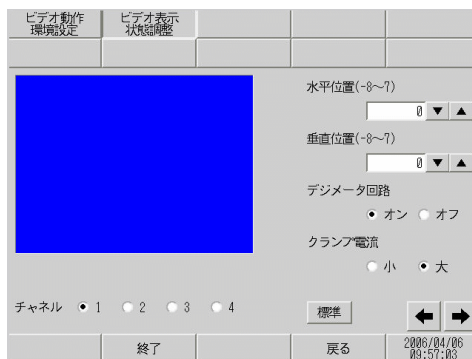
VM ユニット設定 (ビデオ表示状態調整)

(1/4)



設定項目	設定内容
チャンネル	ビデオウィンドウで設定したチャンネルを 1 ~ 4 で選択します。
モード	ビデオ入力モードを [ カラー ] または [ 白黒 ] から選択します。
輝度 (0 ~ 15)	画面の輝度を設定します。設定範囲は 0 ~ 15 です。
コントラスト (0 ~ 15)	画面のコントラストを設定します。設定範囲は 0 ~ 15 です。
色合い (0 ~ 15)	画面の色合いを設定します。設定範囲は 0 ~ 15 です。
標準	選択されているチャンネルの各種設定を初期値にもどします。

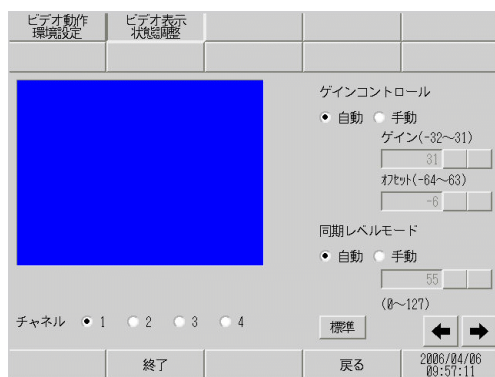
(2/4)



設定項目	設定内容
チャンネル	ビデオウィンドウで設定したチャンネルを 1 ~ 4 で選択します。
水平位置	ビデオ入力信号の水平位置を -128 ~ 128 で設定します。
垂直位置	ビデオ入力信号の垂直位置を -16 ~ 16 で設定します。
デジメータ回路	デコーダ内蔵のデジメータ回路のオン / オフ を行います。モノクロ信号は、信号処理フィルタ (デジメータ) 回路を動作させない方が画質がよくなる場合があります。通常は [ オン ] のままで問題ありません。
クランプ電流	クランプ回路の電流設定を [ 小 ]、[ 大 ] から選択します。ビデオ入力信号が規格より外れている場合、同期信号を検出できないことや黒レベルを捉えることができず、画面が乱れるとことがあります。このような場合、クランプ回路の内部電流を変化させることで画面が安定することがあります。
標準	選択されているチャンネルの各種設定を初期値にもどします。

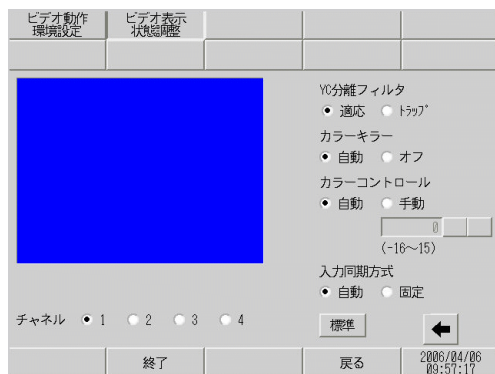
次のページに続きます。

(3/4)



設定項目	設定内容
チャンネル	ビデオウィンドウで設定したチャンネルを1～4で選択します。
ゲインコントロール	デジタルアンプ回路のゲイン制御を行います。全チャンネル共通の設定です。
ゲイン	ゲインコントロールで[手動]を選択している場合の[ゲイン](増幅率)を-32～31で設定します。
オフセット	ゲインコントロールで[手動]を選択している場合の[オフセット](黒レベル)を64～63で設定します。
同期レベルモード	[自動]、[手動]から選択します。
入力枠	[同期レベルモード]が[手動]の場合0～127で設定します。
標準	選択されているチャンネルの各種設定を初期値にもどします。

(4/4)



設定項目	設定内容
チャンネル	ビデオ機器を接続している1～4の入力チャンネルを選択します。
YC分離フィルタ	入力Y/C分離フィルタの選択を行います。彩度の高い画像表示時、カラー信号に関するノイズが目立つ場合に、[トラップ]を選択するとノイズが減少することがあります。全チャンネル共通の設定です。
カラーキラー	カラーキラー機能のオン/オフを自動で行うか、強制的に[オフ]にするかを選択します。カラーバースト信号の振幅レベルが小さいときに自動でモノクロ画像に切り替わることがあります。[オフ]にすると常にカラー画像として表示します。全チャンネル共通の設定です。

次のページに続きます。



設定項目	設定内容
カラーコントロール	クロマ信号の増幅率を変化させます。クロマ信号振幅値（カラーバースト信号を含む）が規定から外れており、かつ調整機能で最適な映像が得られない場合に手動設定すると、最適な画像が得られることがあります。全チャンネル共通の設定です。
入力同期方式	同期信号を検出する深さレベルを設定します。ビデオ入力の同期信号の深さが規格よりも浅くなっている場合や変動している場合、同期信号を検出できず、画面が横や縦に流れることがあります。このような場合、検出レベルを調整することで画面が安定することがあります。通常は[自動]で問題ありません。全チャンネル共通の設定です。
標準	選択されているチャンネルの各種設定を初期値にもどします。

## 2.13.6 システムメニュー

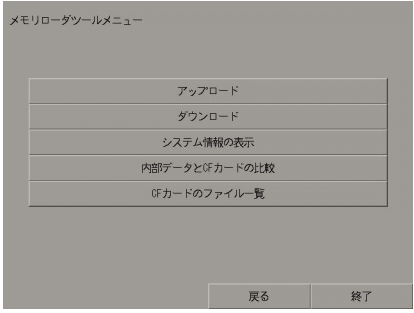
### オフライン、CF 起動、エラー、リセット

システムメニューに 1 番目に表示される各メニュー項目を説明します。



メニュー項目	メニュー内容
オフライン	オフラインモードに入る場合にタッチします。
CF 起動	<p>CF メモリロードプログラムを起動する場合にタッチします。CF メモリロードツールを CF カードに保存している場合、[CF カード起動] をタッチすると再起動し、次のような画面が表示されます。</p> <p>The screenshot shows a window titled 'メモリロードツール' (Memory Load Tool). It has a 'Language' dropdown menu set to 'Japanese'. Below are two buttons: 'アップロード' (Upload) and 'ダウンロード' (Download). At the bottom, it says 'Ver. 0.0.2' and has 'メニュー' (Menu) and '終了' (End) buttons.</p> <p>CF カード起動の手順については以下を参照してください。</p> <p>☞ GP-Pro EX リファレンスマニュアル「32.7 CF カードで転送したい」(32-36 ページ)</p> <p><b>MEMO</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>GP-3302B ではこのメニューは表示されません。</li> </ul>
Language	CF メモリロードツールの表示言語を [Japanese]、[English] から選択します。
アップロード	<p>アップロード画面に移行します。</p> <p>☞ GP-Pro EX リファレンスマニュアル「32.7.2 転送手順 GP からパソコン (または他の GP) にプロジェクトファイルを転送する」(32-41 ページ)</p>
ダウンロード	<p>ダウンロード画面に移行します。</p> <p>☞ GP-Pro EX リファレンスマニュアル「32.7.2 転送手順 パソコンから GP にプロジェクトファイルを転送する」(32-37 ページ)</p>

次のページに続きます。

メニュー項目	メニュー内容
メニュー	<p>以下のメニュー画面が表示されます。</p>  <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>アップロード</b> アップロード画面に移行します。 ☞ GP-Pro EX リファレンスマニュアル「32.7.2 転送手順 GP からパソコン（または他の GP）にプロジェクトファイルを転送する」（32-41 ページ）</li> <li>• <b>ダウンロード</b> ダウンロード画面に移行します。 ☞ GP-Pro EX リファレンスマニュアル「32.7.2 転送手順 パソコンから GP にプロジェクトファイルを転送する」（32-37 ページ）</li> <li>• <b>システム情報の表示</b> CF カード内のバックアップデータと GP 内のデータの内容を表示します。</li> <li>• <b>内部データと CF カードの比較</b> GP 内のすべてのデータと CF カードにアップロードしたバックアップデータとを比較します。</li> <li>• <b>CF カードのファイル一覧</b> CF カード内のすべてのファイルを一覧表示し、選択したファイルの詳細を表示したり、ファイルのコピー、削除、名称変更もできます。</li> </ul>
戻る	初期画面に戻ります。
終了	終了確認ウィンドウが表示され、[はい] をタッチすると CF メモリローダツールを終了し、GP をリセットします。
エラー	常に最新のエラーメッセージを一行で表示します。エラーメッセージが一行で表示しきれない場合は、表示可能な文字数分だけ表示します。
リセット	GP 本体をリセットする場合にタッチします。

## 音量調節、自局 IP

システムメニュー 2 番目に表示される各メニュー項目を説明します。

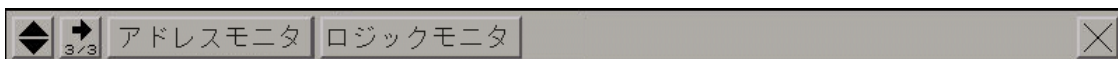


メニュー項目	メニュー内容
音量調節	<p>AUX 端子に接続された外部スピーカーの音量を調整します。サウンド出力 (AUX 出力) 対応している機種のみ表示します。</p>
自局 IP	<p>GP に設定されている IP アドレスを確認する場合にタッチします。イーサネットに対応している機種のみ表示します。</p>
RGB 画面設定	<p>VM ユニットを使用している場合にのみ表示されます。タッチすると [位置調整]、[画面調整]、[色調整]、[標準設定] 各種設定に移動するメニューが表示され、RGB 入力からの映像を調整できます。</p>
位置調整	<p>水平位置、垂直位置の調整を行います。水平位置は -128 ~ 128、垂直位置は -16 ~ 16 で設定します。</p>
画面調整	<p>クロック、フェイズの調整を行います。クロックは -128 ~ 128、フェイズは 0 ~ 63 で設定します。</p>
色調整	<p>赤色、緑色、青色のレベル設定または微調整を行います。レベルは 0 ~ 3、微調整は 0 ~ 255 で設定します。</p>
標準設定	<p>[実行] をタッチすると、[位置調整]、[画面調整]、[色調整] の内容を初期値に設定します。</p>

次のページに続きます。

## アドレスモニタ、ロジックモニタ

システムメニュー 3 番目に表示されるメニュー項目を説明します。






メニュー項目	メニュー内容
ロジックモニタ	<p>アドレスのモニタや、ロジックプログラムの動作状況と命令の確認を行う場合にタッチします。</p> <p><b>MEMO</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ [アドレスモニタ] については GP-3000 シリーズの全機種で対応していますが、[ロジックモニタ] については、ロジック使用可能な機種のみ表示されます。ロジック機能が [使用しない] と設定されている場合はロジックモニタのスイッチをタッチしてもアドレスモニタが表示されます。</li> </ul>
アドレスモニタ	<p>ロジックで使用されている変数のモニタを行います。変数名と現在値が確認できます。また、アドレス方式ではロジックアドレスのモニタを行います。</p> <p>☞ 「2.9.1 ロジックプログラムが正常に動作するかチェックしたい アドレスモニタ」(2-47 ページ)</p>
ロジックモニタ	<p>ロジックプログラムのモニタを行います。ロジックモニタではロジックプログラムの動作状況と命令の変数の状況が確認できます。</p> <p>☞ 「2.9.1 ロジックプログラムが正常に動作するかチェックしたい ロジックモニタ」(2-46 ページ)</p>

## 輝度、コントラスト

このメニューの表示方法は下記を参照してください。

☞ 「2.3.1 明るさ (輝度、コントラスト) を調整したい」(2-19 ページ)



メニュー項目	メニュー内容
輝度	<p>GP の輝度を調整します。</p>  <p><b>MEMO</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ GP の機種が TFT の場合は、[輝度] 調整しかできないためメニュー表示は次のようになります。</li> </ul> 
コントラスト	<p>GP のコントラストを調整します。ボタンをタッチすると表示されます。</p>  <p><b>MEMO</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ GP の機種が TFT の場合は [コントラスト] の調整はできません。</li> </ul>

# 索引

- A**  
Administrator 権限 ..... 1-3
- C**  
CF->SRAM の転送 ..... 2-85  
CF カード ..... 1-26, 2-83  
CF カードの初期化 ..... 2-40, 2-79  
CF 起動 ..... 2-115  
CF メモリローダ ..... 1-88, 2-115  
CF メモリローダツール ..... 1-26  
COM1/COM2/LAN チェック ..... 2-44, 2-83
- D**  
D スクリプト  
..... 1-49, 1-51, 1-52, 1-56, 1-57, 1-65, 1-72, 2-67
- F**  
FEPROM ..... 2-16  
FLEX NETWORK ..... 2-50  
FLEX NETWORK ユニット ..... 1-61, 2-93
- I**  
I/O ..... 1-28, 1-83  
I/O チェック ..... 1-60, 2-49, 2-90  
I/O ドライバ設定 ..... 2-90, 2-91  
I/O モニタ ..... 1-58, 2-48, 2-50, 2-91, 2-97  
IP アドレス ..... 2-33
- L**  
LS エリア ..... 1-54, 1-56
- N**  
NTFS ..... 1-26
- P**  
PLC ..... 1-89, 2-73  
PROFIBUS(Slave) ユニット ..... 1-61  
Pro-Server EX ..... 1-94, 2-34
- R**  
RAAA\*\*\* ..... 1-96  
REAA\*\*\* ..... 1-101  
RGB ..... 2-84  
RGB 画面設定 ..... 2-117  
RGE\*\*\*\* ..... 1-103  
RS-232C ..... 1-46, 2-83  
RS-422 ..... 1-46, 2-83
- S**  
SIO ..... 1-98, 1-99, 1-100, 2-83  
SRAM->CF の転送 ..... 2-61, 2-86
- U**  
USB ..... 2-76, 2-84  
USB 転送ケーブル ..... 1-12
- V**  
VM ユニット ..... 1-61, 2-55  
VM ユニット設定 ..... 2-111
- あ**  
アップロード ..... 1-26, 1-27, 2-115  
アドレス一括変換 ..... 1-64  
アドレスモニタ ..... 2-47, 2-118  
アナログ ..... 1-61, 2-43  
アラーム ..... 1-65, 1-73, 1-75
- い**  
イーサネット ..... 1-17, 1-47, 2-30  
イーサネット設定 ..... 2-33, 2-72  
位置調整 ..... 2-117  
イメージ ..... 1-69  
色調整 ..... 2-117  
印刷 ..... 1-70, 2-31, 2-74  
インストール ..... 1-3  
インポート ..... 1-64, 1-66, 1-67, 1-68, 1-69
- う**  
ウィンドウ設定 ..... 2-68  
ウォッチドッグエラー ..... 1-104
- え**  
液晶ディスプレイ ..... 2-21, 2-80  
エクスポート ..... 1-64, 1-67, 1-68, 1-70  
エラー ..... 1-62
- お**  
お買い上げ画面 ..... 1-28  
オフラインモードメニュー ..... 2-25  
オンラインアップデート ..... 1-31  
オンラインモニタ ..... 1-89  
音量調節 ..... 2-117
- か**  
書込み要求 ..... 1-90, 1-91, 1-92  
拡張スクリプト ..... 1-72, 1-99, 1-100  
カバー ..... 1-26, 2-62  
画面管理 ..... 1-63  
画面設定 ..... 2-17, 2-65  
画面調整 ..... 2-117
- き**  
キーボード ..... 1-73, 1-75  
機種変更時アドレス一括変換 ..... 1-64  
起動 ..... 1-6, 1-9, 1-63  
輝度調整 ..... 2-19, 2-118  
キャリブレーション ..... 2-43, 2-82  
強制終了 ..... 1-9  
強制転送 ..... 2-62
- く**  
組み込み関数 ..... 1-65  
クロスケーブル ..... 1-20
- こ**  
コメント ..... 1-84, 2-65, 2-88, 2-95  
コントラスト  
2-19, 2-67, 2-106, 2-107, 2-108, 2-110, 2-112, 2-118  
コントローラ機能実行時間 ..... 2-52
- さ**  
サウンド設定 ..... 1-67  
サンプリング設定 ..... 1-72
- し**  
色調変更 ..... 2-84  
自己診断 ..... 1-24, 2-12  
システムエラー ..... 1-102, 2-68  
システムエリア ..... 1-40, 1-41, 1-95  
システムエリア設定 ..... 2-71  
システムパスワード ..... 2-77  
システムメニュー ..... 2-25, 2-67, 2-115  
周辺機器設定 ..... 1-64, 2-28, 2-73, 2-90, 2-96  
受信データ ..... 1-89  
常駐ソフト ..... 1-11, 1-23, 1-24

初期化	2-38
初期化メニューの設定	2-78
初期画面	1-38, 2-22, 2-23, 2-65
新規作成	1-63
シンクタイプ	1-59, 2-48, 2-90
シンボル変数一覧	1-68
<b>す</b>	
スイッチ	1-34, 1-36, 2-13
スクリプトエラー	1-31
スクリプト設定	2-76
スタンバイモード	2-21, 2-65
ステータスLED	1-34, 1-38, 2-27
ストレートケーブル	1-20
<b>せ</b>	
セキュリティ設定	1-31, 1-32, 1-66
セキュリティパスワード	2-37, 2-77
接続機器設定	2-73
セットアップ	1-42, 2-34
<b>そ</b>	
操作設定	2-66
ソースタイプ	1-59, 2-49, 2-90
<b>た</b>	
ダウンロード	1-6, 2-115
タッチ音	2-24
タッチ操作	2-27, 2-66
タッチパネルチェック	2-43, 2-82
タッチパネルのキャリブレーション	2-43, 2-82
<b>つ</b>	
通信設定	2-29, 2-73
通信速度	1-52, 2-75, 2-76
通信チェック	2-51, 2-96
通信ライン	1-53, 1-54, 1-55, 1-56
<b>て</b>	
データ	1-9, 1-15, 1-26, 1-28, 1-29, 1-40, 1-41
データ表示器	1-49, 1-51, 1-52, 1-53, 1-55, 1-57, 2-75
デバイスアドレス	1-49, 1-51, 2-69, 2-70, 2-89, 2-96
テンキー	2-15
電源	1-38, 2-12, 2-16, 2-22
転送	1-12, 1-85, 2-12
テンプレート	1-69
<b>と</b>	
動画共通設定	2-105
動画設定	2-105, 2-106, 2-108, 2-110
動作環境	1-3, 1-10
時計	1-97, 1-98, 2-20
ドット	2-82
ドライバ	1-14, 1-54, 1-56
<b>の</b>	
ノイズ	1-45, 1-50, 1-53, 2-106, 2-108, 2-113
<b>は</b>	
バーコード設定	2-32, 2-75
パスワード	1-15, 1-25, 1-27
パスワード設定	2-13, 2-35, 2-77
バックアップ	1-15, 2-20
バックアップSRAM	1-71, 1-98, 2-39, 2-78, 2-86
バックアップSRAMの初期化	2-41, 2-79
バックアップデータ	1-26, 2-85, 2-116
バックライト	2-27, 2-66
パッケージウィンドウ	1-69
<b>ひ</b>	
ビデオウィンドウ	2-112, 2-113
ビデオ再生	2-110
ビデオ動作環境設定	2-111
ビデオ表示	2-55, 2-106
ビデオ表示状態調整	2-57, 2-58, 2-112
ビデオ録画	2-108
表示スキャンタイム	1-57
表示設定	2-67
表示パターンチェック	1-43, 2-80
標準設定	2-117
ピン	1-90, 1-101, 2-29
<b>ふ</b>	
ファイアウォール	1-22
フォント表示チェック	2-81
複数コピー	1-70
ブザー音	1-41, 2-24, 2-66
部品一覧	1-70
プリンタ設定	2-31, 2-74
プロジェクト情報	1-71
プロジェクトファイル	1-9, 1-12, 2-59, 2-85
プロジェクトファイルの転送	2-85
<b>へ</b>	
変数	2-46, 2-47, 2-118
<b>ほ</b>	
ホーム	2-64, 2-87, 2-94
本体設定	2-65, 2-89, 2-95, 2-105, 2-111
<b>ま</b>	
マーク	1-69
マルチリンガルマネージャ	1-6
<b>め</b>	
命令オペランド	1-76
メニューとエラー設定	1-35, 1-37, 1-39, 2-13, 2-67
メモリ	1-3, 1-10, 1-15, 2-38
メモリ情報	2-42, 2-83
メモリチェック	1-84
メモリローダツール	1-26, 1-88
メンテナンスメニュー	2-80
<b>も</b>	
文字列テーブル	1-67, 1-75
モデム	1-28, 1-88
<b>ゆ</b>	
ユーザ定義関数	1-65
ユーザメモリ (EEPROM)	1-35, 1-37, 1-39, 2-16, 2-39
ユーザメモリの初期化	2-39, 2-78
ユニット	1-58, 1-61, 2-111
<b>よ</b>	
読み出し要求	1-90, 1-91, 1-92, 1-93
<b>ら</b>	
ラダープログラム	1-41, 1-57
<b>り</b>	
リセット	2-115
リチウム電池	1-98
<b>る</b>	
ループバックケーブル	1-59, 1-60, 2-44, 2-48, 2-49
<b>ろ</b>	
ログオン	1-3
ロジックプログラム	1-76, 1-89, 2-46, 2-47, 2-53, 2-54, 2-89, 2-95
ロジックモニタ	2-46, 2-118